ISSN 0386－5878
土木研究所資料第3157号

土木研究所資料

新基準調査結果報告

初期調査編

初期調査データ（その1）

（北海道地方
東北地方
関東地方
北陸地方）

平成5年4月

建設省土木研究所
道路部舗装研究室

Copyright © (1993) by P.W.R.I.

All rights reserved. No part of this book may be reproduced by any means, nor transmitted, nor translated into a machine language without the written permission of the Director General of P.W.R.I.

この報告書は、土木研究所長の承認を得て刊行したものである。したがって、本報告書の全部又は一部の転載、複製は、土木研究所長の文書による承認を得ずしてこれを行ってはならない。

土木研究所資料
第3159号　1993年4月

新基準調査結果報告
初期調査編
初期調査データ（その1）

舗装研究室　室長　中村俊行
研究員　伊佐真秋

要旨

新基準調査は，アメリカ合衆国が中心となって進めている新道路研究計画（Strategic Highway Research Program：SHRP）の中の舗装の長期供用性（Long-Term Pavement Performance：LTPP）に関する調査への研究協力および我国での基礎データの収集を目的とするものである。

本報告は全国の各試験舗装箇所の道路構造，舗装構造，材料特性データ等の初期調査データが整ったのを受け，全調査箇所のデータを取りまとめたものである。

キーワード：新道路研究計画（SHRP），舗装の長期供用性（LTPP），アスファルト舗装，新基準調査，舗装材料の弾性係数

まえがき

1987年アメリカ合衆国において開始された新道路研究計画（SHRP）は，道路に関する種々の技術の向上を図ることを目的として日本，カナダ，ヨーロッパの各国が参加する大々的な調査である。そこでは4つの大きなテーマが設定されているが，その中で舗装の長期供用性（LTPP）に関する調査は，現在，一般に使用されている舗装の材料規格や設計方法を根本から見直す可能性を含んでいるものである。

新基準調査は，このSHRPへの研究協力およびその研究成果を我国に適用する上での基礎データを得ることを目的として昭和63年度から全国各地の直轄国道を対象に試験舗装区間を設け，舗装に関する多岐にわたる調査を行っているものである。

調査の内容は，大きく分けて①初期調査，②路面調査，③環境調査，④交通調査，⑤維持調査，⑥修繕調査の6項目から構成されており，平成2年度をもって全国28箇所全ての調査箇所の選定を終了した。

本報告は，今後の解析および追跡調査を実施する上で，その舗装の供用性に最も影響を与えると思われる初期調査のデータが整ったのを受け，全調査箇所のデータを取りまとめたものである。

また，調査実施要領（初期調査編）および様式も併せて収録した。

目　　次

まえがき

1. 新基準調査の概要 …… 1
1.1 調査の適用箇所 …… 1
1.2 調査の内容 …… 2

付録－4 初期調査データ
〔北海道地方〕
白老バイパス …… 5
木古内バイパス …… 43
銭函バイパス …… 79

〔東北地方〕
山形北バイパス …… 117
柴田バイパス …… 153
涌谷バイパス …… 191

〔関東地方〕
大和厚木バイパス …… 231
深谷バイパス …… 267
佐原バイパス …… 311
新4号国道 …… 351

〔北陸地方〕
長岡東バイパス …… 395
新新バイパス …… 431
くりからバイパス …… 471

ISSN 0386－5878
土木研究所資料第3157号

土木研究所資料

新基準調査結果報告

初期調査編

初期調査データ（その2）

（中部地方
近畿地方
中国地方
四国地方
九州地方）

平成5年4月

建設省土木研究所
道路部舗装研究室

Copyright © (1993) by P.W.R.I.

All rights reserved. No part of this book may be reproduced by any means, nor transmitted, nor translated into a machine language without the written permission of the Director General of P.W.R.I.

この報告書は、土木研究所長の承認を得て刊行したものである。したがって、本報告書の全部又は一部の転載、複製は、土木研究所長の文書による承認を得ずしてこれを行ってはならない。

土木研究所資料
第3157号　1993年4月

新基準調査結果報告
初期調査編
初期調査データ（その2）

舗装研究室　室長　中村俊行
研究員　伊佐真秋

要旨

新基準調査は，アメリカ合衆国が中心となって進めている新道路研究計画（Strategic Highway Research Program：SHRP）の中の舗装の長期供用性（Long-Term Pavement Performance：LTPP）に関する調査への研究協力および我国での基礎データの収集を目的とするものである。

本報告は全国の各試験舗装箇所の道路構造，舗装構造，材料特性データ等の初期調査データが整ったのを受け，全調査箇所のデータを取りまとめたものである。

キーワード：新道路研究計画（SHRP），舗装の長期供用性（LTPP），アスファルト舗装，新基準調査，舗装材料の弾性係数

ま　え　が　き

1987年アメリカ合衆国において開始された新道路研究計画（SHRP）は，道路に関する種々の技術の向上を図ることを目的として日本，カナダ，ヨーロッパの各国が参加する大々的な調査である。そこでは4つの大きなテーマが設定されているが，その中で舗装の長期供用性（LTPP）に関する調査は，現在，一般に使用されている舗装の材料規格や設計方法を根本から見直す可能性を含んでいるものである。

新基準調査は，このSHRPへの研究協力およびその研究成果を我国に適用する上での基礎データを得ることを目的として昭和63年度から全国各地の直轄国道を対象に試験舗装区間を設け，舗装に関する多岐にわたる調査を行っているものである。

調査の内容は，大きく分けて①初期調査，②路面調査，③環境調査，④交通調査，⑤維持調査，⑥修繕調査の6項目から構成されており，平成2年度をもって全国28箇所全ての調査箇所の選定を終了した。

本報告は，今後の解析および追跡調査を実施する上で，その舗装の供用性に最も影響を与えると思われる初期調査のデータが整ったのを受け，全調査箇所のデータを取りまとめたものである。

また，調査実施要領（初期調査編）および様式も併せて収録した。

目　　次

まえがき

1. 新基準調査の概要 …… 1
1.1 調査の適用箇所 …… 1
1.2 調査の内容 …… 2

付録－4 初期調査データ
〔中部地方〕
南勢バイパス …… 5
沼津バイパス …… 43
亀山バイパス …… 81

〔近畿地方〕
小野バイパス …… 131
福井バイパス …… 167
高島バイパス …… 207

〔中国地方〕
上根バイパス …… 243
北条バイパス …… 283
下松バイパス …… 321

〔四国地方〕
松山東道路 …… 361
西条バイパス …… 397
徳島南バイパス …… 435

〔九州地方〕
岡垣バイパス …… 473
椎田道路 …… 515
東多久バイパス …… 561

ISSN 0386－5878
土木研究所資料第3157号

土木研究所資料

新基準調査結果報告

初期調査編（調査要領）

平成5年4月

建設省土木研究所
道路部舗装研究室

Copyright © (1993) by P.W.R.I.

All rights reserved. No part of this book may be reproduced by any means, nor transmitted, nor translated into a machine language without the written permission of the Director General of P.W.R.I.

この報告書は、土木研究所長の承認を得て刊行したものである。したがって、本報告書の全部又は一部の転載、複製は、土木研究所長の文書による承認を得ずしてこれを行ってはならない。

土木研究所資料
第3157号　1993年4月

新基準調査結果報告

初期調査編（調査要領）

舗装研究室　室長　中村俊行
研究員　伊佐真秋

要旨

新基準調査は，アメリカ合衆国が中心となって進めている新道路研究計画（Strategic Highway Research Program：ＳＨＲＰ）の中の舗装の長期供用性（Long-Term Pavement Performance：ＬＴＰＰ）に関する調査への研究協力および我国での基礎データの収集を目的とするものである。

本報告は全国の各試験舗装箇所の道路構造，舗装構造，材料特性データ等の初期調査データが整ったのを受け，全調査箇所のデータを取りまとめたものである。

キーワード：新道路研究計画（ＳＨＲＰ），舗装の長期供用性（ＬＴＰＰ），アスファルト舗装，新基準調査，舗装材料の弾性係数

まえがき

1987年アメリカ合衆国において開始された新道路研究計画（SHRP）は，道路に関する種々の技術の向上を図ることを目的として日本，カナダ，ヨーロッパの各国が参加する大々的な調査である。そこでは4つの大きなテーマが設定されているが，その中で舗装の長期供用性（LTPP）に関する調査は，現在，一般に使用されている舗装の材料規格や設計方法を根本から見直す可能性を含んでいるものである。

新基準調査は，このSHRPへの研究協力およびその研究成果を我国に適用する上での基礎データを得ることを目的として昭和63年度から全国各地の直轄国道を対象に試験舗装区間を設け，舗装に関する多岐にわたる調査を行っているものである。

調査の内容は，大きく分けて①初期調査，②路面調査，③環境調査，④交通調査，⑤維持調査，⑥修繕調査の6項目から構成されており，平成2年度をもって全国28箇所全ての調査箇所の選定を終了した。

本報告は，今後の解析および追跡調査を実施する上で，その舗装の供用性に最も影響を与えると思われる初期調査のデータが整ったのを受け，全調査箇所のデータを取りまとめたものである。

また，調査実施要領（初期調査編）および様式も併せて収録した。

目　　次

まえがき

1. 新基準調査の概要 …… 1
1.1 調査の適用箇所 …… 1
1.2 調査の内容 …… 2

2. 試験舗装箇所の舗装構造 …… 2
2.1 舗装構成 …… 2
2.2 路床の材料特性 …… 4
2.3 路盤の材料特性 …… 5
2.4 FWD の測定値より推定した舗装材料の弾性係数 …… 6

付録－1 調査実施要領（初期調査編） …… 7
付録－2 調査箇所一覧表 …… 61
付録－3 舗装構成一覧表 …… 65
付録－4 新基準調査データ（初期調査） …… 77
付録－5 日米の試験法の対比 …… 79

１．調査の概要

1.1　調査の適用箇所

新基準調査の箇所選定にあたっては、アスファルト舗装で、新設または打換えの箇所、平坦かつ直線で原則として300m程度の区間をとることのできる箇所等の条件に基づき決定した。

調査は、全国２８箇所（地建当り３箇所程度）で行われており、地建別、舗設年度別に全試験舗装箇所の一覧を表－１に示す。

表－１　試験舗装箇所一覧表　　（ＢＰ：バイパス）

地建	昭和63年度施工		平成元年度施工		平成２年度施工		計
	路線	路線名	路線	路線名	路線	路線名	
北海道			36 228	白老ＢＰ 木古内ＢＰ	337	銭函ＢＰ	3
東北	13	山形北ＢＰ	4	柴田ＢＰ	108	涌谷ＢＰ	3
関東	246	大和･厚木BP	17 51	深谷ＢＰ 佐原ＢＰ	4	新４号国道	4
北陸	8	長岡東ＢＰ	7	新々ＢＰ	8	くりからＢＰ	3
中部	23	南勢ＢＰ			1 1	沼津ＢＰ 亀山ＢＰ	3
近畿	175	小野ＢＰ	8	福井ＢＰ	161	高島ＢＰ	3
中国			54	上根ＢＰ	9 188	北条ＢＰ 下松ＢＰ	3
四国	11	松山東道路	11	西条ＢＰ	55	徳島南ＢＰ	3
九州			3	岡垣ＢＰ	10 203	椎田道路 東多久ＢＰ	3
箇所数	６		１０		１２		２８

1.2 調査内容

調査項目は、大きく以下の６つに分類される。

①初期調査

初期調査は、地先名、路線名や距離標等の一般的なデータ、試験舗装地点の車線数、幅員等の道路構造データ、舗装を構成する各層の材料や厚さを示す舗装構造データ、各材料の特性値を示す材料特性データ等からなる。

②路面調査

ひびわれ、平坦性、わだち掘れ量、すべり抵抗等の路面性状やたわみ量等について交通に供用されることによる変化を定期的（毎年９～１１月）に観測する。

③環境調査

気温や降水量等の現場の気象条件を示すデータを収集する。

④交通調査

交通量や車両重量を調査する。

⑥維持調査

維持作業の方法、規模、使用材料、施工費等のデータを収集する。

⑥修繕調査

修繕作業の方法、規模、使用材料、施工費等のデータを収集する。

なお、調査は、粒状路盤までの打換えあるいは２回目の修繕が必要になったときに終了する。

現在は、全ての調査箇所において舗装施工時に行われる初期調査が終了し、②、③、④といった追跡調査を中心に調査を継続している。また、各調査箇所とも供用を開始してから４年未満と新しいため⑤、⑥といった補修に関する調査は行われていない。

北海道地方

S H R P

新 基 準 調 査

初 期 調 査 デ ー タ

３６号　白老バイパス

様式Ａ－１－１　一般データ　　調査区間番号　１０１

地建番号　１

報告年月　平成　２　年　１　月

担当部局　室蘭開発建設部 室蘭道路事務所 第一工事課建設係　内線 ７１３６

調査区間の地名　北海道白老郡白老町高砂町地先

路線番号　３６

調査種別　１

調査方向　☒上り　□下り

距離標　８９ｋ８００～８９ｋ５００

（ＫＰ未定の場合No.＿＿＿＿＋＿＿～＿＿＿＿＋＿＿）

様式Ａ－１－２　舗装構造データ　　調査区間番号　１０１

舗装の種別　1

調査方向の車線数　2

車線幅　３５０　cm

調査対象車線　第　1　車線

路肩の幅　２００　cm

路肩の路面の種類　3

路肩の路盤の種類　２２

路肩の表層・基層の厚さ　３５　cm

路肩の路盤の厚さ　＿５０　cm

地下排水工の種類　２，＿

縦断方向の配水管の内径　＿４５０　mm

排水工の位置　1

配水管の間隔　＿＿＿＿　cm

様式Ａ－１－３　舗装構成データ　　調査区間番号　１０１

層の数　５

番号	層の名称	層の厚さ（mm）				材料
		最　大	最　小	平　均	標準偏差	
1	7					55
2	6			500		22
3	4	199	177	198		31
4	4	133	124	129		2
5	3	50	50	50		1
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						

舗装の等値換算厚 T_A　　43.9 cm

舗装厚H　　85.0 cm

高支持力層までの深さ　　　m

盛土厚さ　　　cm

様式Ａ－１－４　施工関係データ　　調査区間番号　１０１

施工年月　平成　１　年　９　月

交通開放（予定）年月　平成　１　年　１０　月

施工費用　　３７　百万円／km・車線

打換え年月　平成　　年　　月

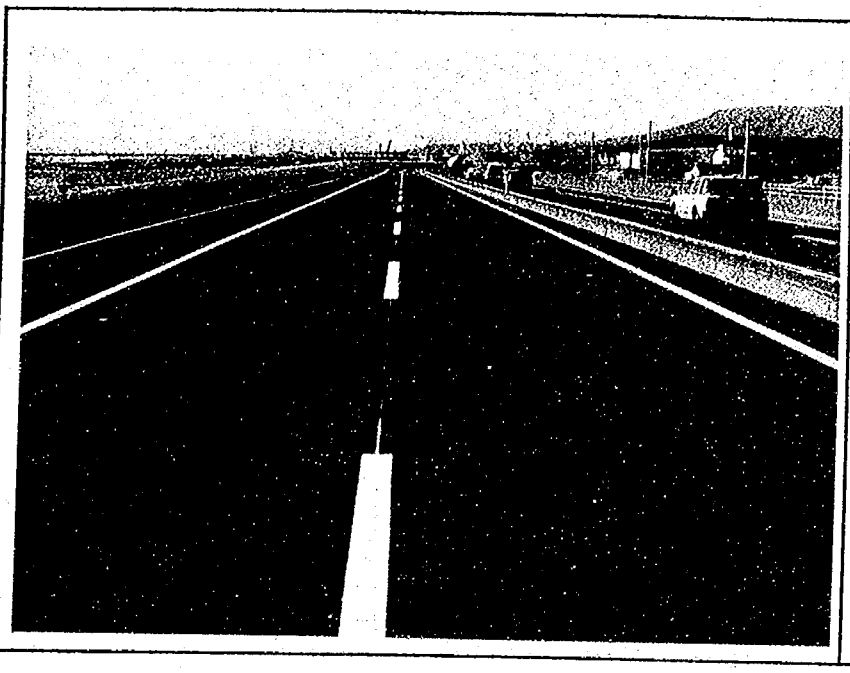
拡幅年月　　平成　　年　　月

当初の車線数　　車線

最終的な車線数　　車線

追加車線数　　車線

様式Ａ－１－５　調査区間概要図　　調査区間番号　１０１



調査区間概要図

路床路盤材料の採取位置を示すこと。

様式A－2－1　路床土に関する基礎データ　　調査区間番号　1 0 1

層番号　＿1、＿＿、＿＿　（様式A－1－3参照）

土質分類　砂質土　　AASHTO土質分類　＿＿＿

CBR　平均値　＿67.4　区間のCBR　＿61.6

S値　10.52　　K値　＿13.1 kg/cm³

75μmふるい通過量　＿5.7 %

塑性限界　＿＿.＿ %　　液性限界　＿＿.＿ %

塑性指数　＿＿.＿ %

最大乾燥密度　1.260 g/cm³　最適含水比　29.5 %

最大乾燥密度の算出方法　3　　現場乾燥密度　1.120 g/cm³

現場含水比　30.9 %　　最大乾燥密度比　＿88.9 %

最適含水比との比　104.8 %　凍上性区分　1

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

様式Ａ－２－２　弾性係数の測定（路床土）　　調査区間番号　１０１

層番号　＿１、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試料採取位置 KP＿＿＿k＿＿＿（KPが未定の場合　No.　＿＿＿＿＋＿＿）

供試体数　＿２　　ＡＡＳＨＴＯ土質分類　＿＿＿

含水比　＿３９．８％　　乾燥密度　１．０６８ g/cm³

試験の結果

側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
０．４３	０．５１	２０００
０．２３	０．３２	１８００
０．１１	０．１９	２０００
０．４２	０．５２	１５０２
０．２２	０．４１	１４７２
０．１１	０．２９	１１８０
０．４２	０．７５	１２６３
０．２５	０．５８	１０９０
０．１０	０．４２	１０７５
０．４２	１．０１	１２４３
０．２３	０．８０	１００７
０．１１	０．６８	１０１０
０．４１	１．１３	１５８４
０．２３	０．９３	１０５５
０．１１	０．７９	９９５
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿

回帰式　$\log E = \log A + B \times \log(\text{stress})$

$A =$ １２３５．８ 10^3kg/cm²　$B =$ ０．０１９

様式Ａ－３－１　路盤材料の特性値　　調査区間番号　１０１

層番号　＿２、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

最大乾燥密度　＿．＿＿＿ g/cm³　最適含水比　＿＿．＿ %

最大乾燥密度の算出方法　＿

現場乾燥密度　＿．＿＿＿ g/cm³　現場含水比　＿＿．＿ %

最大乾燥密度比　＿＿＿．＿ %　最適含水比との比　＿＿＿．＿ %

平板載荷試験　＿＿＿．＿ kg/cm³

425μmふるい通過量　＿＿．＿ %　75μmふるい通過量　＿＿．＿ %

路盤材料の修正ＣＢＲ　＿＿＿．＿

路盤材料の一軸圧縮強度　＿＿．＿ kg/cm²

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

様式Ａ－３－２　弾性係数の測定（路盤）　　調査区間番号　１０１

層番号　＿２、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

供試体数　＿２　含水比　＿＿８．３％　乾燥密度　２．１５４ g/cm³

試験の結果	側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
	＿１．３８	＿１．５９	２６５１
	＿１．３７	＿２．１１	１９４４
	＿１．３６	＿２．７８	２１５４
	＿１．０８	＿１．２７	２３７５
	＿１．０８	＿１．７７	１８４７
	＿１．０８	＿２．４６	１８０９
	＿０．７４	＿１．１１	１５０９
	＿０．７４	＿１．８２	１６０８
	＿０．３９	＿０．４７	１７７８
	＿０．４０	＿０．８０	１２１５
	＿０．４３	＿１．５１	１５１４
	＿０．１２	＿０．２４	１０４３
	＿０．１３	＿０．５０	＿９２８
	＿０．１７	＿０．８６	１０８９
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿

回帰式　$\log E = \log A + B \times \log(\text{stress})$

$A =$ １１３９．９ $10^3 kg/cm^2$　$B =$ ０．３８２

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　１０１

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類　１　１００
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

細骨材の種類　１　＿７５
２　＿２５
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

粗骨材の岩質　２３

フィラーの種類　＿

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿．＿	2.36mm	＿３５．４
37.5mm	１００．０	600μm	＿＿＿．＿
26.5mm	＿８８．９	300μm	＿＿＿．＿
19mm	＿＿＿．＿	150μm	＿＿＿．＿
13.2mm	＿６２．２	75μm	＿＿０．６
4.75mm	＿＿＿．＿		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	２．５９３ g/cm³	細骨材１（粗砂）	２．６６６ g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	＿．＿＿＿ g/cm³	細骨材２（中砂）	＿．＿＿＿ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	＿．＿＿＿ g/cm³	細骨材３（細砂）	＿．＿＿＿ g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	＿．＿＿＿ g/cm³	フィラー	＿．＿＿＿ g/cm³
スクリーニングス	２．５７６ g/cm³	クラッシャラン	＿．＿＿＿ g/cm³

合成密度　２．６０３ g/cm³　有効密度　２．７１９ g/cm³

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　１０１

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類　１　１００　　細骨材の種類　１　＿２５
＿　＿＿＿　　２　＿７５
＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿
＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

粗骨材の岩質　２３　　フィラーの種類　１

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿.＿	2.36mm	＿２８.７
37.5mm	＿＿＿.＿	600μm	＿１７.８
26.5mm	＿＿＿.＿	300μm	＿１３.２
19mm	１００.０	150μm	＿＿６.７
13.2mm	＿８１.９	75μm	＿＿４.１
4.75mm	＿４２.５		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	＿.＿＿＿ g/cm³	細骨材１（粗砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	２.６１９ g/cm³	細骨材２（中砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	２.６０６ g/cm³	細骨材３（細砂）	２.６５７ g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	２.５７４ g/cm³	フィラー	２.６９０ g/cm³
スクリーニングス	２.５７１ g/cm³	クラッシャラン	＿.＿＿＿ g/cm³

合成密度　２.５９７ g/cm³　有効密度　２.７０２ g/cm³

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　１０１

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類	１	１００	細骨材の種類	１	＿７５
	＿	＿＿＿		２	＿２５
	＿	＿＿＿		＿	＿＿＿
	＿	＿＿＿		＿	＿＿＿

粗骨材の岩質　２３　　フィラーの種類　１

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿.＿	2.36mm	＿５５.９
37.5mm	＿＿＿.＿	600μm	＿４７.７
26.5mm	＿＿＿.＿	300μm	＿３９.４
19mm	１００.０	150μm	＿１４.６
13.2mm	＿９９.５	75μm	＿１０.９
4.75mm	＿７１.１		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	＿.＿＿＿ g/cm³	細骨材１（粗砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	＿.＿＿＿ g/cm³	細骨材２（中砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	２.６０６ g/cm³	細骨材３（細砂）	２.６５７ g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	２.５７４ g/cm³	フィラー	２.６９０ g/cm³
スクリーニングス	２.５７１ g/cm³	クラッシャラン	＿.＿＿＿ g/cm³

合成密度　２.６２２ g/cm³　有効密度　２.７０９ g/cm³

様式Ａ--４－２　アスファルトの性状（原アスファルト）　調査区間番号　１０１

層番号　＿３、＿＿、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

針入度区分　＿８０～１００

アスファルトの製造元　出光興産(株)

密度　１.０３２ g/cm³

60℃粘度　＿＿１９９９ poise

135℃粘度　＿３７０ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿１.０ cm

4℃伸度の伸長速度　＿５ cm/min

25℃針入度　＿８９

4℃針入度　＿２９

軟化点　＿４６ ℃

添加剤　商品名

添加剤の添加量　＿＿＿ %

様式Ａ－４－２　アスファルトの性状（原アスファルト）　調査区間番号　１０１

層番号　＿４、＿＿、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

針入度区分　＿８０～１００

アスファルトの製造元　出光興産(株)

密度　１.０３２ g/cm³

60℃粘度　＿＿１３７０ poise

135℃粘度　＿３７０ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿１.０ cm

4℃伸度の伸長速度　＿５ cm/min

25℃針入度　＿８９

4℃針入度　＿２８

軟化点　＿４６ ℃

添加剤　商品名

添加剤の添加量　＿＿＿ %

様式Ａ－４－２　アスファルトの性状（原アスファルト）　調査区間番号　１０１

層番号　＿５、＿＿、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

針入度区分　＿８０～１００

アスファルトの製造元　出光興産(株)

密度　１．０３２ g/cm³

60℃粘度　＿＿５３９４ poise

135℃粘度　＿６８０ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm または ☒ １００＋

4℃伸度　１００＋

4℃伸度の伸長速度　＿５ cm/min

25℃針入度　＿８３

4℃針入度　＿３１

軟化点　＿５３ ℃

添加剤　商品名 ローデックス

添加剤の添加量　＿＿４ %

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　１０１

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿３８７０ poise　　135℃粘度　＿５６９ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０．５　cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５　cm/min

25℃針入度　＿４８　　4℃針入度　＿２７

軟化点　＿５３ ℃

質量変化率　０．０８

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿４３　　4℃針入度　＿３３

60℃粘度　＿＿３０５０ poise　　135℃粘度　＿５１１ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

様式A－4－3　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　1 0 1

層番号　＿ 4 、＿ ＿ 、＿ ＿　（様式A－1－3参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　1

60℃粘度　＿ ＿ 3 8 7 0 poise　　135℃粘度　＿ 5 6 9 cSt

25℃伸度　＿ ＿ ＿ cm または ☒ 1 0 0＋

4℃伸度　＿ 0 .5 cm　　4℃伸度の伸長速度　＿ 5 cm/min

25℃針入度　＿ 4 8　　4℃針入度　＿ 2 7

軟化点　＿ 5 3 ℃

質量変化率　0 .0 8

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿ 4 3　　4℃針入度　＿ 2 8

60℃粘度　＿ ＿ 2 7 8 0 poise　　135℃粘度　＿ 4 4 1 cSt

25℃伸度　＿ ＿ ＿ cm または ☒ 1 0 0＋

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　１０１

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿５９９０ poise　　135℃粘度　１１１０ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm または ☒ １００＋

4℃伸度　３０．０ cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５ cm/min

25℃針入度　＿５４　　4℃針入度　＿２７

軟化点　＿５６ ℃

質量変化率　０．０３

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿７２　　4℃針入度　＿３６

60℃粘度　＿＿５１２０ poise　　135℃粘度　１２２１ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm または ☒ １００＋

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　１０１

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３３３ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．５５２ g/cm³

アスファルト量　４．０ ％

空隙率　＿８．６ ％

骨材間隙率　１７．６ ％

有効アスファルト量　＿４．０ ％

突き固め回数　＿＿ 回

マーシャル安定度　＿５９４ kg

フロー値　＿２９ (1/100cm)

ビーム安定度　＿５４．６

ビーム粘着度　＿１５９．５

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　１０１

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３８１ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．５００ g/cm³

アスファルト量　５．０ %

空隙率　＿４．８ %

骨材間隙率　１６．３ %

有効アスファルト量　＿５．０ %

突き固め回数　＿＿回

マーシャル安定度　＿８８７ kg

フロー値　＿３５ (1/100cm)

ビーム安定度　＿４４．３

ビーム粘着度　＿２１３．９

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　１０１

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３５３ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．４３８ g/cm³

アスファルト量　６．８ %

空隙率　＿３．５ %

骨材間隙率　１９．０ %

有効アスファルト量　＿６．８ %

突き固め回数　＿＿ 回

マーシャル安定度　＿８５６ kg

フロー値　＿３５ (1/100cm)

ビーム安定度　＿１８．２

ビーム粘着度　＿５２３．１

様式Ａ－４－５　アスファルト混合物の性状（配合試験２）調査区間番号　１０１

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の剥離試験結果（剥離率）　＿３１

剥離防止材の種類　商品名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

剥離防止材の添加量　＿＿．＿％

アスファルトプラントの形式　１

ホイールトラッキング試験結果　＿＿＿＿回/mm

スパイクラベリング試験結果　＿＿＿＿mm²

様式Ａ－４－５　アスファルト混合物の性状（配合試験２）調査区間番号　１０１

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の剝離試験結果（剝離率）　＿２７

剝離防止材の種類　商品名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

剝離防止材の添加量　＿＿.＿％

アスファルトプラントの形式　１

ホイールトラッキング試験結果　＿＿＿＿回/mm

スパイクラベリング試験結果　＿＿＿＿mm²

様式Ａ－４－５　アスファルト混合物の性状（配合試験２）調査区間番号　１０１

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の剝離試験結果（剝離率）　＿３４

剝離防止材の種類　商品名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

剝離防止材の添加量　＿＿.＿％

アスファルトプラントの形式　１

ホイールトラッキング試験結果　＿＿＿＿回/mm

スパイクラベリング試験結果　＿＿３.７　mm²

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　1 0 1

層番号　＿ 3 、＿ ＿ 、＿ ＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　2 . 3 3 4 g/cm³

アスファルト量　4 . 0 %

空隙率　＿ 8 . 5 %

骨材間隙率　1 7 . 5 %

マーシャル安定度　＿ 7 0 1 kg

フロー値　＿ 3 5 (1/100cm)

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　１０１

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３８３ g/cm³

アスファルト量　５．０ %

空隙率　＿４．７ %

骨材間隙率　１６．２ %

マーシャル安定度　＿９１０ kg

フロー値　＿３６ (1/100cm)

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　１０１

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３５５ g/cm³

アスファルト量　６．８ %

空隙率　＿３．４ %

骨材間隙率　１９．０ %

マーシャル安定度　＿８７７ kg

フロー値　＿３５ (1/100cm)

様式Ａ－４－７　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　１０１

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３８８ g/cm³

最大比重　２．５９７ g/cm³

空隙率　＿８．０ %

アスファルト量　４．０ %

骨材間隙率　１７．３ %

様式A－4－7　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　1 0 1

層番号　＿ 4 、＿ ＿ 、＿ ＿　（様式A－1－3参照）

かさ密度　2 . 3 8 7 g/cm³

最大比重　2 . 5 4 9 g/cm³

空隙率　＿ 6 . 4 %

アスファルト量　5 . 0 %

骨材間隙率　1 8 . 0 %

様式A－4－7　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　1 0 1

層番号　＿5、＿＿、＿＿　（様式A－1－3参照）

かさ密度　2.3 9 5 g/cm³

最大比重　2.4 9 5 g/cm³

空隙率　＿4.0 %

アスファルト量　6.6 %

骨材間隙率　1 9.4 %

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　１０１

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	４０４００	２.３６３
＿＿＿	＿＿５.０	３８４００	２.４１１
＿＿＿	＿＿５.０	４９８５０	２.３９１
＿＿＿	＿２５.０	＿６４７０	２.３６３
＿＿＿	＿２５.０	１０６６５	２.４１１
＿＿＿	＿２５.０	１４８５０	２.３９１
＿＿＿	＿４０.０	＿２７４０	２.３６３
＿＿＿	＿４０.０	＿１７０５	２.４１１
＿＿＿	＿４０.０	＿２２６５	２.３９１
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　１０１

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	４６９５０	２.３６８
＿＿＿	＿＿５.０	４１５００	２.３９８
＿＿＿	＿＿５.０	４４９００	２.３９４
＿＿＿	＿２５.０	１１２９０	２.３６８
＿＿＿	＿２５.０	＿９５０５	２.３９８
＿＿＿	＿２５.０	１２８５０	２.３９４
＿＿＿	＿４０.０	＿３０１５	２.３６８
＿＿＿	＿４０.０	＿２６５５	２.３９８
＿＿＿	＿４０.０	＿２６５５	２.３９４
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　１０１

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	５８８００	２.３８２
＿＿＿	＿＿５.０	４９１００	２.４１５
＿＿＿	＿＿５.０	６２３５０	２.３８９
＿＿＿	＿２５.０	１３９００	２.３８２
＿＿＿	＿２５.０	＿８６４５	２.４１５
＿＿＿	＿２５.０	１２２００	２.３８９
＿＿＿	＿４０.０	＿４０５５	２.３８２
＿＿＿	＿４０.０	＿３９０５	２.４１５
＿＿＿	＿４０.０	＿３５１０	２.３８９
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　１０１

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２２.１
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿１９.９
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２３.７
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿８.８
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿６.３
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿８.３
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿１.９
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.２
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿１.７
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　１０１

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿１９.８
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２７.０
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２３.８
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿８.６
＿＿＿	＿２５.０	＿＿１０.４
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿９.７
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿１.８
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.３
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.２
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　１０１

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２７.３
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２４.８
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２７.３
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿９.８
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿８.１
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿８.６
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.８
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.６
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.４
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

ＳＨＲＰ
新基準調査

初期調査データ

２２８号　木古内バイパス

様式Ａ－１－１　一般データ　　調査区間番号　１０２

地建番号　１

報告年月　平成　１　年　１２　月

担当部局　函館開発建設部　道路課　　内線　３６３

調査区間の地名　北海道上磯郡木古内町

路線番号　２２８

調査種別　１

調査方向　☒上り　☐下り

距離標　３８ｋ７００～３８ｋ４００

（ＫＰ未定の場合No.＿＿＿＿＋＿＿～＿＿＿＿＋＿＿）

様式Ａ－１－２　舗装構造データ　　調査区間番号　１０２

舗装の種別　1

調査方向の車線数　1

車線幅　３２５　cm

調査対象車線　第　1　車線

路肩の幅　１５０　cm

路肩の路面の種類　3

路肩の路盤の種類　２２

路肩の表層・基層の厚さ　＿９　cm

路肩の路盤の厚さ　＿５５　cm

地下排水工の種類　1　，＿

縦断方向の配水管の内径　＿＿＿＿　mm

排水工の位置　＿

配水管の間隔　＿＿＿＿　cm

様式A－1－3　舗装構成データ　　調査区間番号　1 0 2

層の数　5

番号	層の名称	層の厚さ（mm）				材料
		最　大	最　小	平　均	標準偏差	
1	7					5 7
2	6	5 9 0	5 4 0	5 5 8		2 2
3	4	1 2 3	1 2 0	1 2 1	1.0 9	3 1
4	4	1 1 9	9 9	1 0 5		2
5	3	5 1	4 1	4 6	3.3 1	1
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						

舗装の等値換算厚 T_A　　3 7 .4 cm

舗装厚H　　8 1 .0 cm

高支持力層までの深さ　　m

盛土厚さ　　cm

様式Ａ－１－４　施工関係データ　　調査区間番号　１０２

施工年月　平成　１　年　１１　月

交通開放（予定）年月　平成　１　年　１１　月

施工費用　＿＿＿＿　百万円／km・車線

打換え年月　平成　＿＿　年　＿＿　月

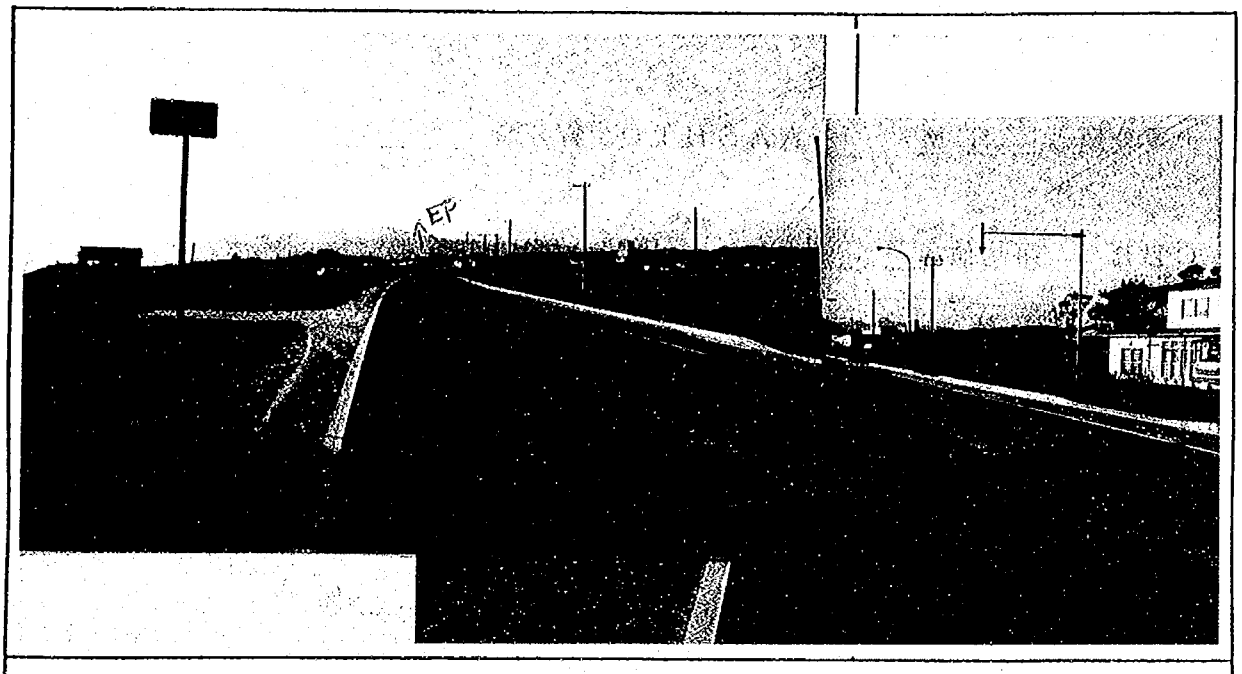
拡幅年月　　平成　＿＿　年　＿＿　月

当初の車線数　＿　車線

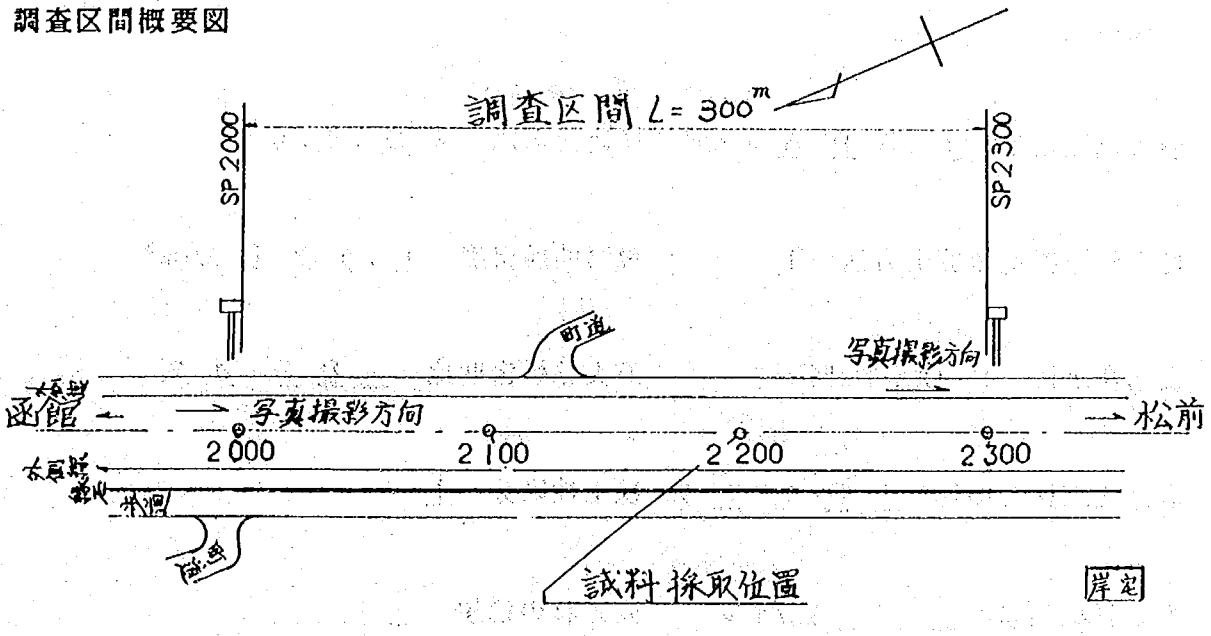
最終的な車線数　＿　車線

追加車線数　＿　車線

様式A－1－5　調査区間概要図　　調査区間番号　1 0 2



調査区間概要図



路床路盤材料の採取位置を示すこと。

様式Ａ－２－１　路床土に関する基礎データ　　調査区間番号　１０２

層番号　１＿、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

土質分類　＿ＳＭ　　ＡＡＳＨＴＯ土質分類　＿＿＿

ＣＢＲ　平均値　＿＿＿.＿　区間のＣＢＲ　＿＿＿.＿

Ｓ値　＿４.７７　　Ｋ値　＿＿＿.＿ kg/cm³

75μmふるい通過量　＿１.０％

塑性限界　＿＿.＿％　　液性限界　＿＿.＿％

塑性指数　＿＿.＿％

最大乾燥密度　１.５９５ g/cm³　最適含水比　２０.４％

最大乾燥密度の算出方法　１　　現場乾燥密度　１.４２６ g/cm³

現場含水比　２０.７％　　最大乾燥密度比　＿８９.４％

最適含水比との比　１０１.５％　凍上性区分　１

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

様式Ａ－２－２　弾性係数の測定（路床土）　　調査区間番号　１０２

層番号　＿１、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試料採取位置 KP＿＿＿k＿＿＿（KPが未定の場合　No.　＿＿＿＿＋＿＿）

供試体数　＿２　　ＡＡＳＨＴＯ土質分類　＿＿＿

含水比　＿＿５．５％　　乾燥密度　１．８２３ g/cm³

試験の結果

側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿

回帰式　　log E = log A + B x log(stress)

A = １３０３．２ 10^3kg/cm²　B = ０．２００

様式Ａ－３－１　路盤材料の特性値　　調査区間番号　１０２

層番号　２＿、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

最大乾燥密度　２．１１５ g/cm³　最適含水比　＿７．０ %

最大乾燥密度の算出方法　１

現場乾燥密度　２．１１６ g/cm³　現場含水比　＿６．９ %

最大乾燥密度比　１００．０ %　最適含水比との比　＿９８．６ %

平板載荷試験　＿４３．３ kg/cm³

425μmふるい通過量　＿＿．＿ %　75μmふるい通過量　＿３．０ %

路盤材料の修正ＣＢＲ　＿７１．０

路盤材料の一軸圧縮強度　＿＿．＿ kg/cm²

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

様式Ａ－３－２　弾性係数の測定（路盤）　　調査区間番号　１０２

層番号　＿２、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

供試体数　＿２　含水比　＿＿９.３％　乾燥密度　１.９４０ g/cm³

試験の結果	側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
	＿１.４２	＿１.６１	２９２９
	＿１.４０	＿２.１４	２５１４
	＿１.３９	＿２.８３	２４９８
	＿１.０８	＿１.２７	２５３４
	＿１.０８	＿１.８０	２１８６
	＿１.０７	＿２.４８	２４０２
	＿０.７４	＿０.８４	２２２２
	＿０.７３	＿１.０８	１９４６
	＿０.７２	＿１.７８	２０９９
	＿０.３９	＿０.４７	１４５５
	＿０.３８	＿０.７６	１３２２
	＿０.３９	＿１.４７	１５３６
	＿０.１０	＿０.１８	１１４３
	＿０.１１	＿０.４９	１１５３
	＿０.１４	＿０.８５	１２３８
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿

回帰式　$\log E = \log A + B \times \log(\text{stress})$

$A =$ １３２０.４ $10^3 kg/cm^2$　$B =$ ０.４０３

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　１０２

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類　１　１００
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

細骨材の種類　１　１００
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

粗骨材の岩質　２３

フィラーの種類　１

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿.＿	2.36mm	＿３５.０
37.5mm	１００.０	600μm	＿２４.０
26.5mm	＿７７.６	300μm	＿１３.６
19mm	＿７１.４	150μm	＿＿６.４
13.2mm	＿６２.８	75μm	＿＿２.２
4.75mm	＿４６.６		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	＿.＿＿＿ g/cm³	細骨材１（粗砂）	２.６９０ g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	＿.＿＿＿ g/cm³	細骨材２（中砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	＿.＿＿＿ g/cm³	細骨材３（細砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	＿.＿＿＿ g/cm³	フィラー	＿.＿＿＿ g/cm³
スクリーニングス	＿.＿＿＿ g/cm³	クラッシャラン	２.６２４ g/cm³

合成密度　２.６３９ g/cm³　有効密度　２.７５４ g/cm³

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　１０２

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類　１　１００　　細骨材の種類　１　１００

＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

粗骨材の岩質　２３　　フィラーの種類　１

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿.＿	2.36mm	＿２８.０
37.5mm	＿＿＿.＿	600μm	＿１７.４
26.5mm	＿＿＿.＿	300μm	＿＿９.７
19mm	１００.０	150μm	＿＿６.０
13.2mm	＿８０.０	75μm	＿＿３.７
4.75mm	＿４５.０		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	＿.＿＿ g/cm³	細骨材１（粗砂）	２.６９０ g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	２.６３７ g/cm³	細骨材２（中砂）	＿.＿＿ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	２.６２２ g/cm³	細骨材３（細砂）	＿.＿＿ g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	２.６１９ g/cm³	フィラー	２.７００ g/cm³
スクリーニングス	＿.＿＿ g/cm³	クラッシャラン	＿.＿＿ g/cm³

合成密度　２.６４１ g/cm³　有効密度　２.７４９ g/cm³

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　１０２

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類　１　１００　　細骨材の種類　１　１００

＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

粗骨材の岩質　２３　　フィラーの種類　１

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿.＿	2.36mm	＿５５.０
37.5mm	＿＿＿.＿	600μm	＿４７.３
26.5mm	＿＿＿.＿	300μm	＿３４.４
19mm	＿＿＿.＿	150μm	＿１３.８
13.2mm	１００.０	75μm	＿１０.９
4.75mm	＿７０.０		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	＿.＿＿＿ g/cm³	細骨材１（粗砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	＿.＿＿＿ g/cm³	細骨材２（中砂）	２.５５２ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	２.６２２ g/cm³	細骨材３（細砂）	２.６４０ g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	２.６１９ g/cm³	フィラー	２.７００ g/cm³
スクリーニングス	＿.＿＿＿ g/cm³	クラッシャラン	＿.＿＿＿ g/cm³

合成密度　２.６２６ g/cm³　有効密度　２.７１７ g/cm³

様式Ａ－４－２　アスファルトの性状（原アスファルト）　調査区間番号　１０２

層番号　＿３、＿４、＿５、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

針入度区分　＿８０～１００

アスファルトの製造元　コスモ石油(株)

密度　１．０２８ g/cm³

60℃粘度　＿＿１２４７ poise

135℃粘度　＿４１０ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿１．０ cm

4℃伸度の伸長速度　＿５ cm/min

25℃針入度　＿８５

4℃針入度　＿３２

軟化点　＿４７℃

添加剤　商品名

添加剤の添加量　＿＿＿％

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　１０２

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　1

60℃粘度　＿＿２６３０ poise　　135℃粘度　＿４９６ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０．５　cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５　cm/min

25℃針入度　＿５３　　4℃針入度　＿２８

軟化点　＿４８℃

質量変化率　０．００

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿５２　　4℃針入度　＿２７

60℃粘度　＿＿３２００ poise　　135℃粘度　＿５４０ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　１０２

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿２６３０ poise　　135℃粘度　＿４９６ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０．５ cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５ cm/min

25℃針入度　＿５３　　4℃針入度　＿２８

軟化点　＿４８ ℃

質量変化率　０．００

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿６８　　4℃針入度　＿３０

60℃粘度　＿＿２７９０ poise　　135℃粘度　＿５０４ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　１　０　２

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿２６３０ poise　　135℃粘度　＿４９６ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０．５ cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５ cm/min

25℃針入度　＿５３　　4℃針入度　＿２８

軟化点　＿４８ ℃

質量変化率　０．００

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿５８　　4℃針入度　＿３６

60℃粘度　＿３３３０ poise　135℃粘度　＿５２８ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　１０２

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３４０ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．５８１ g/cm³

アスファルト量　４．０ %

空隙率　＿９．３ %

骨材間隙率　１８．４ %

有効アスファルト量　＿４．０ %

突き固め回数　＿＿ 回

マーシャル安定度　＿８８５ kg

フロー値　＿２４ (1/100cm)

ビーム安定度　＿５０．０

ビーム粘着度　＿１５２．８

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　１０２

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３９５ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．５３７ g/cm³

アスファルト量　５．０ %

空隙率　＿５．６ %

骨材間隙率　１７．２ %

有効アスファルト量　＿５．０ %

突き固め回数　＿＿ 回

マーシャル安定度　１０１４ kg

フロー値　＿３１ (1/100cm)

ビーム安定度　＿４９．０

ビーム粘着度　＿２６３．７

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　１０２

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３４７ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．４３７ g/cm³

アスファルト量　７．０ %

空隙率　＿３．７ %

骨材間隙率　１９．７ %

有効アスファルト量　＿７．０ %

突き固め回数　＿＿ 回

マーシャル安定度　＿８５０ kg

フロー値　＿３５ (1/100cm)

ビーム安定度　＿１１．１

ビーム粘着度　＿４５６．９

様式Ａ－４－５　アスファルト混合物の性状（配合試験２）調査区間番号　１０２

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の剝離試験結果（剝離率）　＿４７

剝離防止材の種類　商品名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

剝離防止材の添加量　＿＿.＿％

アスファルトプラントの形式　＿

ホイールトラッキング試験結果　＿＿＿＿回/mm

スパイクラベリング試験結果　＿＿＿＿mm²

様式Ａ－４－５　アスファルト混合物の性状（配合試験２）調査区間番号　１０２

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の剥離試験結果（剥離率）　＿４３

剥離防止材の種類　商品名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

剥離防止材の添加量　＿＿．＿％

アスファルトプラントの形式　＿

ホイールトラッキング試験結果　＿＿＿＿回/mm

スパイクラベリング試験結果　＿＿＿＿mm²

様式Ａ－４－５　アスファルト混合物の性状（配合試験２）調査区間番号　１０２

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の剥離試験結果（剥離率）　＿４９

剥離防止材の種類　商品名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

剥離防止材の添加量　＿＿.＿％

アスファルトプラントの形式　１

ホイールトラッキング試験結果　＿＿＿＿回/mm

スパイクラベリング試験結果　＿＿７０ mm²

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　１０２

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３４２ g/cm³

アスファルト量　４．０ %

空隙率　＿９．３ %

骨材間隙率　１８．４ %

マーシャル安定度　＿８９４ kg

フロー値　＿２５ (1/100cm)

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　１０２

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３９６ g/cm³

アスファルト量　５．０ %

空隙率　＿５．６ %

骨材間隙率　１７．３ %

マーシャル安定度　１０５０ kg

フロー値　＿３３ (1/100cm)

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　１０２

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３４９ g/cm³

アスファルト量　７．０ %

空隙率　＿３．６ %

骨材間隙率　１９．６ %

マーシャル安定度　＿８６８ kg

フロー値　＿３５ (1/100cm)

様式Ａ－４－７　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　１０２

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．２９９ g/cm³

最大比重　２．５９９ g/cm³

空隙率　　１１．６ %

アスファルト量　４．０ %

骨材間隙率　２０．５ %

様式Ａ－４－７　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　１０２

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３８０ g/cm³

最大比重　２．５９０ g/cm³

空隙率　＿８．１ ％

アスファルト量　５．０ ％

骨材間隙率　１９．６ ％

様式Ａ－４－７　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　１０２

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３４４ g/cm³

最大比重　２．４７４ g/cm³

空隙率　＿５．３ %

アスファルト量　７．０ %

骨材間隙率　２１．２ %

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　１０２

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	３６４５０	２.３０３
＿＿＿	＿＿５.０	４４５５０	２.３１８
＿＿＿	＿＿５.０	３３２５０	２.２７５
＿＿＿	＿２５.０	＿７３２５	２.３０３
＿＿＿	＿２５.０	＿５６０５	２.３１８
＿＿＿	＿２５.０	＿６８２５	２.２７５
＿＿＿	＿４０.０	＿４３８５	２.３０３
＿＿＿	＿４０.０	＿２３５５	２.３１８
＿＿＿	＿４０.０	＿２２４５	２.２７５
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　１０２

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	４３８５０	２.３６１
＿＿＿	＿＿５.０	４７２００	２.３９１
＿＿＿	＿＿５.０	４０６５０	２.３８８
＿＿＿	＿２５.０	＿６９３０	２.３６１
＿＿＿	＿２５.０	１３１００	２.３９１
＿＿＿	＿２５.０	１０７２５	２.３８８
＿＿＿	＿４０.０	＿２８２０	２.３６１
＿＿＿	＿４０.０	＿２４８０	２.３９１
＿＿＿	＿４０.０	＿２８９５	２.３８８
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　１０２

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	５４０００	２.３３２
＿＿＿	＿＿５.０	４２７５０	２.３５８
＿＿＿	＿＿５.０	５４１５０	２.３４１
＿＿＿	＿２５.０	＿９０３５	２.３３２
＿＿＿	＿２５.０	＿９８４５	２.３５８
＿＿＿	＿２５.０	１００８５	２.３４１
＿＿＿	＿４０.０	＿３３１５	２.３３２
＿＿＿	＿４０.０	＿３８００	２.３５８
＿＿＿	＿４０.０	＿３９５５	２.３４１
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　１０２

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿１１.７
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２１.１
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿１５.２
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿５.４
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿５.３
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿４.０
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿１.４
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿１.５
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿１.７
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　１０２

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２６.２
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２９.５
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿１８.２
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿６.７
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿５.６
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿６.０
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.０
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿１.８
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.３
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

様式A－4－9　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　102

層番号　＿5、＿＿、＿＿　（様式A－1－3参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿5.0	＿＿26.9
＿＿＿	＿＿5.0	＿＿22.3
＿＿＿	＿＿5.0	＿＿25.6
＿＿＿	＿25.0	＿＿＿7.1
＿＿＿	＿25.0	＿＿＿5.9
＿＿＿	＿25.0	＿＿＿6.6
＿＿＿	＿40.0	＿＿＿1.8
＿＿＿	＿40.0	＿＿＿1.9
＿＿＿	＿40.0	＿＿＿2.0
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿50.0　mm/min

試験方法　1

S H R P

新 基 準 調 査

初 期 調 査 デ ー タ

337号 銭函バイパス

様式Ａ－１－１　一般データ　　調査区間番号　１０３

地建番号　１

報告年月　平成　３　年　１　月

担当部局　小樽開発建設部小樽道路事務所　第一工事課建設係　内線　４４

調査区間の地名　小樽市銭函町大浜

路線番号　３３７

調査種別　１

調査方向　□上り　☒下り

距離標　９９ｋ１８５～９９ｋ３８５

（ＫＰ未定の場合No.＿＿＿＿＋＿＿～＿＿＿＿＋＿＿）

様式Ａ－１－２　舗装構造データ　　調査区間番号　１０３

舗装の種別　1

調査方向の車線数　2

車線幅　３５０　cm

調査対象車線　第　2　車線

路肩の幅　２００　cm

路肩の路面の種類　3

路肩の路盤の種類　２３

路肩の表層・基層の厚さ　１１　cm

路肩の路盤の厚さ　＿８９　cm

地下排水工の種類　１，＿

縦断方向の配水管の内径　＿＿＿＿　mm

排水工の位置　＿

配水管の間隔　＿＿＿＿　cm

様式A－1－3　舗装構成データ　　調査区間番号　103

層の数　6

番号	層の名称	層の厚さ（mm）				材料
		最　大	最　小	平　均	標準偏差	
1	7	― ― ― ―	― ― ― ―	― ― ― ―	― ―.― ―	59
2	6	670	650	661	7.72	23
3	4	207	171	190	12.10	31
4	4	― ― 83	― ― 56	― ― 66	8.90	2
5	4	― ― 73	― ― 57	― ― 63	5.90	2
6	3	― ― 59	― ― 51	― ― 54	2.20	1
7	― ―	― ― ― ―	― ― ― ―	― ― ― ―	― ―.― ―	― ―
8	― ―	― ― ― ―	― ― ― ―	― ― ― ―	― ―.― ―	― ―
9	― ―	― ― ― ―	― ― ― ―	― ― ― ―	― ―.― ―	― ―
10	― ―	― ― ― ―	― ― ― ―	― ― ― ―	― ―.― ―	― ―
11	― ―	― ― ― ―	― ― ― ―	― ― ― ―	― ―.― ―	― ―
12	― ―	― ― ― ―	― ― ― ―	― ― ― ―	― ―.― ―	― ―

舗装の等値換算厚T_A　　47.7 cm

舗装厚H　　100.0 cm

高支持力層までの深さ　　35 m

盛土厚さ　　0 cm

様式Ａ－１－４　施工関係データ　　調査区間番号　１０３

施工年月　平成　２　年　８　月

交通開放（予定）年月　平成　２　年　１１　月

施工費用　　９０　百万円／km・車線

打換え年月　平成　　年　　月

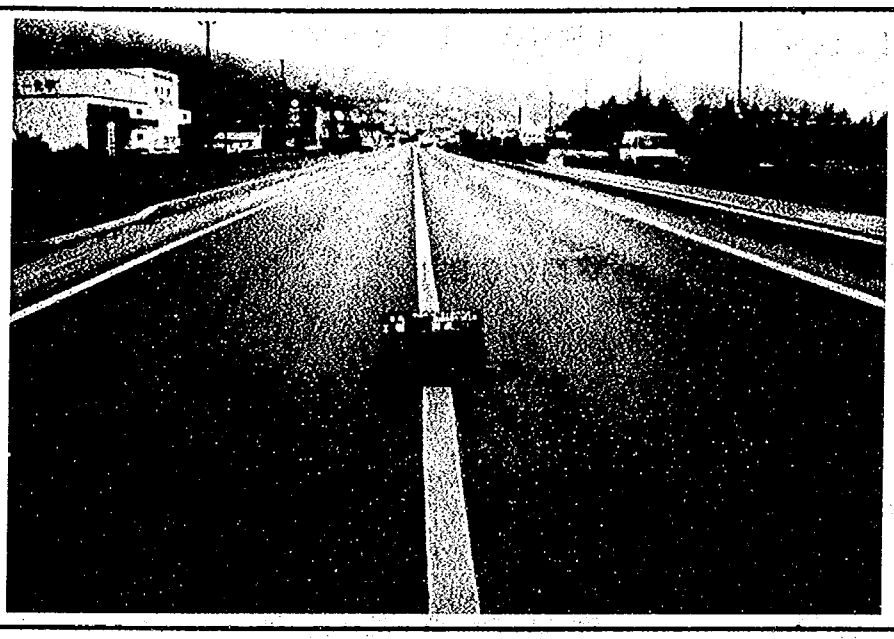
拡幅年月　　平成　　年　　月

当初の車線数　　車線

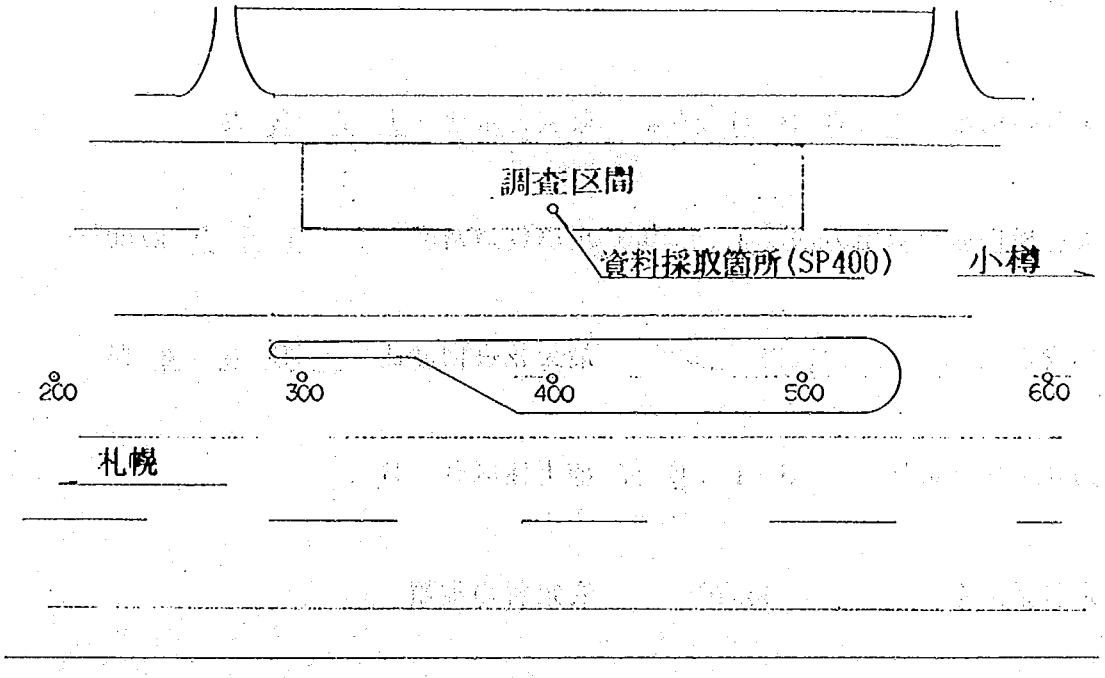
最終的な車線数　　車線

追加車線数　　車線

様式A－1－5　調査区間概要図　　調査区間番号 1 0 3



調査区間概要図



路床・路盤材の採取位置を示すこと。

様式Ａ－２－１　路床土に関する基礎データ　　調査区間番号　１０３

層番号　＿１、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

土質分類　＿ＳＭ　　ＡＡＳＨＴＯ土質分類　＿＿＿

ＣＢＲ　平均値　＿＿６．２　区間のＣＢＲ　＿＿５．５

Ｓ値　＿６．６８　Ｋ値　＿＿６．３ kg/cm³

75μmふるい通過量　１３．２ %

塑性限界　ＮＰ．＿ %　液性限界　ＮＰ．＿ %

塑性指数　＿＿．＿ %

最大乾燥密度　１．６３０ g/cm³　最適含水比　１７．２ %

最大乾燥密度の算出方法　１　現場乾燥密度　１．５２３ g/cm³

現場含水比　１０．６ %　最大乾燥密度比　＿９３．４ %

最適含水比との比　＿６１．６ %　凍上性区分　３

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

様式Ａ－２－２　弾性係数の測定（路床土）　　調査区間番号　１０３

層番号　＿１、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試料採取位置 KP＿＿＿k＿＿＿（KPが未定の場合　No.　＿＿＿＿＋＿＿）

供試体数　＿２　　ＡＡＳＨＴＯ土質分類　＿＿＿

含水比　＿＿８．３％　　乾燥密度　１．４６８ g/cm³

試験の結果

側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
０．４２	０．５７	９８５
０．２０	０．３４	１０１５
０．００	０．１３	７７４
０．４１	０．７０	１２８０
０．２１	０．４９	８０５
０．０１	０．３０	５４７
０．４１	０．９６	１１５８
０．２１	０．７８	７２９
０．０１	０．５６	７１０
０．４１	１．１０	１３３０
０．２１	０．９０	７８１
０．００	０．６９	９６６
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿

回帰式　　log E = log A + B x log(stress)

A = ＿９０４．９ 10^3kg/cm²　B = ０．４９３

様式Ａ－３－１　路盤材料の特性値　　調査区間番号　１０３

層番号　＿２、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

最大乾燥密度　２．１０９ g/cm³　最適含水比　＿７．２ %

最大乾燥密度の算出方法　１

現場乾燥密度　２．０６４ g/cm³　現場含水比　＿４．６ %

最大乾燥密度比　＿６７．９ %　最適含水比との比　＿６３．９ %

平板載荷試験　＿３７．９ kg/cm³

425μmふるい通過量　１０．０ %　75μmふるい通過量　＿２．０ %

路盤材料の修正ＣＢＲ　＿８６．５

路盤材料の一軸圧縮強度　＿＿．＿ kg/cm²

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

様式A－3－2　弾性係数の測定（路盤）　　調査区間番号　1 0 3

層番号　＿2、＿＿、＿＿　（様式A－1－3参照）

供試体数　＿2　含水比　＿＿＿.＿％　乾燥密度　＿.＿＿＿g/cm³

試験の結果	側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿

回帰式　$\log E = \log A + B \times \log(\text{stress})$

$A =$ ＿＿＿＿.＿ $10^3 kg/cm^2$　$B =$ ＿.＿＿

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　１０３

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類　１　１００　　細骨材の種類　１　１００

＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

粗骨材の岩質　２３　　フィラーの種類　＿

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	１００．０	2.36mm	＿３５．１
37.5mm	１００．０	600μm	＿２１．０
26.5mm	＿７９．９	300μm	＿１２．４
19mm	＿７１．３	150μm	＿＿６．４
13.2mm	＿６６．０	75μm	＿＿２．５
4.75mm	＿４６．２		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	＿．＿＿＿ g/cm³	細骨材１（粗砂）	２．６２２ g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	＿．＿＿＿ g/cm³	細骨材２（中砂）	＿．＿＿＿ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	＿．＿＿＿ g/cm³	細骨材３（細砂）	＿．＿＿＿ g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	＿．＿＿＿ g/cm³	フィラー	＿．＿＿＿ g/cm³
スクリーニングス	＿．＿＿＿ g/cm³	クラッシャラン	２．６７８ g/cm³

合成密度　２．６６７ g/cm³　有効密度　２．７２８ g/cm³

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号 １０３

層番号 ＿４、＿５、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類 １　１００　　細骨材の種類 １　１００

＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

粗骨材の岩質 ２３　　フィラーの種類 １

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	１００．０	2.36mm	＿２８．９
37.5mm	１００．０	600μm	＿２０．４
26.5mm	１００．０	300μm	＿１２．２
19mm	＿９９．２	150μm	＿＿６．０
13.2mm	＿７９．０	75μm	＿＿４．４
4.75mm	＿４５．９		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	＿．＿＿ g/cm³	細骨材１（粗砂）	２．６６２ g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	２．６６８ g/cm³	細骨材２（中砂）	＿．＿＿ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	２．６５９ g/cm³	細骨材３（細砂）	２．６２８ g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	２．６３９ g/cm³	フィラー	２．７００ g/cm³
スクリーニングス	＿．＿＿ g/cm³	クラッシャラン	＿．＿＿ g/cm³

合成密度 ２．６５７ g/cm³　有効密度 ２．６９９ g/cm³

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　１０３

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類　１　１００　　細骨材の種類　１　１００

＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

粗骨材の岩質　２３　　フィラーの種類　１

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	１００．０	2.36mm	＿５５．９
37.5mm	１００．０	600μm	＿４８．９
26.5mm	１００．０	300μm	＿２８．１
19mm	１００．０	150μm	＿１３．３
13.2mm	＿９９．７	75μm	＿１１．０
4.75mm	＿７１．４		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	＿．＿＿ g/cm³	細骨材１（粗砂）	２．６７７ g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	＿．＿＿ g/cm³	細骨材２（中砂）	＿．＿＿ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	２．６５９ g/cm³	細骨材３（細砂）	２．６２８ g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	２．６３９ g/cm³	フィラー	２．７００ g/cm³
スクリーニングス	＿．＿＿ g/cm³	クラッシャラン	＿．＿＿ g/cm³

合成密度　２．６５４ g/cm³　有効密度　２．６９８ g/cm³

様式Ａ－４－２　アスファルトの性状（原アスファルト）　調査区間番号　１０３

層番号　＿３、＿４、＿５、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

針入度区分　＿８０～１００

アスファルトの製造元　コスモ石油(株)

密度　１.０３２ g/cm³

60℃粘度　＿＿１３４３ poise

135℃粘度　＿２９６ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０.０　cm

4℃伸度の伸長速度　＿５　cm/min

25℃針入度　＿８０

4℃針入度　＿２７

軟化点　＿４７℃

添加剤　商品名

添加剤の添加量　＿＿＿％

様式Ａ－４－２　アスファルトの性状（原アスファルト）　調査区間番号　１０３

層番号　＿６、＿＿、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

針入度区分　＿８０～１００

アスファルトの製造元　コスモ石油(株)

密度　１.０２９ g/cm³

60℃粘度　＿＿９３６２ poise

135℃粘度　＿８２０ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿８.７　cm

4℃伸度の伸長速度　＿５　cm/min

25℃針入度　＿５３

4℃針入度　＿２４

軟化点　＿６３ ℃

添加剤　商品名　ＪＳＲローデックス　日本合成ゴム(株)

添加剤の添加量　＿＿＿ %

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　１０３

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿２５５２ poise　　135℃粘度　＿３８１ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０．０ cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５ cm/min

25℃針入度　＿５８　　4℃針入度　＿１８

軟化点　＿５１ ℃

質量変化率　０．０９

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿５０　　4℃針入度　＿２１

60℃粘度　＿＿４２３８ poise　　135℃粘度　＿４９８ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　１０３

層番号　＿４、＿５、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿２５５２ poise　　135℃粘度　＿３８１ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０．０ cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５　cm/min

25℃針入度　＿５８　　4℃針入度　＿１８

軟化点　＿５１ ℃

質量変化率　０．０９

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿５３　　4℃針入度　＿２３

60℃粘度　＿＿３８０２ poise　　135℃粘度　＿４８４ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　１０３

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿１０９３０ poise　　135℃粘度　＿５７０ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０．０ cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５ cm/min

25℃針入度　＿４１　　4℃針入度　＿２０

軟化点　＿６２ ℃

質量変化率　０．０２

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿５０　　4℃針入度　＿２７

60℃粘度　＿１０１５５ poise　　135℃粘度　１４３４ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

様式A－4－4　アスファルト混合物の性状（配合試験1）調査区間番号　1 0 3

層番号　＿3、＿＿、＿＿　（様式A－1－3参照）

かさ密度　2.3 3 9 g/cm³

最大比重（理論密度）　2.5 4 8 g/cm³

アスファルト量　4.3 %

空隙率　＿8.2 %

骨材間隙率　1 7.9 %

有効アスファルト量　＿4.3 %

突き固め回数　5 0 回

マーシャル安定度　＿6 5 7 kg

フロー値　＿2 8 (1/100cm)

ビーム安定度　＿4 9.4

ビーム粘着度　＿1 8 9.3

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　１０３

層番号　＿４、＿５、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３７８ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．４７９ g/cm³

アスファルト量　５．５ %

空隙率　＿４．１ %

骨材間隙率　１６．８ %

有効アスファルト量　＿５．５ %

突き固め回数　５０回

マーシャル安定度　＿８１０ kg

フロー値　＿３１ (1/100cm)

ビーム安定度　＿４５．５

ビーム粘着度　＿＿３３．０

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　１０３

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３３２ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．４２３ g/cm³

アスファルト量　７．０ %

空隙率　＿３．８ %

骨材間隙率　１９．６ %

有効アスファルト量　＿７．０ %

突き固め回数　５０ 回

マーシャル安定度　１１５６ kg

フロー値　＿２７ (1/100cm)

ビーム安定度　＿２０．６

ビーム粘着度　＿５４３．０

様式Ａ－４－５　アスファルト混合物の性状（配合試験２）調査区間番号　１０３

層番号　＿３、＿４、＿５　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の剝離試験結果（剝離率）　＿＿９

剝離防止材の種類　商品名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

剝離防止材の添加量　＿＿.＿％

アスファルトプラントの形式　＿

ホイールトラッキング試験結果　＿＿＿＿回/mm

スパイクラベリング試験結果　＿＿＿＿mm²

様式Ａ－４－５　アスファルト混合物の性状（配合試験２）調査区間番号　１０３

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の剝離試験結果（剝離率）　＿＿５

剝離防止材の種類　商品名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

剝離防止材の添加量　＿＿.＿％

アスファルトプラントの形式　１

ホイールトラッキング試験結果　＿＿＿＿回/mm

スパイクラベリング試験結果　＿４４１ mm²

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　１０３

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３３９ g/cm³

アスファルト量　４．３ %

空隙率　＿８．２ %

骨材間隙率　１７．９ %

マーシャル安定度　＿６５７ kg

フロー値　＿２８ (1/100cm)

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　１０３

層番号　＿４、＿５、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３７１ g/cm³

アスファルト量　５．３ %

空隙率　＿４．６ %

骨材間隙率　１６．８ %

マーシャル安定度　＿７９９ kg

フロー値　＿２９ (1/100cm)

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　１０３

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３３０ g/cm³

アスファルト量　７．０ %

空隙率　＿３．８ %

骨材間隙率　１９．６ %

マーシャル安定度　１１４８ kg

フロー値　＿２７ (1/100cm)

様式Ａ－４－７　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　１０３

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３９５ g/cm³

最大比重　２．５９９ g/cm³

空隙率　＿７．９ %

アスファルト量　５．０ %

骨材間隙率　１９．５ %

様式Ａ－４－７　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　１０３

層番号　＿４、＿５、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．４１３ g/cm³

最大比重　２．５３９ g/cm³

空隙率　＿５．０ %

アスファルト量　６．１ %

骨材間隙率　１９．３ %

様式Ａ－４－７　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　１０３

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３３９ g/cm³

最大比重　２．４９６ g/cm³

空隙率　＿６．３ ％

アスファルト量　８．１ ％

骨材間隙率　２４．６ ％

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　１０３

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	５８１００	２.４１７
＿＿＿	＿＿５.０	５５２５０	２.３３８
＿＿＿	＿＿５.０	５１８５０	２.３９８
＿＿＿	＿２５.０	１４６５０	２.４１７
＿＿＿	＿２５.０	１６４５０	２.３３８
＿＿＿	＿２５.０	１６９５０	２.３９８
＿＿＿	＿４０.０	＿４４５５	２.４１７
＿＿＿	＿４０.０	＿３７２５	２.３３８
＿＿＿	＿４０.０	＿４０１５	２.３９８
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　１０３

層番号　＿４、＿５、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	４６０５０	２.４３２
＿＿＿	＿＿５.０	５１１００	２.４０９
＿＿＿	＿＿５.０	３３８００	２.４３１
＿＿＿	＿２５.０	１６３００	２.４３２
＿＿＿	＿２５.０	１４９５０	２.４０９
＿＿＿	＿２５.０	１５９５０	２.４３１
＿＿＿	＿４０.０	＿４８５０	２.４３２
＿＿＿	＿４０.０	＿３８００	２.４０９
＿＿＿	＿４０.０	＿３７００	２.４３１
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　１０３

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	４８４５０	２.３４９
＿＿＿	＿＿５.０	５４０００	２.３２５
＿＿＿	＿＿５.０	５０５００	２.３３５
＿＿＿	＿２５.０	１５９５０	２.３４９
＿＿＿	＿２５.０	１８２００	２.３２５
＿＿＿	＿２５.０	１０５４０	２.３３５
＿＿＿	＿４０.０	＿３８８０	２.３４９
＿＿＿	＿４０.０	＿３５５０	２.３２５
＿＿＿	＿４０.０	＿３１４５	２.３３５
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　１０３

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２２.０
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿１６.４
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿１７.８
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿６.６
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿５.３
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿６.７
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿３.６
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.２
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿３.０
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　１０３

層番号　＿４、＿５、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿１６.４
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２０.２
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿１４.６
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿５.８
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿５.８
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿８.１
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.６
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.２
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.７
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　１０３

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿１５.０
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿１４.８
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿１７.２
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿７.３
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿７.６
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿５.５
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.７
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.３
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.９
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

東北地方

S H R P

新 基 準 調 査

初 期 調 査 デ ー タ

１３号　山形北バイパス

様式Ａ－１－１　一般データ　　調査区間番号　２０１

地建番号　２

報告年月　平成　１　年　３　月

担当部局　東北地方建設局　東北技術事務所　工務課　調査係　内線　３２２

調査区間の地名　山形県村山市大字林崎

路線番号　１３

調査種別　１

調査方向　□上り　☒下り

距離標　１２０ｋ１６５～１２０ｋ４６５

（ＫＰ未定の場合No.＿＿＿＿＋＿＿～＿＿＿＿＋＿＿）

様式A－1－2　舗装構造データ　　調査区間番号　2 0 1

舗装の種別　1

調査方向の車線数　2

車線幅　3 5 0　cm

調査対象車線　第 1 車線

路肩の幅　1 5 0　cm

路肩の路面の種類　3

路肩の路盤の種類　2 3

路肩の表層・基層の厚さ　1 7　cm

路肩の路盤の厚さ　＿ 2 8　cm

地下排水工の種類　1 , ＿

縦断方向の配水管の内径　＿ ＿ ＿ ＿　mm

排水工の位置　＿

配水管の間隔　＿ ＿ ＿ ＿　cm

様式Ａ－１－３　舗装構成データ　　調査区間番号　２０１

層の数　５

番号	層の名称	層の厚さ（mm）				材料
		最　大	最　小	平　均	標準偏差	
1	7	1250	1200	1225	＿＿＿＿	61
2	6	225	210	217	＿＿＿＿	23
3	4	93	84	88	＿＿＿＿	31
4	4	136	132	134	＿＿＿＿	2
5	3	45	42	43	＿＿＿＿	1
6	＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿
7	＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿
8	＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿
9	＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿
10	＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿
11	＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿
12	＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿

舗装の等値換算厚 T_A　　＿28.4 cm

舗装厚H　　＿45.0 cm

高支持力層までの深さ　＿＿＿ m

盛土厚さ　＿＿＿＿ cm

様式Ａ－１－４　施工関係データ　　調査区間番号　２０１

施工年月　昭和 ６３ 年 １０ 月

交通開放（予定）年月　昭和 ６３ 年 １１ 月

施工費用　＿＿３１ 百万円／km・車線

打換え年月　平成 ＿＿ 年 ＿＿ 月

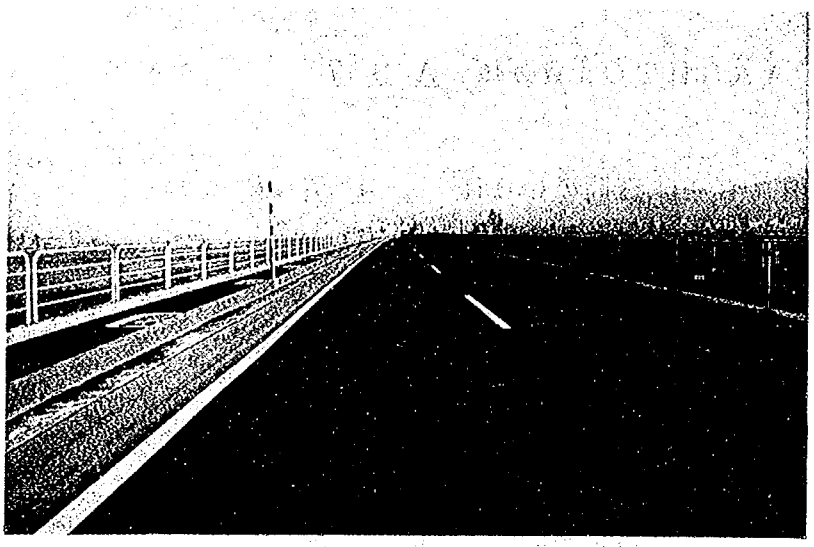
拡幅年月　　平成 ＿＿ 年 ＿＿ 月

当初の車線数　＿ 車線

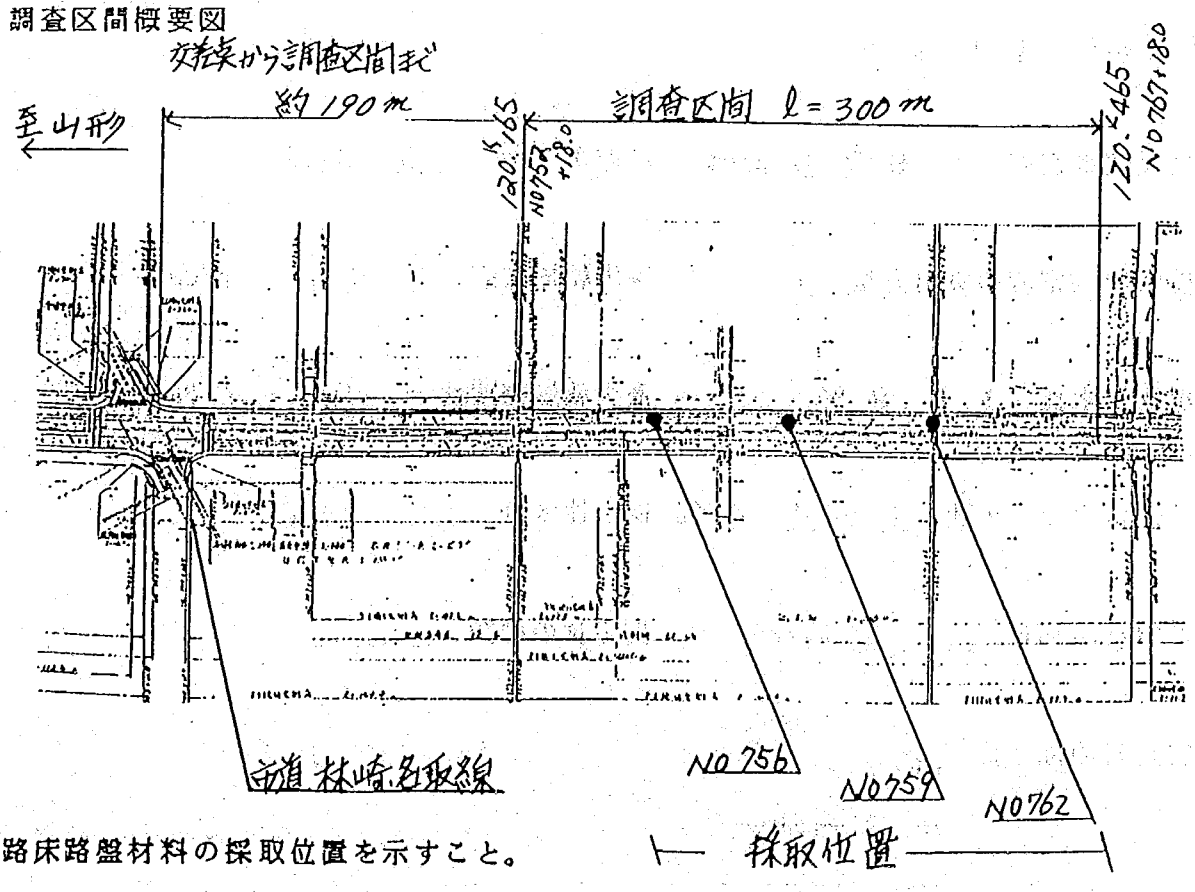
最終的な車線数　＿ 車線

追加車線数　＿ 車線

様式Ａ－１－５　調査区間概要図　　調査区間番号　２０１



調査区間概要図



路床路盤材料の採取位置を示すこと。

様式A－2－1　路床土に関する基礎データ　　調査区間番号　2 0 1

層番号　＿ 1 、＿ ＿ 、＿ ＿　（様式A－1－3参照）

土質分類　＿ G P　　AASHTO土質分類　A 2 7

CBR　平均値　＿ 4 8 .8　区間のCBR　＿ 4 7 .8

S値　1 5 .0 2　　K値　＿ 2 0 .9 kg/cm³

75μmふるい通過量　＿ 1 .2 %

塑性限界　2 9 .6 %　　液性限界　4 1 .5 %

塑性指数　1 1 .9 %

最大乾燥密度　1 .9 7 3 g/cm³　最適含水比　＿ 9 .0 %

最大乾燥密度の算出方法　1　　現場乾燥密度　1 .8 1 ＿ g/cm³

現場含水比　1 1 .2 %　　最大乾燥密度比　＿ 9 1 .7 %

最適含水比との比　1 2 4 .4 %　凍上性区分　1

安定材添加量　＿ ＿ ＿ kg/m³　　安定材の種類　＿ ＿ ＿

安定材の混合比　＿　＿ ＿ ＿
＿　＿ ＿ ＿
＿　＿ ＿ ＿

様式Ａ－２－２　弾性係数の測定（路床土）　　調査区間番号　２０１

層番号　＿１、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試料採取位置 KP＿＿＿ k＿＿＿（KPが未定の場合　No.　＿＿＿＿＋＿＿）

供試体数　＿２　　ＡＡＳＨＴＯ土質分類　Ａ２７

含水比　＿＿９．６％　　乾燥密度　２．０９６ g/cm³

試験の結果

側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
＿０．４１	＿０．５６	１１８１
＿０．２１	＿０．３６	１０１８
＿０．００	＿０．２３	１０１４
＿０．４１	＿０．６９	１１６９
＿０．２１	＿０．５１	＿９２２
＿０．００	＿０．３２	＿９２４
＿０．４１	＿０．９９	１３５２
＿０．２１	＿０．７７	＿９２６
＿０．００	＿０．５８	＿９８２
＿０．４１	＿１．１１	１０１２
＿０．２１	＿０．９１	１０５３
＿０．００	＿０．７２	１０１４
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿

回帰式　　log E = log A + B x log(stress)

A = １１０６．３ 10^3kg/cm²　B = ０．１７０

様式Ａ－３－１　路盤材料の特性値　　調査区間番号　２０１

層番号　＿２、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

最大乾燥密度　２．１０５ g/cm³　最適含水比　＿５．２ %

最大乾燥密度の算出方法　１

現場乾燥密度　２．０４０ g/cm³　現場含水比　＿５．９ %

最大乾燥密度比　＿９６．９ %　最適含水比との比　１１３．５ %

平板載荷試験　＿４２．２ kg/cm³

425μmふるい通過量　２１．６ %　75μmふるい通過量　＿２．７ %

路盤材料の修正ＣＢＲ　＿７６．０

路盤材料の一軸圧縮強度　＿＿．＿ kg/cm²

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

様式A－3－2　弾性係数の測定（路盤）　　調査区間番号　201

層番号　＿2、＿＿、＿＿　（様式A－1－3参照）

供試体数　＿3　含水比　＿＿3.8％　乾燥密度　2.179 g/cm³

試験の結果	側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
	＿1.38	＿1.53	2806
	＿1.38	＿1.73	2855
	＿1.38	＿2.07	2958
	＿1.38	＿2.45	3372
	＿1.38	＿2.79	3666
	＿1.03	＿1.18	2143
	＿1.07	＿1.44	2248
	＿1.07	＿1.79	2444
	＿1.04	＿2.10	2598
	＿1.05	＿2.45	2743
	＿0.69	＿0.84	1771
	＿0.69	＿1.06	1699
	＿0.69	＿1.40	1953
	＿0.69	＿1.76	2090
	＿0.35	＿0.50	1181
	＿0.35	＿0.73	1246
	＿0.35	＿1.07	1359
	＿0.35	＿1.44	1603
	＿0.09	＿0.26	＿911
	＿0.09	＿0.49	＿992
	＿0.09	＿0.65	1000
	＿0.09	＿0.82	1069
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿

回帰式　$\log E = \log A + B \times \log(\text{stress})$

A = ＿1181.7 10^3kg/cm²　B = ＿0.531

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　２０１

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類	1	100	細骨材の種類	1	71
	＿	＿＿＿		2	＿29
	＿	＿＿＿		＿	＿＿＿
	＿	＿＿＿		＿	＿＿＿

粗骨材の岩質　２３　　フィラーの種類　１

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿.＿	2.36mm	＿３９.７
37.5mm	＿＿＿.＿	600μm	＿２２.２
26.5mm	１００.０	300μm	＿１４.６
19mm	＿９８.２	150μm	＿＿６.０
13.2mm	＿６５.１	75μm	＿＿４.５
4.75mm	＿４８.８		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	＿.＿＿ g/cm³	細骨材１（粗砂）	２.６５９ g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	２.８０７ g/cm³	細骨材２（中砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	２.８３２ g/cm³	細骨材３（細砂）	２.６４０ g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	２.８０２ g/cm³	フィラー	２.７００ g/cm³
スクリーニングス	２.７７５ g/cm³	クラッシャラン	＿.＿＿＿ g/cm³

合成密度　２.７５７ g/cm³　有効密度　２.７５７ g/cm³

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　２０１

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類　１　１００
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

細骨材の種類　１　＿６１
２　＿３９
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

粗骨材の岩質　２３　（ｶｺｳ岩）　　フィラーの種類　１

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿.＿	2.36mm	＿２７.４
37.5mm	＿＿＿.＿	600μm	＿１６.５
26.5mm	１００.０	300μm	＿１１.０
19mm	＿９９.０	150μm	＿＿５.６
13.2mm	＿７９.８	75μm	＿＿４.１
4.75mm	＿４５.１		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	＿.＿＿ g/cm³	細骨材１（粗砂）	２.６５９ g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	２.８０７ g/cm³	細骨材２（中砂）	＿.＿＿ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	２.８３２ g/cm³	細骨材３（細砂）	２.６４０ g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	２.８０２ g/cm³	フィラー	２.７００ g/cm³
スクリーニングス	２.７７５ g/cm³	クラッシャラン	＿.＿＿ g/cm³

合成密度　２.７８２ g/cm³　有効密度　２.７８２ g/cm³

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　２０１

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類	1	1００	細骨材の種類	1	1００
	＿	＿＿＿		＿	＿＿＿
	＿	＿＿＿		＿	＿＿＿
	＿	＿＿＿		＿	＿＿＿

粗骨材の岩質　２３　（ｶｺｳ岩）　　フィラーの種類　1

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿.＿	2.36mm	＿５５.２
37.5mm	＿＿＿.＿	600μm	＿４８.３
26.5mm	＿＿＿.＿	300μm	＿２６.７
19mm	１００.０	150μm	＿１３.０
13.2mm	＿９９.７	75μm	＿１０.３
4.75mm	＿７１.７		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	＿.＿＿＿ g/cm³	細骨材１（粗砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	＿.＿＿＿ g/cm³	細骨材２（中砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	２.８３２ g/cm³	細骨材３（細砂）	２.６４０ g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	２.８０２ g/cm³	フィラー	２.７００ g/cm³
スクリーニングス	＿.＿＿＿ g/cm³	クラッシャラン	＿.＿＿＿ g/cm³

合成密度　２.７２６ g/cm³　有効密度　２.７２６ g/cm³

様式Ａ－４－２　アスファルトの性状（原アスファルト）　調査区間番号　２０１

層番号　＿３、＿４、＿５、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

針入度区分　＿６０～＿８０

アスファルトの製造元　日本石油(株)　仙台支店

密度　１．０２２ g/cm³

60℃粘度　＿＿１２８８ poise

135℃粘度　＿３７０ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm または ☒ １００＋

4℃伸度　＿０．０ cm

4℃伸度の伸長速度　＿５ cm/min

25℃針入度　＿６９

4℃針入度　＿１９

軟化点　＿４９ ℃

添加剤　商品名

添加剤の添加量　＿＿＿ %

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　２０１

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿２７７４ poise　　135℃粘度　＿４３９ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０．０ cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５ cm/min

25℃針入度　＿３７　　4℃針入度　＿１８

軟化点　＿５４ ℃

質量変化率　０．０７

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿４６　　4℃針入度　＿２３

60℃粘度　＿＿３０６６ poise　　135℃粘度　＿５８５ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　２０１

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿２７７４ poise　　135℃粘度　＿４３９ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０．０ cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５ cm/min

25℃針入度　＿３７　　4℃針入度　＿１８

軟化点　＿５４ ℃

質量変化率　０．０７

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿５５　　4℃針入度　＿２２

60℃粘度　＿＿２６８８ poise　　135℃粘度　＿５４１ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　２０１

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿２７７４ poise　　135℃粘度　＿４３９ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０．０ cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５　cm/min

25℃針入度　＿３７　　4℃針入度　＿１８

軟化点　＿５４ ℃

質量変化率　０．０７

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿５５　　4℃針入度　＿２７

60℃粘度　＿＿４００４ poise　　135℃粘度　＿６６７ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　２０１

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３１９ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．５８２ g/cm³

アスファルト量　４．０ %

空隙率　１０．２ %

骨材間隙率　１９．２ %

有効アスファルト量　＿４．０ %

突き固め回数　＿＿ 回

マーシャル安定度　＿６２２ kg

フロー値　＿２１ (1/100cm)

ビーム安定度　＿５９．９

ビーム粘着度　＿５３２．７

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　２０１

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．４３０ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．５５７ g/cm³

アスファルト量　５．１ %

空隙率　＿４．４ %

骨材間隙率　１６．４ %

有効アスファルト量　＿５．１ %

突き固め回数　＿＿ 回

マーシャル安定度　１１０６ kg

フロー値　＿３４ (1/100cm)

ビーム安定度　＿５６．６

ビーム粘着度　＿７０３．９

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　２０１

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３５０ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．４５２ g/cm³

アスファルト量　６．７ %

空隙率　＿３．８ %

骨材間隙率　１９．１ %

有効アスファルト量　＿６．７ %

突き固め回数　＿＿回

マーシャル安定度　＿８５２ kg

フロー値　＿３５ (1/100cm)

ビーム安定度　＿３５．１

ビーム粘着度　＿４０２．５

様式Ａ－４－５　アスファルト混合物の性状（配合試験２）調査区間番号　２　０　１

層番号　＿３、＿４、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の剥離試験結果（剥離率）　＿４　４

剥離防止材の種類　商品名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

剥離防止材の添加量　＿＿．＿％

アスファルトプラントの形式　１

ホイールトラッキング試験結果　＿＿＿＿回/mm

スパイクラベリング試験結果　＿＿＿＿mm²

様式Ａ－４－５　アスファルト混合物の性状（配合試験２）調査区間番号　２　０　１

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の剝離試験結果（剝離率）　＿４　４

剝離防止材の種類　商品名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

剝離防止材の添加量　＿＿．＿％

アスファルトプラントの形式　１

ホイールトラッキング試験結果　＿１　０　９　回/mm

スパイクラベリング試験結果　　１　１　５　２　mm²

様式A－4－6　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　2 0 1

層番号　＿3、＿＿、＿＿　（様式A－1－3参照）

かさ密度　2.326 g/cm³

アスファルト量　4.0 %

空隙率　＿9.0 %

骨材間隙率　18.0 %

マーシャル安定度　＿657 kg

フロー値　＿25 (1/100cm)

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　２０１

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．４４２ g/cm³

アスファルト量　５．１ %

空隙率　＿４．０ %

骨材間隙率　１６．１ %

マーシャル安定度　１１１７ kg

フロー値　＿３５ (1/100cm)

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　２０１

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３５２ g/cm³

アスファルト量　６．７ %

空隙率　＿３．７ %

骨材間隙率　１９．０ %

マーシャル安定度　＿８７６ kg

フロー値　＿３３ (1/100cm)

様式Ａ－４－７　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　２０１

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３７９ g/cm³

最大比重　２．５５０ g/cm³

空隙率　＿６．７ %

アスファルト量　４．２ %

骨材間隙率　１６．５ %

様式Ａ－４－７　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　２０１

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３８０ g/cm³

最大比重　２．４７１ g/cm³

空隙率　＿３．７ %

アスファルト量　５．５ %

骨材間隙率　１６．３ %

様式Ａ－４－７　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　２０１

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３５７ g/cm³

最大比重　２．４３４ g/cm³

空隙率　＿３．２ ％

アスファルト量　７．３ ％

骨材間隙率　１９．９ ％

様式A－4－8　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　201

層番号　＿3、＿＿、＿＿　（様式A－1－3参照）

試験方法　1

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿5.0	58824	2.385
＿＿＿	＿＿5.0	46400	2.367
＿＿＿	＿＿5.0	47635	2.384
＿＿＿	＿25.0	16840	2.385
＿＿＿	＿25.0	10602	2.367
＿＿＿	＿25.0	13729	2.384
＿＿＿	＿40.0	＿3982	2.385
＿＿＿	＿40.0	＿4069	2.367
＿＿＿	＿40.0	＿4150	2.384
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　0.4　秒

載荷周波数　1.0　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　２０１

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	５２１７４	２.３６９
＿＿＿	＿＿５.０	６１１２４	２.３８５
＿＿＿	＿＿５.０	４１１６８	２.３８６
＿＿＿	＿２５.０	１５９９７	２.３６９
＿＿＿	＿２５.０	１４４２７	２.３８５
＿＿＿	＿２５.０	２２３１３	２.３８６
＿＿＿	＿４０.０	＿４３９５	２.３６９
＿＿＿	＿４０.０	＿４４０６	２.３８５
＿＿＿	＿４０.０	＿５０１０	２.３８６
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　２０１

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	５８１２７	２.３５２
＿＿＿	＿＿５.０	６８８１８	２.３６０
＿＿＿	＿＿５.０	６０２２２	２.３６０
＿＿＿	＿２５.０	１８５０５	２.３５２
＿＿＿	＿２５.０	１５１４１	２.３６０
＿＿＿	＿２５.０	１８４９１	２.３６０
＿＿＿	＿４０.０	＿４１８１	２.３５２
＿＿＿	＿４０.０	＿５１３７	２.３６０
＿＿＿	＿４０.０	＿４８９７	２.３６０
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　２０１

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿３２.６
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２９.４
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿３１.４
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿７.６
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿７.６
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿７.０
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿１.７
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿１.８
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿１.８
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　２０１

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２８.２
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２９.７
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２６.９
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿７.４
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿７.０
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿８.３
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿１.６
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.０
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.０
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　２０１

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿３６.２
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿３３.７
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿３２.３
＿＿＿	＿２５.０	＿＿２８.２
＿＿＿	＿２５.０	＿＿２９.７
＿＿＿	＿２５.０	＿＿２６.９
＿＿＿	＿４０.０	＿＿３２.６
＿＿＿	＿４０.０	＿＿２９.４
＿＿＿	＿４０.０	＿＿３１.４
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

S H R P
新 基 準 調 査

初 期 調 査 デ ー タ

4号 柴田バイパス

様式Ａ－１－１　一般データ　　調査区間番号　２０２

地建番号　２

報告年月　平成　２　年　２　月

担当部局　東北地方建設局　東北技術事務所　工務課調査係　内線　３２２

調査区間の地名　宮城県柴田郡柴田町船迫

路線番号　　４

調査種別　

調査方向　□上り　☒下り

距離標　３２５ｋ２００～３２５ｋ５００

（ＫＰ未定の場合No.＿＿＿＿＋＿＿～＿＿＿＿＋＿＿）

様式Ａ－１－２　舗装構造データ　　調査区間番号　２０２

舗装の種別　１

調査方向の車線数　２

車線幅　３５０　cm

調査対象車線　第　１　車線

路肩の幅　１００　cm

路肩の路面の種類　３

路肩の路盤の種類　２３

路肩の表層・基層の厚さ　２５　cm

路肩の路盤の厚さ　＿３０　cm

地下排水工の種類　２，＿

縦断方向の配水管の内径　＿２００　mm

排水工の位置　１

配水管の間隔　＿＿＿＿　cm

様式A－1－3　舗装構成データ　　調査区間番号　202

層の数　6

番号	層の名称	層の厚さ（mm）				材料
		最　大	最　小	平　均	標準偏差	
1	7					52
2	7	950	850	910		64
3	6	320	310	313		23
4	4	108	98	103		31
5	4	102	97	99		2
6	3	56	50	52		1
7						
8						
9						
10						
11						
12						

舗装の等値換算厚 T_A　　30.5 cm

舗装厚H　　55.0 cm

高支持力層までの深さ　　　m

盛土厚さ　　　cm

様式Ａ－１－４　施工関係データ　　調査区間番号　２０２

施工年月　平成　１　年　１２　月

交通開放（予定）年月　平成　１　年　１２　月

施工費用　３９０　百万円／km・車線

打換え年月　平成　　年　　月

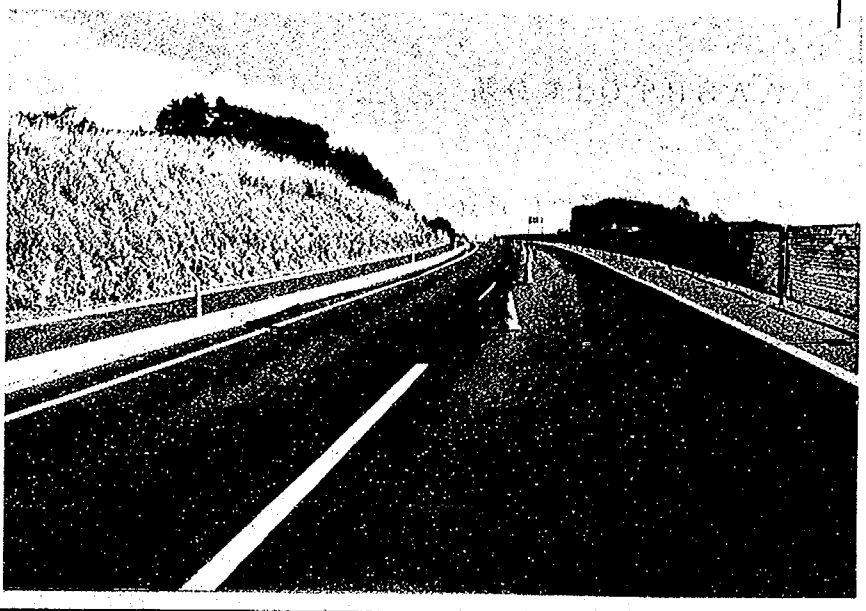
拡幅年月　　平成　　年　　月

当初の車線数　　車線

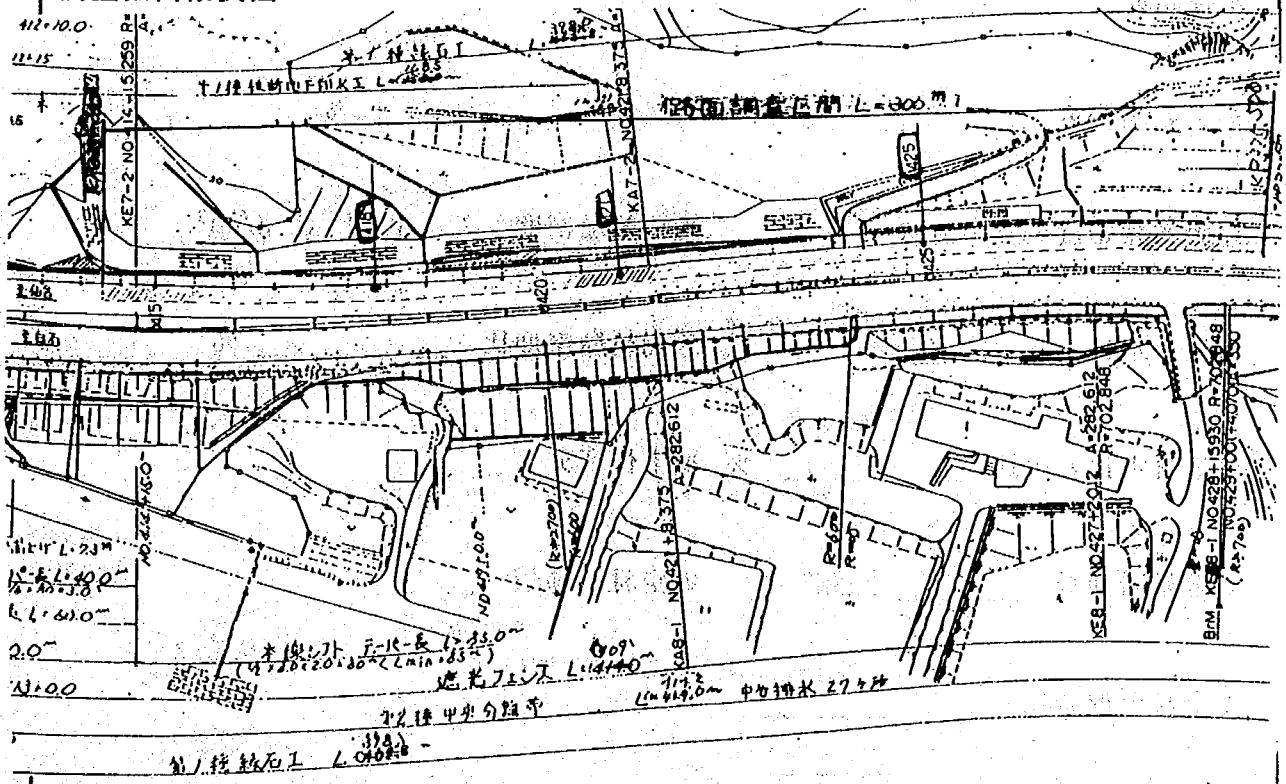
最終的な車線数　　車線

追加車線数　　車線

様式Ａ－１－５　調査区間概要図　　調査区間番号　２０２



調査区間概要図



路床路盤材料の採取位置を示すこと。　425

様式Ａ－２－１　路床土に関する基礎データ　　調査区間番号　２０２

層番号　＿１、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

土質分類　＿ＳＣ　　ＡＡＳＨＴＯ土質分類　＿＿＿

ＣＢＲ　平均値　＿＿３．２　区間のＣＢＲ　＿＿２．３

Ｓ値　＿０．２５　Ｋ値　＿＿＿．＿ kg/cm³

75μmふるい通過量　３７．１ %

塑性限界　＿＿．＿ %　液性限界　＿＿．＿ %

塑性指数　＿＿．＿ %

最大乾燥密度　＿．＿＿＿ g/cm³　最適含水比　＿＿．＿ %

最大乾燥密度の算出方法　＿　現場乾燥密度　１．１４８ g/cm³

現場含水比　５０．９ %　最大乾燥密度比　＿＿＿．＿ %

最適含水比との比　＿＿＿．＿ %　凍上性区分　＿

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

様式A－2－1　路床土に関する基礎データ　　調査区間番号　2 0 2

層番号　＿2、＿＿、＿＿　（様式A－1－3参照）

土質分類　＿GP　　AASHTO土質分類　A 1 a

CBR　平均値　＿62.8　区間のCBR　＿61.3

S値　＿＿.＿＿　K値　＿27.8 kg/cm³

75μmふるい通過量　＿2.1 %

塑性限界　NP.＿ %　液性限界　NP.＿ %

塑性指数　NP.＿ %

最大乾燥密度　2.041 g/cm³　最適含水比　＿7.7 %

最大乾燥密度の算出方法　1　現場乾燥密度　1.939 g/cm³

現場含水比　＿4.8 %　最大乾燥密度比　＿95.0 %

最適含水比との比　＿62.3 %　凍上性区分　1

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

様式Ａ－２－２　弾性係数の測定（路床土）　　調査区間番号　２０２

層番号　＿１、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試料採取位置 KP＿＿＿ k＿＿＿（KPが未定の場合　No.　＿４２５＋＿＿）

供試体数　＿２　　ＡＡＳＨＴＯ土質分類　＿＿＿

含水比　＿２８．５％　　乾燥密度　１．４７０ g/cm³

試験の結果

側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
０．４３	０．５３	７４０
０．２３	０．３２	５８２
０．１１	０．２１	５１９
０．４１	０．５９	５２３
０．２３	０．４１	４８０
０．１１	０．２８	４４４
０．４３	０．７２	５１６
０．２３	０．５４	４５４
０．１２	０．４２	４２９
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿

回帰式　　log E = log A + B x log(stress)

A = ＿５１９．２ 10^3kg/cm²　B = ０．１４０

様式Ａ－２－２　弾性係数の測定（路床土）　　調査区間番号　２０２

層番号　＿２、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試料採取位置 KP＿＿＿ k＿＿＿（KPが未定の場合　No.　＿＿＿＿＋＿＿）

供試体数　＿２　　ＡＡＳＨＴＯ土質分類　＿＿＿

含水比　＿＿３．５％　　乾燥密度　２．０６０ g/cm³

試験の結果

側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
０．４３	０．５２	３０００
０．２２	０．３０	２５７１
０．１１	０．２０	１８８９
０．４３	０．５９	２７６２
０．２３	０．４０	２２６８
０．１１	０．２７	１７４１
０．４３	０．７１	２７３９
０．２３	０．５２	２２３１
０．１０	０．３９	１６１９
０．４２	０．９６	２２９８
０．２１	０．７７	１７９１
０．１０	０．６４	１５４６
０．４２	１．１１	２０７９
０．２３	０．９１	１７５２
０．１０	０．７９	１５３３
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿

回帰式　　log E = log A + B x log(stress)

A = ２０４６．７ 10^3kg/cm²　B = ０．１９２

様式Ａ－３－１　路盤材料の特性値　　調査区間番号　２０２

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

最大乾燥密度　２．１６０ g/cm³　最適含水比　＿６．１ %

最大乾燥密度の算出方法　１

現場乾燥密度　２．１３８ g/cm³　現場含水比　＿７．０ %

最大乾燥密度比　＿９９．０ %　最適含水比との比　１１４．８ %

平板載荷試験　＿３３．８ kg/cm³

425μmふるい通過量　＿７．５ %　75μmふるい通過量　＿１．６ %

路盤材料の修正ＣＢＲ　＿７５．０

路盤材料の一軸圧縮強度　＿＿．＿ kg/cm²

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

様式A－3－2　弾性係数の測定（路盤）　　調査区間番号　2 0 2

層番号　＿3．＿＿、＿＿　（様式A－1－3参照）

供試体数　＿2　含水比　＿＿4.8％　乾燥密度　1.943 g/cm³

試験の結果	側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
	1.39	1.53	4667
	1.36	2.05	3103
	1.35	2.75	2835
	1.04	1.19	4286
	1.02	1.71	2673
	1.02	2.39	2552
	0.69	1.07	2511
	0.69	1.75	1806
	0.36	0.73	1759
	0.37	1.54	1333
	0.10	0.47	1107
	0.11	0.79	1086
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿

回帰式　$\log E = \log A + B \times \log(\text{stress})$

$A = 1295.2\ 10^3 kg/cm^2$　$B = 0.551$

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　２０２

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類　１　１００
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

細骨材の種類　１　＿７９
２　＿２１
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

粗骨材の岩質　２３　（安山岩）　　フィラーの種類　１

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿．＿	2.36mm	＿３２．８
37.5mm	＿＿＿．＿	600μm	＿２０．９
26.5mm	１００．０	300μm	＿１２．６
19mm	＿９８．２	150μm	＿＿５．２
13.2mm	＿７３．３	75μm	＿＿３．６
4.75mm	＿４３．７		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	＿．＿＿＿ g/cm³	細骨材１（粗砂）	２．４９５ g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	２．７００ g/cm³	細骨材２（中砂）	＿．＿＿＿ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	２．６６２ g/cm³	細骨材３（細砂）	２．４８４ g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	２．６７６ g/cm³	フィラー	２．６９８ g/cm³
スクリーニングス	２．６５６ g/cm³	クラッシャラン	＿．＿＿＿ g/cm³

合成密度　２．６６８ g/cm³　有効密度　２．７７４ g/cm³

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　２０２

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類　１　１００　　細骨材の種類　１　＿＿７
＿　＿＿＿　　２　＿＿２
＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿
＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

粗骨材の岩質　２３　（安山岩）　　フィラーの種類　１

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿．＿	2.36mm	＿３０．６
37.5mm	＿＿＿．＿	600μm	＿１８．５
26.5mm	１００．０	300μm	＿１１．６
19mm	＿９８．９	150μm	＿＿５．７
13.2mm	＿８４．１	75μm	＿＿４．３
4.75mm	＿４４．６		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	＿．＿＿＿ g/cm³	細骨材１（粗砂）	２．４９５ g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	２．７００ g/cm³	細骨材２（中砂）	＿．＿＿＿ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	２．６６２ g/cm³	細骨材３（細砂）	２．４８４ g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	２．６７６ g/cm³	フィラー	２．６９８ g/cm³
スクリーニングス	２．６５６ g/cm³	クラッシャラン	＿．＿＿＿ g/cm³

合成密度　２．６８６ g/cm³　有効密度　２．７８５ g/cm³

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　２０２

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類　１　１００　　細骨材の種類　１　１００

＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

粗骨材の岩質　２３　（安山岩）　　フィラーの種類　１

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿.＿	2.36mm	＿５０.６
37.5mm	＿＿＿.＿	600μm	＿４１.８
26.5mm	１００.０	300μm	＿２８.３
19mm	＿９８.２	150μm	＿１４.１
13.2mm	＿７５.１	75μm	＿１０.５
4.75mm	＿６０.０		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	＿.＿＿＿ g/cm³	細骨材１（粗砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	２.７００ g/cm³	細骨材２（中砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	２.６６２ g/cm³	細骨材３（細砂）	２.４８４ g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	２.６７６ g/cm³	フィラー	２.６９８ g/cm³
スクリーニングス	＿.＿＿＿ g/cm³	クラッシャラン	＿.＿＿＿ g/cm³

合成密度　２.６２２ g/cm³　有効密度　２.７３３ g/cm³

様式Ａ－４－２　アスファルトの性状（原アスファルト）　調査区間番号　２０２

層番号　＿４、＿５、＿６、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

針入度区分　＿６０～＿８０

アスファルトの製造元　三菱石油(株)　東北石油

密度　１．０４１ g/cm³

60℃粘度　＿＿１９２０ poise

135℃粘度　＿４８０ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０．５　cm

4℃伸度の伸長速度　＿５　cm/min

25℃針入度　＿６６

4℃針入度　＿２６

軟化点　＿５１℃

添加剤　商品名

添加剤の添加量　＿＿＿％

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　２０２

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿３９８２ poise　　135℃粘度　＿５４３ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿１．０ cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５ cm/min

25℃針入度　＿５０　　4℃針入度　＿２２

軟化点　＿４４ ℃

質量変化率　０．０７

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿３７　　4℃針入度　＿２２

60℃粘度　＿＿５２７０ poise　　135℃粘度　＿６４１ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　２０２

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿４４５７ poise　　135℃粘度　＿５４１ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm または ☒ １００＋

4℃伸度　＿１．０ cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５ cm/min

25℃針入度　＿４６　　4℃針入度　＿２２

軟化点　＿５４ ℃

質量変化率　０．０７

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿３９　　4℃針入度　＿２４

60℃粘度　＿＿４２７０ poise　　135℃粘度　＿５７８ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm または ☒ １００＋

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　２０２

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿４１６７ poise　　135℃粘度　＿５３８ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿１．０ cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５　cm/min

25℃針入度　＿４１　　4℃針入度　＿２２

軟化点　＿５４ ℃

質量変化率　０．０７

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿４１　　4℃針入度　＿２２

60℃粘度　＿＿３１１０ poise　　135℃粘度　＿４９５ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　２０２

層番号　＿４、＿＿、＋＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．４１０ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．６０１ g/cm³

アスファルト量　４．０ %

空隙率　＿７．３ %

骨材間隙率　１６．６ %

有効アスファルト量　＿４．０ %

突き固め回数　＿＿ 回

マーシャル安定度　＿６７０ kg

フロー値　＿２３ (1/100cm)

ビーム安定度　＿５８．６

ビーム粘着度　＿２７４．４

様式A－4－4　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　２０２

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式A－１－３参照）

かさ密度　２．４５７ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．５７０ g/cm³

アスファルト量　５．０ %

空隙率　＿４．４ %

骨材間隙率　１６．２ %

有効アスファルト量　＿５．０ %

突き固め回数　＿＿ 回

マーシャル安定度　＿９７７ kg

フロー値　＿２９ (1/100cm)

ビーム安定度　＿５８．０

ビーム粘着度　＿２１８．０

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　２０２

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３８７ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．４９４ g/cm³

アスファルト量　５．９ %

空隙率　＿４．３ %

骨材間隙率　＿１７．８ %

有効アスファルト量　＿５．９ %

突き固め回数　＿＿ 回

マーシャル安定度　＿９６０ kg

フロー値　＿３１ (1/100cm)

ビーム安定度　＿３３．０

ビーム粘着度　＿２９２．３

様式Ａ－４－５　アスファルト混合物の性状（配合試験２）調査区間番号　２０２

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の剝離試験結果（剝離率）　＿２３

剝離防止材の種類　商品名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

剝離防止材の添加量　＿＿．＿％

アスファルトプラントの形式　１

ホイールトラッキング試験結果　＿＿＿＿回/mm

スパイクラベリング試験結果　＿＿＿＿mm²

様式Ａ－４－５　アスファルト混合物の性状（配合試験２）調査区間番号　２　０　２

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の剝離試験結果（剝離率）　＿２５

剝離防止材の種類　商品名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

剝離防止材の添加量　＿＿．＿％

アスファルトプラントの形式　１

ホイールトラッキング試験結果　＿＿＿＿回/mm

スパイクラベリング試験結果　＿＿＿＿mm²

様式A－4－5　アスファルト混合物の性状（配合試験2）調査区間番号　2 0 2

層番号　＿ 6 、＿ ＿ 、＿ ＿　（様式A－1－3参照）

粗骨材の剥離試験結果（剥離率）　＿ 2 7

剥離防止材の種類　商品名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

剥離防止材の添加量　＿ ＿ ・＿ %

アスファルトプラントの形式　1

ホイールトラッキング試験結果　＿ 4 3 0 回/mm

スパイクラベリング試験結果　1 0 0 8 mm²

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　２０２

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．４０１ g/cm³

アスファルト量　４．０ %

空隙率　＿７．７ %

骨材間隙率　１６．９ %

マーシャル安定度　＿６６１ kg

フロー値　＿２２ (1/100cm)

様式A－4－6　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　2 0 2

層番号　＿5、＿＿、＿＿　（様式A－1－3参照）

かさ密度　2.452 g/cm³

アスファルト量　5.0 %

空隙率　＿4.6 %

骨材間隙率　16.4 %

マーシャル安定度　＿930 kg

フロー値　＿27 (1/100cm)

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　２０２

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３８２ g/cm³

アスファルト量　５．９ %

空隙率　＿４．１ %

骨材間隙率　１７．６ %

マーシャル安定度　＿９４４ kg

フロー値　＿３４ (1/100cm)

様式A－4－7　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　2 0 2

層番号　＿ 4 、＿ ＿ 、＿ ＿　（様式A－1－3参照）

かさ密度　2 . 4 4 1 g/cm³

最大比重　2 . 6 0 7 g/cm³

空隙率　＿ 6 . 4 %

アスファルト量　4 . 0 %

骨材間隙率　1 5 . 8 %

様式Ａ－４－７　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　２０２

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．４５２ g/cm³

最大比重　２．５８４ g/cm³

空隙率　＿５．１ ％

アスファルト量　５．１ ％

骨材間隙率　１７．０ ％

様式A－4－7　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　2 0 2

層番号　＿ 6 、＿ ＿ 、＿ ＿　（様式A－1－3参照）

かさ密度　2 .4 2 1 g/cm³

最大比重　2 .5 2 0 g/cm³

空隙率　＿ 3 .9 %

アスファルト量　6 .0 %

骨材間隙率　1 7 .9 %

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　２０２

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	６１８００	２.４５９
＿＿＿	＿＿５.０	５３３５０	２.４４４
＿＿＿	＿＿５.０	７０７５０	２.４１９
＿＿＿	＿２５.０	１７８５０	２.４５９
＿＿＿	＿２５.０	２１８００	２.４４４
＿＿＿	＿２５.０	２１０００	２.４１９
＿＿＿	＿４０.０	＿５３６５	２.４５９
＿＿＿	＿４０.０	＿５２６５	２.４４４
＿＿＿	＿４０.０	＿４８４０	２.４１９
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　２０２

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	７１４５０	２.４１８
＿＿＿	＿＿５.０	６５８００	２.４８４
＿＿＿	＿＿５.０	６５４００	２.４５３
＿＿＿	＿２５.０	１９６００	２.４１８
＿＿＿	＿２５.０	１７６００	２.４８４
＿＿＿	＿２５.０	１８４５０	２.４５３
＿＿＿	＿４０.０	＿４３５５	２.４１８
＿＿＿	＿４０.０	＿５７５０	２.４８４
＿＿＿	＿４０.０	＿５０８０	２.４５３
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　２０２

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	５３６５０	２.４０６
＿＿＿	＿＿５.０	５１１５０	２.４２２
＿＿＿	＿＿５.０	６３８５０	２.４３６
＿＿＿	＿２５.０	１７１５０	２.４０６
＿＿＿	＿２５.０	１７９００	２.４２２
＿＿＿	＿２５.０	２３０５０	２.４３６
＿＿＿	＿４０.０	＿４４７０	２.４０６
＿＿＿	＿４０.０	＿５９４５	２.４２２
＿＿＿	＿４０.０	＿４７１０	２.４３６
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式A－4－9　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　2 0 2

層番号　＿4、＿＿、＿＿　（様式A－1－3参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿5.0	＿＿33.0
＿＿＿	＿＿5.0	＿＿30.6
＿＿＿	＿＿5.0	＿＿28.1
＿＿＿	＿25.0	＿＿10.0
＿＿＿	＿25.0	＿＿＿8.3
＿＿＿	＿25.0	＿＿＿9.0
＿＿＿	＿40.0	＿＿＿2.8
＿＿＿	＿40.0	＿＿＿2.5
＿＿＿	＿40.0	＿＿＿2.8
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿50.0 mm/min

試験方法　1

様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　２０２

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿３３.８
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２８.６
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２５.７
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿７.９
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿８.１
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿８.５
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.９
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.４
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.３
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　２０２

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度 kg/cm²
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿３３.９
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿３６.１
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２８.９
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿９.５
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿８.１
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿８.３
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.７
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.８
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.４
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

S H R P
新 基 準 調 査

初 期 調 査 デ ー タ

108号 涌谷バイパス

様式Ａ－１－１　一般データ　　調査区間番号　２０３

地建番号　２

報告年月　平成　２　年　１２　月

担当部局　東北地方建設局　東北技術事務所　工務課　調査係　内線　３２２

調査区間の地名　宮城県遠田郡涌谷町字田町裏

路線番号　１０８

調査種別　１

調査方向　□上り　☒下り

距離標　１９ｋ８３７～２０ｋ１３７

（ＫＰ未定の場合No.＿＿＿＿＋＿＿～＿＿＿＿＋＿＿）

様式Ａ－１－２　舗装構造データ　　調査区間番号　２０３

舗装の種別　＿

調査方向の車線数　１

車線幅　３５０　cm

調査対象車線　第　１　車線

路肩の幅　１００　cm

路肩の路面の種類　３

路肩の路盤の種類　２３、２５

路肩の表層・基層の厚さ　１８　cm

路肩の路盤の厚さ　＿３５　cm

地下排水工の種類　１，＿

縦断方向の配水管の内径　＿＿＿＿　mm

排水工の位置　＿

配水管の間隔　＿＿＿＿　cm

様式A－1－3　舗装構成データ　　調査区間番号　203

層の数　6

番号	層の名称	層の厚さ（mm）				材料
		最　大	最　小	平　均	標準偏差	
1	7	――	――	――	――	53
2	6	220	200	206	――	23
3	5	165	160	162	――	25
4	4	83	80	81	――	31
5	4	65	61	62	――	2
6	3	55	54	54	――	1
7	――	――	――	――	――	――
8	――	――	――	――	――	――
9	――	――	――	――	――	――
10	――	――	――	――	――	――
11	――	――	――	――	――	――
12	――	――	――	――	――	――

舗装の等値換算厚 T_A　　26.7 cm

舗装厚H　　53.0 cm

高支持力層までの深さ　　― m

盛土厚さ　　150 cm

様式Ａ－１－４　施工関係データ　　調査区間番号　２０３

施工年月　平成　２　年　１１　月

交通開放（予定）年月　平成　３　年　３　月

施工費用　　７１　百万円／km・車線

打換え年月　平成　　年　　月

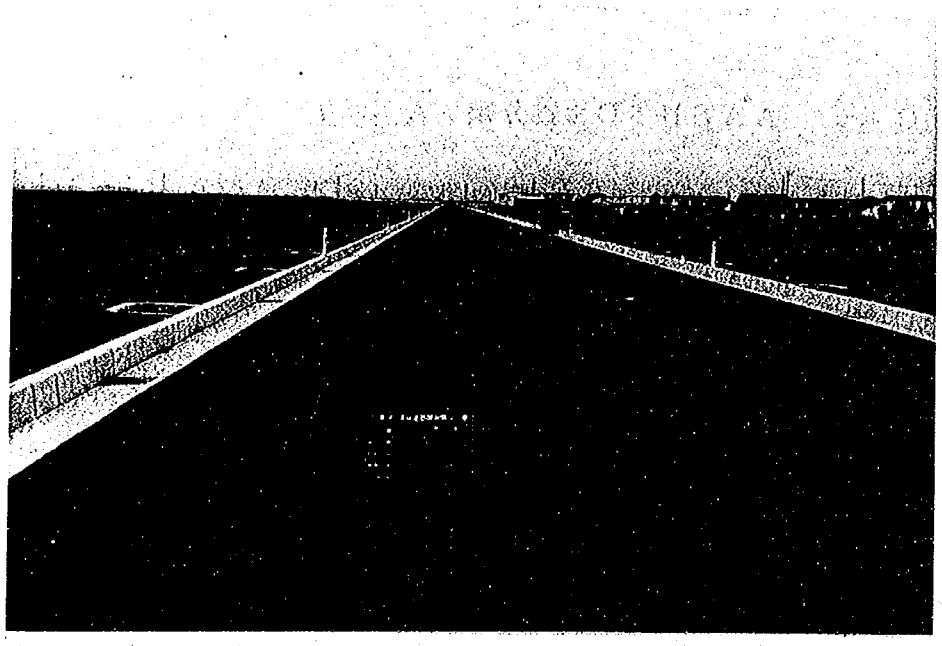
拡幅年月　　平成　　年　　月

当初の車線数　　車線

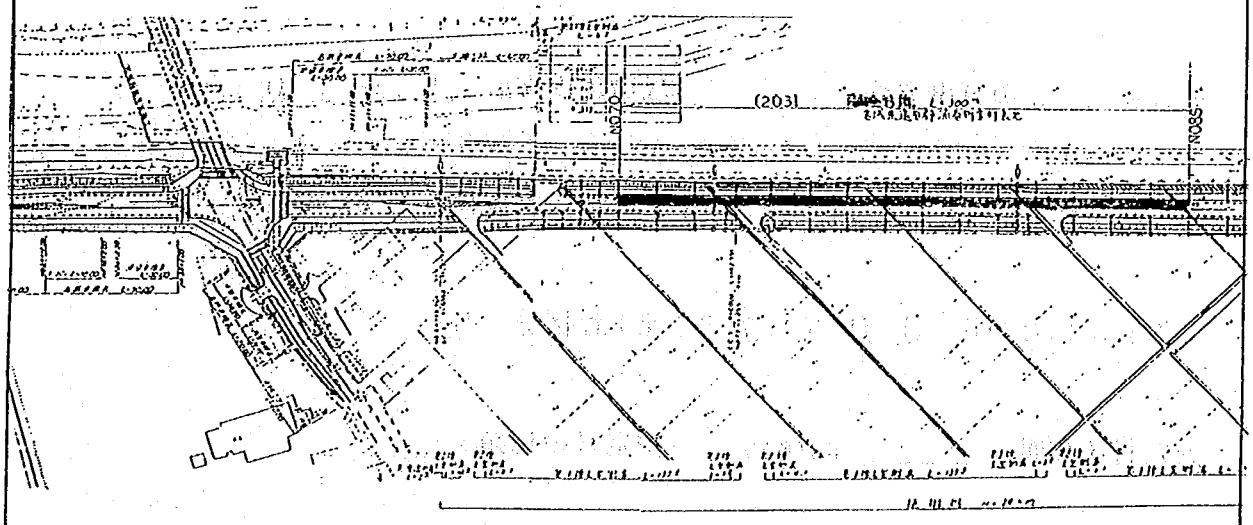
最終的な車線数　　車線

追加車線数　　車線

様式A－1－5　調査区間概要図　　調査区間番号　２０３



調査区間概要図



路床路盤材料の採取位置を示すこと。

様式Ａ－２－１　路床土に関する基礎データ　　調査区間番号　２０３

層番号　＿１、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

土質分類　＿ＳＣ　　ＡＡＳＨＴＯ土質分類　Ａ２７

ＣＢＲ　平均値　＿１７．８　区間のＣＢＲ　＿＿＿．＿

Ｓ値　＿４．８５　Ｋ値　＿１０．５ kg/cm³

75μmふるい通過量　３５．６ %

塑性限界　２４．６ %　液性限界　４４．５ %

塑性指数　１９．９ %

最大乾燥密度　１．６４０ g/cm³　最適含水比　１５．５ %

最大乾燥密度の算出方法　１　現場乾燥密度　１．５１０ g/cm³

現場含水比　１６．７ %　最大乾燥密度比　＿９２．１ %

最適含水比との比　１０７．７ %　凍上性区分　５

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

様式Ａ－２－２　弾性係数の測定（路床土）　　調査区間番号　２０３

層番号　＿１、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試料採取位置 KP＿＿＿ k＿＿＿　（KPが未定の場合　No.　＿＿＿＿＋＿＿）

供試体数　＿２　　ＡＡＳＨＴＯ土質分類　＿＿＿

含水比　＿１１．６％　　乾燥密度　１．８６４ g/cm³

試験の結果

側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
０．４１	０．５５	１６１７
０．２１	０．３５	１３００
０．０１	０．１５	７４０
０．４０	０．６８	１２１９
０．２１	０．４９	１２２４
０．００	０．２７	８６８
０．４１	０．９６	１２４５
０．２１	０．７６	１０６６
０．０１	０．５５	８５９
０．４１	１．１０	１２８４
０．２１	０．９０	１１８５
０．００	０．６８	９５４
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿

回帰式　　$\log E = \log A + B \times \log(\text{stress})$

A = １１４４．４ 10^3kg/cm²　　B = ０．２３２

様式Ａ－３－１　路盤材料の特性値　　調査区間番号　２０３

層番号　＿２、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

最大乾燥密度　２．１７０ g/cm³　最適含水比　＿３．４ %

最大乾燥密度の算出方法　１

現場乾燥密度　２．１０４ g/cm³　現場含水比　＿３．０ %

最大乾燥密度比　＿９７．０ %　最適含水比との比　＿８８．２ %

平板載荷試験　＿１３．４ kg/cm³

425μmふるい通過量　＿７．１ %　75μmふるい通過量　＿１．４ %

路盤材料の修正ＣＢＲ　１２３．９

路盤材料の一軸圧縮強度　＿＿．＿ kg/cm²

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

様式Ａ－３－１　路盤材料の特性値　　調査区間番号　２０３

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

最大乾燥密度　２．０４９ g/cm³　最適含水比　＿７．５ %

最大乾燥密度の算出方法　１

現場乾燥密度　１．９９９ g/cm³　現場含水比　＿７．２ %

最大乾燥密度比　＿９７．６ %　最適含水比との比　＿９６．０ %

平板載荷試験　＿２１．０ kg/cm³

425μmふるい通過量　１１．２ %　75μmふるい通過量　＿２．２ %

路盤材料の修正ＣＢＲ　１００．０

路盤材料の一軸圧縮強度　＿＿．＿ kg/cm²

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿
　　＿　＿＿＿
　　＿　＿＿＿

様式A－3－2　弾性係数の測定（路盤）　　調査区間番号　2 0 3

層番号　＿ 2 、＿ ＿ 、＿ ＿　（様式A－1－3参照）

供試体数　＿ 2　含水比　＿ ＿ ＿ ．＿ %　乾燥密度　＿ ．＿ ＿ ＿ g/cm³

試験の結果	側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
	＿ ＿ ．＿ ＿	＿ ＿ ．＿ ＿	＿ ＿ ＿ ＿
	＿ ＿ ．＿ ＿	＿ ＿ ．＿ ＿	＿ ＿ ＿ ＿
	＿ ＿ ．＿ ＿	＿ ＿ ．＿ ＿	＿ ＿ ＿ ＿
	＿ ＿ ．＿ ＿	＿ ＿ ．＿ ＿	＿ ＿ ＿ ＿
	＿ ＿ ．＿ ＿	＿ ＿ ．＿ ＿	＿ ＿ ＿ ＿
	＿ ＿ ．＿ ＿	＿ ＿ ．＿ ＿	＿ ＿ ＿ ＿
	＿ ＿ ．＿ ＿	＿ ＿ ．＿ ＿	＿ ＿ ＿ ＿
	＿ ＿ ．＿ ＿	＿ ＿ ．＿ ＿	＿ ＿ ＿ ＿
	＿ ＿ ．＿ ＿	＿ ＿ ．＿ ＿	＿ ＿ ＿ ＿
	＿ ＿ ．＿ ＿	＿ ＿ ．＿ ＿	＿ ＿ ＿ ＿
	＿ ＿ ．＿ ＿	＿ ＿ ．＿ ＿	＿ ＿ ＿ ＿
	＿ ＿ ．＿ ＿	＿ ＿ ．＿ ＿	＿ ＿ ＿ ＿
	＿ ＿ ．＿ ＿	＿ ＿ ．＿ ＿	＿ ＿ ＿ ＿
	＿ ＿ ．＿ ＿	＿ ＿ ．＿ ＿	＿ ＿ ＿ ＿
	＿ ＿ ．＿ ＿	＿ ＿ ．＿ ＿	＿ ＿ ＿ ＿
	＿ ＿ ．＿ ＿	＿ ＿ ．＿ ＿	＿ ＿ ＿ ＿
	＿ ＿ ．＿ ＿	＿ ＿ ．＿ ＿	＿ ＿ ＿ ＿
	＿ ＿ ．＿ ＿	＿ ＿ ．＿ ＿	＿ ＿ ＿ ＿
	＿ ＿ ．＿ ＿	＿ ＿ ．＿ ＿	＿ ＿ ＿ ＿
	＿ ＿ ．＿ ＿	＿ ＿ ．＿ ＿	＿ ＿ ＿ ＿
	＿ ＿ ．＿ ＿	＿ ＿ ．＿ ＿	＿ ＿ ＿ ＿

回帰式　　$\log E = \log A + B \times \log(\text{stress})$

$A =$ ＿ ＿ ＿ ＿ ．＿ $10^3 kg/cm^2$　$B =$ ＿ ．＿ ＿ ＿

様式Ａ－３－２　弾性係数の測定（路盤）　　調査区間番号　２０３

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

供試体数　＿２　含水比　＿＿６．０％　乾燥密度　１．９３９ g/cm³

試験の結果	側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
	＿１．３８	＿１．５３	＿＿＿＿
	＿１．３８	＿１．７４	＿＿＿＿
	＿１．３８	＿２．０７	＿＿＿＿
	＿１．３８	＿２．４２	＿＿＿＿
	＿１．３７	＿２．７５	＿＿＿＿
	＿１．０４	＿１．１７	＿＿＿＿
	＿１．０４	＿１．４０	＿＿＿＿
	＿１．０５	＿１．７３	＿＿＿＿
	＿１．０４	＿２．０８	＿＿＿＿
	＿１．０４	＿２．４２	＿＿＿＿
	＿０．６９	＿０．８４	＿＿＿＿
	＿０．６９	＿１．０４	＿＿＿＿
	＿０．６９	＿１．３８	＿＿＿＿
	＿０．６９	＿１．７３	＿＿＿＿
	＿０．３５	＿０．４９	＿＿＿＿
	＿０．３５	＿０．７１	＿＿＿＿
	＿０．３５	＿１．０４	＿＿＿＿
	＿０．３５	＿１．４０	＿＿＿＿
	＿０．０７	＿０．２１	＿＿＿＿
	＿０．０７	＿０．４３	＿＿＿＿
	＿０．０８	＿０．６０	＿＿＿＿
	＿０．０７	＿０．７６	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿

回帰式　$\log E = \log A + B \times \log(\text{stress})$

A = １２８０．７ 10^3kg/cm²　B = ０．３７９

様式A－4－1　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　2 0 3

層番号　＿4、＿＿、＿＿　（様式A－1－3参照）

粗骨材の種類　1　1 0 0
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

細骨材の種類　1　＿5 4
2　＿4 6
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

粗骨材の岩質　1 2

フィラーの種類　1

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿.＿	2.36mm	＿3 0.4
37.5mm	＿＿＿.＿	600μm	＿2 0.4
26.5mm	1 0 0.0	300μm	＿1 3.8
19mm	＿9 8.0	150μm	＿＿7.1
13.2mm	＿6 2.4	75μm	＿＿4.0
4.75mm	＿2 1.6		

骨材のかさ密度

粗骨材1（4号砕石）	＿.＿＿＿ g/cm³	細骨材1（粗砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材2（5号砕石）	2.6 9 5 g/cm³	細骨材2（中砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材3（6号砕石）	2.6 8 1 g/cm³	細骨材3（細砂）	2.4 9 2 g/cm³
粗骨材4（7号砕石）	2.6 8 7 g/cm³	フィラー	2.7 0 0 g/cm³
スクリーニングス	2.6 3 5 g/cm³	クラッシャラン	＿.＿＿＿ g/cm³

合成密度　2.6 5 7 g/cm³　有効密度　2.7 3 2 g/cm³

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　２０３

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類　１　１００　　細骨材の種類　１　＿５８
＿　＿＿＿　　２　＿４２
＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿
＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

粗骨材の岩質　１２　　フィラーの種類　１

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿.＿	2.36mm	＿２９.７
37.5mm	＿＿＿.＿	600μm	＿２０.９
26.5mm	１００.０	300μm	＿１４.５
19mm	＿９８.７	150μm	＿＿８.０
13.2mm	＿７５.４	75μm	＿＿４.８
4.75mm	＿４１.２		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	＿.＿＿＿ g/cm³	細骨材１（粗砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	２.６９５ g/cm³	細骨材２（中砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	２.６８１ g/cm³	細骨材３（細砂）	２.４９２ g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	２.６８７ g/cm³	フィラー	２.７００ g/cm³
スクリーニングス	２.６３５ g/cm³	クラッシャラン	＿.＿＿＿ g/cm³

合成密度　２.６５６ g/cm³　有効密度　２.７３０ g/cm³

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　２０３

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類　１　１００　　細骨材の種類　１　１００

＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

粗骨材の岩質　１２　　フィラーの種類　１

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿.＿	2.36mm	＿５０.２
37.5mm	＿＿＿.＿	600μm	＿４７.０
26.5mm	１００.０	300μm	＿３３.２
19mm	＿９８.７	150μm	＿１６.６
13.2mm	＿７４.２	75μm	＿１１.６
4.75mm	＿６０.１		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	＿.＿＿＿ g/cm³	細骨材１（粗砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	２.６９５ g/cm³	細骨材２（中砂）	２.５０４ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	２.６８１ g/cm³	細骨材３（細砂）	２.４９２ g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	２.６８７ g/cm³	フィラー	２.７００ g/cm³
スクリーニングス	＿.＿＿＿ g/cm³	クラッシャラン	＿.＿＿＿ g/cm³

合成密度　２.６２１ g/cm³　有効密度　２.７２０ g/cm³

様式Ａ－４－２　アスファルトの性状（原アスファルト）　調査区間番号　２０３

層番号　＿４、＿５、＿６、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

針入度区分　＿６０～＿８０

アスファルトの製造元　三菱石油(株)　東北支店

密度　１．０３１ g/cm³

60℃粘度　＿＿１６６０ poise

135℃粘度　＿３４２ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０．０ cm

4℃伸度の伸長速度　＿５ cm/min

25℃針入度　＿６３

4℃針入度　＿２６

軟化点　＿４９ ℃

添加剤　商品名

添加剤の添加量　＿＿＿ %

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　２０３

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿３０００ poise　　135℃粘度　＿４２８ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０．０ cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５ cm/min

25℃針入度　＿４９　　4℃針入度　＿２０

軟化点　＿５２ ℃

質量変化率　０．１２

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿３８　　4℃針入度　＿１５

60℃粘度　＿＿５３３０ poise　　135℃粘度　＿５５０ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　２０３

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿３０００ poise　　135℃粘度　＿４２８ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０．０ cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５ cm/min

25℃針入度　＿４９　　4℃針入度　＿２０

軟化点　＿５２ ℃

質量変化率　０．１２

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿３１　　4℃針入度　＿１６

60℃粘度　＿１０６２８ poise　　135℃粘度　＿７４９ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　２０３

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿３０００ poise　　135℃粘度　＿４２８ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０．０ cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５　cm/min

25℃針入度　＿４９　　4℃針入度　＿２０

軟化点　＿５２ ℃

質量変化率　０．１２

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿４０　　4℃針入度　＿１６

60℃粘度　＿＿４９０４ poise　　135℃粘度　＿５１３ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　２０３

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３４７ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．５５９ g/cm³

アスファルト量　４．１ %

空隙率　＿８．３ %

骨材間隙率　１７．６ %

有効アスファルト量　＿４．１ %

突き固め回数　５０ 回

マーシャル安定度　＿８４３ kg

フロー値　＿２８ (1/100cm)

ビーム安定度　＿４９．５

ビーム粘着度　＿３２１．５

様式A－4－4　アスファルト混合物の性状（配合試験1）調査区間番号　2 0 3

層番号　＿5、＿＿、＿＿　（様式A－1－3参照）

かさ密度　2.3 6 8 g/cm³

最大比重（理論密度）　2.5 1 1 g/cm³

アスファルト量　5.3 %

空隙率　＿5.7 %

骨材間隙率　1 7.9 %

有効アスファルト量　＿5.3 %

突き固め回数　5 0 回

マーシャル安定度　＿8 7 8 kg

フロー値　＿3 6 (1/100cm)

ビーム安定度　＿4 6.4

ビーム粘着度　＿3 3 0.4

様式A－4－4　アスファルト混合物の性状（配合試験1）調査区間番号　2 0 3

層番号　＿ 6 、＿ ＿ 、＿ ＿　（様式A－1－3参照）

かさ密度　2 . 3 5 3 g/cm³

最大比重（理論密度）　2 . 4 6 9 g/cm³

アスファルト量　6 . 2 %

空隙率　＿ 4 . 7 %

骨材間隙率　1 8 . 8 %

有効アスファルト量　＿ 6 . 2 %

突き固め回数　5 0 回

マーシャル安定度　1 2 2 4 kg

フロー値　＿ 3 1 (1/100cm)

ビーム安定度　＿ 4 0 . 2

ビーム粘着度　＿ 4 3 9 . 4

様式Ａ－４－５　アスファルト混合物の性状（配合試験２）調査区間番号　２０３

層番号　＿４、＿５、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の剝離試験結果（剝離率）　＿２０

剝離防止材の種類　商品名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

剝離防止材の添加量　＿＿.＿％

アスファルトプラントの形式　＿

ホイールトラッキング試験結果　＿＿＿＿回/mm

スパイクラベリング試験結果　＿＿＿＿mm²

様式Ａ－４－５　アスファルト混合物の性状（配合試験２）調査区間番号　２０３

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の剝離試験結果（剝離率）　＿２０

剝離防止材の種類　商品名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

剝離防止材の添加量　＿＿．＿％

アスファルトプラントの形式　１

ホイールトラッキング試験結果　＿１８０回/mm

スパイクラベリング試験結果　＿７５４mm²

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　２０３

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３５５ g/cm³

アスファルト量　４．１ %

空隙率　＿８．０ %

骨材間隙率　１７．４ %

マーシャル安定度　＿７８５ kg

フロー値　＿３３ (1/100cm)

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　２０３

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３７４ g/cm³

アスファルト量　５．３ ％

空隙率　＿５．５ ％

骨材間隙率　１７．７ ％

マーシャル安定度　＿８３８ kg

フロー値　＿３８ (1/100cm)

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　２０３

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３５８ g/cm³

アスファルト量　６．２ %

空隙率　＿４．５ %

骨材間隙率　１８．７ %

マーシャル安定度　１１６２ kg

フロー値　＿３１ (1/100cm)

様式Ａ－４－７　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　２０３

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．４３８ g/cm³

最大比重　２．５３８ g/cm³

空隙率　＿３．９ %

アスファルト量　５．０ %

骨材間隙率　１５．７ %

様式Ａ－４－７　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　２０３

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．４３８ g/cm³

最大比重　２．５１５ g/cm³

空隙率　＿３．１ ％

アスファルト量　５．７ ％

骨材間隙率　１６．５ ％

様式A－4－7　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　2 0 3

層番号　＿ 6 、＿ ＿ 、＿ ＿　（様式A－1－3参照）

かさ密度　2 . 4 0 4 g/cm³

最大比重　2 . 4 8 1 g/cm³

空隙率　＿ 3 . 1 %

アスファルト量　5 . 7 %

骨材間隙率　1 6 . 5 %

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　２０３

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	２７０５０	２.４６１
＿＿＿	＿＿５.０	３１８００	２.４２６
＿＿＿	＿＿５.０	２７４００	２.４２７
＿＿＿	＿２５.０	１６９００	２.４６１
＿＿＿	＿２５.０	１７２００	２.４２６
＿＿＿	＿２５.０	２０７００	２.４２７
＿＿＿	＿４０.０	＿５４５０	２.４６１
＿＿＿	＿４０.０	＿７７７０	２.４２６
＿＿＿	＿４０.０	＿５６７５	２.４２７
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　＿.＿　秒

載荷周波数　＿.＿　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿　kg/cm²

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　２０３

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	３７６５０	２.４５１
＿＿＿	＿＿５.０	４０６００	２.４５２
＿＿＿	＿＿５.０	５６５００	２.４１０
＿＿＿	＿２５.０	２２０００	２.４５１
＿＿＿	＿２５.０	２２８５０	２.４５２
＿＿＿	＿２５.０	１９５００	２.４１０
＿＿＿	＿４０.０	＿５６７５	２.４５１
＿＿＿	＿４０.０	＿７７７５	２.４５２
＿＿＿	＿４０.０	＿６３６５	２.４１０
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　２０３

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	３５９００	２.３９０
＿＿＿	＿＿５.０	４３０００	２.４０１
＿＿＿	＿＿５.０	３１８００	２.４２２
＿＿＿	＿２５.０	１６４５０	２.３９０
＿＿＿	＿２５.０	１８７００	２.４０１
＿＿＿	＿２５.０	１６９００	２.４２２
＿＿＿	＿４０.０	＿８５５０	２.３９０
＿＿＿	＿４０.０	＿６４１０	２.４０１
＿＿＿	＿４０.０	＿４７８０	２.４２２
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　２０３

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２９.９
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿４３.３
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿３５.７
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿８.６
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿８.１
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿７.８
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.４
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.８
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.９
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　２０３

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿３３.３
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿３７.３
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿３７.２
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿７.０
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿７.９
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿７.８
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿１.９
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.１
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.１
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　２０３

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２５.０
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿４０.６
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿３７.４
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿７.０
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿８.７
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿７.８
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.３
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.１
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.６
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

関　東　地　方

ＳＨＲＰ

新基準調査

初期調査データ

２４６号　大和・厚木バイパス

様式Ａ－１－１　一般データ　　調査区間番号　３０１

地建番号　３

報告年月　平成＿＿年＿＿月

担当部局　関東地方建設局川崎国道工事事務所工務課設計第一係　内線　＿４１２

調査区間の地名　神奈川県川崎市高津区

路線番号　２４６

調査種別　１

調査方向　☒上り　□下り

距離標　＿３３ｋ６６７～＿３３ｋ４６７

（ＫＰ未定の場合No.＿＿＿＿＋＿＿～＿＿＿＿＋＿＿）

様式A－1－2　舗装構造データ　　調査区間番号　3 0 1

舗装の種別　1

調査方向の車線数　2

車線幅　3 5 0　cm

調査対象車線　第 1 車線

路肩の幅　1 5 0　cm

路肩の路面の種類　3

路肩の路盤の種類　2 3

路肩の表層・基層の厚さ　1 5　cm

路肩の路盤の厚さ　＿ 5 0　cm

地下排水工の種類　1 , ＿

縦断方向の配水管の内径　＿ ＿ ＿ ＿　mm

排水工の位置　＿

配水管の間隔　＿ ＿ ＿ ＿　cm

様式A－1－3　舗装構成データ　　調査区間番号　301

層の数　6

番号	層の名称	層の厚さ（mm）				材料
		最　大	最　小	平　均	標準偏差	
1	7	― ― ― ―	― ― ― ―	― ― ― ―	― ―.― ―	43
2	6	285	260	270	7.53	23
3	5	170	145	155	7.39	25
4	4	― ― ― ―	― ― ― ―	107	― ―.― ―	31
5	4	― ― ― ―	― ― ― ―	109	― ―.― ―	― 2
6	3	― ― ― ―	― ― ― ―	― ― 55	― ―.― ―	― 1
7	― ―	― ― ― ―	― ― ― ―	― ― ― ―	― ―.― ―	― ―
8	― ―	― ― ― ―	― ― ― ―	― ― ― ―	― ―.― ―	― ―
9	― ―	― ― ― ―	― ― ― ―	― ― ― ―	― ―.― ―	― ―
10	― ―	― ― ― ―	― ― ― ―	― ― ― ―	― ―.― ―	― ―
11	― ―	― ― ― ―	― ― ― ―	― ― ― ―	― ―.― ―	― ―
12	― ―	― ― ― ―	― ― ― ―	― ― ― ―	― ―.― ―	― ―

舗装の等値換算厚T_A　　34.5 cm

舗装厚H　　65.0 cm

高支持力層までの深さ　　― ― ― m

盛土厚さ　　― ― ― ― cm

様式Ａ－１－４　施工関係データ　　調査区間番号　３０１

施工年月　平成　１　年　２　月

交通開放（予定）年月　平成　１　年　３　月

施工費用　　６３　百万円／km・車線

打換え年月　平成　　年　　月

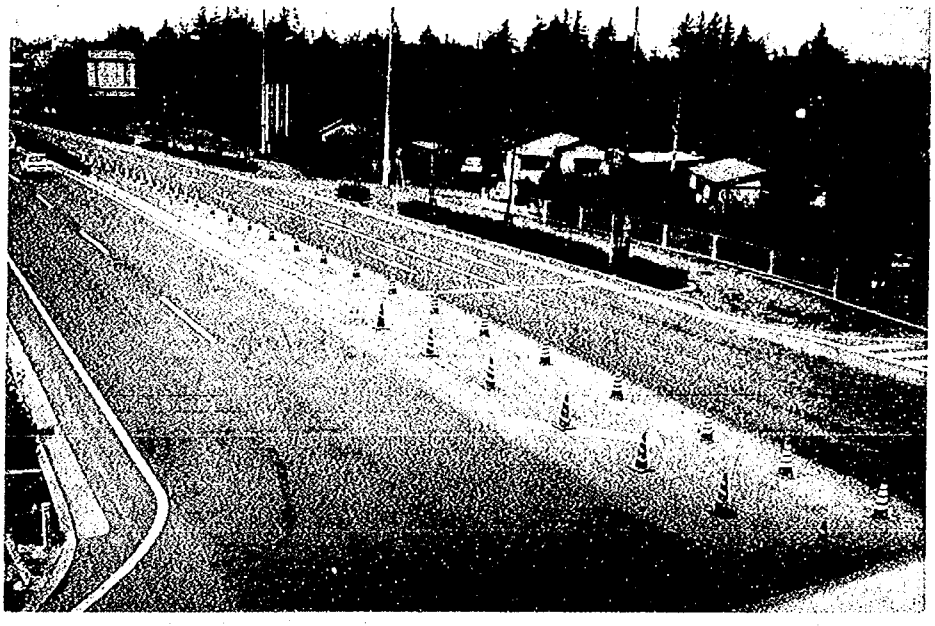
拡幅年月　　平成　　年　　月

当初の車線数　　車線

最終的な車線数　　車線

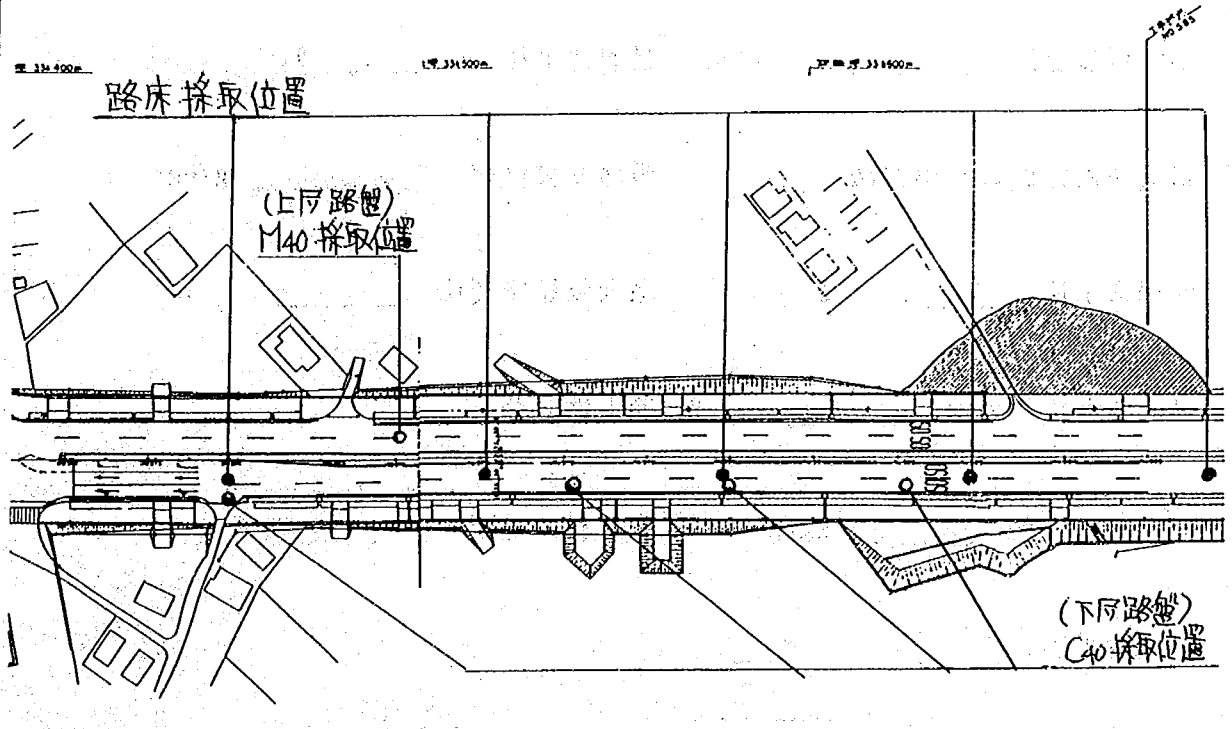
追加車線数　　車線

様式A－1－5　調査区間概要図　　調査区間番号　３０１



No.572付近から
終点側を撮影

調査区間概要図



路床路盤材料の採取位置を示すこと。

様式Ａ－２－１　路床土に関する基礎データ　　調査区間番号　３０１

層番号　＿１、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

土質分類　＿＿＿　　ＡＡＳＨＴＯ土質分類　＿＿＿

ＣＢＲ　平均値　＿１３．２　区間のＣＢＲ　＿１２．４

Ｓ値　１１．９９　　Ｋ値　＿＿＿．＿ kg/cm³

75μmふるい通過量　＿＿．＿ %

塑性限界　＿＿．＿ %　　液性限界　＿＿．＿ %

塑性指数　＿＿．＿ %

最大乾燥密度　＿．＿＿＿ g/cm³　最適含水比　＿＿．＿ %

最大乾燥密度の算出方法　＿　　現場乾燥密度　＿．＿＿＿ g/cm³

現場含水比　＿＿．＿ %　　最大乾燥密度比　＿＿＿．＿ %

最適含水比との比　＿＿＿．＿ %　凍上性区分　＿

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

様式Ａ－２－２　弾性係数の測定（路床土）　　調査区間番号　３０１

層番号　＿１、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試料採取位置 KP＿＿＿ k＿＿＿（KPが未定の場合　No.　＿＿＿＿＋＿＿）

供試体数　＿３　　ＡＡＳＨＴＯ土質分類　＿＿＿

含水比　＿４０．３％　　乾燥密度　１．１４８ g/cm³

試験の結果

側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
＿０．４１	＿０．５５	１０５０
＿０．２１	＿０．３７	＿８４９
＿０．００	＿０．２２	＿８３２
＿０．４１	＿０．７０	１０２６
＿０．２１	＿０．４９	＿９８７
＿０．００	＿０．３１	＿７５４
＿０．４１	＿０．９８	１１５４
＿０．２１	＿０．７７	１０９４
＿０．００	＿０．５７	＿８４２
＿０．４１	＿１．１１	１１１５
＿０．２１	＿０．９２	１１４７
＿０．００	＿０．６９	１００９
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿

回帰式　$\log E = \log A + B \times \log(\text{stress})$

A = ＿９９３．０ 10^3kg/cm²　B = ０．１９０

様式Ａ－３－１　路盤材料の特性値　　調査区間番号　３０１

層番号　＿２、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

最大乾燥密度　２．２１２ g/cm³　最適含水比　＿４．３ %

最大乾燥密度の算出方法　１

現場乾燥密度　２．２６３ g/cm³　現場含水比　＿４．６ %

最大乾燥密度比　１０２．３ %　最適含水比との比　１０７．０ %

平板載荷試験　＿＿＿．＿ kg/cm³

425μmふるい通過量　＿＿．＿ %　75μmふるい通過量　＿＿．＿ %

路盤材料の修正ＣＢＲ　１８０．０

路盤材料の一軸圧縮強度　＿＿．＿ kg/cm²

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿
　　＿　＿＿＿
　　＿　＿＿＿

様式Ａ－３－１　路盤材料の特性値　　調査区間番号　３　０　１

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

最大乾燥密度　２．２４７ g/cm³　最適含水比　＿５．０ %

最大乾燥密度の算出方法　１

現場乾燥密度　２．２７７ g/cm³　現場含水比　＿５．２ %

最大乾燥密度比　１０１．３ %　最適含水比との比　１０４．０ %

平板載荷試験　＿＿＿．＿ kg/cm³

425μmふるい通過量　１３．６ %　75μmふるい通過量　＿４．６ %

路盤材料の修正ＣＢＲ　１７０．０

路盤材料の一軸圧縮強度　＿＿．＿ kg/cm²

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿
　　＿　＿＿＿
　　＿　＿＿＿

様式A－3－2 弾性係数の測定（路盤）　　調査区間番号 3 0 1

層番号 __2、__ __、__ __　（様式A－1－3参照）

供試体数 __ __　含水比 __ __ __ . __ %　乾燥密度 __ . __ __ __ g/cm³

試験の結果	側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
	__ __ . __ __	__ __ . __ __	__ __ __ __
	__ __ . __ __	__ __ . __ __	__ __ __ __
	__ __ . __ __	__ __ . __ __	__ __ __ __
	__ __ . __ __	__ __ . __ __	__ __ __ __
	__ __ . __ __	__ __ . __ __	__ __ __ __
	__ __ . __ __	__ __ . __ __	__ __ __ __
	__ __ . __ __	__ __ . __ __	__ __ __ __
	__ __ . __ __	__ __ . __ __	__ __ __ __
	__ __ . __ __	__ __ . __ __	__ __ __ __
	__ __ . __ __	__ __ . __ __	__ __ __ __
	__ __ . __ __	__ __ . __ __	__ __ __ __
	__ __ . __ __	__ __ . __ __	__ __ __ __
	__ __ . __ __	__ __ . __ __	__ __ __ __
	__ __ . __ __	__ __ . __ __	__ __ __ __
	__ __ . __ __	__ __ . __ __	__ __ __ __
	__ __ . __ __	__ __ . __ __	__ __ __ __
	__ __ . __ __	__ __ . __ __	__ __ __ __
	__ __ . __ __	__ __ . __ __	__ __ __ __
	__ __ . __ __	__ __ . __ __	__ __ __ __
	__ __ . __ __	__ __ . __ __	__ __ __ __
	__ __ . __ __	__ __ . __ __	__ __ __ __
	__ __ . __ __	__ __ . __ __	__ __ __ __

回帰式　$\log E = \log A + B \times \log(\text{stress})$

A = __ __ __ __ . __ 10^3kg/cm²　B = __ . __ __ __

様式Ａ－３－２　弾性係数の測定（路盤）　　調査区間番号　３０１

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

供試体数　＿＿　含水比　＿＿＿．＿％　乾燥密度　＿．＿＿＿g/cm³

試験の結果	側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿

回帰式　$\log E = \log A + B \times \log(\text{stress})$

$A =$ ＿＿＿＿．＿ $10^3 kg/cm^2$　$B =$ ＿．＿＿＿

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　３０１

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類		細骨材の種類	
1	1００	1	＿５２
＿	＿＿＿	2	＿４８
＿	＿＿＿	＿	＿＿＿
＿	＿＿＿	＿	＿＿＿

粗骨材の岩質　１２　　フィラーの種類　１

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿.＿	2.36mm	＿４０.２
37.5mm	１００.０	600μm	＿２７.１
26.5mm	＿９４.４	300μm	＿１９.１
19mm	＿７６.１	150μm	＿＿６.９
13.2mm	＿６７.５	75μm	＿＿３.６
4.75mm	＿５２.２		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	２.６５５ g/cm³	細骨材１（粗砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	２.６５１ g/cm³	細骨材２（中砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	２.６３９ g/cm³	細骨材３（細砂）	２.５２８ g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	２.６３６ g/cm³	フィラー	２.７００ g/cm³
スクリーニングス	２.５８７ g/cm³	クラッシャラン	＿.＿＿＿ g/cm³

合成密度　２.６０９ g/cm³　有効密度　２.６７８ g/cm³

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　３０１

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類　１　１００
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

細骨材の種類　１　＿３３
２　＿６７
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

粗骨材の岩質　１２

フィラーの種類　１

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿.＿	2.36mm	＿２９.３
37.5mm	＿＿＿.＿	600μm	＿１８.９
26.5mm	１００.０	300μm	＿１４.０
19mm	＿９９.５	150μm	＿＿７.５
13.2mm	＿８０.６	75μm	＿＿５.３
4.75mm	＿４５.９		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	＿.＿＿＿ g/cm³	細骨材１（粗砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	２.６４３ g/cm³	細骨材２（中砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	２.６３２ g/cm³	細骨材３（細砂）	２.５１４ g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	２.６３１ g/cm³	フィラー	２.７００ g/cm³
スクリーニングス	２.５４２ g/cm³	クラッシャラン	＿.＿＿＿ g/cm³

合成密度　２.６１１ g/cm³　有効密度　２.６７５ g/cm³

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　３０１

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類		細骨材の種類	
1	100	1	74
		2	26

粗骨材の岩質　12　　フィラーの種類　1

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿.＿	2.36mm	41.2
37.5mm	＿＿＿.＿	600μm	25.3
26.5mm	100.0	300μm	18.5
19mm	99.6	150μm	8.1
13.2mm	84.5	75μm	5.9
4.75mm	56.6		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	＿.＿＿＿ g/cm³	細骨材１（粗砂）	2.461 g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	2.643 g/cm³	細骨材２（中砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	2.632 g/cm³	細骨材３（細砂）	2.581 g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	2.631 g/cm³	フィラー	＿.＿＿＿ g/cm³
スクリーニングス	＿.＿＿＿ g/cm³	クラッシャラン	2.579 g/cm³

合成密度　2.583 g/cm³　有効密度　2.689 g/cm³

様式Ａ－４－２　アスファルトの性状（原アスファルト）　調査区間番号　３　０　１

層番号　＿４、＿＿、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

針入度区分　＿６０～＿８０

アスファルトの製造元　日本石油(株)

密度　１.０３５ g/cm³

60℃粘度　＿＿２４１６ poise

135℃粘度　＿４０５ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０.０　cm

4℃伸度の伸長速度　＿５　cm/min

25℃針入度　＿６９

4℃針入度　＿２４

軟化点　＿４６ ℃

添加剤　商品名

添加剤の添加量　＿＿＿ %

様式Ａ－４－２　アスファルトの性状（原アスファルト）　調査区間番号　３０１

層番号　＿５、＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

針入度区分　＿４０～＿６０

アスファルトの製造元　出光興産(株)

密度　１.０４１ g/cm³

60℃粘度　＿＿３１８５ poise

135℃粘度　＿５３０ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm または ☒ １００＋

4℃伸度　＿０.０ cm

4℃伸度の伸長速度　＿５ cm/min

25℃針入度　＿５０

4℃針入度　＿１８

軟化点　＿５１ ℃

添加剤　商品名

添加剤の添加量　＿＿＿ %

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　３　０　１

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿４８６５ poise　　135℃粘度　＿６６１ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０．０ cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５　cm/min

25℃針入度　＿４２　　4℃針入度　＿１７

軟化点　＿５３ ℃

質量変化率　０．０５

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿４１　　4℃針入度　＿２２

60℃粘度　＿＿８５２２ poise　　135℃粘度　＿９７９ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　３　０　１

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿５９２１ poise　　135℃粘度　＿７６１ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm または ☒ １００＋

4℃伸度　＿０．０ cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５ cm/min

25℃針入度　＿３５　　4℃針入度　＿１５

軟化点　＿５４ ℃

質量変化率　０．０４

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿５０　　4℃針入度　＿２５

60℃粘度　＿＿６１９２ poise　　135℃粘度　＿７６５ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm または ☒ １００＋

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　３０１

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿５９２１ poise　　135℃粘度　＿７６１ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０．０ cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５ cm/min

25℃針入度　＿３５　　4℃針入度　＿１５

軟化点　＿５４ ℃

質量変化率　０．０４

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿４３　　4℃針入度　＿２３

60℃粘度　＿＿９７２６ poise　　135℃粘度　１００５ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　３０１

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３５５ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．５１９ g/cm³

アスファルト量　４．０ %

空隙率　＿５．６ %

骨材間隙率　１４．８ %

有効アスファルト量　＿３．９ %

突き固め回数　＿＿回

マーシャル安定度　１０２５ kg

フロー値　＿３２ (1/100cm)

ビーム安定度　＿６８．５

ビーム粘着度　＿２００．９

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　３０１

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３９１ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．４８４ g/cm³

アスファルト量　４．９ %

空隙率　＿３．７ %

骨材間隙率　１５．０ %

有効アスファルト量　＿４．８ %

突き固め回数　＿＿回

マーシャル安定度　１１２６ kg

フロー値　＿２９ (1/100cm)

ビーム安定度　＿６４．７

ビーム粘着度　＿２８３．４

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　３　０　１

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３９０ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．４８１ g/cm³

アスファルト量　５．３ %

空隙率　＿３．７ %

骨材間隙率　１５．９ %

有効アスファルト量　＿５．２ %

突き固め回数　＿＿回

マーシャル安定度　１２７１ kg

フロー値　＿３２ (1/100cm)

ビーム安定度　＿５８．１

ビーム粘着度　＿３４４．９

様式Ａ－４－５　アスファルト混合物の性状（配合試験２）調査区間番号　３　０　１

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の剝離試験結果（剝離率）　＿１４

剝離防止材の種類　商品名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

剝離防止材の添加量　＿＿．＿％

アスファルトプラントの形式　１

ホイールトラッキング試験結果　＿＿＿＿回/mm

スパイクラベリング試験結果　＿＿＿＿mm²

様式Ａ－４－５　アスファルト混合物の性状（配合試験２）調査区間番号　３０１

層番号　＿５、＿６、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の剝離試験結果（剝離率）　＿２３

剝離防止材の種類　商品名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

剝離防止材の添加量　＿＿．＿％

アスファルトプラントの形式　１

ホイールトラッキング試験結果　＿＿＿＿回/mm

スパイクラベリング試験結果　＿＿＿＿mm²

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　３０１

層番号　＿４、＿５、＿６　（様式Ａ－１－３参照）
（欠測）

かさ密度　＿．＿＿＿ g/cm³

アスファルト量　＿．＿ %

空隙率　＿＿．＿ %

骨材間隙率　＿＿．＿ %

マーシャル安定度　＿＿＿＿ kg

フロー値　＿＿＿ (1/100cm)

様式A－4－7　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　3 0 1

層番号　＿4、＿＿、＿＿　（様式A－1－3参照）

かさ密度　2.418 g/cm³

最大比重　2.517 g/cm³

空隙率　＿3.9 %

アスファルト量　4.5 %

骨材間隙率　14.4 %

様式A－4－7　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　3 0 1

層番号　＿5、＿＿、＿＿　（様式A－1－3参照）

かさ密度　2.3 3 3 g/cm³

最大比重　2.4 9 5 g/cm³

空隙率　＿6.5 %

アスファルト量　4.7 %

骨材間隙率　1 6.9 %

様式Ａ－４－７　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　３０１

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３５１ g/cm³

最大比重　２．４９２ g/cm³

空隙率　＿５．７ %

アスファルト量　５．４ %

骨材間隙率　１７．８ %

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　３０１

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	５４７０９	２.４４２
＿＿＿	＿＿５.０	３２２３６	２.４１７
＿＿＿	＿＿５.０	３３０６９	２.３９６
＿＿＿	＿２５.０	１５９１１	２.４４２
＿＿＿	＿２５.０	２２１６１	２.４１７
＿＿＿	＿２５.０	１９８１０	２.３９６
＿＿＿	＿４０.０	＿７６９５	２.４４２
＿＿＿	＿４０.０	＿７４５２	２.４１７
＿＿＿	＿４０.０	＿６１６４	２.３９６
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　３０１

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿＿＿＿	２.３４３
＿＿＿	＿＿５.０	５３６８６	２.３３８
＿＿＿	＿＿５.０	７１７４７	２.３１９
＿＿＿	＿２５.０	２６７５７	２.３４３
＿＿＿	＿２５.０	２５４５８	２.３３８
＿＿＿	＿２５.０	２３７７１	２.３１９
＿＿＿	＿４０.０	＿８０６９	２.３４３
＿＿＿	＿４０.０	＿８６７６	２.３３８
＿＿＿	＿４０.０	＿７４３５	２.３１９
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式A－4－8　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　3 0 1

層番号　_ 6 、_ _ 、_ _ 、（様式A－1－8参照）

試験方法分　1 . 3 0 [illegible]

弾性係数の測定結果　[illegible]

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
密度 1 . 0	3 5 g/cm³ 5 . 0	4 9 6 8 2	2 . 3 5 0
_ _ _	_ _ 5 . 0	4 8 8 2 5	2 . 3 1 5
60℃粘度	2 4 5 1 . 0	no 5 e 7 4 3 4	2 . 3 8 7
_ _ _	_ 2 5 . 0	2 3 9 1 5	2 . 3 5 0
135℃粘度	4 2 0 5 5 . 0 St	1 8 7 7 8	2 . 3 1 5
_ _ _	_ 2 5 . 0	1 9 8 3 3	2 . 3 8 7
25℃伸度	4 0 . 0	または 5 [illegible] 4 1 0 0 +	2 . 3 5 0
_ _ _	_ 4 0 . 0	_ 5 3 2 6	2 . 3 1 5
4℃伸度	0 4 . 0 . 0 m	_ 6 6 6 4	2 . 3 8 7
_ _ _	_ _ _ . _	_ _ _ _ _	_ . _ _ _

4℃伸度の伸長速度　_ 5　cm/min

載荷時間　0 . 4　秒

25℃針入度　_ 6 9

載荷周波数　1 . 0　Hz

4℃針入度　_ 2 4

側圧の大きさ　_ _ . _　kg/cm²

軟化点　_ 4 6 ℃

添加剤　商品名

添加剤の添加量　_ _ _ %

様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　３０１

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２２.９
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿１８.３
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２５.８
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿６.９
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿９.４
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿８.３
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿３.０
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿３.６
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.３
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　３０１

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２３.０
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２５.６
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２０.３
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿７.４
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿８.９
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿８.５
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.５
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.７
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.０
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　３０１

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２９.６
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２１.１
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２３.１
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿８.０
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿８.８
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿８.２
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿３.５
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.９
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.２
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

ＳＨＲＰ
新基準調査

初期調査データ

１７号　深谷バイパス

様式A－1－1　一般データ　　調査区間番号　3 0 2

地建番号　3

報告年月　平成 2 年 3 月

担当部局　関東地方建設局　関東技術事務所　材料試験課　内線 3 6 4

調査区間の地名　埼玉県深谷市大字矢島

路線番号　1 7

調査種別　1

調査方向　□上り　☒下り

距離標　8 1 k 4 7 8 ～ 8 1 k 7 7 8

（ＫＰ未定の場合No.＿＿＿＿＋＿＿～＿＿＿＿＋＿＿）

様式Ａ－１－２　舗装構造データ　　調査区間番号　３０２

舗装の種別　１

調査方向の車線数　１

車線幅　３５０　cm

調査対象車線　第　１　車線

路肩の幅　＿４０　cm

路肩の路面の種類　３

路肩の路盤の種類　２３，２５

路肩の表層・基層の厚さ　２５　cm

路肩の路盤の厚さ　＿２５　cm

地下排水工の種類　１，＿

縦断方向の配水管の内径　＿＿＿＿　mm

排水工の位置　＿

配水管の間隔　＿＿＿＿　cm

様式A－1－3　舗装構成データ　　調査区間番号　302

層の数　8

番号	層の名称	層の厚さ（mm）				材料
		最　大	最　小	平　均	標準偏差	
1	7					53
2	7					42
3	7	1050	960	1010	32.00	63
4	6	175	150	161	10.00	23
5	5	120	100	105	6.00	25
6	4	115	95	101	5.00	31
7	4	109	95	100	4.00	2
8	3					1
9						
10						
11						
12						

舗装の等値換算厚T_A　　30.3 cm

舗装厚H　　50.0 cm

高支持力層までの深さ　　　m

盛土厚さ　　　cm

様式A－1－4　施工関係データ　　調査区間番号　3 0 2

施工年月　平成 _ 2 年 _ 2 月

交通開放（予定）年月　平成 _ 2 年 _ 2 月

施工費用　_ _ 2 7 百万円／km・車線

打換え年月　平成 _ _ 年 _ _ 月

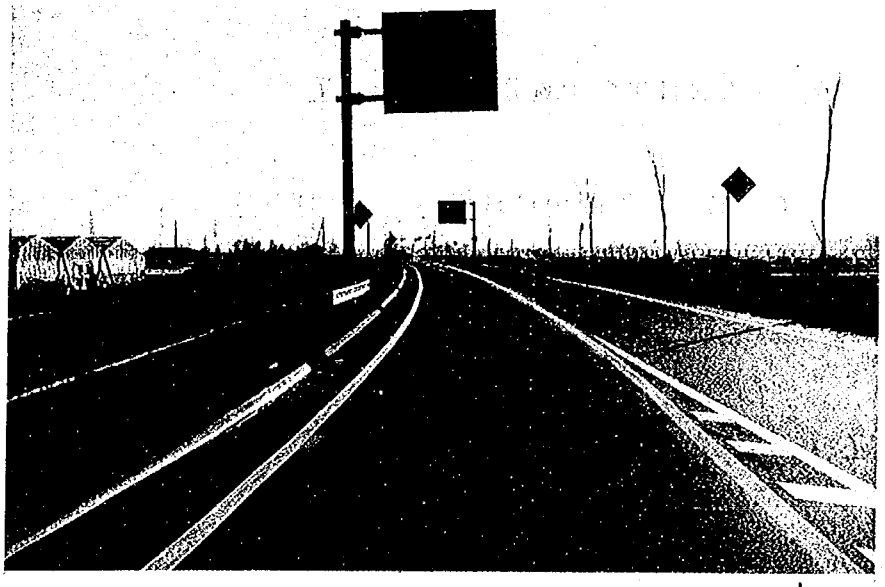
拡幅年月　　平成 _ _ 年 _ _ 月

当初の車線数　_ 車線

最終的な車線数　_ 車線

追加車線数　_ 車線

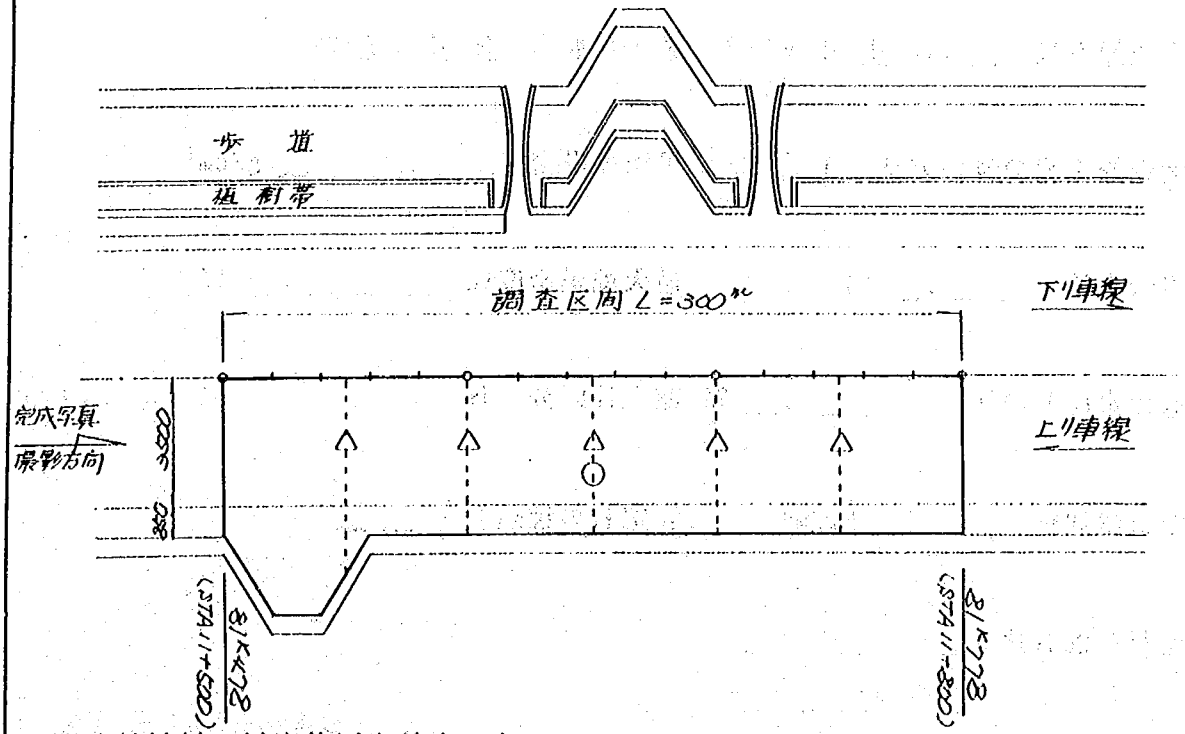
様式A－1－5　調査区間概要図　　調査区間番号　3 0 2



調査区間概要図

凡　例

1. ○印 路床路盤材料採取位置
2. △印 路床路盤試験箇所



路床路盤材料の採取位置を示すこと。

様式Ａ－２－１　路床土に関する基礎データ　　調査区間番号　３０２

層番号　＿１、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

土質分類　＿ＭＬ　　ＡＡＳＨＴＯ土質分類　Ａ－７

ＣＢＲ　平均値　＿＿０．９　区間のＣＢＲ　＿＿０．９

Ｓ値　＿０．２８　Ｋ値　＿＿＿．＿ kg/cm³

75μmふるい通過量　７６．２ %

塑性限界　２８．４ %　液性限界　４９．４ %

塑性指数　２１．０ %

最大乾燥密度　１．５４４ g/cm³　最適含水比　２４．７ %

最大乾燥密度の算出方法　１　現場乾燥密度　＿．＿＿＿ g/cm³

現場含水比　＿＿．＿ %　最大乾燥密度比　＿＿＿．＿ %

最適含水比との比　＿＿＿．＿ %　凍上性区分　５

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

様式Ａ－２－１　路床土に関する基礎データ　　調査区間番号　３０２

層番号　＿２、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

土質分類　＿ＣＬ　　ＡＡＳＨＴＯ土質分類　＿＿＿

ＣＢＲ　平均値　＿＿５．３　区間のＣＢＲ　＿＿５．３

Ｓ値　＿３．１８　Ｋ値　＿＿＿．＿ kg/cm³

75μmふるい通過量　７４．５ %

塑性限界　＿＿．＿ %　液性限界　＿＿．＿ %

塑性指数　＿＿．＿ %

最大乾燥密度　１．４２１ g/cm³　最適含水比　３０．８ %

最大乾燥密度の算出方法　１　現場乾燥密度　１．２８０ g/cm³

現場含水比　２７．０ %　最大乾燥密度比　＿９０．１ %

最適含水比との比　＿８７．７ %　凍上性区分　２

安定材添加量　＿４５ kg/m³　安定材の種類　＿＿５

安定材の混合比　５　１００
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

様式Ａ－２－１　路床土に関する基礎データ　　調査区間番号　３０２

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

土質分類　＿＿＿　　ＡＡＳＨＴＯ土質分類　＿＿＿

ＣＢＲ　平均値　＿＿７．５　区間のＣＢＲ　＿＿６．５

Ｓ値　＿７．４６　Ｋ値　＿６２．７ kg/cm³

75μmふるい通過量　＿７．８ %

塑性限界　＿＿．＿ %　液性限界　＿＿．＿ %

塑性指数　＿＿．＿ %

最大乾燥密度　２．１４８ g/cm³　最適含水比　＿＿．＿ %

最大乾燥密度の算出方法　１　現場乾燥密度　２．１０９ g/cm³

現場含水比　＿５．９ %　最大乾燥密度比　＿９８．２ %

最適含水比との比　＿＿＿．＿ %　凍上性区分　２

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿

＿　＿＿＿

＿　＿＿＿

様式Ａ－２－２　弾性係数の測定（路床土）　　調査区間番号　３０２

層番号　＿１、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試料採取位置 KP＿＿＿ k＿＿＿　（KPが未定の場合　No.　＿＿＿＿＋＿＿）

供試体数　＿＿　　ＡＡＳＨＴＯ土質分類　＿＿＿

含水比　＿３３.５％　　乾燥密度　１.３７４ g/cm³

試験の結果

側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿

回帰式　　log E = log A + B x log(stress)

A = ＿＿＿＿.＿ 10^3kg/cm²　B = ＿.＿＿

様式A－2－2　弾性係数の測定（路床土）　　調査区間番号　3 0 2

層番号　＿2、＿＿、＿＿　（様式A－1－3参照）

試料採取位置 KP＿＿＿k＿＿＿（KPが未定の場合　No.　＿＿＿＿＋＿＿）

供試体数　＿2　　AASHTO土質分類　＿＿＿

含水比　＿32.8 %　　乾燥密度　1.397 g/cm³

試験の結果

側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
0.42	0.51	2139
0.22	0.29	2034
0.11	0.18	1917
0.42	0.57	1904
0.23	0.37	1609
0.11	0.26	1625
0.41	0.71	1595
0.22	0.52	1334
0.12	0.41	1353
0.43	1.00	1481
0.23	0.78	1327
0.12	0.69	1290
0.42	1.11	1398
0.23	0.92	1308
0.12	0.82	1259
＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿

回帰式　$\log E = \log A + B \times \log(\text{stress})$

$A = 1520.7\ 10^3\ kg/cm^2$　$B = -0.012$

様式Ａ－２－２　弾性係数の測定（路床土）　　調査区間番号　３０２

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試料採取位置 KP＿＿＿ｋ＿＿＿（KPが未定の場合　No.　＿＿＿＿＋＿＿）

供試体数　＿２　　ＡＡＳＨＴＯ土質分類　＿＿＿

含水比　＿４２．７％　　乾燥密度　１．５８８ g/cm³

試験の結果

側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
＿０．４３	＿０．５０	２３１０
＿０．２３	＿０．３２	２０２５
＿０．１３	＿０．２３	１９０９
＿０．４３	＿０．５９	２２１７
＿０．２３	＿０．４０	１７９５
＿０．１２	＿０．２８	１６９０
＿０．４３	＿０．７３	１８７７
＿０．２３	＿０．５３	１６１７
＿０．１２	＿０．４２	１６１８
＿０．４２	＿０．９９	１９８３
＿０．２３	＿０．７９	１６５９
＿０．１２	＿０．６８	１６９７
＿０．４２	＿１．１１	２１７３
＿０．２３	＿０．９２	１７３８
＿０．１２	＿０．６９	１７４７
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿

回帰式　　log E = log A + B x log(stress)

A =　１８４６．７ 10^3kg/cm²　B =　０．１２８

様式Ａ－３－１　路盤材料の特性値　　調査区間番号　３０２

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

最大乾燥密度　２．３１０ g/cm³　最適含水比　＿４．１ %

最大乾燥密度の算出方法　１

現場乾燥密度　２．２７２ g/cm³　現場含水比　＿４．５ %

最大乾燥密度比　＿９８．４ %　最適含水比との比　１０９．８ %

平板載荷試験　＿４３．８ kg/cm³

425μmふるい通過量　＿＿．＿ %　75μmふるい通過量　＿＿．＿ %

路盤材料の修正ＣＢＲ　１０６．０

路盤材料の一軸圧縮強度　＿＿．＿ kg/cm²

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿

＿　＿＿＿

＿　＿＿＿

様式Ａ－３－１　路盤材料の特性値　　調査区間番号　３０２

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

最大乾燥密度　２．２９２ g/cm³　最適含水比　＿６．０ %

最大乾燥密度の算出方法　１

現場乾燥密度　２．２６１ g/cm³　現場含水比　＿６．５ %

最大乾燥密度比　＿９８．６ %　最適含水比との比　１０８．３ %

平板載荷試験　＿４２．１ kg/cm³

425μmふるい通過量　１９．４ %　75μmふるい通過量　＿４．８ %

路盤材料の修正ＣＢＲ　１２０．０

路盤材料の一軸圧縮強度　＿＿．＿ kg/cm²

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

様式A－3－2　弾性係数の測定（路盤）　　調査区間番号　302

層番号　＿4、＿＿、＿＿　（様式A－1－3参照）

供試体数　＿2　含水比　＿＿4.1％　乾燥密度　2.294 g/cm³

試験の結果	側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
	1.38	1.53	4786
	1.37	2.05	4216
	1.36	2.75	3829
	1.06	1.22	4572
	1.06	1.73	3672
	1.06	2.44	3463
	0.70	0.77	3500
	0.71	1.06	3188
	0.71	1.75	2866
	0.36	0.44	3000
	0.36	0.70	2179
	0.38	1.42	2201
	0.13	0.21	2310
	0.13	0.48	1847
	0.13	0.82	1961
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿

回帰式　$\log E = \log A + B \times \log(\text{stress})$

A = 2290.9 10^3kg/cm²　B = 0.345

様式A－3－2　弾性係数の測定（路盤）　　調査区間番号　302

層番号　＿5、＿＿、＿＿　（様式A－1－3参照）

供試体数　＿2　含水比　＿＿2.3％　乾燥密度　2.311 g/cm³

試験の結果	側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
	1.40	1.54	4667
	1.40	2.09	3219
	1.38	2.77	2955
	1.07	1.23	4571
	1.06	1.77	2861
	1.06	2.44	2626
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	0.71	1.09	2982
	0.71	1.76	2232
	0.38	0.75	2104
	0.39	1.43	1779
	0.10	0.21	2200
	0.09	0.46	1482
	0.10	0.78	1512
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿

回帰式　$\log E = \log A + B \times \log(\text{stress})$

A = 1955.4 10^3kg/cm²　B = 0.301

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　３０２

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類　１　１００　　細骨材の種類　２　１００

＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

粗骨材の岩質　＿９　　フィラーの種類　＿

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿．＿	2.36mm	＿４２．０
37.5mm	１００．０	600μm	＿２３．９
26.5mm	＿８５．９	300μm	＿１８．７
19mm	＿８０．１	150μm	＿１１．５
13.2mm	＿６７．１	75μm	＿＿７．４
4.75mm	＿５０．９		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	＿．＿＿＿ g/cm³	細骨材１（粗砂）	＿．＿＿＿ g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	＿．＿＿＿ g/cm³	細骨材２（中砂）	＿．＿＿＿ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	＿．＿＿＿ g/cm³	細骨材３（細砂）	＿．＿＿＿ g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	＿．＿＿＿ g/cm³	フィラー	＿．＿＿＿ g/cm³
スクリーニングス	２．６６０ g/cm³	クラッシャラン	２．６９２ g/cm³

合成密度　２．６８７ g/cm³　有効密度　２．７４３ g/cm³

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　３０２

層番号　＿７、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類		細骨材の種類	
1	１００	1	＿５９
＿	＿＿＿	2	＿４１
＿	＿＿＿	＿	＿＿＿
＿	＿＿＿	＿	＿＿＿

粗骨材の岩質　１２　　フィラーの種類　１

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿.＿	2.36mm	＿３０.５
37.5mm	＿＿＿.＿	600μm	＿１７.４
26.5mm	１００.０	300μm	＿１３.１
19mm	＿９８.９	150μm	＿＿７.９
13.2mm	＿７９.０	75μm	＿＿４.９
4.75mm	＿４５.１		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	＿.＿＿＿ g/cm³	細骨材１（粗砂）	２.６１３ g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	２.６８６ g/cm³	細骨材２（中砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	２.６７３ g/cm³	細骨材３（細砂）	２.４６９ g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	２.６５９ g/cm³	フィラー	２.７４９ g/cm³
スクリーニングス	２.６６０ g/cm³	クラッシャラン	＿.＿＿＿ g/cm³

合成密度　２.６５８ g/cm³　有効密度　２.７２２ g/cm³

様式A－4－1　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　3 0 2

層番号　＿8、＿＿、＿＿　（様式A－1－3参照）

粗骨材の種類　1　1 0 0
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

細骨材の種類　1　＿5 7
2　＿4 3
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

粗骨材の岩質　1 2

フィラーの種類　1

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿.＿	2.36mm	＿4 2.0
37.5mm	＿＿＿.＿	600μm	＿2 4.2
26.5mm	1 0 0.0	300μm	＿1 8.2
19mm	＿9 9.0	150μm	＿1 0.5
13.2mm	＿8 1.1	75μm	＿＿6.2
4.75mm	＿5 3.0		

骨材のかさ密度

粗骨材1（4号砕石）	＿.＿＿＿ g/cm³	細骨材1（粗砂）	2.6 1 3 g/cm³
粗骨材2（5号砕石）	2.6 8 6 g/cm³	細骨材2（中砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材3（6号砕石）	2.6 7 3 g/cm³	細骨材3（細砂）	2.4 6 9 g/cm³
粗骨材4（7号砕石）	2.6 5 9 g/cm³	フィラー	＿.＿＿＿ g/cm³
スクリーニングス	2.6 6 0 g/cm³	クラッシャラン	＿.＿＿＿ g/cm³

合成密度　2.6 5 1 g/cm³　有効密度　2.7 2 3 g/cm³

様式Ａ－４－２　アスファルトの性状（原アスファルト）　調査区間番号　３０２

層番号　＿６、＿＿、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

針入度区分　＿６０～＿８０

アスファルトの製造元　昭和シェル石油

密度　１．０３０ g/cm³

60℃粘度　＿＿２５２０ poise

135℃粘度　＿３８０ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒１００＋

4℃伸度　＿０．５　cm

4℃伸度の伸長速度　＿５　cm/min

25℃針入度　＿７３

4℃針入度　＿２５

軟化点　＿４９℃

添加剤　商品名

添加剤の添加量　＿＿＿ %

様式Ａ－４－２　アスファルトの性状（原アスファルト）　調査区間番号　３０２

層番号　＿７、＿８、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

針入度区分　＿４０～＿６０

アスファルトの製造元　昭和シェル石油

密度　１.０３０ g/cm³

60℃粘度　＿＿３２３０ poise

135℃粘度　＿４８０ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０.５　cm

4℃伸度の伸長速度　＿５　cm/min

25℃針入度　＿５１

4℃針入度　＿２２

軟化点　＿５２ ℃

添加剤　商品名

添加剤の添加量　＿＿＿ %

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　３０２

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿５４４０ poise　　135℃粘度　＿５２８ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０．５ cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５ cm/min

25℃針入度　＿３８　　4℃針入度　＿＿＿

軟化点　＿５５ ℃

質量変化率　０．０２

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿４２　　4℃針入度　＿２３

60℃粘度　＿＿７２５０ poise　　135℃粘度　＿７３５ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　３０２

層番号　＿７、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿６７４０ poise　　135℃粘度　＿６５４ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０．５ cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５　cm/min

25℃針入度　＿３４　　4℃針入度　＿１３

軟化点　＿５７ ℃

質量変化率　０．０１

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿４３　　4℃針入度　＿２１

60℃粘度　＿＿５６６０ poise　　135℃粘度　＿６９６ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　３０２

層番号　＿８、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿６７４０ poise　　135℃粘度　＿６５４ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０．５　cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５　cm/min

25℃針入度　＿３４　　4℃針入度　＿１３

軟化点　＿５７ ℃

質量変化率　０．０１

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿４０　　4℃針入度　＿２５

60℃粘度　＿＿６２４０ poise　　135℃粘度　＿６７２ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

様式A－4－4　アスファルト混合物の性状（配合試験1）調査区間番号　3 0 2

層番号　＿6、＿＿、＿＿　（様式A－1－3参照）

かさ密度　2.392 g/cm³

最大比重（理論密度）　2.572 g/cm³

アスファルト量　4.0 %

空隙率　＿7.0 %

骨材間隙率　16.3 %

有効アスファルト量　＿4.0 %

突き固め回数　＿＿回

マーシャル安定度　1030 kg

フロー値　＿28 (1/100cm)

ビーム安定度　＿39.0

ビーム粘着度　＿295.0

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　３０２

層番号　＿７、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．４２１ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．５２３ g/cm³

アスファルト量　４．８ %

空隙率　＿４．０ %

骨材間隙率　１５．５ %

有効アスファルト量　＿４．８ %

突き固め回数　＿＿ 回

マーシャル安定度　１１５０ kg

フロー値　＿３０ (1/100cm)

ビーム安定度　＿４４．０

ビーム粘着度　＿３２９．０

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　３０２

層番号　＿８、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．４０９ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．５０５ g/cm³

アスファルト量　５．３ %

空隙率　＿３．８ %

骨材間隙率　１６．４ %

有効アスファルト量　＿５．３ %

突き固め回数　＿＿ 回

マーシャル安定度　１２６０ kg

フロー値　＿３０ (1/100cm)

ビーム安定度　＿３９．０

ビーム粘着度　＿３７３．０

様式Ａ－４－５　アスファルト混合物の性状（配合試験２）調査区間番号　３０２

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の剥離試験結果（剥離率）　＿２１

剥離防止材の種類　商品名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

剥離防止材の添加量　＿＿．＿％

アスファルトプラントの形式　１

ホイールトラッキング試験結果　＿＿＿＿回/mm

スパイクラベリング試験結果　＿＿＿＿mm²

様式Ａ－４－５　アスファルト混合物の性状（配合試験２）調査区間番号　３０２

層番号　＿７、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の剥離試験結果（剥離率）　＿３８

剥離防止材の種類　商品名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

剥離防止材の添加量　＿＿.＿％

アスファルトプラントの形式　１

ホイールトラッキング試験結果　４５１５回/mm

スパイクラベリング試験結果　＿＿＿＿ mm²

様式Ａ－４－５　アスファルト混合物の性状（配合試験２）調査区間番号　３　０　２

層番号　＿８、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の剝離試験結果（剝離率）　＿３　６

剝離防止材の種類　商品名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

剝離防止材の添加量　＿＿．＿％

アスファルトプラントの形式　１

ホイールトラッキング試験結果　３　２　１　７　回/mm

スパイクラベリング試験結果　＿＿＿＿ mm²

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　３０２

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３９６ g/cm³

アスファルト量　４．０ %

空隙率　＿６．８ %

骨材間隙率　１６．１ %

マーシャル安定度　１０６０ kg

フロー値　＿２８ (1/100cm)

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　３０２

層番号　＿７、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．４１９ g/cm³

アスファルト量　４．８ %

空隙率　＿４．１ %

骨材間隙率　１５．４ %

マーシャル安定度　１１９０ kg

フロー値　＿３０ (1/100cm)

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　３０２

層番号　＿８、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．４０９ g/cm³

アスファルト量　５．３ %

空隙率　＿３．８ %

骨材間隙率　１６．２ %

マーシャル安定度　１３００ kg

フロー値　＿３０ (1/100cm)

様式Ａ－４－７　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　３０２

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３５０ g/cm³

最大比重　２．５４９ g/cm³

空隙率　＿７．８ %

アスファルト量　４．０ %

骨材間隙率　１７．０ %

様式Ａ－４－７　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　３０２

層番号　＿７、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．２３１ g/cm³

最大比重　２．５３１ g/cm³

空隙率　１１．９ %

アスファルト量　４．８ %

骨材間隙率　２２．１ %

様式Ａ－４－７　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　３０２

層番号　＿８、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３３０ g/cm³

最大比重　２．５１３ g/cm³

空隙率　＿７．３ ％

アスファルト量　５．３ ％

骨材間隙率　１９．２ ％

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　３０２

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	４６２５０	２.３５６
＿＿＿	＿＿５.０	５０８００	２.３３２
＿＿＿	＿＿５.０	４１９００	２.３６２
＿＿＿	＿２５.０	１８８００	２.３５６
＿＿＿	＿２５.０	２０２００	２.３３２
＿＿＿	＿２５.０	１９２００	２.３６２
＿＿＿	＿４０.０	＿４０２５	２.３５６
＿＿＿	＿４０.０	＿４４１５	２.３３２
＿＿＿	＿４０.０	＿６０００	２.３６２
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　３０２

層番号　＿７、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	４５７００	２.２４７
＿＿＿	＿＿５.０	４５３００	２.２４２
＿＿＿	＿＿５.０	４３６００	２.２０５
＿＿＿	＿２５.０	１２３００	２.２４７
＿＿＿	＿２５.０	２０５００	２.２４２
＿＿＿	＿２５.０	１３８００	２.２０５
＿＿＿	＿４０.０	＿５８６５	２.２４７
＿＿＿	＿４０.０	＿５５４０	２.２４２
＿＿＿	＿４０.０	＿５６４０	２.２０５
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　３０２

層番号　＿８、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	６１８５０	２.３４１
＿＿＿	＿＿５.０	６００５０	２.３３７
＿＿＿	＿＿５.０	６８８５０	２.３１２
＿＿＿	＿２５.０	１８３５０	２.３４１
＿＿＿	＿２５.０	２３８５０	２.３３７
＿＿＿	＿２５.０	２４２５０	２.３１２
＿＿＿	＿４０.０	＿５６９０	２.３４１
＿＿＿	＿４０.０	＿５５３０	２.３３７
＿＿＿	＿４０.０	＿５９２５	２.３１２
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　３０２

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２４.１
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２４.６
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２３.５
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿７.３
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿６.９
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿６.９
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.４
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.５
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.７
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

様式A－4－9　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　302

層番号　＿7、＿＿、＿＿　（様式A－1－3参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿5.0	＿＿15.1
＿＿＿	＿＿5.0	＿＿22.1
＿＿＿	＿＿5.0	＿＿15.3
＿＿＿	＿25.0	＿＿＿3.2
＿＿＿	＿25.0	＿＿＿6.0
＿＿＿	＿25.0	＿＿＿4.9
＿＿＿	＿40.0	＿＿＿1.6
＿＿＿	＿40.0	＿＿＿1.4
＿＿＿	＿40.0	＿＿＿1.5
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿50.0　mm/min

試験方法　1

様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　３０２

層番号　＿８、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿３０.９
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２６.２
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２８.０
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿７.１
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿９.１
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿６.９
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.９
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.２
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.２
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

ＳＨＲＰ

新基準調査

初期調査データ

５１号　佐原バイパス

様式Ａ－１－１　一般データ　　調査区間番号　３０３

地建番号　３

報告年月　平成＿２　年＿４　月

担当部局　関東地方建設局　千葉国道工事事務所　　内線＿＿＿＿

調査区間の地名　千葉県佐原市玉造

路線番号　＿５１

調査種別　＿

調査方向　□上り　☒下り

距離標　＿４９ｋ２６０～＿４９ｋ５００

（ＫＰ未定の場合No.＿＿＿＿＋＿＿～＿＿＿＿＋＿＿）

様式Ａ－１－２　舗装構造データ　　調査区間番号　３０３

舗装の種別　１

調査方向の車線数　２

車線幅　３５０　cm

調査対象車線　第　２　車線

路肩の幅　＿２５　cm

路肩の路面の種類　３

路肩の路盤の種類　２３，２５

路肩の表層・基層の厚さ　２５　cm

路肩の路盤の厚さ　＿４０　cm

地下排水工の種類　１，＿

縦断方向の配水管の内径　＿＿＿＿　mm

排水工の位置　＿

配水管の間隔　＿＿＿＿　cm

様式Ａ－１－３　舗装構成データ　　調査区間番号　３０３

層の数　６

番号	層の名称	層の厚さ（mm）				材料
		最　大	最　小	平　均	標準偏差	
1	7	― ― ― ―	― ― ― ―	― ― ― ―	― ―.― ―	5 3
2	6	2 7 0	2 7 0	2 7 0	0.0 0	2 3
3	5	1 6 0	1 4 5	1 5 1	3.7 4	2 5
4	4	1 1 5	― 9 8	1 0 4	6.0 5	3 1
5	4	1 0 8	― 9 4	1 0 1	4.7 3	2
6	3	― 6 0	― 5 0	― 5 3	2.7 8	1
7	― ―	― ― ― ―	― ― ― ―	― ― ― ―	― ―.― ―	― ―
8	― ―	― ― ― ―	― ― ― ―	― ― ― ―	― ―.― ―	― ―
9	― ―	― ― ― ―	― ― ― ―	― ― ― ―	― ―.― ―	― ―
10	― ―	― ― ― ―	― ― ― ―	― ― ― ―	― ―.― ―	― ―
11	― ―	― ― ― ―	― ― ― ―	― ― ― ―	― ―.― ―	― ―
12	― ―	― ― ― ―	― ― ― ―	― ― ― ―	― ―.― ―	― ―

舗装の等値換算厚 T_A　　３４.５ cm

舗装厚Ｈ　　６５.０ cm

高支持力層までの深さ　　― ― ― m

盛土厚さ　　― ― ― ― cm

様式A－1－4　施工関係データ　　調査区間番号　3 0 3

施工年月　平成 _ 2 年 _ 3 月

交通開放（予定）年月　平成 _ 2 年 _ 8 月

施工費用　_ _ 2 5 百万円／km・車線

打換え年月　平成 _ _ 年 _ _ 月

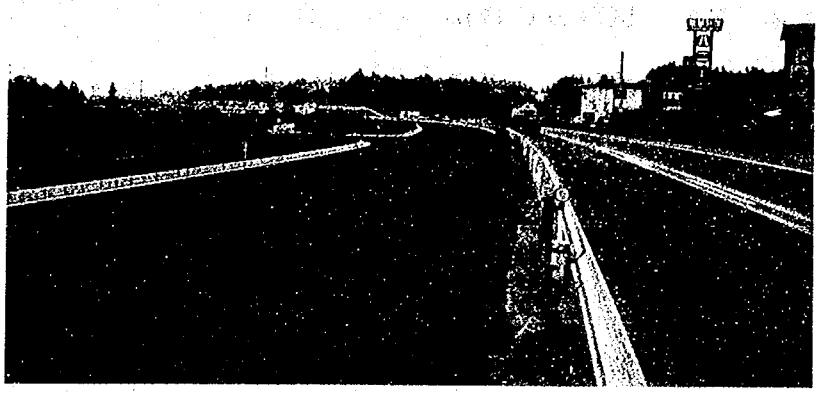
拡幅年月　平成 _ _ 年 _ _ 月

当初の車線数　_ 車線

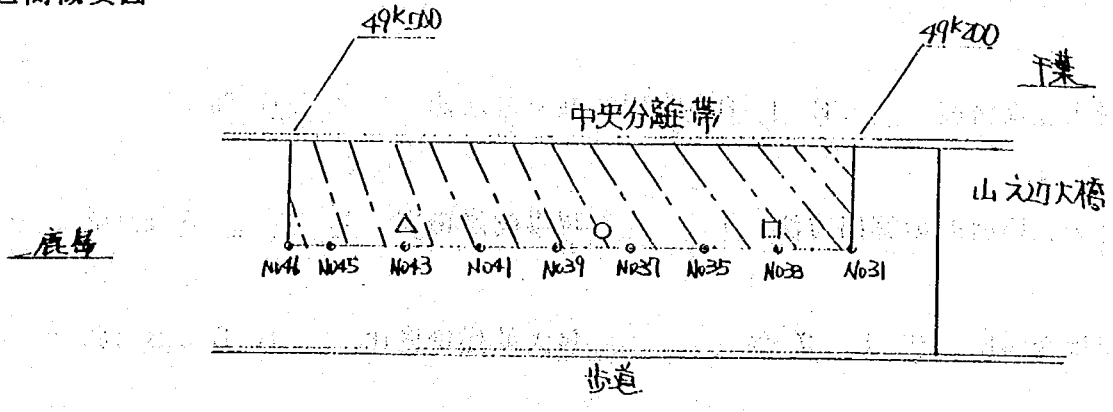
最終的な車線数　_ 車線

追加車線数　_ 車線

様式Ａ－１－５　調査区間概要図　　調査区間番号　３０３



調査区間概要図



採取位置

○ 路床土

□ 下尻路盤材

△ 上尻路盤材

路床路盤材料の採取位置を示すこと。

様式Ａ－２－１　路床土に関する基礎データ　　調査区間番号　３０３

層番号　＿１、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

土質分類　＿ＳＭ　　ＡＡＳＨＴＯ土質分類　Ａ２７

ＣＢＲ　平均値　＿＿８．８　区間のＣＢＲ　＿＿８．０

Ｓ値　＿５．８８　Ｋ値　＿１７．９ kg/cm³

75μmふるい通過量　２３．０ %

塑性限界　＿＿．＿ %　液性限界　＿＿．＿ %

塑性指数　ＮＰ．＿ %

最大乾燥密度　１．６１８ g/cm³　最適含水比　２３．０ %

最大乾燥密度の算出方法　１　現場乾燥密度　１．４５５ g/cm³

現場含水比　２１．７ %　最大乾燥密度比　＿８９．８ %

最適含水比との比　＿９４．３ %　凍上性区分　６

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

様式Ａ－２－２　弾性係数の測定（路床土）　　調査区間番号　３０３

層番号　＿１、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試料採取位置 KP＿４９ｋ３４０（KPが未定の場合　No.　＿＿＿＿＋＿＿）

供試体数　＿２　　ＡＡＳＨＴＯ土質分類　＿＿＿

含水比　＿１４．８％　　乾燥密度　１．８８１ g/cm³

試験の結果	側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
	＿０．４３	＿０．５１	１１４３
	＿０．２２	＿０．０９	＿６６７
	＿０．１１	＿０．１８	１００５
	＿０．４１	＿０．５６	１０３８
	＿０．２２	＿０．３６	＿８３５
	＿０．１１	＿０．２６	＿８４０
	＿０．４１	＿０．７０	＿９７５
	＿０．２２	＿０．５１	＿８１４
	＿０．１１	＿０．４０	＿８０５
	＿０．４２	＿１．００	＿９３７
	＿０．２３	＿０．７９	＿７６０
	＿０．４３	＿１．１０	＿９２８
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿

回帰式　　log E = log A + B x log(stress)

A =　＿８６８．３ 10^3kg/cm²　B =　０．０２６

様式Ａ－３－１　路盤材料の特性値　　調査区間番号　３０３

層番号　＿２、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

最大乾燥密度　２．１６０ g/cm³　最適含水比　＿３．７ ％

最大乾燥密度の算出方法　１

現場乾燥密度　２．１１４ g/cm³　現場含水比　＿３．６ ％

最大乾燥密度比　＿９７．９ ％　最適含水比との比　＿９７．３ ％

平板載荷試験　＿２６．４ kg/cm³

425μmふるい通過量　＿＿．＿ ％　75μmふるい通過量　＿＿．＿ ％

路盤材料の修正ＣＢＲ　＿７４．０

路盤材料の一軸圧縮強度　＿＿．＿ kg/cm²

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

様式Ａ－３－１　路盤材料の特性値　　調査区間番号　３０３

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

最大乾燥密度　２．２３８ g/cm³　最適含水比　＿５．９％

最大乾燥密度の算出方法　１

現場乾燥密度　２．１９１g/cm³　現場含水比　＿６．３％

最大乾燥密度比　＿９７．９％　最適含水比との比　１０６．７％

平板載荷試験　＿２６．６ kg/cm³

425μmふるい通過量　１９．６％　75μmふるい通過量　＿４．０％

路盤材料の修正ＣＢＲ　１１８．０

路盤材料の一軸圧縮強度　＿＿．＿ kg/cm²

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿
　　＿　＿＿＿
　　＿　＿＿＿

様式Ａ－３－２　弾性係数の測定（路盤）　　調査区間番号　３０３

層番号　＿２、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

供試体数　＿２　含水比　＿＿１．９％　乾燥密度　２．１１３ g/cm³

試験の結果	側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
	＿１．３９	＿１．５４	６０００
	＿１．３８	＿２．０７	４６９１
	＿１．３７	＿２．７５	４１２３
	＿１．０６	＿１．２１	５０００
	＿１．０６	＿１．７５	４００１
	＿１．０６	＿２．４５	３７４６
	＿０．７１	＿０．７８	４６６０
	＿０．７１	＿１．０５	４０２１
	＿０．７１	＿１．７６	３１５９
	＿０．３７	＿０．４４	３５００
	＿０．３７	＿０．７３	３１５８
	＿０．３８	＿１．４２	２４４７
	＿０．１１	＿０．１８	２８００
	＿０．１２	＿０．４８	２２４４
	＿０．１３	＿０．８２	２１８２
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿

回帰式　$\log E = \log A + B \times \log(\text{stress})$

$A =$ ２７１５．５ $10^3 kg/cm^2$　$B =$ ０．３２７

様式Ａ－３－２　弾性係数の測定（路盤）　　調査区間番号　３０３

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

供試体数　＿２　含水比　＿＿４．０％　乾燥密度　２．２５４ g/cm³

試験の結果	側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
	＿１．３７	＿１．５３	４４２９
	＿１．３７	＿２．０６	３５６０
	＿１．３６	＿２．７４	３８４８
	＿１．０６	＿１．２２	４５７２
	＿１．０６	＿１．７５	３１５０
	＿１．０６	＿２．４４	３４３８
	＿０．６９	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿０．６９	＿１．０４	４００４
	＿０．７０	＿１．７４	２９５０
	＿０．３７	＿０．４６	３６００
	＿０．３８	＿０．７３	２５０４
	＿０．３９	＿１．４３	２４３３
	＿０．１３	＿０．２２	２２５０
	＿０．１１	＿０．４７	２０３０
	＿０．１２	＿０．８１	２１４１
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿

回帰式　$\log E = \log A + B \times \log(\text{stress})$

A = ２４９１．１ 10^3kg/cm²　B = ０．７５７

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　３０３

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類　１　１００　　細骨材の種類　１　＿６９
＿　＿＿　　２　＿３１
＿　＿＿　　＿　＿＿
＿　＿＿　　＿　＿＿

粗骨材の岩質　１２　　フィラーの種類　１

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	１００.０	2.36mm	＿４１.８
37.5mm	１００.０	600μm	＿２７.５
26.5mm	＿９５.７	300μm	＿１４.０
19mm	＿７７.８	150μm	＿＿６.０
13.2mm	＿６９.７	75μm	＿＿４.２
4.75mm	＿５３.５		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	２.６７６ g/cm³	細骨材１（粗砂）	２.５５７ g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	２.６５８ g/cm³	細骨材２（中砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	２.６５０ g/cm³	細骨材３（細砂）	２.５０４ g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	２.６４６ g/cm³	フィラー	２.６９０ g/cm³
スクリーニングス	２.６０４ g/cm³	クラッシャラン	＿.＿＿＿ g/cm³

合成密度　２.６１４ g/cm³　有効密度　２.６９２ g/cm³

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　３０３

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類　１　１００　　細骨材の種類　１　＿５２
　　－　－－－　　２　＿４８
　　－　－－－　　－　－－－
　　－　－－－　　－　－－－

粗骨材の岩質　１２　　フィラーの種類　１

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	１００．０	2.36mm	＿２８．４
37.5mm	１００．０	600μm	＿１７．２
26.5mm	１００．０	300μm	＿＿９．６
19mm	＿９８．０	150μm	＿＿５．１
13.2mm	＿７９．７	75μm	＿＿３．８
4.75mm	＿４５．０		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	＿．＿＿ g/cm³	細骨材１（粗砂）	２．５５７ g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	２．６５８ g/cm³	細骨材２（中砂）	＿．＿＿ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	２．６５０ g/cm³	細骨材３（細砂）	２．５０４ g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	２．６４６ g/cm³	フィラー	２．６９０ g/cm³
スクリーニングス	２．６０４ g/cm³	クラッシャラン	＿．＿＿ g/cm³

合成密度　２．６２８ g/cm³　有効密度　２．６８９ g/cm³

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　３０３

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類		細骨材の種類	
1	100	1	58
―	―	2	42
―	―	―	―
―	―	―	―

粗骨材の岩質　12　　フィラーの種類　1

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	100.0	2.36mm	42.1
37.5mm	100.0	600μm	25.4
26.5mm	100.0	300μm	14.3
19mm	98.2	150μm	7.5
13.2mm	81.9	75μm	5.6
4.75mm	55.7		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	＿.＿＿ g/cm³	細骨材１（粗砂）	2.557 g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	2.658 g/cm³	細骨材２（中砂）	＿.＿＿ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	2.650 g/cm³	細骨材３（細砂）	2.504 g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	2.646 g/cm³	フィラー	2.690 g/cm³
スクリーニングス	2.604 g/cm³	クラッシャラン	＿.＿＿ g/cm³

合成密度　2.616 g/cm³　有効密度　2.688 g/cm³

様式Ａ－４－２　アスファルトの性状（原アスファルト）　調査区間番号　３０３

層番号　＿４、＿＿、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

針入度区分　＿６０～＿８０

アスファルトの製造元　コスモ石油(株)　千葉製油所（市原市姉ヶ崎）

密度　１.０３５ g/cm³

60℃粘度　＿＿２４００ poise

135℃粘度　＿４６０ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００+

4℃伸度　＿０.５　cm

4℃伸度の伸長速度　＿５　cm/min

25℃針入度　＿７１

4℃針入度　＿２７

軟化点　＿５０ ℃

添加剤　商品名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

添加剤の添加量　＿＿＿ %

様式Ａ－４－２　アスファルトの性状（原アスファルト）　調査区間番号　３０３

層番号　＿５、＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

針入度区分　＿４０～＿６０

アスファルトの製造元　コスモ石油(株)　千葉製油所（市原市姉ヶ崎）

密度　１．０３５ g/cm³

60℃粘度　＿＿２３２０ poise

135℃粘度　＿７２０ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０．５　cm

4℃伸度の伸長速度　＿５　cm/min

25℃針入度　＿５２

4℃針入度　＿２９

軟化点　＿５１℃

添加剤　商品名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

添加剤の添加量　＿＿＿％

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　３０３

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿５０２０ poise　　135℃粘度　＿６３９ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０．５ cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５ cm/min

25℃針入度　＿４４　　4℃針入度　＿２５

軟化点　＿５４ ℃

質量変化率　０．０８

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿３３　　4℃針入度　＿１５

60℃粘度　＿＿６０２０ poise　　135℃粘度　＿６８８ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　３０３

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿４７３０ poise　　135℃粘度　＿６３２ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０.５ cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５ cm/min

25℃針入度　＿４６　　4℃針入度　＿２６

軟化点　＿５４ ℃

質量変化率　０.０９

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿３４　　4℃針入度　＿１５

60℃粘度　＿＿４１９０ poise　　135℃粘度　＿６４９ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　３０３

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿４７３０ poise　　135℃粘度　＿６３２ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０.５　cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５　cm/min

25℃針入度　＿４６　　4℃針入度　＿２６

軟化点　＿５４ ℃

質量変化率　０.０９

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿３５　　4℃針入度　＿１８

60℃粘度　＿＿４３１０ poise　　135℃粘度　＿６４４ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　３０３

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３７１ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．５３０ g/cm³

アスファルト量　４．０ %

空隙率　＿６．３ %

骨材間隙率　１５．５ %

有効アスファルト量　＿４．０ %

突き固め回数　５０ 回

マーシャル安定度　＿６３５ kg

フロー値　＿２４ (1/100cm)

ビーム安定度　＿４５．０

ビーム粘着度　＿３４０．２

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　３０３

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．４０４ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．５０５ g/cm³

アスファルト量　４．６ %

空隙率　＿４．０ %

骨材間隙率　１４．７ %

有効アスファルト量　＿４．０ %

突き固め回数　７５ 回

マーシャル安定度　＿９７０ kg

フロー値　＿２７ (1/100cm)

ビーム安定度　＿４２．７

ビーム粘着度　＿２９５．７

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　３０３

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３８７ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．４８２ g/cm³

アスファルト量　５．２ %

空隙率　＿３．８ %

骨材間隙率　１５．８ %

有効アスファルト量　＿５．２ %

突き固め回数　７５ 回

マーシャル安定度　１０４０ kg

フロー値　＿２６ (1/100cm)

ビーム安定度　＿３３．６

ビーム粘着度　＿２３８．２

様式Ａ－４－５　アスファルト混合物の性状（配合試験２）調査区間番号　３０３

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の剥離試験結果（剥離率）　＿１０

剥離防止材の種類　商品名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

剥離防止材の添加量　＿＿．＿％

アスファルトプラントの形式　１

ホイールトラッキング試験結果　２１８８　回/mm

スパイクラベリング試験結果　＿＿＿＿　mm²

様式Ａ－４－５　アスファルト混合物の性状（配合試験２）調査区間番号　３　０　３

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の剝離試験結果（剝離率）　＿１　１

剝離防止材の種類　商品名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

剝離防止材の添加量　＿＿．＿％

アスファルトプラントの形式　１

ホイールトラッキング試験結果　２　６　０　９　回/mm

スパイクラベリング試験結果　＿＿＿＿ mm²

様式Ａ－４－５　アスファルト混合物の性状（配合試験２）調査区間番号　３　０　３

層番号　＿　６　、＿　＿　、＿　＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の剝離試験結果（剝離率）　＿　＿　７

剝離防止材の種類　商品名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

剝離防止材の添加量　＿　＿．＿　％

アスファルトプラントの形式　１

ホイールトラッキング試験結果　１　７　５　７　回/mm

スパイクラベリング試験結果　＿　＿　＿　＿　mm²

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　３０３

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３７７ g/cm³

アスファルト量　４．１ %

空隙率　＿６．０ %

骨材間隙率　１５．２ %

マーシャル安定度　＿７５２ kg

フロー値　＿２４ (1/100cm)

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　３０３

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．４０５ g/cm³

アスファルト量　４．７ %

空隙率　＿４．０ %

骨材間隙率　１４．７ %

マーシャル安定度　＿９９１ kg

フロー値　＿２５ (1/100cm)

様式A－4－6　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　3 0 3

層番号　＿6、＿＿、＿＿　（様式A－1－3参照）

かさ密度　2.3 9 3 g/cm³

アスファルト量　5.3 %

空隙率　＿3.6 %

骨材間隙率　1 5.6 %

マーシャル安定度　1 1 0 2 kg

フロー値　＿2 7 (1/100cm)

様式Ａ－４－７　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　３０３

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３８８ g/cm³

最大比重　２．５４８ g/cm³

空隙率　　＿６．３ %

アスファルト量　４．０ %

骨材間隙率　１５．５ %

様式Ａ－４－７　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　３０３

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３０８ g/cm³

最大比重　２．５１８ g/cm³

空隙率　＿８．３ ％

アスファルト量　４．６ ％

骨材間隙率　１８．７ ％

様式Ａ－４－７　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　３０３

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３６４ g/cm³

最大比重　２．４９３ g/cm³

空隙率　＿５．２ %

アスファルト量　５．２ %

骨材間隙率　１７．１ %

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　３０３

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	６２９５０	２.３８２
＿＿＿	＿＿５.０	６０１００	２.４０２
＿＿＿	＿＿５.０	５２９５０	２.３８１
＿＿＿	＿２５.０	１９４５０	２.３８２
＿＿＿	＿２５.０	２１５００	２.４０２
＿＿＿	＿２５.０	２５６００	２.３８１
＿＿＿	＿４０.０	＿５１８５	２.３８２
＿＿＿	＿４０.０	＿４３１０	２.４０２
＿＿＿	＿４０.０	＿５７４５	２.３８１
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　３０３

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	５８５３０	２.３３３
＿＿＿	＿＿５.０	６８００００	２.２８８
＿＿＿	＿＿５.０	５０３５０	２.３０３
＿＿＿	＿２５.０	２３３５０	２.３３３
＿＿＿	＿２５.０	１９５００	２.２８８
＿＿＿	＿２５.０	１６０５０	２.３０３
＿＿＿	＿４０.０	＿２７３０	２.３３３
＿＿＿	＿４０.０	＿４０１０	２.２８８
＿＿＿	＿４０.０	＿３５４５	２.３０３
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　３０３

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	５６１５０	２.３６９
＿＿＿	＿＿５.０	５９５５０	２.３６４
＿＿＿	＿＿５.０	５０９００	２.３６０
＿＿＿	＿２５.０	２２９００	２.３６９
＿＿＿	＿２５.０	２２５５０	２.３６４
＿＿＿	＿２５.０	１７５５０	２.３６０
＿＿＿	＿４０.０	＿３９６５	２.３６９
＿＿＿	＿４０.０	＿３５７０	２.３６４
＿＿＿	＿４０.０	＿４０５０	２.３６０
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式A－4－9　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　303

層番号　＿4、＿＿、＿＿　（様式A－1－3参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿5.0	＿＿34.8
＿＿＿	＿＿5.0	＿＿29.5
＿＿＿	＿＿5.0	＿＿31.1
＿＿＿	＿25.0	＿＿＿8.5
＿＿＿	＿25.0	＿＿11.4
＿＿＿	＿25.0	＿＿11.4
＿＿＿	＿40.0	＿＿＿3.0
＿＿＿	＿40.0	＿＿＿3.8
＿＿＿	＿40.0	＿＿＿2.8
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿50.0　mm/min

試験方法　1

様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　３０３

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２０.３
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿３２.２
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２７.３
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿９.７
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿８.５
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿９.１
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.４
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.６
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.７
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　３０３

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿３４.９
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿３５.８
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿３２.０
＿＿＿	＿２５.０	＿＿１０.４
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿９.２
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿９.５
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.３
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.５
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.３
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

S H R P

新 基 準 調 査

初 期 調 査 デ ー タ

4号 新 4 号 国 道

様式Ａ－１－１　一般データ　　調査区間番号　３０４

地建番号　３

報告年月　平成　２　年　１１　月

担当部局　関東地方建設局関東技術事務所材料試験課材料試験第二係　内線　３６４

調査区間の地名　茨城県猿島郡三和町下片田地先

路線番号　　４

調査種別　１

調査方向　□上り　☒下り

距離標　１６２ｋ８０２～１６３ｋ８２

（ＫＰ未定の場合No.＿＿＿＿＋＿＿～＿＿＿＿＋＿＿）

様式Ａ－１－２　舗装構造データ　　調査区間番号　３０４

舗装の種別　１

調査方向の車線数　１

車線幅　３５０　cm

調査対象車線　第　１　車線

路肩の幅　＿７５　cm

路肩の路面の種類　３

路肩の路盤の種類　２３，２５

路肩の表層・基層の厚さ　２５　cm

路肩の路盤の厚さ　＿２５　cm

地下排水工の種類　１，＿

縦断方向の配水管の内径　＿＿＿＿　mm

排水工の位置　＿

配水管の間隔　＿＿＿＿　cm

様式A－1－3　舗装構成データ　　調査区間番号　304

層の数　8

番号	層の名称	層の厚さ（mm）				材料
		最　大	最　小	平　均	標準偏差	
1	7	― ― ― ―	― ― ― ―	― ― ― ―	― ―.― ―	51
2	7	― ― ― ―	― ― ― ―	1000	― ―.― ―	63
3	6	1165	140	153	7.00	23
4	5	110	90	102	6.00	25
5	4	― ― ― ―	― ― ― ―	100	― ―.― ―	31
6	4	― ― ― ―	― ― ― ―	50	― ―.― ―	2
7	4	― ― ― ―	― ― ― ―	50	― ―.― ―	2
8	3	― ― ― ―	― ― ― ―	50	― ―.― ―	1
9	― ―	― ― ― ―	― ― ― ―	― ― ― ―	― ―.― ―	― ―
10	― ―	― ― ― ―	― ― ― ―	― ― ― ―	― ―.― ―	― ―
11	― ―	― ― ― ―	― ― ― ―	― ― ― ―	― ―.― ―	― ―
12	― ―	― ― ― ―	― ― ― ―	― ― ― ―	― ―.― ―	― ―

舗装の等値換算厚 T_A　　30.3 cm

舗装厚H　　50.0 cm

高支持力層までの深さ　　― ― ― m

盛土厚さ　　― ― ― ― cm

様式A－1－4　施工関係データ　　調査区間番号　3 0 4

施工年月　平成 _ 2 年 _ 9 月

交通開放（予定）年月　平成 _ 2 年 1 0 月

施工費用　_ _ 4 2 百万円／km・車線

打換え年月　平成 _ _ 年 _ _ 月

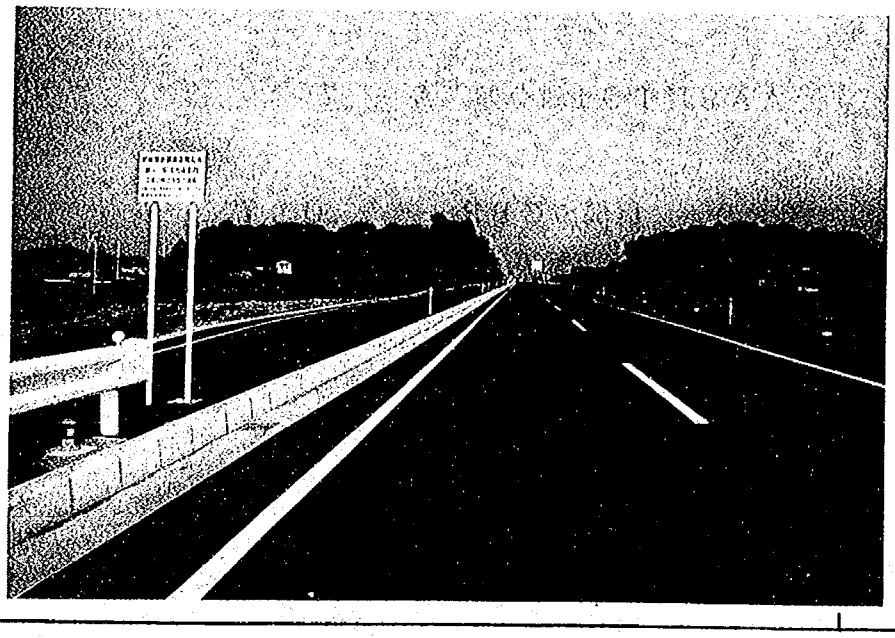
拡幅年月　　平成 _ _ 年 _ _ 月

当初の車線数　_ 車線

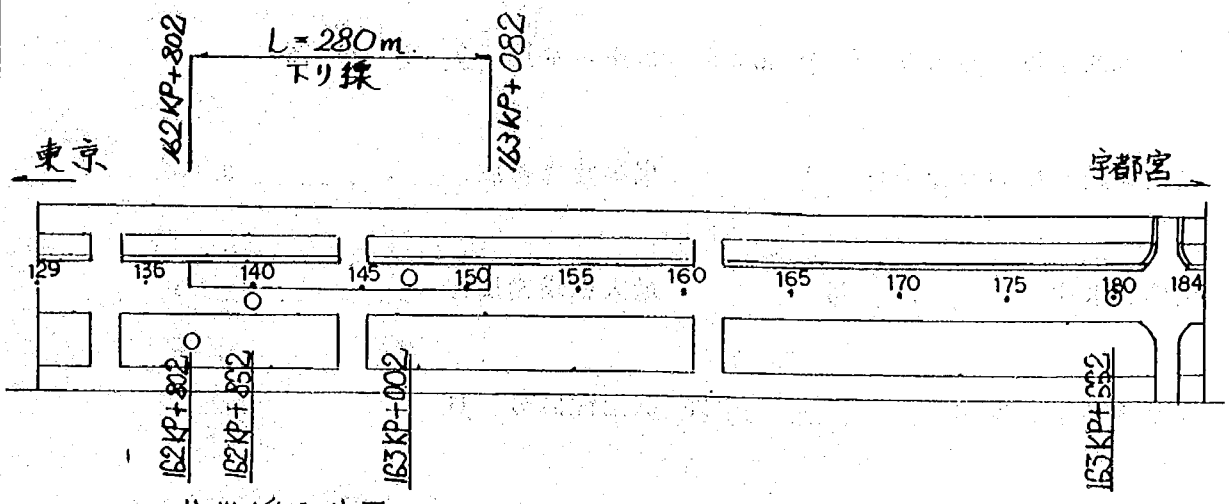
最終的な車線数　_ 車線

追加車線数　_ 車線

様式A－1－5　調査区間概要図　　調査区間番号　3 0 4



調査区間概要図



材料採取位置
○ 路床（地山）
○ 〃　（置換土）
○ 下り路盤（C40-0）
○ 上り路盤（M40-0）

路床路盤材料の採取位置を示すこと。

様式Ａ－２－１　路床土に関する基礎データ　　調査区間番号　３０４

層番号　＿１、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

土質分類　＿ＳＣ　　ＡＡＳＨＴＯ土質分類　Ａ－７

ＣＢＲ　平均値　＿＿０．９　区間のＣＢＲ　＿＿０．７

Ｓ値　＿３．１９　Ｋ値　＿＿＿．＿ kg/cm³

75μmふるい通過量　＿＿．＿ ％

塑性限界　６７．０％　液性限界　１３０．０％

塑性指数　６３．０％

最大乾燥密度　０．７８９ g/cm³　最適含水比　７２．０％

最大乾燥密度の算出方法　１　現場乾燥密度　＿．＿＿＿ g/cm³

現場含水比　＿＿．＿％　最大乾燥密度比　＿＿＿．＿％

最適含水比との比　＿＿＿．＿％　凍上性区分　６

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

様式A－2－1　路床土に関する基礎データ　　調査区間番号　3 0 4

層番号　＿2、＿＿、＿＿　（様式A－1－3参照）

土質分類　＿GW　　AASHTO土質分類　A 1 a

CBR　平均値　＿56.9　区間のCBR　＿12.7

S値　＿3.15　K値　＿16.0 kg/cm³

75μmふるい通過量　＿2.5 %

塑性限界　＿＿.＿ %　液性限界　＿＿.＿ %

塑性指数　＿＿.＿ %

最大乾燥密度　2.165 g/cm³　最適含水比　＿4.1 %

最大乾燥密度の算出方法　1　現場乾燥密度　2.185 g/cm³

現場含水比　＿4.1 %　最大乾燥密度比　100.9 %

最適含水比との比　100.0 %　凍上性区分　2

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

様式Ａ－２－２　弾性係数の測定（路床土）　　調査区間番号　３０４

層番号　＿１、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試料採取位置 KP１６２ｋ８０２（KPが未定の場合　No.　＿＿＿＿＋＿＿）

供試体数　＿２　　ＡＡＳＨＴＯ土質分類　＿＿＿

含水比　＿＿８．４％　　乾燥密度　２．０４４ g/cm³

試験の結果	側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
	０．２０	０．３５	７８０
	０．００	０．１４	７５２
	０．４２	０．６９	４６８
	０．２１	０．４８	７７６
	０．００	０．２８	６３０
	０．４１	０．９６	７７７
	０．２１	０．７６	７３４
	０．０１	０．５５	１０３５
	０．４１	１．１０	７９２
	０．２２	０．９１	８９１
	０．００	０．６９	８３６
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿

回帰式　　log E = log A + B x log(stress)

A = ＿７３２．３ 10^3kg/cm²　B = ０．０２５

様式Ａ－２－２　弾性係数の測定（路床土）　　調査区間番号　３０４

層番号　＿２、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試料採取位置 KP１６３ｋ６６２　（KPが未定の場合　No.　＿＿＿＿＋＿＿）

供試体数　＿２　　ＡＡＳＨＴＯ土質分類　＿＿＿

含水比　＿＿７．３％　　乾燥密度　１．９２９ g/cm³

試験の結果

側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿

回帰式　　log E = log A + B x log(stress)

A = ＿＿＿＿．＿ 10^3kg/cm²　B = ＿．＿＿

様式Ａ－３－１　路盤材料の特性値　　調査区間番号　３０４

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

最大乾燥密度　２．２０８ g/cm³　最適含水比　＿４．８ %

最大乾燥密度の算出方法　１

現場乾燥密度　２．１６０ g/cm³　現場含水比　＿３．１ %

最大乾燥密度比　＿９７．８ %　最適含水比との比　＿６４．６ %

平板載荷試験　＿２２．７ kg/cm³

425μmふるい通過量　＿５．０ %　75μmふるい通過量　＿２．１ %

路盤材料の修正ＣＢＲ　＿８６．０

路盤材料の一軸圧縮強度　＿＿．＿ kg/cm²

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿
　　＿　＿＿＿
　　＿　＿＿＿

様式Ａ－３－１　路盤材料の特性値　　調査区間番号　３０４

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

最大乾燥密度　２．２６２ g/cm³　最適含水比　＿５．７ %

最大乾燥密度の算出方法　１

現場乾燥密度　２．２２４ g/cm³　現場含水比　＿３．１ %

最大乾燥密度比　＿９８．３ %　最適含水比との比　＿５４．４ %

平板載荷試験　＿４０．０ kg/cm³

425μmふるい通過量　＿２．６ %　75μmふるい通過量　＿１．７ %

路盤材料の修正ＣＢＲ　１１３．０

路盤材料の一軸圧縮強度　＿＿．＿ kg/cm²

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿
　　＿　＿＿＿
　　＿　＿＿＿

様式Ａ－３－２　弾性係数の測定（路盤）　　調査区間番号　３０４

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

供試体数　＿２　含水比　＿＿５．１％　乾燥密度　２．１８５ g/cm³

試験の結果	側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
	＿１．３９	＿１．５２	３６２５
	＿１．３９	＿１．７６	３５５１
	＿１．３７	＿２．０６	３５１７
	＿１．３７	＿２．４１	３４０２
	＿１．３８	＿２．７５	３４２３
	＿１．０４	＿１．１８	２９６７
	＿１．０４	＿１．３９	２９０７
	＿１．０４	＿１．７３	２９７２
	＿１．０４	＿２．０７	２９１５
	＿１．０４	＿２．４１	３１０９
	＿０．６９	＿０．８３	２３７８
	＿０．６９	＿１．０５	２４３７
	＿０．７０	＿１．３８	２４１７
	＿０．６９	＿１．７４	２５２７
	＿０．３６	＿０．５０	１６２５
	＿０．３５	＿０．７１	１７１６
	＿０．３５	＿１．０３	１７３７
	＿０．３５	＿１．３９	１８７９
	＿０．０７	＿０．２１	１２７３
	＿０．０７	＿０．４２	１２７１
	＿０．０８	＿０．６０	１３３９
	＿０．０７	＿０．７７	１３８０
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿

回帰式　$\log E = \log A + B \times \log(\text{stress})$

A = １５９５．８ 10^3kg/cm²　B = ０．４４６

様式Ａ－３－２　弾性係数の測定（路盤）　　調査区間番号　３０４

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

供試体数　＿２　含水比　＿＿６．８％　乾燥密度　２．２３８ g/cm³

試験の結果	側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
	＿１．３８	＿１．５２	２８７５
	＿１．３８	＿１．７３	３０７５
	＿１．３８	＿２．０７	２８３６
	＿１．３９	＿２．４３	２７５７
	＿１．３８	＿２．７６	３０４５
	＿１．０４	＿１．１８	２４７７
	＿１．０４	＿１．３８	２４０２
	＿１．０４	＿１．７３	２３７６
	＿１．０４	＿２．０８	２２３６
	＿１．０４	＿２．４２	２５０７
	＿０．６８	＿０．８３	２１８８
	＿０．６９	＿１．０４	２０７５
	＿０．６９	＿１．３７	１９７４
	＿０．６９	＿１．７３	２０２６
	＿０．３５	＿０．４８	１７０７
	＿０．３５	＿０．６９	１５６８
	＿０．３５	＿１．０３	１５７４
	＿０．３５	＿１．３８	１７３７
	＿０．０７	＿０．２１	１４１７
	＿０．０７	＿０．４２	１３０９
	＿０．０８	＿０．６０	１３５６
	＿０．０８	＿０．７７	１４２１
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿

回帰式　$\log E = \log A + B \times \log(\text{stress})$

A = １５５５．９ 10^3kg/cm²　B = ０．３３２

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　３０４

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類　１　１００　　細骨材の種類　１　１００

＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

粗骨材の岩質　１２　　フィラーの種類　＿

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿．＿	2.36mm	＿４０．５
37.5mm	１００．０	600μm	＿＿＿．＿
26.5mm	＿＿＿．＿	300μm	＿＿＿．＿
19mm	＿７５．７	150μm	＿＿＿．＿
13.2mm	＿＿＿．＿	75μm	＿＿５．８
4.75mm	＿＿＿．＿		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	＿．＿＿＿ g/cm³	細骨材１（粗砂）	２．４８６ g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	＿．＿＿＿ g/cm³	細骨材２（中砂）	＿．＿＿＿ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	＿．＿＿＿ g/cm³	細骨材３（細砂）	＿．＿＿＿ g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	＿．＿＿＿ g/cm³	フィラー	＿．＿＿＿ g/cm³
スクリーニングス	＿．＿＿＿ g/cm³	クラッシャラン	２．６８０ g/cm³

合成密度　２．６１９ g/cm³　有効密度　２．７００ g/cm³

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　３０４

層番号　＿６、＿７、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類	1	1 0 0	細骨材の種類	1	1 0 0
	―	― ― ―		―	― ― ―
	―	― ― ―		―	― ― ―
	―	― ― ―		―	― ― ―

粗骨材の岩質　１２　　フィラーの種類　１

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿.＿	2.36mm	＿２７.３
37.5mm	＿＿＿.＿	600μm	＿１７.６
26.5mm	１００.０	300μm	＿１１.８
19mm	＿９９.１	150μm	＿＿７.２
13.2mm	＿７９.１	75μm	＿＿４.４
4.75mm	＿４５.４		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	＿.＿＿＿ g/cm³	細骨材１（粗砂）	２.４８６ g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	２.６８５ g/cm³	細骨材２（中砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	２.６６４ g/cm³	細骨材３（細砂）	２.５５４ g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	２.６２７ g/cm³	フィラー	２.７７６ g/cm³
スクリーニングス	＿.＿＿＿ g/cm³	クラッシャラン	＿.＿＿＿ g/cm³

合成密度　２.６３０ g/cm³　有効密度　２.７１０ g/cm³

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　３０４

層番号　＿８、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類　１　１００　　細骨材の種類　１　１００

＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

粗骨材の岩質　１２　　フィラーの種類　１

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿.＿	2.36mm	＿４１.７
37.5mm	＿＿＿.＿	600μm	＿２６.１
26.5mm	１００.０	300μm	＿１６.９
19mm	＿９９.３	150μm	＿＿９.８
13.2mm	＿８２.３	75μm	＿＿５.５
4.75mm	＿５５.７		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	＿.＿＿＿ g/cm³	細骨材１（粗砂）	２.４８６ g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	２.６８５ g/cm³	細骨材２（中砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	２.６６４ g/cm³	細骨材３（細砂）	２.５５４ g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	２.６２７ g/cm³	フィラー	２.７７６ g/cm³
スクリーニングス	＿.＿＿＿ g/cm³	クラッシャラン	＿.＿＿＿ g/cm³

合成密度　２.６０７ g/cm³　有効密度　２.７０５ g/cm³

様式Ａ－４－２　アスファルトの性状（原アスファルト）　調査区間番号　３　０　４

層番号　＿５、＿＿、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

針入度区分　＿６０～＿８０

アスファルトの製造元　コスモ石油(株)千葉製油所

密度　１．０３９ g/cm³

60℃粘度　＿＿１７５３ poise

135℃粘度　＿３４３ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０．０　cm

4℃伸度の伸長速度　＿５　cm/min

25℃針入度　＿７１

4℃針入度　＿１８

軟化点　＿４９ ℃

添加剤　商品名

添加剤の添加量　＿＿＿ %

様式Ａ－４－２　アスファルトの性状（原アスファルト）　調査区間番号　３０４

層番号　＿６、＿７、＿８、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

針入度区分　＿４０～＿６０

アスファルトの製造元　コスモ石油(株)千葉製油所

密度　１．０４２ g/cm³

60℃粘度　＿＿３１０２ poise

135℃粘度　＿４４１ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０．０　cm

4℃伸度の伸長速度　＿５　cm/min

25℃針入度　＿５４

4℃針入度　＿２４

軟化点　＿５２ ℃

添加剤　商品名

添加剤の添加量　＿＿＿ %

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　３０４

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿４２２４ poise　　135℃粘度　＿４９２ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０．０ cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５　cm/min

25℃針入度　＿４４　　4℃針入度　＿１６

軟化点　＿５１℃

質量変化率　０．０５

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿３０　　4℃針入度　＿１４

60℃粘度　＿１００３４ poise　　135℃粘度　＿６６６ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　３０４

層番号　＿６、＿７、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿５６４７ poise　　135℃粘度　＿５８０ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０．０ cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５ cm/min

25℃針入度　＿３８　　4℃針入度　＿１４

軟化点　＿５４ ℃

質量変化率　０．０７

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿３３　　4℃針入度　＿１４

60℃粘度　＿＿７２６８ poise　　135℃粘度　＿６０８ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　３０４

層番号　＿８、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿５６４７ poise　　135℃粘度　＿５８０ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０．０ cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５ cm/min

25℃針入度　＿３８　　4℃針入度　＿１４

軟化点　＿５４ ℃

質量変化率　０．０７

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿３０　　4℃針入度　＿１３

60℃粘度　＿＿８４１６ poise　　135℃粘度　＿６７３ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

様式A－4－4　アスファルト混合物の性状（配合試験1）調査区間番号　3 0 4

層番号　＿5、＿＿、＿＿　（様式A－1－3参照）

かさ密度　2.3 7 3 g/cm³

最大比重（理論密度）　2.5 3 8 g/cm³

アスファルト量　4.0 %

空隙率　＿6.5 %

骨材間隙率　1 2.8 %

有効アスファルト量　＿4.0 %

突き固め回数　5 0 回

マーシャル安定度　＿8 4 2 kg

フロー値　＿2 2 (1/100cm)

ビーム安定度　＿3 9.5

ビーム粘着度　＿2 7 8.7

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　３０４

層番号　＿６、＿７、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．４２０ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．５１７ g/cm³

アスファルト量　４．８ %

空隙率　＿３．９ %

骨材間隙率　１５．０ %

有効アスファルト量　＿４．８ %

突き固め回数　７５ 回

マーシャル安定度　１１２０ kg

フロー値　＿２７ (1/100cm)

ビーム安定度　＿４６．７

ビーム粘着度　＿２４０．９

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　３０４

層番号　＿８、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３９６ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．４９０ g/cm³

アスファルト量　５．４ ％

空隙率　＿３．８ ％

骨材間隙率　１６．２ ％

有効アスファルト量　＿５．４ ％

突き固め回数　７５ 回

マーシャル安定度　１３３１ kg

フロー値　＿２８ (1/100cm)

ビーム安定度　＿４６．０

ビーム粘着度　＿２８０．１

様式Ａ－４－５　アスファルト混合物の性状（配合試験２）調査区間番号　３０４

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の剥離試験結果（剥離率）　＿１６

剥離防止材の種類　商品名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

剥離防止材の添加量　＿＿．＿％

アスファルトプラントの形式　１

ホイールトラッキング試験結果　＿＿＿＿回/mm

スパイクラベリング試験結果　＿＿＿＿mm²

様式Ａ－４－５　アスファルト混合物の性状（配合試験２）調査区間番号　３０４

層番号　＿６、＿７、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の剝離試験結果（剝離率）　＿１１

剝離防止材の種類　商品名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

剝離防止材の添加量　＿＿．＿％

アスファルトプラントの形式　１

ホイールトラッキング試験結果　３８３０回/mm

スパイクラベリング試験結果　＿＿＿＿mm²

様式Ａ－４－５　アスファルト混合物の性状（配合試験２）調査区間番号　３０４

層番号　＿８、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の剥離試験結果（剥離率）　＿１１

剥離防止材の種類　商品名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

剥離防止材の添加量　＿＿．＿％

アスファルトプラントの形式　１

ホイールトラッキング試験結果　１３９３　回/mm

スパイクラベリング試験結果　＿＿＿＿　mm^2

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　３０４

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３５２ g/cm³

アスファルト量　４．０ %

空隙率　＿７．３ %

骨材間隙率　１６．４ %

マーシャル安定度　＿８４５ kg

フロー値　＿２２ (1/100cm)

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　３０４

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．４０７ g/cm³

アスファルト量　４．８ ％

空隙率　＿４．４ ％

骨材間隙率　１５．５ ％

マーシャル安定度　１１０９ kg

フロー値　＿２７ (1/100cm)

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　３０４

層番号　＿７、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３９１ g/cm³

アスファルト量　５．４ %

空隙率　＿４．１ %

骨材間隙率　１６．５ %

マーシャル安定度　１３１７ kg

フロー値　＿２８ (1/100cm)

様式Ａ－４－７　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　３０４

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３００ g/cm³

最大比重　２．５４５ g/cm³

空隙率　＿９．６ %

アスファルト量　４．０ %

骨材間隙率　１８．５ %

様式Ａ－４－７　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　３０４

層番号　＿６、＿７、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３５３ g/cm³

最大比重　２．５１０ g/cm³

空隙率　＿６．３ %

アスファルト量　４．９ %

骨材間隙率　１７．２ %

様式Ａ－４－７　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　３０４

層番号　＿８、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３７４ g/cm³

最大比重　２．５３４ g/cm³

空隙率　＿６．３ %

アスファルト量　５．２ %

骨材間隙率　１８．１ %

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　３０４

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	２３０００	２.２９７
＿＿＿	＿＿５.０	３８８００	２.２８９
＿＿＿	＿＿５.０	５４３５０	２.３１４
＿＿＿	＿２５.０	１５１００	２.２９７
＿＿＿	＿２５.０	１５４００	２.２８９
＿＿＿	＿２５.０	＿９８３０	２.３１４
＿＿＿	＿４０.０	＿４２４５	２.２９７
＿＿＿	＿４０.０	＿６９２０	２.２８９
＿＿＿	＿４０.０	＿４４３５	２.３１４
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　３０４

層番号　＿６、＿７、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	７０９００	２.３６３
＿＿＿	＿＿５.０	５０３５０	２.３６１
＿＿＿	＿＿５.０	８５９５０	２.３３５
＿＿＿	＿２５.０	１９３００	２.３６３
＿＿＿	＿２５.０	１５０５０	２.３６１
＿＿＿	＿２５.０	１６１００	２.３３５
＿＿＿	＿４０.０	＿７１９５	２.３６３
＿＿＿	＿４０.０	＿６３２５	２.３６１
＿＿＿	＿４０.０	＿５１４０	２.３３５
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式A－4－8　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　3 0 4

層番号　＿ 8 、＿ ＿ 、＿ ＿　（様式A－1－3参照）

試験方法　1

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿5.0	37450	2.377
＿＿＿	＿＿5.0	72750	2.388
＿＿＿	＿＿5.0	43850	2.357
＿＿＿	＿25.0	22050	2.377
＿＿＿	＿25.0	18700	2.388
＿＿＿	＿25.0	17550	2.357
＿＿＿	＿40.0	＿6035	2.377
＿＿＿	＿40.0	＿7355	2.388
＿＿＿	＿40.0	12250	2.357
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　0.4　秒

載荷周波数　1.0　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式A－4－9　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　3 0 4

層番号　＿5、＿＿、＿＿　（様式A－1－3参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿5.0	＿＿21.7
＿＿＿	＿＿5.0	＿＿23.5
＿＿＿	＿＿5.0	＿＿26.3
＿＿＿	＿25.0	＿＿＿7.1
＿＿＿	＿25.0	＿＿＿8.5
＿＿＿	＿25.0	＿＿＿6.6
＿＿＿	＿40.0	＿＿＿1.6
＿＿＿	＿40.0	＿＿＿2.8
＿＿＿	＿40.0	＿＿＿2.2
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿50.0 mm/min

試験方法　1

様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　３０４

層番号　＿６、＿７、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２７.５
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２５.２
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿３３.１
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿９.８
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿８.８
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿９.７
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.７
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿１.９
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.０
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　３０４

層番号　＿８、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２２.７
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿３６.２
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿３５.１
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿９.８
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿８.８
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿９.７
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.７
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿１.９
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.０
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

北　陸　地　方

ＳＨＲＰ

新基準調査

初期調査データ

１７号　長岡東バイパス

様式A－1－1　一般データ　　調査区間番号　4 0 1

地建番号　4

報告年月　昭和 6 3 年 1 2 月

担当部局　北陸地方建設局長岡国道工事事務所設計課第二設計係　内線 _ 4 2 5

調査区間の地名　長岡市川崎町～中沢町

路線番号　_ 1 7

調査種別　1

調査方向　☒上り　□下り

距離標　2 8 3 k 8 7 0 ～ 2 8 3 k 5 7 0

（ＫＰ未定の場合No._ _ _ _ + _ _ ～ _ _ _ _ + _ _ ）

様式A－1－2　舗装構造データ　　調査区間番号　4 0 1

舗装の種別　1

調査方向の車線数　2

車線幅　3 5 0　cm

調査対象車線　第 1 車線

路肩の幅　2 0 0　cm

路肩の路面の種類　3

路肩の路盤の種類　2 5

路肩の表層・基層の厚さ　1 0　cm

路肩の路盤の厚さ　＿ 2 5　cm

地下排水工の種類　1 , ＿

縦断方向の配水管の内径　＿ ＿ ＿ ＿　mm

排水工の位置　＿

配水管の間隔　＿ ＿ ＿ ＿　cm

様式Ａ－１－３　舗装構成データ　　調査区間番号　４０１

層の数　６

番号	層の名称	層の厚さ（mm）				材料
		最　大	最　小	平　均	標準偏差	
1	7					63
2	5	110	105	108		25
3	4	105	101	103		31
4	4	112	104	108		2
5	3	54	50	52		1
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						

舗装の等値換算厚 T_A　　25.5 cm

舗装厚H　　35.0 cm

高支持力層までの深さ　　　m

盛土厚さ　　150 cm

様式Ａ－１－４　施工関係データ　　調査区間番号　４　０　１

施工年月　昭和　６　３　年　１　０　月

交通開放（予定）年月　昭和　６　３　年　１　１　月

施工費用　＿　＿　＿　＿　百万円／km・車線

打換え年月　平成　＿　＿　年　＿　＿　月

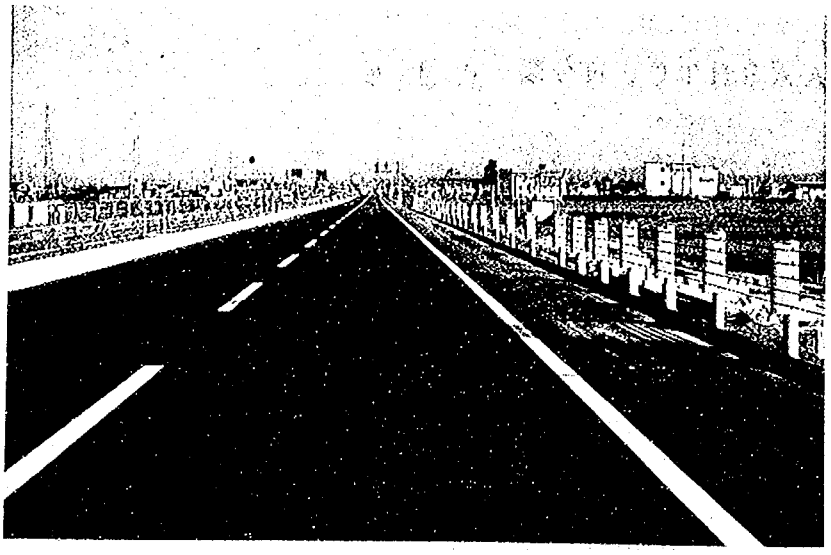
拡幅年月　　平成　＿　＿　年　＿　＿　月

当初の車線数　＿　車線

最終的な車線数　＿　車線

追加車線数　＿　車線

様式A－1－5　調査区間概要図　　調査区間番号　401

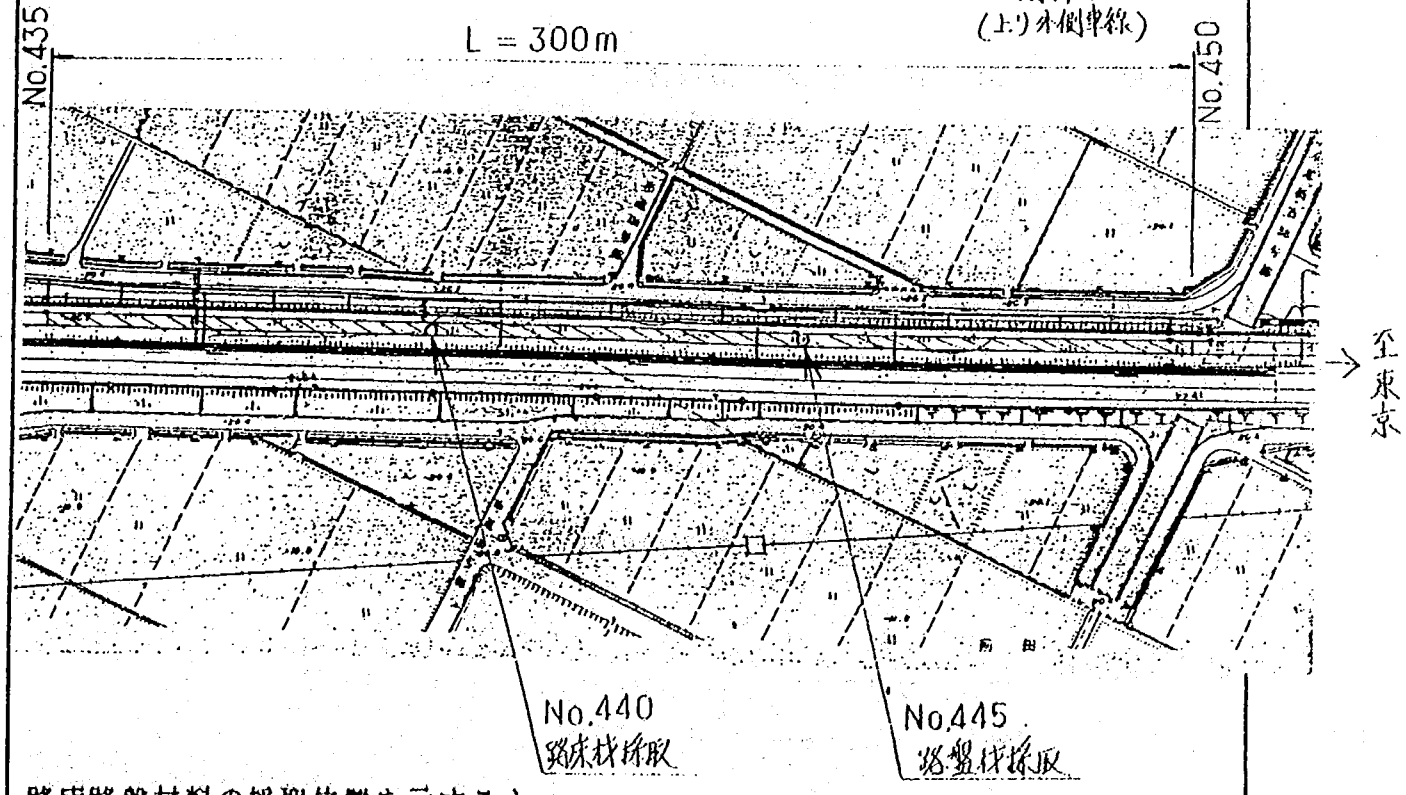


No.450から No.435に向かって撮影

調査区間概要図

写真撮影方向

対象車線
(上り外側車線)



路床路盤材料の採取位置を示すこと。

様式A－2－1　路床土に関する基礎データ　　調査区間番号　4 0 1

層番号　＿1、＿＿、＿＿　（様式A－1－3参照）

土質分類　＿GM　　AASHTO土質分類　A 1 a

CBR　平均値　＿4 6.2　区間のCBR　＿4 2.7

S値　＿＿.＿＿　K値　＿1 8.4 kg/cm³

75μmふるい通過量　＿8.5 %

塑性限界　＿＿.＿ %　液性限界　＿＿.＿ %

塑性指数　N P.＿ %

最大乾燥密度　2.0 5 2 g/cm³　最適含水比　＿8.8 %

最大乾燥密度の算出方法　1　現場乾燥密度　1.9 6 0 g/cm³

現場含水比　＿4.3 %　最大乾燥密度比　＿9 5.5 %

最適含水比との比　＿4 8.9 %　凍上性区分　2

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

様式Ａ－２－２　弾性係数の測定（路床土）　　調査区間番号　４０１

層番号　＿１、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試料採取位置 KP＿＿＿k＿＿＿（KPが未定の場合　No.　＿＿＿＿＋＿＿

供試体数　＿２　　ＡＡＳＨＴＯ土質分類　Ａ１ａ

含水比　＿＿９.９％　　乾燥密度　２.０５２ g/cm³

試験の結果	側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
	＿０.４１	＿０.５７	２０１３
	＿０.２１	＿０.３７	１７６２
	＿０.００	＿０.１９	１４７４
	＿０.４１	＿０.７０	１６１８
	＿０.２１	＿０.５１	１７３２
	＿０.００	＿０.３４	１３００
	＿０.４１	＿０.９８	１４６０
	＿０.２１	＿０.７７	１１８３
	＿０.００	＿０.６１	１５２７
	＿０.４１	＿１.１３	１５６３
	＿０.２１	＿０.９３	１４３３
	＿０.００	＿０.７４	１３６９
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿

回帰式　　$\log E = \log A + B \times \log(\text{stress})$

A = １５１７.７ 10^3kg/cm²　B = ０.０４６

様式Ａ－３－１　路盤材料の特性値　　調査区間番号　４０１

層番号　＿２、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

最大乾燥密度　２．２２０ g/cm³　最適含水比　＿６．３ %

最大乾燥密度の算出方法　１

現場乾燥密度　２．１８３ g/cm³　現場含水比　＿２．７ %

最大乾燥密度比　＿９８．３ %　最適含水比との比　＿４２．９ %

平板載荷試験　＿＿＿．＿ kg/cm³

425μmふるい通過量　１５．５ %　75μmふるい通過量　＿４．６ %

路盤材料の修正ＣＢＲ　１１５．０

路盤材料の一軸圧縮強度　＿＿．＿ kg/cm²

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

様式Ａ－３－２　弾性係数の測定（路盤）　　調査区間番号　４０１

層番号　＿２、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

供試体数　＿３　含水比　＿＿４.２％　乾燥密度　２.２２７ g/cm³

試験の結果	側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
	＿１.３９	＿１.５３	２１５４
	＿１.３９	＿１.７４	２１９１
	＿１.３９	＿２.０８	２４２３
	＿１.３９	＿２.４６	２６１４
	＿１.３９	＿２.８１	２８８０
	＿１.０５	＿１.１９	１７７８
	＿１.０５	＿１.４１	１８１０
	＿１.０５	＿１.７５	１８７９
	＿１.０５	＿２.１２	２２３１
	＿１.０５	＿２.４５	２４３９
	＿０.７０	＿０.８５	１６５２
	＿０.７０	＿１.０６	１６７６
	＿０.７０	＿１.４１	１９６７
	＿０.７０	＿１.７６	２２０９
	＿０.３６	＿０.５３	１２３６
	＿０.３６	＿０.７４	１３３０
	＿０.３７	＿１.０９	１６３３
	＿０.３７	＿１.４３	１９９１
	＿０.０７	＿０.２６	＿７４０
	＿０.０７	＿０.５２	１１３７
	＿０.０７	＿０.７０	１１４５
	＿０.０７	＿０.８５	１２１２
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿

回帰式　$\log E = \log A + B \times \log(\text{stress})$

A = １０７０.１ 10^3kg/cm²　B = ０.４８９

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　４０１

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類　１　１００　　細骨材の種類　１　１００

＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

粗骨材の岩質　２３　　フィラーの種類　１

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿．＿	2.36mm	＿３８．３
37.5mm	１００．０	600μm	＿＿＿．＿
26.5mm	＿＿＿．＿	300μm	＿＿＿．＿
19mm	＿９７．５	150μm	＿＿＿．＿
13.2mm	＿＿＿．＿	75μm	＿＿３．３
4.75mm	＿＿＿．＿		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	＿．＿＿＿ g/cm³	細骨材１（粗砂）	２．５５８ g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	２．６９６ g/cm³	細骨材２（中砂）	＿．＿＿＿ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	２．６８６ g/cm³	細骨材３（細砂）	２．５１２ g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	２．６４７ g/cm³	フィラー	２．７００ g/cm³
スクリーニングス	＿．＿＿＿ g/cm³	クラッシャラン	＿．＿＿＿ g/cm³

合成密度　２．６３０ g/cm³　有効密度　２．７２８ g/cm³

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　４０１

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類		細骨材の種類	
１	１００	１	１００
―	――	―	――
―	――	―	――
―	――	―	――

粗骨材の岩質　２３　　フィラーの種類　１

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿.＿	2.36mm	＿３１.０
37.5mm	＿＿＿.＿	600μm	＿２０.３
26.5mm	１００.０	300μm	＿１０.３
19mm	＿９８.５	150μm	＿＿５.４
13.2mm	＿８１.０	75μm	＿＿４.２
4.75mm	＿４７.２		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	＿.＿＿ g/cm³	細骨材１（粗砂）	２.５５８ g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	２.６９６ g/cm³	細骨材２（中砂）	＿.＿＿ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	２.６８６ g/cm³	細骨材３（細砂）	２.５１２ g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	２.６４７ g/cm³	フィラー	２.７００ g/cm³
スクリーニングス	＿.＿＿ g/cm³	クラッシャラン	＿.＿＿ g/cm³

合成密度　２.６４８ g/cm³　有効密度　２.７３７ g/cm³

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　４０１

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類　１　１００　　細骨材の種類　１　１００

＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

粗骨材の岩質　２３　　フィラーの種類　１

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿.＿	2.36mm	＿５２.８
37.5mm	＿＿＿.＿	600μm	＿４９.４
26.5mm	１００.０	300μm	＿２８.８
19mm	＿９８.０	150μm	＿１１.１
13.2mm	＿７７.９	75μm	＿＿９.７
4.75mm	＿６４.３		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	＿.＿＿＿ g/cm³	細骨材１（粗砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	２.６９６ g/cm³	細骨材２（中砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	２.６８６ g/cm³	細骨材３（細砂）	２.５３４ g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	２.６４７ g/cm³	フィラー	２.７００ g/cm³
スクリーニングス	＿.＿＿＿ g/cm³	クラッシャラン	＿.＿＿＿ g/cm³

合成密度　２.６２０ g/cm³　有効密度　２.７２３ g/cm³

様式Ａ－４－２　アスファルトの性状（原アスファルト）　調査区間番号　４０１

層番号　＿３、＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

針入度区分　＿６０～＿８０

アスファルトの製造元　昭和シェル石油(株)

密度　１.０２８ g/cm³

60℃粘度　＿＿３５２９ poise

135℃粘度　＿４１０ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm または ☒ １００＋

4℃伸度　＿０.０ cm

4℃伸度の伸長速度　＿５ cm/min

25℃針入度　＿６２

4℃針入度　＿２１

軟化点　＿４８ ℃

添加剤　商品名 ＪＲＳローデックスＳＳ（層番号６のみ添加）

添加剤の添加量　＿＿３ %

様式Ａ－４－２　アスファルトの性状（原アスファルト）　調査区間番号　４０１

層番号　＿５、＿＿、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

針入度区分　＿６０～＿８０

アスファルトの製造元　昭和シェル石油(株)

密度　１.０２５ g/cm³

60℃粘度　＿＿９３６２ poise

135℃粘度　４２００ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　２４.０　cm

4℃伸度の伸長速度　＿５　cm/min

25℃針入度　＿５３

4℃針入度　＿２４

軟化点　＿６３ ℃

添加剤　商品名 ＪＳＲローデックスＳＳ

添加剤の添加量　＿＿３ %

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　４０１

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿５２７４ poise　　135℃粘度　＿７１１ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０．０ cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５ cm/min

25℃針入度　＿３９　　4℃針入度　＿２０

軟化点　＿５４ ℃

質量変化率　０．０９

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿４４　　4℃針入度　＿２４

60℃粘度　＿＿５９３７ poise　　135℃粘度　＿７４８ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　４　０　１

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿５２７４ poise　　135℃粘度　＿７１１ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０.０ cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５ cm/min

25℃針入度　＿３９　　4℃針入度　＿２０

軟化点　＿５４ ℃

質量変化率　０.０９

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿５４　　4℃針入度　＿３２

60℃粘度　＿＿４０３２poise　　135℃粘度　＿６８３ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　４　０　１

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿１０９３０ poise　　135℃粘度　２２００ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０．０ cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５ cm/min

25℃針入度　＿４１　　4℃針入度　＿２０

軟化点　＿６２ ℃

質量変化率　０．０２

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿５５　　4℃針入度　＿３７

60℃粘度　＿＿８４３３ poise　　135℃粘度　２５９３ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　４　０　１

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３２８ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．５５９ g/cm³

アスファルト量　４．０ %

空隙率　＿９．０ %

骨材間隙率　１８．１ %

有効アスファルド量　＿４．０ %

突き固め回数　＿＿回

マーシャル安定度　＿６９３ kg

フロー値　＿２９ (1/100cm)

ビーム安定度　＿６０．０

ビーム粘着度　＿５０５．０

様式A－4－4　アスファルト混合物の性状（配合試験1）調査区間番号　4 0 1

層番号　＿4、＿＿、＿＿　（様式A－1－3参照）

かさ密度　2.427 g/cm³

最大比重（理論密度）　2.519 g/cm³

アスファルト量　5.2 %

空隙率　＿3.7 %

骨材間隙率　16.0 %

有効アスファルト量　＿5.2 %

突き固め回数　＿＿回

マーシャル安定度　＿994 kg

フロー値　＿34 (1/100cm)

ビーム安定度　＿57.9

ビーム粘着度　＿443.2

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　４０１

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３８５ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．４７１ g/cm³

アスファルト量　６．１ %

空隙率　＿３．５ %

骨材間隙率　１７．７ %

有効アスファルト量　＿６．１ %

突き固め回数　＿＿ 回

マーシャル安定度　１０４３ kg

フロー値　＿３３ (1/100cm)

ビーム安定度　＿５０．４

ビーム粘着度　＿７１８．２

様式Ａ－４－５　アスファルト混合物の性状（配合試験２）調査区間番号　４　０　１

層番号　＿３、＿４、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の剝離試験結果（剝離率）　＿１１

剝離防止材の種類　商品名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

剝離防止材の添加量　＿＿．＿％

アスファルトプラントの形式　１

ホイールトラッキング試験結果　＿＿＿＿回/mm

スパイクラベリング試験結果　＿＿＿＿mm²

様式A－4－5　アスファルト混合物の性状（配合試験2）調査区間番号　4 0 1

層番号　＿ 5 、＿ ＿、＿ ＿　（様式A－1－3参照）

粗骨材の剝離試験結果（剝離率）　＿ ＿ 2

剝離防止材の種類　商品名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

剝離防止材の添加量　＿ ＿ . ＿ %

アスファルトプラントの形式　1

ホイールトラッキング試験結果　＿ ＿ ＿ ＿ 回/mm

スパイクラベリング試験結果　＿ ＿ ＿ ＿ mm^2

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　４０１

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３３６ g/cm³

アスファルト量　４．０ %

空隙率　＿８．７ %

骨材間隙率　１７．８ %

マーシャル安定度　＿７０１ kg

フロー値　＿３４ (1/100cm)

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　４０１

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．４３１ g/cm³

アスファルト量　５．２ %

空隙率　＿３．５ %

骨材間隙率　１５．８ %

マーシャル安定度　＿９９５ kg

フロー値　＿３７ (1/100cm)

様式A－4－6　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　4 0 1

層番号　＿ 5 、＿ ＿ 、＿ ＿　（様式A－1－3参照）

かさ密度　2 . 3 9 0 g/cm³

アスファルト量　6 . 1 %

空隙率　＿ 3 . 3 %

骨材間隙率　1 7 . 5 %

マーシャル安定度　＿ 7 0 1 kg

フロー値　＿ 3 4 (1/100cm)

様式Ａ－４－７　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　４　０　１

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．４１２ g/cm³

最大比重　２．５３６ g/cm³

空隙率　＿４．９ %

アスファルト量　３．７ %

骨材間隙率　１３．５

様式Ａ－４－７　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　４０１

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．４００ g/cm³

最大比重　２．４９９ g/cm³

空隙率　＿４．０ %

アスファルト量　５．２ %

骨材間隙率　１３．５ %

様式Ａ－４－７　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　４０１

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３９７ g/cm³

最大比重　２．４７０ g/cm³

空隙率　＿３．０ %

アスファルト量　６．３ %

骨材間隙率　１７．７ %

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　４０１

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	５０３６９	２.４２６
＿＿＿	＿＿５.０	５７５０８	２.４０６
＿＿＿	＿＿５.０	６２８００	２.４０４
＿＿＿	＿２５.０	＿８２１８	２.４２６
＿＿＿	＿２５.０	＿９６９２	２.４０６
＿＿＿	＿２５.０	＿９２５０	２.４０４
＿＿＿	＿４０.０	＿３７２４	２.４２６
＿＿＿	＿４０.０	＿４８３８	２.４０６
＿＿＿	＿４０.０	＿６１６８	２.４０４
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　４０１

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	５０５２３	２.３５６
＿＿＿	＿＿５.０	５０７１７	２.４０４
＿＿＿	＿＿５.０	４３２１２	２.４４１
＿＿＿	＿２５.０	１７４７４	２.３５６
＿＿＿	＿２５.０	２１２３１	２.４０４
＿＿＿	＿２５.０	１８９３０	２.４４１
＿＿＿	＿４０.０	＿５０５９	２.３５６
＿＿＿	＿４０.０	＿４９６７	２.４０４
＿＿＿	＿４０.０	＿４５８２	２.４４１
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　４０１

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	４００００１	２.３７６
＿＿＿	＿＿５.０	４５２２９	２.４０３
＿＿＿	＿＿５.０	５２８２９	２.４１１
＿＿＿	＿２５.０	１２８５４	２.３７６
＿＿＿	＿２５.０	１６３５４	２.４０３
＿＿＿	＿２５.０	１４１７８	２.４１１
＿＿＿	＿４０.０	＿６１６８	２.３７６
＿＿＿	＿４０.０	＿４０８０	２.４０３
＿＿＿	＿４０.０	＿４５９１	２.４１１
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　４０１

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿３３.７
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿３７.３
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿３３.８
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿７.０
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿７.０
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿８.１
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.２
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.１
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.１
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　４０１

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿３０.４
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿３１.５
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２７.９
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿７.５
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿７.６
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿６.３
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.５
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.２
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.３
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　４０１

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿３１.５
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２７.５
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿３０.６
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿７.２
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿７.０
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿８.４
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.２
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.５
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.１
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

S H R P
新 基 準 調 査

初 期 調 査 デ ー タ

7号 新新バイパス

様式Ａ－１－１　一般データ　　調査区間番号　４０２

地建番号　４

報告年月　平成　１　年　１１　月

担当部局　北陸地方建設局　北陸技術事務所　工務課　調査係　内線　３１４

調査区間の地名　新潟県北蒲原郡聖籠町浦山

路線番号　　７

調査種別　１

調査方向　□上り　☒下り

距離標　２１ｋ１００～２１ｋ４００

（ＫＰ未定の場合No.　　＋　　～　　＋　　）

様式Ａ－１－２　舗装構造データ　　調査区間番号　４０２

舗装の種別　１

調査方向の車線数　２

車線幅　３５０　cm

調査対象車線　第　１　車線

路肩の幅　２００　cm

路肩の路面の種類　３

路肩の路盤の種類　２５

路肩の表層・基層の厚さ　１０　cm

路肩の路盤の厚さ　＿３０　cm

地下排水工の種類　１，＿

縦断方向の配水管の内径　＿＿＿＿　mm

排水工の位置　１

配水管の間隔　＿＿＿＿　cm

様式Ａ－１－３　舗装構成データ　　調査区間番号　４０２

層の数　６

番号	層の名称	層の厚さ（mm）				材料
		最　大	最　小	平　均	標準偏差	
1	7					57
2	6	265	250	253	4.16	23
3	5	170	145	156	7.25	25
4	4	119	94	103	5.79	31
5	4	120	97	104		2
6	3	57	48	54	1.72	1
7						
8						
9						
10						
11						
12						

舗装の等値換算厚 T_A　　34.5 cm

舗装厚Ｈ　　65.0 cm

高支持力層までの深さ　　　m

盛土厚さ　　　cm

様式Ａ－１－４　施工関係データ　　調査区間番号　４０２

施工年月　平成　１　年　８　月

交通開放（予定）年月　平成　１　年　９　月

施工費用　　３３　百万円／km・車線

打換え年月　平成　　年　　月

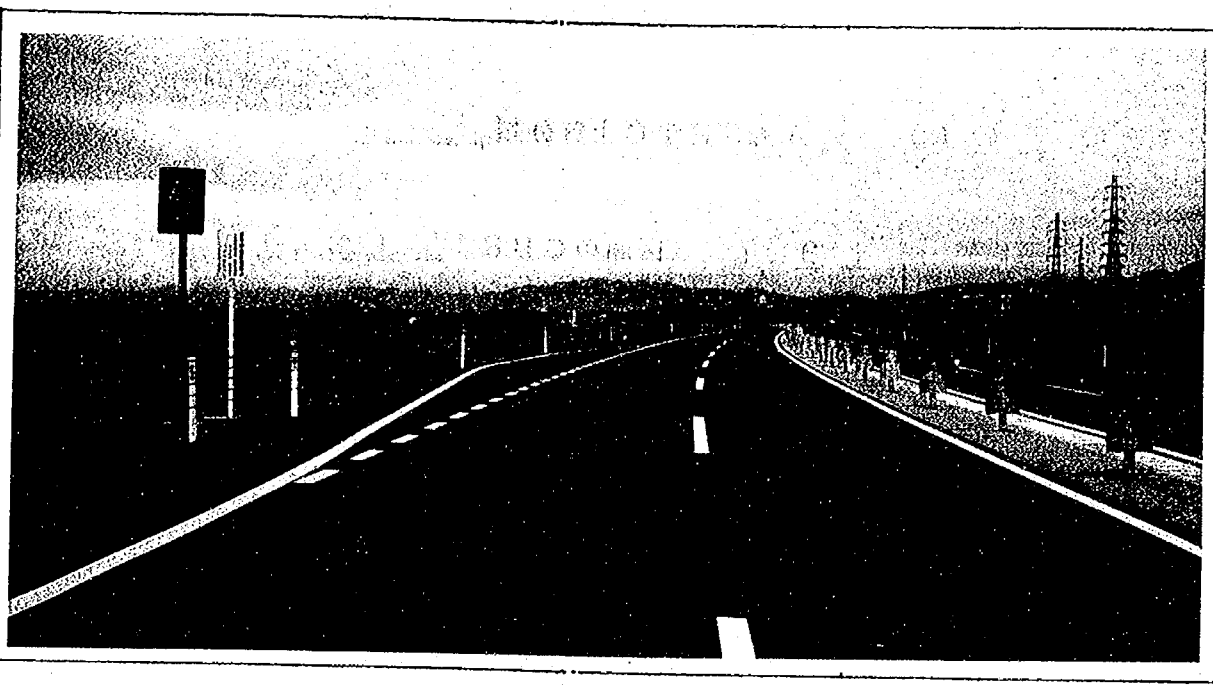
拡幅年月　　平成　　年　　月

当初の車線数　　車線

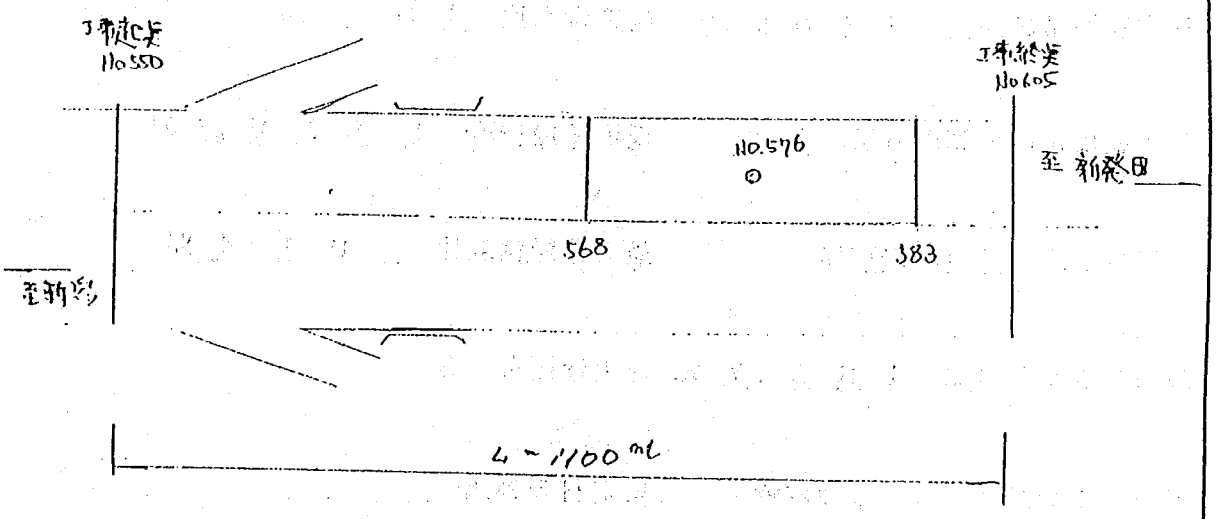
最終的な車線数　　車線

追加車線数　　車線

様式A－1－5　調査区間概要図　　調査区間番号　4 0 2



調査区間概要図



路床路盤材料の採取位置を示すこと。

様式Ａ－２－１　路床土に関する基礎データ　　調査区間番号　４０２

層番号　＿１、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

土質分類　＿砂（S）　ＡＡＳＨＴＯ土質分類　＿＿＿

ＣＢＲ　平均値　＿１３．７　区間のＣＢＲ　＿１２．４

Ｓ値　＿７．７９　Ｋ値　＿１０．４ kg/cm³

75μmふるい通過量　＿１．１ %

塑性限界　＿＿．＿ %　液性限界　＿＿．＿ %

塑性指数　＿＿．＿ %

最大乾燥密度　１．６７５ g/cm³　最適含水比　１５．４ %

最大乾燥密度の算出方法　１　現場乾燥密度　１．５８２ g/cm³

現場含水比　２０．９ %　最大乾燥密度比　＿９４．４ %

最適含水比との比　１３５．７ %　凍上性区分　３

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

様式Ａ－２－２　弾性係数の測定（路床土）　　調査区間番号　４０２

層番号　＿＿、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試料採取位置 KP＿＿＿ k ＿＿＿　（KPが未定の場合　No. ＿＿＿＿ + ＿＿ ）

供試体数　＿＿　　ＡＡＳＨＴＯ土質分類　＿＿＿

含水比　＿＿＿.＿ %　　乾燥密度　＿.＿＿＿ g/cm³

試験の結果	側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿

回帰式　　log E = log A + B x log(stress)

A = ＿＿＿＿.＿ 10^3kg/cm²　B = ＿.＿＿

様式Ａ－３－１　路盤材料の特性値　　調査区間番号　４０２

層番号　＿２、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

最大乾燥密度　２．０３６ g/cm³　最適含水比　＿５．６ %

最大乾燥密度の算出方法　１

現場乾燥密度　２．００１ g/cm³　現場含水比　＿４．６ %

最大乾燥密度比　＿９８．３ %　最適含水比との比　＿８２．１ %

平板載荷試験　＿２０．８ kg/cm³

425μmふるい通過量　＿９．２ %　75μmふるい通過量　＿４．６ %

路盤材料の修正ＣＢＲ　＿８４．０

路盤材料の一軸圧縮強度　＿＿．＿ kg/cm²

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

様式Ａ－３－１　路盤材料の特性値　　調査区間番号　４０２

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

最大乾燥密度　２．２７４ g/cm³　最適含水比　＿６．３ %

最大乾燥密度の算出方法　１

現場乾燥密度　２．２４３ g/cm³　現場含水比　＿４．５ %

最大乾燥密度比　＿９８．６ %　最適含水比との比　＿７１．４ %

平板載荷試験　＿３４．４ kg/cm³

425μmふるい通過量　１４．６ %　75μmふるい通過量　＿５．１ %

路盤材料の修正ＣＢＲ　１１０．０

路盤材料の一軸圧縮強度　＿＿．＿ kg/cm²

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

様式Ａ－３－２　弾性係数の測定（路盤）　　調査区間番号　４０２

層番号　＿２、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

供試体数　＿２　含水比　＿＿３．３％　乾燥密度　２．１０６ g/cm³

試験の結果	側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
	＿１．３９	＿１．５６	４２５０
	＿１．４０	＿２．１０	３５６８
	＿１．４０	＿２．７９	３４７８
	＿１．０８	＿１．２４	２９４０
	＿１．０８	＿１．７７	２７５８
	＿１．０８	＿２．４４	２４６５
	＿０．７１	＿０．８０	２２５０
	＿０．７１	＿１．０９	２２１６
	＿０．７１	＿１．７６	２３２４
	＿０．３７	＿０．４４	１７５０
	＿０．３７	＿０．７４	１５７０
	＿０．３８	＿１．４３	１５７０
	＿０．１２	＿０．１８	１３３３
	＿０．１２	＿０．４８	＿９５４
	＿０．１２	＿０．８０	１２３５
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿

回帰式　$\log E = \log A + B \times \log(\text{stress})$

$A =$ １２８１．８ $10^3 kg/cm^2$　$B =$ ０．５８４

様式Ａ－３－２　弾性係数の測定（路盤）　　調査区間番号　４０２

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

供試体数　＿２　含水比　＿＿４．０％　乾燥密度　２．１０７ g/cm³

試験の結果	側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
	１．４０	１．６０	２７１１
	１．４０	２．１６	２４５６
	１．３９	２．８１	２５１５
	１．０７	１．２５	２３３２
	１．０７	１．７７	１９６２
	１．０７	２．４５	２１５６
	０．７１	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	０．７２	１．０９	１５９６
	０．７２	１．７９	１６８８
	０．３７	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	０．３８	０．７５	１２８５
	０．４０	１．４５	１４６２
	０．１１	０．２２	１２７８
	０．１１	０．４９	１１５８
	０．１３	０．８３	１１９８
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿

回帰式　$\log E = \log A + B \times \log(\text{stress})$

A = １２９６．１ 10^3kg/cm²　B = ０．３４８

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　４０２

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類　１　１００　　細骨材の種類　１　１００

＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

粗骨材の岩質　１２　　フィラーの種類　１

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	１００.０	2.36mm	＿３８.０
37.5mm	１００.０	600μm	＿２３.５
26.5mm	＿８７.７	300μm	＿１４.８
19mm	＿８０.６	150μm	＿＿７.８
13.2mm	＿６５.２	75μm	＿＿４.９
4.75mm	＿４９.９		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	＿.＿＿＿ g/cm³	細骨材１（粗砂）	２.５７４ g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	＿.＿＿＿ g/cm³	細骨材２（中砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	＿.＿＿＿ g/cm³	細骨材３（細砂）	２.５６５ g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	＿.＿＿＿ g/cm³	フィラー	２.７００ g/cm³
スクリーニングス	＿.＿＿＿ g/cm³	クラッシャラン	２.６３０ g/cm³

合成密度　２.６１８ g/cm³　有効密度　２.６８９ g/cm³

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　４０２

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類　１　１００　　細骨材の種類　１　１００

＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

粗骨材の岩質　１２　　フィラーの種類　１

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿．＿	2.36mm	＿２７．１
37.5mm	＿＿＿．＿	600μm	＿１６．６
26.5mm	１００．０	300μm	＿＿９．９
19mm	＿９９．３	150μm	＿＿６．０
13.2mm	＿７３．０	75μm	＿＿４．７
4.75mm	＿４１．０		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）＿．＿＿ g/cm³　細骨材１（粗砂）２．５７４ g/cm³

粗骨材２（５号砕石）２．６３８ g/cm³　細骨材２（中砂）＿．＿＿ g/cm³

粗骨材３（６号砕石）２．６２８ g/cm³　細骨材３（細砂）２．５６５ g/cm³

粗骨材４（７号砕石）２．５９１ g/cm³　フィラー　２．７００ g/cm³

スクリーニングス　＿．＿＿ g/cm³　クラッシャラン　＿．＿＿ g/cm³

合成密度　２．６１６ g/cm³　有効密度　２．６８８ g/cm³

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　４０２

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類　１　１００　　細骨材の種類　１　１００

＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

粗骨材の岩質　１２　　フィラーの種類　１

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿.＿	2.36mm	＿４９.５
37.5mm	＿＿＿.＿	600μm	＿４４.７
26.5mm	１００.０	300μm	＿２３.３
19mm	＿９９.４	150μm	＿１０.４
13.2mm	＿７６.２	75μm	＿＿９.０
4.75mm	＿５６.６		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	＿.＿＿＿ g/cm³	細骨材１（粗砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	２.６３８ g/cm³	細骨材２（中砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	２.６２８ g/cm³	細骨材３（細砂）	２.５６５ g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	２.５９１ g/cm³	フィラー	２.７００ g/cm³
スクリーニングス	＿.＿＿＿ g/cm³	クラッシャラン	＿.＿＿＿ g/cm³

合成密度　２.６１０ g/cm³　有効密度　２.６７７ g/cm³

様式Ａ－４－２　アスファルトの性状（原アスファルト）　調査区間番号　４０２

層番号　＿４、＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

針入度区分　＿６０～＿８０

アスファルトの製造元　コスモ石油(株)

密度　１.０２８ g/cm³

60℃粘度　＿＿２０８０ poise

135℃粘度　＿３２５ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０.５　cm

4℃伸度の伸長速度　＿５　cm/min

25℃針入度　＿６６

4℃針入度　＿２５

軟化点　＿４９℃

添加剤　商品名

添加剤の添加量　＿＿＿％

様式Ａ－４－２　アスファルトの性状（原アスファルト）　調査区間番号　４０２

層番号　＿６、＿＿、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

針入度区分　＿６０～＿８０

アスファルトの製造元　コスモ石油(株)

密度　１.０２６ g/cm³

60℃粘度　＿＿５６１０ poise

135℃粘度　１４８３ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm または ☒ １００+

4℃伸度　２５.０ cm

4℃伸度の伸長速度　＿５ cm/min

25℃針入度　＿６０

4℃針入度　＿３１

軟化点　＿５７ ℃

添加剤　商品名 ローデックスＳＳ

添加剤の添加量　＿＿３ %

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　４０２

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿４３３０ poise　　135℃粘度　＿５７２ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０．５ cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５ cm/min

25℃針入度　＿４４　　4℃針入度　＿２６

軟化点　＿５５ ℃

質量変化率　０．０７

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿４５　　4℃針入度　＿２２

60℃粘度　＿＿５９４０ poise　　135℃粘度　＿６１９ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　４　０　２

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿４３３０ poise　　135℃粘度　＿５７２ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０．５　cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５　cm/min

25℃針入度　＿４４　　4℃針入度　＿２６

軟化点　＿５５ ℃

質量変化率　０．０７

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿４３　　4℃針入度　＿２４

60℃粘度　＿＿３９７０ poise　　135℃粘度　＿５２７ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　４０２

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿７５６０ poise　　135℃粘度　＿９３８ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　１０．０ cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５ cm/min

25℃針入度　＿４８　　4℃針入度　＿２６

軟化点　＿５８ ℃

質量変化率　０．０２

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿３６　　4℃針入度　＿２５

60℃粘度　＿＿８８１０ poise　　135℃粘度　１９４１ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　４０２

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３２５ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．５２６ g/cm³

アスファルト量　４．０ %

空隙率　＿８．０ %

骨材間隙率　１７．０ %

有効アスファルト量　＿４．０ %

突き固め回数　５０ 回

マーシャル安定度　＿７５０ kg

フロー値　＿３２ (1/100cm)

ビーム安定度　＿３９．１

ビーム粘着度　＿２６４．６

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　４　０　２

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３８４ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．４８７ g/cm³

アスファルト量　５．０ %

空隙率　＿４．１ %

骨材間隙率　１５．７ %

有効アスファルト量　＿５．０ %

突き固め回数　７５ 回

マーシャル安定度　１０２９ kg

フロー値　＿３１ (1/100cm)

ビーム安定度　＿３１．４

ビーム粘着度　＿２９２．４

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　４０２

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３５５ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．４３８ g/cm³

アスファルト量　６．０７ %

空隙率　＿３．４ %

骨材間隙率　１７．３ %

有効アスファルト量　＿６．０６ %

突き固め回数　＿＿ 回

マーシャル安定度　＿９８７ kg

フロー値　＿３０ (1/100cm)

ビーム安定度　＿３０．５

ビーム粘着度　＿３７８．１

様式Ａ－４－５　アスファルト混合物の性状（配合試験２）調査区間番号　４０２

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の剝離試験結果（剝離率）　＿４５

剝離防止材の種類　商品名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

剝離防止材の添加量　＿＿．＿％

アスファルトプラントの形式　＿

ホイールトラッキング試験結果　＿＿＿＿回/mm

スパイクラベリング試験結果　＿＿＿＿mm²

様式Ａ－４－５　アスファルト混合物の性状（配合試験２）調査区間番号　４０２

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の剝離試験結果（剝離率）　＿４４

剝離防止材の種類　商品名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

剝離防止材の添加量　＿＿.＿％

アスファルトプラントの形式　＿

ホイールトラッキング試験結果　＿＿＿＿回/mm

スパイクラベリング試験結果　＿＿＿＿mm²

様式A－4－5　アスファルト混合物の性状（配合試験2）調査区間番号　4 0 2

層番号　＿ 6 、＿ ＿ 、＿ ＿　（様式A－1－3参照）

粗骨材の剥離試験結果（剥離率）　＿ 1 9

剥離防止材の種類　商品名 デハイドロ

剥離防止材の添加量　＿ 0 . 3 %

アスファルトプラントの形式　1

ホイールトラッキング試験結果　＿ 2 0 0 回/mm

スパイクラベリング試験結果　＿ 6 7 4 mm²

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　４０２

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３２５ g/cm³

アスファルト量　４．０ %

空隙率　＿８．０ %

骨材間隙率　１７．０ %

マーシャル安定度　＿７５０ kg

フロー値　＿３２ (1/100cm)

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　４０２

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３８４ g/cm³

アスファルト量　５．０ %

空隙率　＿４．１ %

骨材間隙率　１５．７ %

マーシャル安定度　１０２９ kg

フロー値　＿３１ (1/100cm)

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　４０２

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３５５ g/cm³

アスファルト量　６．０７ %

空隙率　＿３．４ %

骨材間隙率　１７．３ %

マーシャル安定度　＿９８７ kg

フロー値　＿３０ (1/100cm)

様式Ａ－４－７　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　４　０　２

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３８０ g/cm³

最大比重　２．５５３ g/cm³

空隙率　＿６．８ %

アスファルト量　４．０ %

骨材間隙率　１６．１ %

様式A－4－7　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　4 0 2

層番号　＿ 5 、＿ ＿ 、＿ ＿　（様式A－1－3参照）

かさ密度　2 . 4 7 4 g/cm³

最大比重　2 . 5 2 7 g/cm³

空隙率　＿ 2 . 1 %

アスファルト量　5 . 0 %

骨材間隙率　1 4 . 1 %

様式A－4－7　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　4 0 2

層番号　＿ 6 、＿ ＿ 、＿ ＿　（様式A－1－3参照）

かさ密度　2 . 3 9 5 g/cm³

最大比重　2 . 4 6 5 g/cm³

空隙率　＿ 2 . 8 %

アスファルト量　5 . 8 %

骨材間隙率　1 6 . 3 %

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　４０２

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	６００５０	２.３９０
＿＿＿	＿＿５.０	５３７５０	２.３６６
＿＿＿	＿＿５.０	５９３００	２.３８４
＿＿＿	＿２５.０	２２８５０	２.３９０
＿＿＿	＿２５.０	２１１５０	２.３６６
＿＿＿	＿２５.０	１７９００	２.３８４
＿＿＿	＿４０.０	＿２４１０	２.３９０
＿＿＿	＿４０.０	＿１７０５	２.３６６
＿＿＿	＿４０.０	＿２３９０	２.３８４
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　４０２

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	６４５００	２.４５５
＿＿＿	＿＿５.０	６５１５０	２.４８０
＿＿＿	＿＿５.０	５８４５０	２.４８６
＿＿＿	＿２５.０	２１３００	２.４５５
＿＿＿	＿２５.０	２７３００	２.４８０
＿＿＿	＿２５.０	３００５０	２.４８６
＿＿＿	＿４０.０	＿２７９０	２.４５５
＿＿＿	＿４０.０	＿１３８５	２.４８０
＿＿＿	＿４０.０	＿２１８０	２.４８６
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　４０２

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	５０８５０	２.３８５
＿＿＿	＿＿５.０	５０１００	２.４０１
＿＿＿	＿＿５.０	４７９００	２.４００
＿＿＿	＿２５.０	２１４５０	２.３８５
＿＿＿	＿２５.０	２２１５０	２.４０１
＿＿＿	＿２５.０	１５３５０	２.４００
＿＿＿	＿４０.０	＿１７４５	２.３８５
＿＿＿	＿４０.０	＿１５９０	２.４０１
＿＿＿	＿４０.０	＿２７２０	２.４００
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　４０２

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿３１.７
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２１.２
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿３２.２
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿９.５
＿＿＿	＿２５.０	＿＿１２.７
＿＿＿	＿２５.０	＿＿１４.５
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿３.８
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿３.４
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿３.７
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　４０２

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿３８.４
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２８.６
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿３７.０
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿９.５
＿＿＿	＿２５.０	＿＿１０.７
＿＿＿	＿２５.０	＿＿１１.５
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.４
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.２
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.３
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　４０２

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２４.７
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿３７.３
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿３２.０
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿８.７
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿９.７
＿＿＿	＿２５.０	＿＿１１.６
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿３.２
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.２
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.２
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

S H R P
新 基 準 調 査

初 期 調 査 デ ー タ

8号　くりからバイパス

様式Ａ－１－ｉ　一般データ　　調査区間番号　４０３

地建番号　４

報告年月　平成　２　年　１０　月

担当部局　北陸地方建設局　北陸技術事務所　　内線　３１４

調査区間の地名　石川県河北郡津幡町坂戸

路線番号　　８

調査種別　１

調査方向　☒上り　☐下り

距離標　２９８ｋ７００～２９８ｋ４００

（ＫＰ未定の場合No.＿＿＿＿＋＿＿～＿＿＿＿＋＿＿）

様式A－1－2　舗装構造データ　　調査区間番号　4 0 3

舗装の種別　1

調査方向の車線数　1

車線幅　3 5 0　cm

調査対象車線　第 1 車線

路肩の幅　2 0 0　cm

路肩の路面の種類　3

路肩の路盤の種類　2 3，2 5

路肩の表層・基層の厚さ　1 0　cm

路肩の路盤の厚さ　＿ 2 0　cm

地下排水工の種類　1，＿

縦断方向の配水管の内径　＿ ＿ ＿ ＿　mm

排水工の位置　＿

配水管の間隔　＿ ＿ ＿ ＿　cm

様式A－1－3　舗装構成データ　　調査区間番号　403

層の数　7

番号	層の名称	層の厚さ（mm）				材料
		最　大	最　小	平　均	標準偏差	
1	7	350	0	210	．．	53
2	7	630	600	618	．．	43
3	6	220	200	208	．．	23
4	5	110	100	105	．．	25
5	4	112	103	106	．．	31
6	4	55	50	53	．．	2
7	3	59	51	54	．．	1
8					．．	
9					．．	
10					．．	
11					．．	
12					．．	

舗装の等値換算厚T_A　　26.5 cm

舗装厚H　　50.0 cm

高支持力層までの深さ　　m

盛土厚さ　　50 cm

様式Ａ－１－４　施工関係データ　　調査区間番号　４０３

施工年月　平成　２年１０月

交通開放（予定）年月　平成　２年１１月

施工費用　　３９百万円／km・車線

打換え年月　平成　　年　　月

拡幅年月　　平成　　年　　月

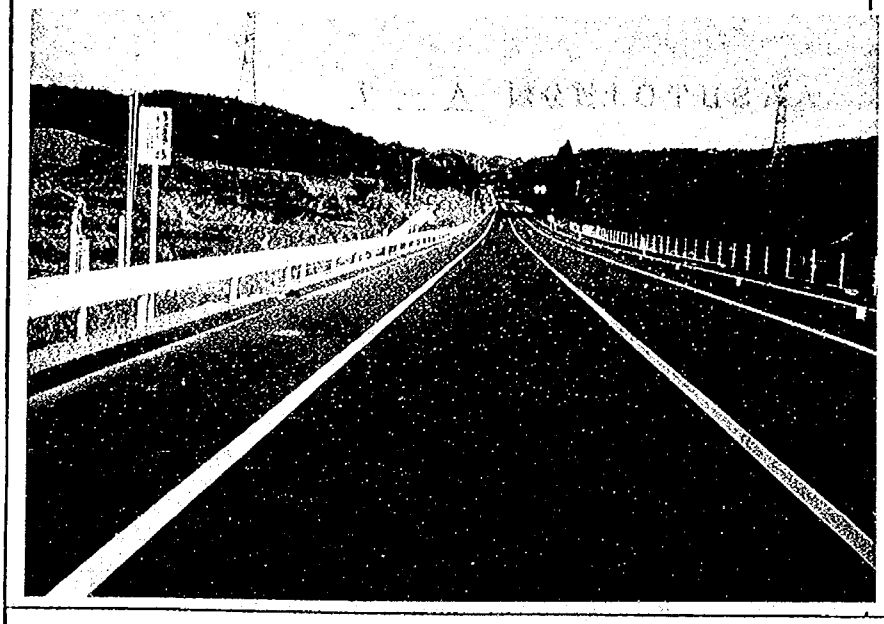
当初の車線数　　車線

最終的な車線数　　車線

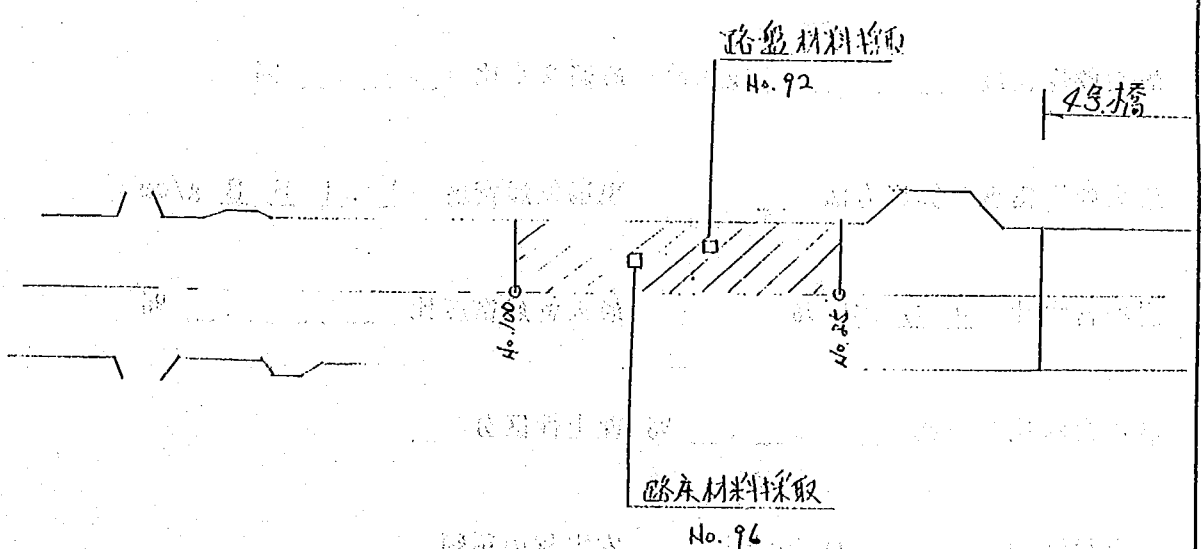
追加車線数　　車線

様式A－1－5　調査区間概要図　　調査区間番号　4 0 3

No. 100 ～ No. 85



調査区間概要図



路床路盤材料の採取位置を示すこと。

様式Ａ－２－１　路床土に関する基礎データ　　調査区間番号　４０３

層番号　＿１、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

土質分類　＿ＣＨ　　ＡＡＳＨＴＯ土質分類　Ａ－７

ＣＢＲ　平均値　＿＿１．７　区間のＣＢＲ　＿＿１．６

Ｓ値　＿２．２２　Ｋ値　＿＿＿．＿ kg/cm³

75μmふるい通過量　６２．０ %

塑性限界　２６．８ %　液性限界　５１．９ %

塑性指数　２５．１ %

最大乾燥密度　＿．＿＿＿ g/cm³　最適含水比　＿＿．＿ %

最大乾燥密度の算出方法　＿　現場乾燥密度　１．１３３ g/cm³

現場含水比　４８．２ %　最大乾燥密度比　＿＿＿．＿ %

最適含水比との比　＿＿＿．＿ %　凍上性区分　＿

安定材添加量　＿＿０ kg/m³　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

様式Ａ－２－１　路床土に関する基礎データ　　調査区間番号　４０３

層番号　＿２、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

土質分類　＿＿＿　　ＡＡＳＨＴＯ土質分類　＿＿＿

ＣＢＲ　平均値　＿２７．２　区間のＣＢＲ　＿２５．４

Ｓ値　＿７．１４　Ｋ値　＿１９．２ kg/cm³

75μmふるい通過量　＿＿．＿ ％

塑性限界　＿＿．＿ ％　液性限界　＿＿．＿ ％

塑性指数　＿＿．＿ ％

最大乾燥密度　１．３５１ g/cm³　最適含水比　２６．１ ％

最大乾燥密度の算出方法　１　現場乾燥密度　１．２９０ g/cm³

現場含水比　２６．２ ％　最大乾燥密度比　＿９５．５ ％

最適含水比との比　１００．４ ％　凍上性区分　＿

安定材添加量　＿４７ kg/m³　安定材の種類　＿＿４

安定材の混合比　４　１００

＿　＿＿＿

＿　＿＿＿

様式Ａ－２－２　弾性係数の測定（路床土）　　調査区間番号　４０３

層番号　＿１、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試料採取位置 KP＿＿＿ｋ＿＿＿（KPが未定の場合　No.　＿＿＿＿＋＿＿）

供試体数　＿２　　ＡＡＳＨＴＯ土質分類　＿＿＿

含水比　＿３６．４％　　乾燥密度　１．２９９ g/cm³

試験の結果

側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
０．４１	０．５４	２５３
０．２１	０．３５	２５３
０．００	０．１４	２３０
０．４１	０．６９	４６２
０．２１	０．４９	４３５
０．００	０．２９	４０４
０．４１	０．９６	７８８
０．２１	０．７６	７８７
０．００	０．５５	７２４
０．４１	１．１０	９０５
０．２１	０．９０	８２２
０．００	０．６９	７７６
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿

回帰式　　log E = log A + B x log(stress)

A = ＿５４１．１ 10^3kg/cm²　B = ０．３３６

様式Ａ－２－２　弾性係数の測定（路床土）　　調査区間番号　４０３

層番号　＿２、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試料採取位置 KP＿＿＿ k ＿＿＿（KPが未定の場合　No. ＿＿＿＿ + ＿＿）

供試体数　＿２　　ＡＡＳＨＴＯ土質分類　＿＿＿

含水比　＿＿＿.＿ %　　乾燥密度　＿.＿＿＿ g/cm³

試験の結果

	側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿

回帰式　　$\log E = \log A + B \times \log(\text{stress})$

A = ＿＿＿＿.＿ 10^3kg/cm²　　B = ＿.＿＿

様式Ａ－３－１　路盤材料の特性値　　調査区間番号　４０３

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

最大乾燥密度　２．０６２ g/cm³　最適含水比　＿７．７ %

最大乾燥密度の算出方法　１

現場乾燥密度　１．９９１ g/cm³　現場含水比　＿６．９ %

最大乾燥密度比　＿９６．６ %　最適含水比との比　＿８９．６ %

平板載荷試験　＿２９．４ kg/cm³

425μmふるい通過量　３２．０ %　75μmふるい通過量　＿１．１ %

路盤材料の修正ＣＢＲ　＿７９．７

路盤材料の一軸圧縮強度　＿＿．＿ kg/cm²

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

様式Ａ－３－１　路盤材料の特性値　　調査区間番号　４０３

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

最大乾燥密度　２．１１８ g/cm³　最適含水比　＿６．６ %

最大乾燥密度の算出方法　１

現場乾燥密度　２．０５１ g/cm³　現場含水比　＿６．０ %

最大乾燥密度比　＿９６．８ %　最適含水比との比　＿９０．１ %

平板載荷試験　＿３３．８ kg/cm³

425μmふるい通過量　４６．０ %　75μmふるい通過量　＿５．５ %

路盤材料の修正ＣＢＲ　１１０．１

路盤材料の一軸圧縮強度　＿＿．＿ kg/cm²

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

様式Ａ－３－２　弾性係数の測定（路盤）　　調査区間番号　４０３

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

供試体数　＿２　含水比　＿＿３．８％　乾燥密度　１．８６０ g/cm³

試験の結果	側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
	１．３８	１．５１	１５８９
	１．３８	１．７４	１９２５
	１．３８	２．０７	２０４５
	１．３８	２．４３	２４２０
	１．３８	２．７６	２７４５
	１．０５	１．１８	１３２８
	１．０４	１．３９	１５８１
	１．０４	１．７３	１８９１
	１．０４	２．０８	１９９１
	１．０４	２．４２	２４６８
	０．６９	０．８３	１１２５
	０．６９	１．０５	１２５８
	０．６９	１．３９	１６４７
	０．６９	１．７４	２０８２
	０．３５	０．４９	＿８０７
	０．３５	０．７１	＿９７２
	０．３５	１．０４	１３３２
	０．３５	１．４０	１４２８
	０．０７	０．２１	＿５３１
	０．０７	０．４２	＿６８５
	０．０７	０．５９	＿７６６
	０．０７	０．７６	＿９０８
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿

回帰式　　$\log E = \log A + B \times \log(\text{stress})$

A = １０８４．６ 10^3kg/cm²　B = ０．５０６

様式A－3－2　弾性係数の測定（路盤）　　調査区間番号　4 0 3

層番号　＿4、＿＿、＿＿　（様式A－1－3参照）

供試体数　＿2　含水比　＿＿4.9 %　乾燥密度　1.9 5 5 g/cm³

試験の結果	側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
	＿1.3 8	＿1.5 2	2 2 4 4
	＿1.3 8	＿1.7 4	2 2 8 7
	＿1.3 8	＿2.0 6	2 6 6 3
	＿1.3 8	＿2.4 2	2 7 9 8
	＿1.3 8	＿2.7 6	3 7 7 8
	＿1.0 5	＿1.1 8	1 6 1 8
	＿1.0 4	＿1.4 0	1 7 6 2
	＿1.0 4	＿1.7 3	1 9 0 3
	＿1.0 4	＿2.0 8	2 2 3 0
	＿1.0 4	＿2.4 3	2 6 3 9
	＿0.6 9	＿0.8 3	1 4 2 1
	＿0.6 9	＿1.0 5	1 5 2 9
	＿0.6 9	＿1.3 8	1 6 9 2
	＿0.6 9	＿1.7 4	1 8 9 3
	＿0.3 5	＿0.4 9	1 3 1 3
	＿0.3 5	＿0.7 1	1 2 6 9
	＿0.3 5	＿1.0 3	1 3 1 8
	＿0.3 5	＿1.3 9	1 5 1 7
	＿0.0 7	＿0.2 1	＿7 5 6
	＿0.0 7	＿0.4 2	＿8 6 8
	＿0.0 7	＿0.5 9	＿8 6 7
	＿0.0 7	＿0.7 6	＿9 8 2
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿

回帰式　$\log E = \log A + B \times \log(\text{stress})$

A = ＿8 7 5.9 10^3kg/cm²　B = 0.5 5 6

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　４０３

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類　１　１００　　細骨材の種類　１　１００

＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

粗骨材の岩質　＿１　　フィラーの種類　１

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿．＿	2.36mm	＿３７．２
37.5mm	＿＿＿．＿	600μm	＿３０．５
26.5mm	１００．０	300μm	＿１９．８
19mm	＿９９．６	150μm	＿＿５．６
13.2mm	＿７６．４	75μm	＿＿３．７
4.75mm	＿４９．６		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	＿．＿＿１ g/cm³	細骨材１（粗砂）	２．７３３ g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	２．６５９ g/cm³	細骨材２（中砂）	＿．＿＿＿ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	２．５８２ g/cm³	細骨材３（細砂）	２．６３６ g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	２．５５１ g/cm³	フィラー	２．７００ g/cm³
スクリーニングス	＿．＿＿＿ g/cm³	クラッシャラン	＿．＿＿＿ g/cm³

合成密度　２．６４９ g/cm³　有効密度　２．７２１ g/cm³

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　４０３

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類　１　１００　　細骨材の種類　１　１００

＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

粗骨材の岩質　＿１　　フィラーの種類　１

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿.＿	2.36mm	＿２４.７
37.5mm	＿＿＿.＿	600μm	＿１９.２
26.5mm	１００.０	300μm	＿１２.５
19mm	＿９９.６	150μm	＿＿５.１
13.2mm	＿７９.５	75μm	＿＿３.６
4.75mm	＿４２.６		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	＿.＿＿＿ g/cm³	細骨材１（粗砂）	２.７３３ g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	２.６５９ g/cm³	細骨材２（中砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	２.５８２ g/cm³	細骨材３（細砂）	２.６８６ g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	２.５５１ g/cm³	フィラー	２.７００ g/cm³
スクリーニングス	＿.＿＿＿ g/cm³	クラッシャラン	＿.＿＿＿ g/cm³

合成密度　２.６２９ g/cm³　有効密度　２.６８６ g/cm³

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　４０３

層番号　＿７、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類　１　１００　　細骨材の種類　１　１００

＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

粗骨材の岩質　＿＿　　フィラーの種類　１

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿.＿	2.36mm	＿４６.５
37.5mm	＿＿＿.＿	600μm	＿４２.０
26.5mm	１００.０	300μm	＿３０.７
19mm	＿９９.６	150μm	＿１０.２
13.2mm	＿８０.３	75μm	＿＿７.９
4.75mm	＿５６.９		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	＿.＿＿＿ g/cm³	細骨材１（粗砂）	２.７３３ g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	２.６５９ g/cm³	細骨材２（中砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	２.５８２ g/cm³	細骨材３（細砂）	２.６３６ g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	２.５５１ g/cm³	フィラー	２.７００ g/cm³
スクリーニングス	＿.＿＿＿ g/cm³	クラッシャラン	＿.＿＿＿ g/cm³

合成密度　２.６４５ g/cm³　有効密度　２.７３１ g/cm³

様式Ａ－４－２　アスファルトの性状（原アスファルト）　調査区間番号　４０３

層番号　＿５、＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

針入度区分　＿６０～＿８０

アスファルトの製造元　富士興産(株)

密度　１．０３４ g/cm³

60℃粘度　＿＿１９９０ poise

135℃粘度　＿３５０ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０．０ cm

4℃伸度の伸長速度　＿５ cm/min

25℃針入度　＿６３

4℃針入度　＿２７

軟化点　＿４８ ℃

添加剤　商品名

添加剤の添加量　＿＿＿ %

様式Ａ－４－２　アスファルトの性状（原アスファルト）　調査区間番号　４０３

層番号　＿６、＿＿、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

針入度区分　＿６０～＿８０

アスファルトの製造元　富士興産(株)

密度　１.０３４ g/cm³

60℃粘度　＿＿１２３８ poise

135℃粘度　＿３２０ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０.０ cm

4℃伸度の伸長速度　＿５ cm/min

25℃針入度　＿９０

4℃針入度　＿３４

軟化点　＿６６ ℃

添加剤　商品名

添加剤の添加量　＿＿＿ %

様式Ａ－４－２　アスファルトの性状（原アスファルト）　調査区間番号　４０３

層番号　＿７、＿＿、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）
（剝離防止剤入り）

針入度区分　＿６０～＿８０

アスファルトの製造元　富士興産(株)

密度　１．０３４ g/cm³

60℃粘度　＿＿１２３８ poise

135℃粘度　＿３２０ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm または ☒ １００＋

4℃伸度　＿０．０ cm

4℃伸度の伸長速度　＿５ cm/min

25℃針入度　＿９０

4℃針入度　＿３４

軟化点　＿６６ ℃

添加剤　商品名

添加剤の添加量　＿＿＿ %

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　４０３

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿３４８０ poise　　135℃粘度　＿４５０ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０．０ cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５ cm/min

25℃針入度　＿５１　　4℃針入度　＿２０

軟化点　＿５１℃

質量変化率　０．１５

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿３６　　4℃針入度　＿１６

60℃粘度　＿＿９３５０ poise　　135℃粘度　＿６８５ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　４０３

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿３４８０ poise　　135℃粘度　＿４５０ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０．０ cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５ cm/min

25℃針入度　＿５１　　4℃針入度　＿２０

軟化点　＿５１℃

質量変化率　０．１５

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿４０　　4℃針入度　＿１９

60℃粘度　＿＿８２８４ poise　　135℃粘度　＿７２３ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　４０３

層番号　＿７、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿１４３０ poise　　135℃粘度　＿３４１ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm または ☒ １００＋

4℃伸度　＿０．０ cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５ cm/min

25℃針入度　＿７４　　4℃針入度　＿２５

軟化点　＿６７ ℃

質量変化率　０．６１

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿４０　　4℃針入度　＿１７

60℃粘度　＿＿６０２６ poise　　135℃粘度　＿５７２ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm または ☒ １００＋

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　４０３

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３９３ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．５５４ g/cm³

アスファルト量　４．０ ％

空隙率　＿６．３ ％

骨材間隙率　１５．５ ％

有効アスファルト量　＿４．０ ％

突き固め回数　５０ 回

マーシャル安定度　＿７８１ kg

フロー値　＿３４ (1/100cm)

ビーム安定度　＿４５．３

ビーム粘着度　＿１０４．０

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　４０３

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３５９ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．４８７ g/cm³

アスファルト量　５．０ %

空隙率　＿５．１ %

骨材間隙率　１６．５ %

有効アスファルト量　＿５．０ %

突き固め回数　５０ 回

マーシャル安定度　＿８９８ kg

フロー値　＿３９ (1/100cm)

ビーム安定度　＿３７．０

ビーム粘着度　＿１７８．８

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　４０３

層番号　＿７、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３７９ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．４８６ g/cm³

アスファルト量　６．０ %

空隙率　＿４．３ %

骨材間隙率　１８．１ %

有効アスファルト量　＿６．０ %

突き固め回数　５０ 回

マーシャル安定度　１０７２ kg

フロー値　＿３８ (1/100cm)

ビーム安定度　＿３８．４

ビーム粘着度　＿２６１．５

様式Ａ－４－５　アスファルト混合物の性状（配合試験２）調査区間番号　４０３

層番号　＿５、＿６、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の剥離試験結果（剥離率）　＿６４

剥離防止材の種類　商品名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

剥離防止材の添加量　＿＿．＿％

アスファルトプラントの形式　１　日工型全自動ＮＡＰ　ＢＤ－１０００ＡＢＬ型

ホイールトラッキング試験結果　＿＿＿＿回/mm

スパイクラベリング試験結果　＿＿＿＿mm²

様式Ａ－４－５　アスファルト混合物の性状（配合試験２）調査区間番号　４０３

層番号　＿７、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の剥離試験結果（剥離率）　＿＿０

剥離防止材の種類　商品名 デハイドロ

剥離防止材の添加量　＿０．３％

アスファルトプラントの形式　１　日工型全自動ＮＡＲ ＢＤ－１０００ＡＢＬ型

ホイールトラッキング試験結果　＿３４６回/mm

スパイクラベリング試験結果　＿＿４．８ mm²

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　４０３

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３５４ g/cm³

アスファルト量　３．９ ％

空隙率　＿７．８ ％

骨材間隙率　１６．７ ％

マーシャル安定度　＿８０４ kg

フロー値　＿３６ (1/100cm)

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　４０３

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３５６ g/cm³

アスファルト量　４．９ %

空隙率　＿５．２ %

骨材間隙率　１６．４ %

マーシャル安定度　＿８９９ kg

フロー値　＿３７ (1/100cm)

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　４０３

層番号　＿７、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３６０ g/cm³

アスファルト量　５．９ %

空隙率　　１３．５ %

骨材間隙率　　＿５．０ %

マーシャル安定度　１０２４ kg

フロー値　＿３３ (1/100cm)

様式A－4－7　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　4 0 3

層番号　＿ 6 、＿ ＿ 、＿ ＿　（様式A－1－3参照）

かさ密度　2 . 3 7 2 g/cm³

最大比重　2 . 5 1 7 g/cm³

空隙率　＿ 5 . 8 %

アスファルト量　6 . 4 %

骨材間隙率　2 0 . 5 %

様式A－4－7　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　4 0 3

層番号　＿ 7 、＿ ＿ 、＿ ＿　（様式A－1－3参照）

かさ密度　2 . 2 6 3 g/cm³

最大比重　2 . 4 8 9 g/cm³

空隙率　＿ 9 . 1 %

アスファルト量　6 . 2 %

骨材間隙率　2 2 . 6 %

様式Ａ－４－７　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　４０３

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．２８２ g/cm³

最大比重　２．４７４ g/cm³

空隙率　＿７．８ %

アスファルト量　４．８ %

骨材間隙率　１８．４ %

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　４０３

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	５３４５０	２.２８６
＿＿＿	＿＿５.０	４２４００	２.２７２
＿＿＿	＿＿５.０	４９３００	２.２８７
＿＿＿	＿２５.０	１８１５０	２.２８６
＿＿＿	＿２５.０	１６２００	２.２７２
＿＿＿	＿２５.０	１９４００	２.２８７
＿＿＿	＿４０.０	＿７６２０	２.２８６
＿＿＿	＿４０.０	＿８３０５	２.２７２
＿＿＿	＿４０.０	＿７４２５	２.２８７
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　４０３

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	７１２５０	２.３７３
＿＿＿	＿＿５.０	５８４００	２.３７０
＿＿＿	＿＿５.０	５０７００	２.３７４
＿＿＿	＿２５.０	１８３００	２.３７３
＿＿＿	＿２５.０	２０７００	２.３７０
＿＿＿	＿２５.０	２６３００	２.３７４
＿＿＿	＿４０.０	＿７６２５	２.３７３
＿＿＿	＿４０.０	＿７０００	２.３７０
＿＿＿	＿４０.０	＿５８５５	２.３７４
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　４０３

層番号　＿７、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	５２２００	２.２７４
＿＿＿	＿＿５.０	３６６５０	２.２５５
＿＿＿	＿＿５.０	４４７００	２.２５９
＿＿＿	＿２５.０	１３０５０	２.２７４
＿＿＿	＿２５.０	１１３５０	２.２５５
＿＿＿	＿２５.０	２１０００	２.２５９
＿＿＿	＿４０.０	＿４２１０	２.２７４
＿＿＿	＿４０.０	＿４０８０	２.２５５
＿＿＿	＿４０.０	＿４６７０	２.２５９
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式A--4-9　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　4 0 3

層番号　＿5、＿＿、＿＿　（様式A--1-3参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿5.0	＿＿15.5
＿＿＿	＿＿5.0	＿＿15.0
＿＿＿	＿＿5.0	＿＿16.3
＿＿＿	＿25.0	＿＿＿7.2
＿＿＿	＿25.0	＿＿＿6.9
＿＿＿	＿25.0	＿＿＿7.9
＿＿＿	＿40.0	＿＿＿2.3
＿＿＿	＿40.0	＿＿＿2.2
＿＿＿	＿40.0	＿＿＿2.2
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿50.0 mm/min

試験方法　1

様式A－4－9　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　4 0 3

層番号　＿6＿、＿＿、＿＿　（様式A－1－3参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿5.0	＿＿20.2
＿＿＿	＿＿5.0	＿＿20.0
＿＿＿	＿＿5.0	＿＿21.6
＿＿＿	＿25.0	＿＿＿8.2
＿＿＿	＿25.0	＿＿＿8.9
＿＿＿	＿25.0	＿＿＿9.3
＿＿＿	＿40.0	＿＿＿2.8
＿＿＿	＿40.0	＿＿＿3.0
＿＿＿	＿40.0	＿＿＿2.9
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿50.0　mm/min

試験方法　1

様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　４０３

層番号　＿７、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿１４.５
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿１６.５
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿１６.８
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿６.９
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿６.３
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿７.７
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿１.６
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿１.６
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿１.９
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

第２分冊　新基準調査結果報告
初期調査編，初期調査データ
（その１）

ISSN　0386－5878
土木研究所資料第3157号
平成５年４月（1993）

舗装研究室　室　長　中村　俊行
研究員　伊佐　真秋

要　旨

新基準調査は，アメリカ合衆国が中心となって進めている新道路研究計画（Strategic Highway Research Program：SHRP）の中の舗装の長期供用性（Long－Term Pavement Performance：LTPP）に関する調査への研究協力および我国での基礎データの収集を目的とするものである。

本報告は全国の各試験舗装箇所の道路構造，舗装構造，材料特性データ等の初期調査データが整ったのを受け，全調査箇所のデータを取りまとめたものである。

キーワード：新道路研究計画（SHRP），舗装の長期供用性（LTPP），アスファルト舗装，新基準調査，舗装材料の弾性係数

郵　便　はがき

切手をはって下さい

3 0 5 - □ □

茨城県つくば市大字旭一番地

建設省土木研究所
道路部舗装研究室　行

No.

No.

配布先氏名

配布先住所

土木研究所資料第3157号　　部

第2分冊　新基準調査結果報告
初期調査編，初期調査データ（その1）

上記のとおり受領しました。

所　属（住所）

氏　名　　印

１．調査の概要

1.1　調査の適用箇所

新基準調査の箇所選定にあたっては、アスファルト舗装で、新設または打換えの箇所、平坦かつ直線で原則として300m程度の区間をとることのできる箇所等の条件に基づき決定した。

調査は、全国２８箇所（地建当り３箇所程度）で行われており、地建別、舗設年度別に全試験舗装箇所の一覧を表－１に示す。

表－１　試験舗装箇所一覧表　　（ＢＰ：バイパス）

地建	昭和63年度施工		平成元年度施工		平成２年度施工		計
	路線	路線名	路線	路線名	路線	路線名	
北海道			36 228	白老ＢＰ 木古内ＢＰ	337	銭函ＢＰ	3
東北	13	山形北ＢＰ	4	柴田ＢＰ	108	涌谷ＢＰ	3
関東	246	大和･厚木BP	17 51	深谷ＢＰ 佐原ＢＰ	4	新４号国道	4
北陸	8	長岡東ＢＰ	7	新々ＢＰ	8	くりからＢＰ	3
中部	23	南勢ＢＰ			1 1	沼津ＢＰ 亀山ＢＰ	3
近畿	175	小野ＢＰ	8	福井ＢＰ	161	高島ＢＰ	3
中国			54	上根ＢＰ	9 188	北条ＢＰ 下松ＢＰ	3
四国	11	松山東道路	11	西条ＢＰ	55	徳島南ＢＰ	3
九州			3	岡垣ＢＰ	10 203	椎田道路 東多久ＢＰ	3
箇所数	6		１０		１２		２８

1.2 調査内容

調査項目は、大きく以下の６つに分類される。

①初期調査

初期調査は、地先名、路線名や距離標等の一般的なデータ、試験舗装地点の車線数、幅員等の道路構造データ、舗装を構成する各層の材料や厚さを示す舗装構造データ、各材料の特性値を示す材料特性データ等からなる。

②路面調査

ひびわれ、平坦性、わだち掘れ量、すべり抵抗等の路面性状やたわみ量等について交通に供用されることによる変化を定期的（毎年９～１１月）に観測する。

③環境調査

気温や降水量等の現場の気象条件を示すデータを収集する。

④交通調査

交通量や車両重量を調査する。

⑤維持調査

維持作業の方法、規模、使用材料、施工費等のデータを収集する。

⑥修繕調査

修繕作業の方法、規模、使用材料、施工費等のデータを収集する。

なお、調査は、粒状路盤までの打換えあるいは２回目の修繕が必要になったときに終了する。

現在は、全ての調査箇所において舗装施工時に行われる初期調査が終了し、②、③、④といった追跡調査を中心に調査を継続している。また、各調査箇所とも供用を開始してから４年未満と新しいため⑤、⑥といった補修に関する調査は行われていない。

中　部　地　方

ＳＨＲＰ

新基準調査

初期調査データ

２３号　南勢バイパス

様式Ａ－１－１　一般データ　　調査区間番号　５０１

地建番号　５

報告年月　平成　１　年　３　月

担当部局　中部地方建設局　中部技術事務所　材料試験課　内線　３５４

調査区間の地名　三重県伊勢市通町

路線番号　２３

調査種別　１

調査方向　□上り　☒下り

距離標　６５ｋ５９０～６５ｋ８９０

（ＫＰ未定の場合No.＿＿＿＿＋＿＿～＿＿＿＿＋＿＿）

様式Ａ－１－２　舗装構造データ　　調査区間番号　５０１

舗装の種別　１

調査方向の車線数　２

車線幅　３５０　cm

調査対象車線　第　１　車線

路肩の幅　＿７５　cm

路肩の路面の種類　３

路肩の路盤の種類　２３

路肩の表層・基層の厚さ　＿５　cm

路肩の路盤の厚さ　＿１０　cm

地下排水工の種類　１，＿

縦断方向の配水管の内径　＿＿＿＿　mm

排水工の位置　＿

配水管の間隔　＿＿＿＿　cm

様式A－1－3　舗装構成データ　　調査区間番号　501

層の数　＿

番号	層の名称	層の厚さ（mm）				材料
		最　大	最　小	平　均	標準偏差	
1	＿7	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿.＿＿	63
2	＿6	＿365	＿355	＿360	＿＿.＿＿	23
3	＿5	＿155	＿150	＿153	＿＿.＿＿	25
4	＿4	＿110	＿＿92	＿100	＿＿.＿＿	31
5	＿4	＿＿57	＿＿47	＿＿52	＿＿.＿＿	＿2
6	＿3	＿＿60	＿＿46	＿＿55	＿＿.＿＿	＿1
7	＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿.＿＿	＿＿
8	＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿.＿＿	＿＿
9	＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿.＿＿	＿＿
10	＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿.＿＿	＿＿
11	＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿.＿＿	＿＿
12	＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿.＿＿	＿＿

舗装の等値換算厚 T_A　＿32.0 cm

舗装厚H　＿70.0 cm

高支持力層までの深さ　＿＿＿ m

盛土厚さ　＿700 cm

様式Ａ－１－４　施工関係データ　　調査区間番号　５０１

施工年月　平成　１　年　２　月

交通開放（予定）年月　昭和　６３　年　３　月

施工費用　　２９　百万円／km・車線

打換え年月　平成　　年　　月

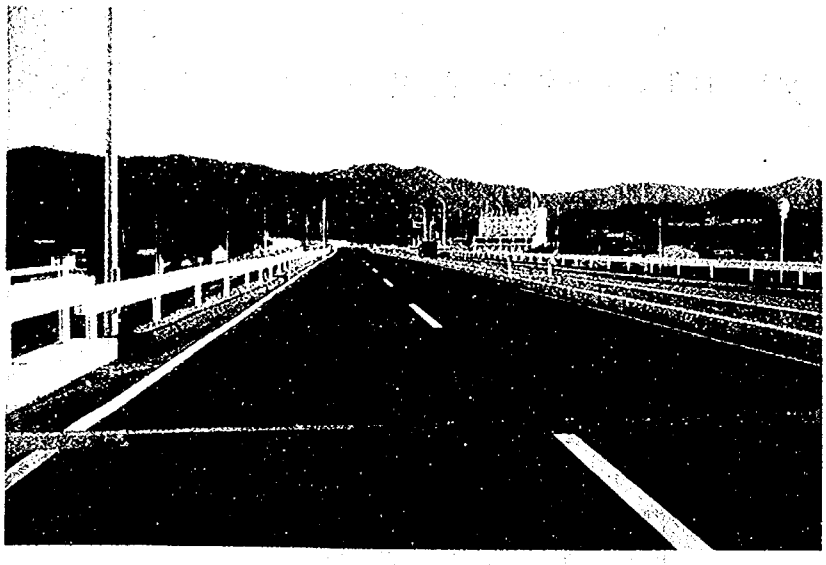
拡幅年月　　平成　　年　　月

当初の車線数　　車線

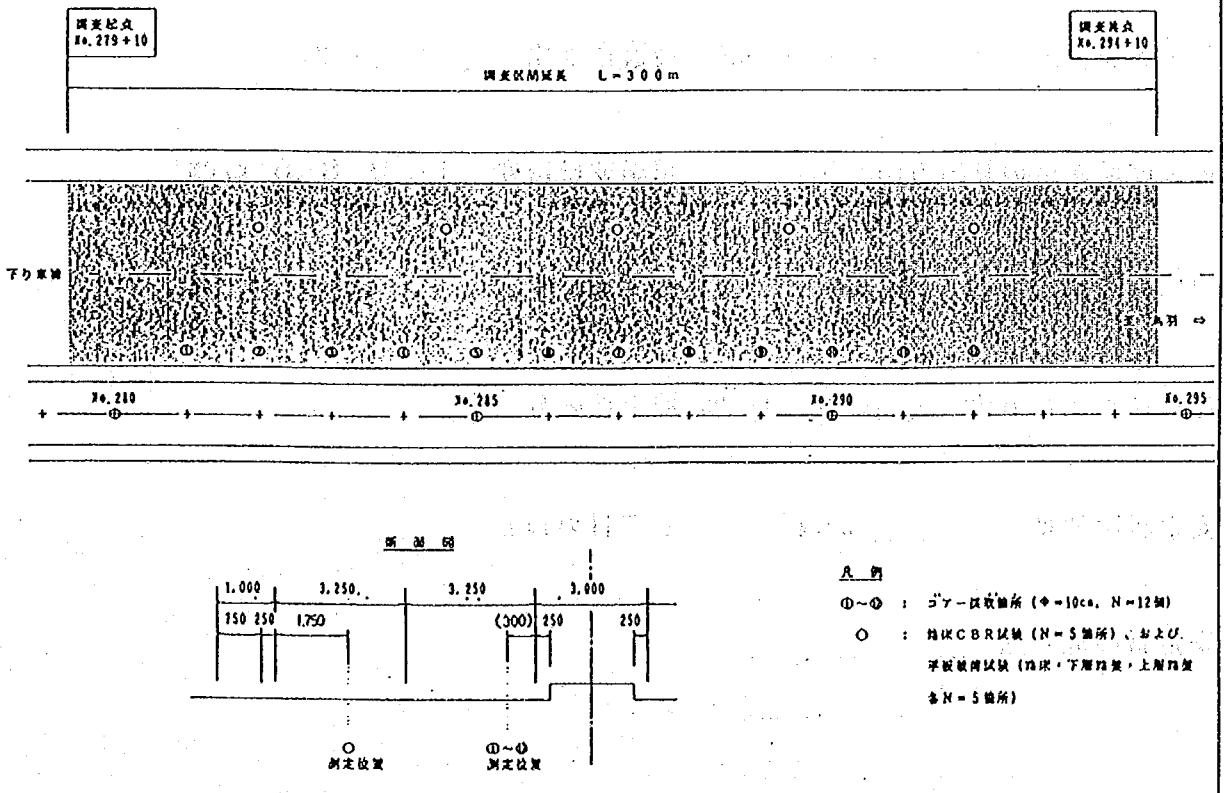
最終的な車線数　　車線

追加車線数　　車線

様式Ａ－１－５　調査区間概要図　　調査区間番号　５０１



調査区間概要図



様式Ａ－２－１　路床土に関する基礎データ　　調査区間番号　５０１

層番号　＿１、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

土質分類　＿ＧＣ　　ＡＡＳＨＴＯ土質分類　Ａ２４

ＣＢＲ　平均値　＿＿６．１　区間のＣＢＲ　＿＿４．１

Ｓ値　＿９．４４　Ｋ値　＿＿９．７ kg/cm³

75μmふるい通過量　２１．５ %

塑性限界　２４．５ %　液性限界　３４．４ %

塑性指数　１０．０ %

最大乾燥密度　２．１１６ g/cm³　最適含水比　＿７．５ %

最大乾燥密度の算出方法　１　現場乾燥密度　１．９８５ g/cm³

現場含水比　１１．４ %　最大乾燥密度比　＿９３．８ %

最適含水比との比　１５２．０ %　凍上性区分　１

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

様式Ａ－２－２　弾性係数の測定（路床土）　　調査区間番号　５０１

層番号　＿１、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試料採取位置 KP＿＿＿ k＿＿＿（KPが未定の場合　No.　＿＿＿＿＋＿＿）

供試体数　＿２　　ＡＡＳＨＴＯ土質分類　Ａ２４

含水比　＿１２．４％　　乾燥密度　１．９７９ g/cm³

試験の結果	側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
	＿０．４１	＿０．５６	１０９１
	＿０．２１	＿０．３６	１０６３
	＿０．００	＿０．２２	１４３０
	＿０．４１	＿０．７０	１２３５
	＿０．２１	＿０．５０	１０３７
	＿０．００	＿０．３０	１３３６
	＿０．４１	＿０．９８	１５４４
	＿０．２１	＿０．７８	１３２２
	＿０．００	＿０．５８	１１１３
	＿０．４１	＿１．１２	１３１３
	＿０．２１	＿０．８９	１２４６
	＿０．００	＿０．７０	＿９７３
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿

回帰式　　log E = log A + B x log(stress)

A = １１８７．７ 10^3kg/cm²　B = ０．０２１

様式Ａ－３－１　路盤材料の特性値　　調査区間番号　５０１

層番号　＿２、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

最大乾燥密度　２．４１６ g/cm³　最適含水比　＿５．０ %

最大乾燥密度の算出方法　１

現場乾燥密度　２．３４４ g/cm³　現場含水比　＿４．７ %

最大乾燥密度比　＿９７．０ %　最適含水比との比　＿９４．０ %

平板載荷試験　＿２１．６ kg/cm³

425μmふるい通過量　＿＿．＿ %　75μmふるい通過量　＿＿．＿ %

路盤材料の修正ＣＢＲ　＿８４．０

路盤材料の一軸圧縮強度　＿＿．＿ kg/cm²

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

様式Ａ－３－１　路盤材料の特性値　　調査区間番号　５０１

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

最大乾燥密度　２．４４２ g/cm³　最適含水比　＿６．０ ％

最大乾燥密度の算出方法　１

現場乾燥密度　２．４２９ g/cm³　現場含水比　＿５．５ ％

最大乾燥密度比　＿９９．５ ％　最適含水比との比　＿９１．７ ％

平板載荷試験　＿３６．２ kg/cm³

425μmふるい通過量　＿＿．＿ ％　75μmふるい通過量　＿＿．＿ ％

路盤材料の修正ＣＢＲ　１０８．０

路盤材料の一軸圧縮強度　＿＿．＿ kg/cm²

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

様式Ａ－３－２　弾性係数の測定（路盤）　　調査区間番号　５０１

層番号　＿２、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

供試体数　＿２　含水比　＿＿３．９％　乾燥密度　２．３４１ g/cm³

試験の結果	側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
	＿１．３９	＿１．５４	２６１４
	＿１．３９	＿１．６７	２１３０
	＿１．３８	＿２．１１	２９００
	＿１．３８	＿２．５０	３３２０
	＿１．３８	＿２．７８	３１８９
	＿１．０５	＿１．１９	２３３３
	＿１．０５	＿１．４２	２２８２
	＿１．０５	＿１．７５	２４３９
	＿１．０４	＿２．１２	２５３０
	＿１．０４	＿２．５０	２９８０
	＿０．６９	＿０．８４	１４２９
	＿０．６９	＿１．０６	１３３３
	＿０．６９	＿１．４０	１５３３
	＿０．６９	＿１．７８	１８０９
	＿０．３６	＿０．５１	１２７７
	＿０．３６	＿０．７４	１２０４
	＿０．３５	＿１．０７	１５３７
	＿０．３５	＿１．４４	１７２０
	＿０．０９	＿０．２６	１１１４
	＿０．０９	＿０．４７	＿８２２
	＿０．０９	＿０．６３	１０７９
	＿０．０９	＿０．８３	１２０１
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿

回帰式　$\log E = \log A + B \times \log(\text{stress})$

A = １１４０．５ 10^3kg/cm²　B = ０．５２０

様式Ａ－３－２　弾性係数の測定（路盤）　　調査区間番号　５０１

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

供試体数　＿２　含水比　＿＿３．５％　乾燥密度　２．４６２ g/cm³

試験の結果	側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
	１．３９	１．５３	２７２２
	１．３９	１．７４	２９２５
	１．３９	２．０７	３０４２
	１．３９	２．４７	３４２９
	１．３９	２．７４	３５２０
	１．０５	１．１９	２３７７
	１．０５	１．３９	２４１９
	１．０５	１．７４	２５７５
	１．０５	２．０９	２８１４
	１．０５	２．４２	３０８８
	０．６８	０．８３	２０９２
	０．７１	１．０６	２０４２
	０．７０	１．４２	２１８６
	０．７１	１．７９	２２３４
	０．３５	０．５２	１６６２
	０．３５	０．７３	１６２５
	０．３５	１．０８	１７３７
	０．３５	１．４２	１８７１
	０．０７	０．２５	１０８９
	０．０７	０．４３	１２３１
	０．０７	０．６１	１２９１
	０．０７	０．８０	１４０４
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿

回帰式　$\log E = \log A + B \times \log(\text{stress})$

A ＝　１４６２．７ 10^3kg/cm²　B ＝　０．４２１

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　５０１

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類　１　１００　　細骨材の種類　＿　＿＿＿

＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

粗骨材の岩質　＿５　　フィラーの種類　＿

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿．＿	2.36mm	＿３１．５
37.5mm	１００．０	600μm	＿＿＿．＿
26.5mm	＿＿＿．＿	300μm	＿＿＿．＿
19mm	＿７９．２	150μm	＿＿＿．＿
13.2mm	＿＿＿．＿	75μm	＿＿６．３
4.75mm	＿＿＿．＿		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	＿．＿＿＿ g/cm³	細骨材１（粗砂）	＿．＿＿＿ g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	＿．＿＿＿ g/cm³	細骨材２（中砂）	＿．＿＿＿ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	＿．＿＿＿ g/cm³	細骨材３（細砂）	＿．＿＿＿ g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	＿．＿＿＿ g/cm³	フィラー	＿．＿＿＿ g/cm³
スクリーニングス	＿．＿＿＿ g/cm³	クラッシャラン	２．８９５ g/cm³

合成密度　２．８９５ g/cm³　有効密度　２．８９５ g/cm³

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　５０１

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類		細骨材の種類	
1	100	1	48
―	―	2	52
―	―	―	―
―	―	―	―

粗骨材の岩質　＿３　　フィラーの種類　１

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿.＿	2.36mm	＿26.2
37.5mm	＿＿＿.＿	600μm	＿13.2
26.5mm	100.0	300μm	＿＿9.8
19mm	＿98.9	150μm	＿＿7.2
13.2mm	＿78.6	75μm	＿＿5.3
4.75mm	＿44.3		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	＿.＿＿＿ g/cm³	細骨材１（粗砂）	2.665 g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	2.756 g/cm³	細骨材２（中砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	2.754 g/cm³	細骨材３（細砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	2.756 g/cm³	フィラー	2.710 g/cm³
スクリーニングス	2.770 g/cm³	クラッシャラン	＿.＿＿＿ g/cm³

合成密度　2.745 g/cm³　有効密度　2.745 g/cm³

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　５０１

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類　１　１００
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

細骨材の種類　１　＿５４
２　＿４６
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

粗骨材の岩質　＿３　　フィラーの種類　１

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿.＿	2.36mm	＿４０.９
37.5mm	＿＿＿.＿	600μm	＿２０.７
26.5mm	１００.０	300μm	＿１４.２
19mm	＿９９.３	150μm	＿＿９.９
13.2mm	＿８５.９	75μm	＿＿６.８
4.75mm	＿５６.６		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	＿.＿＿ g/cm³	細骨材１（粗砂）	２.６６５ g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	２.７５６ g/cm³	細骨材２（中砂）	＿.＿＿ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	２.７５４ g/cm³	細骨材３（細砂）	＿.＿＿ g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	２.７５６ g/cm³	フィラー	２.７１０ g/cm³
スクリーニングス	２.７７０ g/cm³	クラッシャラン	＿.＿＿ g/cm³

合成密度　２.７３６ g/cm³　有効密度　２.７３６ g/cm³

様式Ａ－４－２　アスファルトの性状（原アスファルト）　調査区間番号　５０１

層番号　＿４、＿５、＿６、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

針入度区分　＿６０～＿８０

アスファルトの製造元　コスモ石油(株)

密度　１．０３４ g/cm³

60℃粘度　＿＿２３５０ poise

135℃粘度　＿４４０ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０．０　cm

4℃伸度の伸長速度　＿５　cm/min

25℃針入度　＿６９

4℃針入度　＿２２

軟化点　＿４９ ℃

添加剤　商品名

添加剤の添加量　＿＿＿ %

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　５０１

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿６８２９ poise　　135℃粘度　＿７３９ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０．０ cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５ cm/min

25℃針入度　＿３８　　4℃針入度　＿１９

軟化点　＿５６ ℃

質量変化率　０．０２

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿５７　　4℃針入度　＿３１

60℃粘度　＿＿５７９５ poise　　135℃粘度　＿９６８ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　５０１

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿６８２９ poise　　135℃粘度　＿７３９ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０．０ cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５ cm/min

25℃針入度　＿３８　　4℃針入度　＿１９

軟化点　＿５６ ℃

質量変化率　０．０２

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿５１　　4℃針入度　＿２６

60℃粘度　＿＿５２３９ poise　　135℃粘度　＿７８５ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　５０１

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿６８２９ poise　　135℃粘度　＿７３９ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０．０ cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５　cm/min

25℃針入度　＿３８　　4℃針入度　＿１９

軟化点　＿５６ ℃

質量変化率　０．０２

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿６７　　4℃針入度　＿３０

60℃粘度　＿＿６１８５ poise　　135℃粘度　＿９７６ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　５　０　１

層番号　＿　４　、　＿　＿　、　＿　＿　（様式Ａ－１－３参照）

みかけ密度　２．４　７　６　g/cm³

最大比重（理論密度）　２．７　０　０　g/cm³

アスファルト量　４．０　％

空隙率　＿　８．３　％

骨材間隙率　１　７．９　％

有効アスファルト量　＿　４．０　％

突き固め回数　＿　＿　回

マーシャル安定度　１　０　５　６　kg

フロー値　＿　２　９　(1/100cm)

ビーム安定度　＿　５　９．７

ビーム粘着度　＿　３　６　１．９

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　５０１

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

みかけ密度　２．４４２ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．５４５ g/cm³

アスファルト量　４．７ %

空隙率　＿４．０ %

骨材間隙率　１５．１ %

有効アスファルト量　＿４．７ %

突き固め回数　＿＿回

マーシャル安定度　１０９５ kg

フロー値　＿２６ (1/100cm)

ビーム安定度　＿５５．２

ビーム粘着度　＿３４１．４

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　５　０　１

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

みかけ密度　２．４２７ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．５２５ g/cm³

アスファルト量　５．１ ％

空隙率　＿３．９ ％

骨材間隙率　１５．９ ％

有効アスファルト量　＿５．１ ％

突き固め回数　＿＿ 回

マーシャル安定度　１１９０ kg

フロー値　＿２９ (1/100cm)

ビーム安定度　＿５６．８

ビーム粘着度　＿４０６．０

様式Ａ－４－５　アスファルト混合物の性状（配合試験２）調査区間番号　５　０　１

層番号　４　＿、＿　＿、＿　＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の剝離試験結果（剝離率）　＿　＿　３

剝離防止材の種類　商品名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

剝離防止材の添加量　＿　＿．＿　％

アスファルトプラントの形式　２

ホイールトラッキング試験結果　＿　＿　＿　＿　回/mm

スパイクラベリング試験結果　＿　＿　＿　＿　mm^2

様式Ａ－４－５　アスファルト混合物の性状（配合試験２）調査区間番号　５　０　１

層番号　＿　５　、＿　＿　、＿　＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の剥離試験結果（剥離率）　＿　＿　３

剥離防止材の種類　商品名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

剥離防止材の添加量　＿　＿　.　＿　％

アスファルトプラントの形式　２

ホイールトラッキング試験結果　３　４　４　０　回/mm

スパイクラベリング試験結果　＿　＿　＿　.　＿　mm^2

様式Ａ－４－５　アスファルト混合物の性状（配合試験２）調査区間番号　５　０　１

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の剥離試験結果（剥離率）　＿＿３

剥離防止材の種類　商品名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

剥離防止材の添加量　＿＿．＿％

アスファルトプラントの形式　２

ホイールトラッキング試験結果　１　４　２　０　回/mm

スパイクラベリング試験結果　＿＿＿＿ mm^2

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　５０１

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

みかけ密度　２．４７６ g/cm³

アスファルト量　４．０ %

空隙率　＿８．３ %

骨材間隙率　１７．９ %

マーシャル安定度　１０７７ kg

フロー値　＿２９ (1/100cm)

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　５０１

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

みかけ密度　２．４４３ g/cm³

アスファルト量　４．７ %

空隙率　＿４．０ %

骨材間隙率　１５．１ %

マーシャル安定度　１１０２ kg

フロー値　＿２５ (1/100cm)

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　５０１

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

みかけ密度　２．４２８ g/cm³

アスファルト量　５．２ %

空隙率　＿３．７ %

骨材間隙率　１５．９ %

マーシャル安定度　１２０５ kg

フロー値　＿３０ (1/100cm)

様式Ａ－４－７　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　５０１

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．５６２ g/cm³

最大比重　２．６７１ g/cm³

空隙率　＿４．１ %

アスファルト量　５．０ %

骨材間隙率　１６．３ %

様式Ａ－４－７　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　５０１

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３６４ g/cm³

最大比重　２．５４２ g/cm³

空隙率　＿７．０ %

アスファルト量　４．９ %

骨材間隙率　１８．２ %

様式Ａ－４－７　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　５　０　１

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３７８ g/cm³

最大比重　２．４８６ g/cm³

空隙率　＿４．３ %

アスファルト量　５．７ %

骨材間隙率　１７．５ %

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　５０１

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	４９６６６	２.５５０
＿＿＿	＿＿５.０	５０６８２	２.５６６
＿＿＿	＿＿５.０	５６３０３	２.５６９
＿＿＿	＿２５.０	１７５０６	２.５５０
＿＿＿	＿２５.０	１４２０２	２.５６６
＿＿＿	＿２５.０	１６０８５	２.５６９
＿＿＿	＿４０.０	＿６１１２	２.５５０
＿＿＿	＿４０.０	＿５３０３	２.５６６
＿＿＿	＿４０.０	＿６７６４	２.５６９
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　５０１

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	５６９４９	２.３７０
＿＿＿	＿＿５.０	４７３４５	２.３８３
＿＿＿	＿＿５.０	４２１４３	２.３４０
＿＿＿	＿２５.０	１６６７１	２.３７０
＿＿＿	＿２５.０	１４９５９	２.３８３
＿＿＿	＿２５.０	１５１２０	２.３４０
＿＿＿	＿４０.０	＿６６１８	２.３７０
＿＿＿	＿４０.０	＿６４２３	２.３８３
＿＿＿	＿４０.０	＿５４７３	２.３４０
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　５０１

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	４００４０	２.３９５
＿＿＿	＿＿５.０	５２６０９	２.３４５
＿＿＿	＿＿５.０	５４２４５	２.３９３
＿＿＿	＿２５.０	１４８８７	２.３９５
＿＿＿	＿２５.０	１６８２６	２.３４５
＿＿＿	＿２５.０	１７１４２	２.３９３
＿＿＿	＿４０.０	＿５５７２	２.３９５
＿＿＿	＿４０.０	＿４６２９	２.３４５
＿＿＿	＿４０.０	＿６１４８	２.３９３
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　５０１

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２９.３
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿３０.５
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２６.１
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿７.６
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿５.１
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿７.２
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.６
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.６
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.４
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　５０１

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２４.２
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２１.１
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿１９.７
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿５.９
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿５.８
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿６.４
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿１.８
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿１.５
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿１.６
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　５０１

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿３２.８
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２８.２
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２４.８
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿５.６
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿５.２
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿５.７
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿１.８
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿１.９
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿１.８
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

S H R P

新 基 準 調 査

初 期 調 査 デ ー タ

1号 沼津バイパス

様式Ａ－１－１　一般データ　　調査区間番号　５０２

地建番号　５

報告年月　平成＿３年＿１月

担当部局　中部地方建設局　中部技術事務所　　内線＿３５４

調査区間の地名　静岡県富士市田中新田

路線番号　＿＿１

調査種別　１

調査方向　□上り　☒下り

距離標　１３８ｋ０１０～１３８ｋ３３０

（ＫＰ未定の場合No.＿＿,＿＿＋＿＿～＿＿＿＿＋＿＿）

様式A－1－2　舗装構造データ　　調査区間番号　5 0 2

舗装の種別　1

調査方向の車線数　2

車線幅　3 5 0　cm

調査対象車線　第 2 車線

路肩の幅　1 2 5　cm

路肩の路面の種類　3

路肩の路盤の種類　2 3

路肩の表層・基層の厚さ　＿ 5　cm

路肩の路盤の厚さ　＿ 1 0　cm

地下排水工の種類　1 , ＿

縦断方向の配水管の内径　＿ ＿ ＿ ＿　mm

排水工の位置　＿

配水管の間隔　＿ ＿ ＿ ＿　cm

様式Ａ－１－３　舗装構成データ　　調査区間番号　５０２

層の数　７

番号	層の名称	層の厚さ（mm）				材料
		最　大	最　小	平　均	標準偏差	
1	7					
2	6	155	129	141		23
3	5	160	140	152		37
4	4	100	97	98		31
5	4	56	50	54		2
6	4	52	49	51		2
7	3	55	49	52		1
8						
9						
10						
11						
12						

舗装の等値換算厚 T_A　　35.0 cm

舗装厚Ｈ　　55.0 cm

高支持力層までの深さ　　　m

盛土厚さ　　356 cm

様式A－1－4　施工関係データ　　調査区間番号　5 0 2

施工年月　平成 _ 2 年 _ 9 月

交通開放（予定）年月　平成 _ 2 年 _ 9 月

施工費用　_ _ 3 7 百万円／km・車線

打換え年月　平成 _ _ 年 _ _ 月

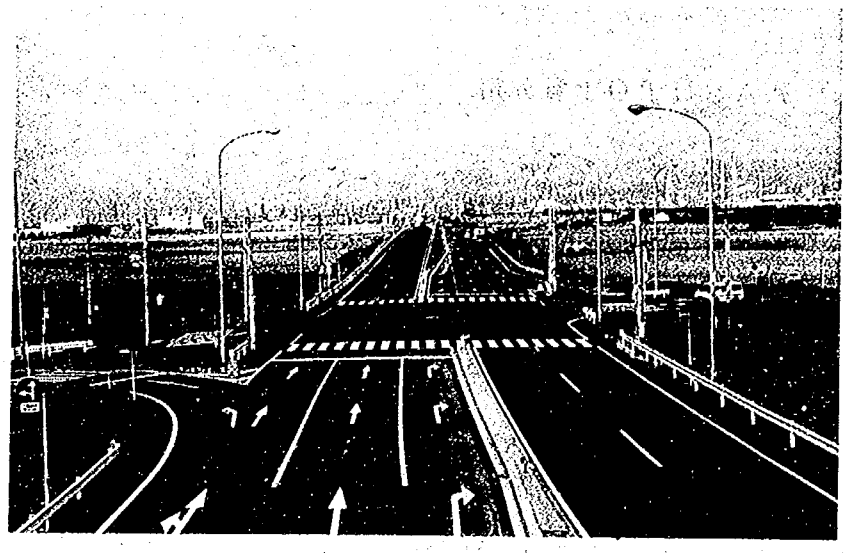
拡幅年月　　平成 _ _ 年 _ _ 月

当初の車線数　_ 車線

最終的な車線数　_ 車線

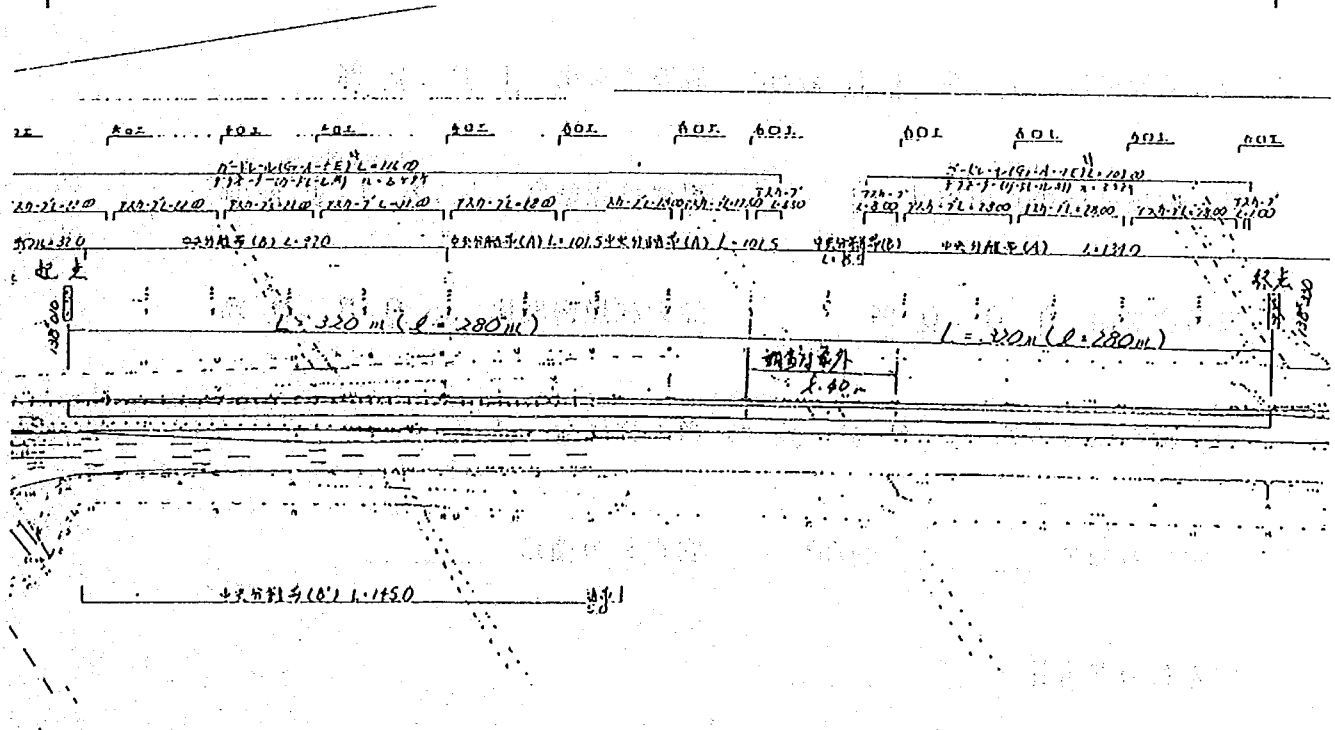
追加車線数　_ 車線

様式Ａ－１－５　調査区間概要図　　調査区間番号　５０２



起点より終点を望む。

調査区間概要図



路床路盤材料の採取位置を示すこと。・・・？

様式Ａ－２－１　路床土に関する基礎データ　　調査区間番号　５０２

層番号　＿１、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

土質分類　＿ＳＭ　　ＡＡＳＨＴＯ土質分類　＿＿＿

ＣＢＲ　平均値　＿６６．６　区間のＣＢＲ　＿＿＿．＿

Ｓ値　１１．１２　Ｋ値　＿３１．７ kg/cm³

75μmふるい通過量　１４．８ %

塑性限界　ＮＰ．＿ %　液性限界　ＮＰ．＿ %

塑性指数　ＮＰ．＿ %

最大乾燥密度　１．９３５ g/cm³　最適含水比　１０．２ %

最大乾燥密度の算出方法　１　現場乾燥密度　１．８１１ g/cm³

現場含水比　１０．０ %　最大乾燥密度比　＿９３．６ %

最適含水比との比　＿９８．０ %　凍上性区分　４

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

様式Ａ－２－２　弾性係数の測定（路床土）　　調査区間番号　５０２

層番号　＿１、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試料採取位置 KP＿＿＿k＿＿＿（KPが未定の場合　No.　＿＿＿＿＋＿＿）

供試体数　＿２　　ＡＡＳＨＴＯ土質分類　＿＿＿

含水比　＿１０．１％　　乾燥密度　１．９５４ g/cm³

試験の結果

側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
０．４１	０．５５	１２２８
０．２１	０．３５	１００７
０．０１	０．１５	８４１
０．４１	０．６９	１１５８
０．２１	０．４４	８６２
０．０１	０．２８	６１５
０．４１	０．９６	１１１８
０．２１	０．７６	８６２
０．０１	０．５５	８３４
０．４１	１．１０	１１８７
０．２１	０．９１	１１５１
０．０１	０．６８	７９２
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿

回帰式　　log E = log A + B x log(stress)

A = ＿９８６．９ 10^3kg/cm²　B = ０．２１６

様式Ａ－３－１　路盤材料の特性値　　調査区間番号　５０２

層番号　＿２、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

最大乾燥密度　２．０３２ g/cm³　最適含水比　＿６．５ %

最大乾燥密度の算出方法　１

現場乾燥密度　１．９８４ g/cm³　現場含水比　＿６．１ %

最大乾燥密度比　＿９７．６ %　最適含水比との比　＿９３．８ %

平板載荷試験　＿４４．０ kg/cm³

425μmふるい通過量　１０．３ %　75μmふるい通過量　＿５．６ %

路盤材料の修正ＣＢＲ　＿９３．０

路盤材料の一軸圧縮強度　＿＿．＿ kg/cm²

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

様式Ａ－３－１　路盤材料の特性値　　調査区間番号　５０２

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

最大乾燥密度　２．１２７ g/cm³　最適含水比　＿７．８ %

最大乾燥密度の算出方法　１

現場乾燥密度　２．１０６ g/cm³　現場含水比　＿６．０ %

最大乾燥密度比　＿９９．０ %　最適含水比との比　＿７６．９ %

平板載荷試験　１４２．３ kg/cm³

425μmふるい通過量　１５．８ %　75μmふるい通過量　＿７．４ %

路盤材料の修正ＣＢＲ　１０６．０

路盤材料の一軸圧縮強度　３９．５ kg/cm²

安定材添加量　＿８０ kg/m³　安定材の種類　＿＿４

安定材の混合比　４　１００
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

様式A－3－2　弾性係数の測定（路盤）　　調査区間番号　5 0 2

層番号　＿2、＿＿、＿＿　（様式A－1－3参照）

供試体数　＿2　含水比　＿＿3.9％　乾燥密度　1.9 9 0 g/cm³

試験の結果	側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
	1.3 8	1.5 2	2 5 5 0
	1.3 9	1.7 4	2 2 6 6
	1.3 8	2.0 7	2 2 6 2
	1.3 7	2.4 2	2 4 3 2
	1.3 8	2.7 5	2 5 7 3
	1.0 5	1.1 9	2 0 8 4
	1.0 4	1.4 0	1 7 9 8
	1.0 4	1.7 4	1 9 4 8
	1.0 4	2.0 9	2 0 7 1
	1.0 4	2.4 2	2 2 8 2
	0.6 9	0.8 3	1 6 9 9
	0.7 0	1.0 5	1 4 7 8
	0.7 0	1.3 9	1 5 7 9
	0.6 9	1.7 3	1 6 5 9
	0.3 5	0.5 0	1 2 7 7
	0.3 5	0.7 0	1 0 3 8
	0.3 5	1.0 4	1 0 2 6
	0.3 5	1.3 9	1 1 6 0
	0.0 7	0.2 2	＿9 1 7
	0.0 7	0.4 2	＿6 3 3
	0.0 7	0.5 7	＿7 1 9
	0.0 8	0.7 7	＿8 0 0
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿

回帰式　$\log E = \log A + B \times \log(\text{stress})$

$A =$ ＿9 8 8.9 $10^3 kg/cm^2$　$B =$ 0.5 1 7

様式Ａ－３－２　弾性係数の測定（路盤）　　調査区間番号　５０２

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

供試体数　＿２　含水比　＿＿８．０％　乾燥密度　２．２０６ g/cm³

試験の結果	側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
	＿１．３８	＿１．５２	４３５７
	＿１．３８	＿１．７３	５４１７
	＿１．３８	＿２．０６	６０９３
	＿１．３８	＿２．４４	６６５５
	＿１．３８	＿２．７７	６５４２
	＿１．０４	＿１．１９	４０５０
	＿１．０４	＿１．４１	４８４２
	＿１．０４	＿１．７２	５７０７
	＿１．０４	＿２．０８	５９５６
	＿１．０４	＿２．４０	５７８０
	＿０．６８	＿０．８２	２８５７
	＿０．６９	＿１．０５	３３２５
	＿０．７０	＿１．３９	３８４２
	＿０．６９	＿１．７４	３７１７
	＿０．３５	＿０．５１	２２１６
	＿０．３６	＿０．７１	２４３１
	＿０．３６	＿１．０４	２４４９
	＿０．３６	＿１．３９	２６２９
	＿０．０７	＿０．２２	１４０１
	＿０．０７	＿０．４２	１７５９
	＿０．０７	＿０．５７	２１１０
	＿０．０７	＿０．７７	２３７７
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿

回帰式　$\log E = \log A + B \times \log(\text{stress})$

$A =$ ２１６８．２ 10^3kg/cm²　$B =$ ０．５８１

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　５０２

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類	1	100	細骨材の種類	1	100
	―	―		―	―
	―	―		―	―
	―	―		―	―

粗骨材の岩質　23　（安山岩）　　フィラーの種類　1

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿.＿	2.36mm	＿43.3
37.5mm	100.0	600μm	＿21.1
26.5mm	＿＿＿.＿	300μm	＿15.3
19mm	＿84.9	150μm	＿10.7
13.2mm	＿67.7	75μm	＿＿7.7
4.75mm	＿52.3		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	＿.＿＿＿ g/cm³	細骨材１（粗砂）	2.657 g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	＿.＿＿＿ g/cm³	細骨材２（中砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	＿.＿＿＿ g/cm³	細骨材３（細砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	＿.＿＿＿ g/cm³	フィラー	2.480 g/cm³
スクリーニングス	＿.＿＿＿ g/cm³	クラッシャラン	2.600 g/cm³

合成密度　2.608 g/cm³　有効密度　2.608 g/cm³

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　５０２

層番号　＿５、＿６、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類　１　１００　　細骨材の種類　１　＿６６
＿　＿＿＿　　２　＿３４
＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿
＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

粗骨材の岩質　２３　（安山岩）　　フィラーの種類　１

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿．＿	2.36mm	＿３０．４
37.5mm	＿＿＿．＿	600μm	＿１７．０
26.5mm	１００．０	300μm	＿１１．６
19mm	＿９９．７	150μm	＿＿７．３
13.2mm	＿８３．４	75μm	＿＿４．９
4.75mm	＿４７．１		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	＿．＿＿ g/cm³	細骨材１（粗砂）	２．６５７ g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	２．７０７ g/cm³	細骨材２（中砂）	＿．＿＿ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	２．７０５ g/cm³	細骨材３（細砂）	＿．＿＿ g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	２．７０８ g/cm³	フィラー	２．４８０ g/cm³
スクリーニングス	２．７１３ g/cm³	クラッシャラン	＿．＿＿ g/cm³

合成密度　２．６９０ g/cm³　有効密度　２．６９０ g/cm³

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　５０２

層番号　＿７、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類		細骨材の種類	
1	100	1	77
＿	＿＿＿	2	23
＿	＿＿＿	＿	＿＿＿
＿	＿＿＿	＿	＿＿＿

粗骨材の岩質　23　（安山岩）　　フィラーの種類　1

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿.＿	2.36mm	＿42.8
37.5mm	＿＿＿.＿	600μm	＿24.6
26.5mm	100.0	300μm	＿16.6
19mm	＿99.7	150μm	＿10.0
13.2mm	＿84.5	75μm	＿＿6.5
4.75mm	＿55.2		

骨材のかさ密度

粗骨材1（4号砕石）	＿.＿＿ g/cm³	細骨材1（粗砂）	2.657 g/cm³
粗骨材2（5号砕石）	2.707 g/cm³	細骨材2（中砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材3（6号砕石）	2.705 g/cm³	細骨材3（細砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材4（7号砕石）	2.708 g/cm³	フィラー	2.480 g/cm³
スクリーニングス	2.713 g/cm³	クラッシャラン	＿.＿＿＿ g/cm³

合成密度　2.681 g/cm³　有効密度　2.681 g/cm³

様式Ａ－４－２　アスファルトの性状（原アスファルト）　調査区間番号　５０２

層番号　＿４、＿５、＿６、＿７　（様式Ａ－１－３参照）

針入度区分　＿６０～＿８０

アスファルトの製造元　昭和シェル石油(株)

密度　１．０３０ g/cm³

60℃粘度　＿＿２３８５ poise

135℃粘度　＿３９６ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０．０　cm

4℃伸度の伸長速度　＿５　cm/min

25℃針入度　＿５９

4℃針入度　＿２２

軟化点　＿４９℃

添加剤　商品名

添加剤の添加量　＿＿＿％

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　５０２

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿６２３７ poise　　135℃粘度　＿５６９ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０．０ cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５ cm/min

25℃針入度　＿４１　　4℃針入度　＿１８

軟化点　＿５５ ℃

質量変化率　０．０１

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿３４　　4℃針入度　＿１８

60℃粘度　＿１１２７２ poise　　135℃粘度　＿９１１ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　５０２

層番号　＿５、＿６、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿６２３７ poise　　135℃粘度　＿５６９ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０．０ cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５　cm/min

25℃針入度　＿４１　　4℃針入度　＿１８

軟化点　＿５５ ℃

質量変化率　０．０１

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿３８　　4℃針入度　＿１８

60℃粘度　＿１０４１７ poise　　135℃粘度　＿６６２ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　５０２

層番号　＿７、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿６２３７ poise　　135℃粘度　＿５６９ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿００ cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５　cm/min

25℃針入度　＿４１　　4℃針入度　＿１８

軟化点　＿５５ ℃

質量変化率　０．０１

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿４０　　4℃針入度　＿１９

60℃粘度　＿＿６４２４ poise　　135℃粘度　＿５４０ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

様式A－4－4　アスファルト混合物の性状（配合試験1）調査区間番号　5 0 2

層番号　＿4、＿＿、＿＿　（様式A－1－3参照）

かさ密度　2.3 3 0 g/cm³

最大比重（理論密度）　2.4 5 0 g/cm³

アスファルト量　4.2 %

空隙率　＿5.1 %

骨材間隙率　1 4.6 %

有効アスファルト量　＿4.2 %

突き固め回数　5 0 回

マーシャル安定度　＿9 5 0 kg

フロー値　＿2 6 (1/100cm)

ビーム安定度　＿5 3.1

ビーム粘着度　＿3 5 9.1

様式A－4－4　アスファルト混合物の性状（配合試験1）調査区間番号　5 0 2

層番号　＿5、＿6、＿＿　（様式A－1－3参照）

かさ密度　2.3 9 5 g/cm³

最大比重（理論密度）　2.4 9 7 g/cm³

アスファルト量　4.8 %

空隙率　＿4.1 %

骨材間隙率　1 5.1 %

有効アスファルト量　＿4.8 %

突き固め回数　7 5 回

マーシャル安定度　1 2 0 7 kg

フロー値　＿2 7 (1/100cm)

ビーム安定度　＿5 4.1

ビーム粘着度　＿3 0 6.2

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　５０２

層番号　＿７、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３８５ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．４７５ g/cm³

アスファルト量　５．２ %

空隙率　＿３．６ %

骨材間隙率　１５．６ %

有効アスファルト量　＿５．２ %

突き固め回数　７５ 回

マーシャル安定度　１２３５ kg

フロー値　＿３１ (1/100cm)

ビーム安定度　＿５４．９

ビーム粘着度　＿３９９．９

様式Ａ－４－５　アスファルト混合物の性状（配合試験２）調査区間番号　５０２

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の剝離試験結果（剝離率）　＿１６

剝離防止材の種類　商品名 消石灰

剝離防止材の添加量　＿２．０％

アスファルトプラントの形式　１

ホイールトラッキング試験結果　＿＿＿＿回/mm

スパイクラベリング試験結果　＿＿＿＿mm²

様式Ａ－４－５　アスファルト混合物の性状（配合試験２）調査区間番号　５　０　２

層番号　＿５、＿６、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の剝離試験結果（剝離率）　＿１６

剝離防止材の種類　商品名 消石灰

剝離防止材の添加量　＿２．０％

アスファルトプラントの形式　１

ホイールトラッキング試験結果　１１６７回/mm

スパイクラベリング試験結果　＿＿＿＿mm²

様式Ａ－４－５　アスファルト混合物の性状（配合試験２）調査区間番号　５０２

層番号　＿７、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の剝離試験結果（剝離率）　＿１３

剝離防止材の種類　商品名 消石灰

剝離防止材の添加量　＿２．０％

アスファルトプラントの形式　１

ホイールトラッキング試験結果　３１５０回/mm

スパイクラベリング試験結果　＿＿＿＿mm²

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　５０２

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３３０ g/cm³

アスファルト量　４．２ %

空隙率　＿５．１ %

骨材間隙率　１４．６ %

マーシャル安定度　＿９５０ kg

フロー値　＿２６ (1/100cm)

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　５０２

層番号　＿５、＿６、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３９５ g/cm³

アスファルト量　４．８ %

空隙率　＿４．１ %

骨材間隙率　１５．１ %

マーシャル安定度　１２０７ kg

フロー値　＿２７ (1/100cm)

様式A－4－6　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　5 0 2

層番号　＿7、＿＿、＿＿　（様式A－1－3参照）

かさ密度　2.385 g/cm³

アスファルト量　5.2 %

空隙率　＿3.6 %

骨材間隙率　15.6 %

マーシャル安定度　1235 kg

フロー値　＿31 (1/100cm)

様式Ａ－４－７　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　５０２

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．２９０ g/cm³

最大比重　２．４９０ g/cm³

空隙率　＿８．０ %

アスファルト量　４．７ %

骨材間隙率　１８．０ %

様式A－4－7　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　5 0 2

層番号　＿5、＿6、＿＿　（様式A－1－3参照）

かさ密度　2.3 7 3 g/cm³

最大比重　2.4 9 7 g/cm³

空隙率　＿6.2 %

アスファルト量　4.8 %

骨材間隙率　1 8.4 %

様式Ａ－４－７　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　５０２

層番号　＿７、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．４２８ g/cm³

最大比重　２．４６７ g/cm³

空隙率　＿７．５ %

アスファルト量　５．３ %

骨材間隙率　２１．１ %

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　５０２

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	４７６００	２.４９６
＿＿＿	＿＿５.０	４０８５０	２.４８６
＿＿＿	＿＿５.０	４５６５０	２.４８７
＿＿＿	＿２５.０	２８０５０	２.４９６
＿＿＿	＿２５.０	２４１００	２.４８６
＿＿＿	＿２５.０	１４９００	２.４８７
＿＿＿	＿４０.０	＿３９９５	２.４９６
＿＿＿	＿４０.０	＿６３０５	２.４８６
＿＿＿	＿４０.０	＿５５００	２.４８７
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　５０２

層番号　＿５、＿６、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	５５４００	２.３４１
＿＿＿	＿＿５.０	３７１５０	２.３８０
＿＿＿	＿＿５.０	８３３５０	２.３９１
＿＿＿	＿２５.０	１３１００	２.３４１
＿＿＿	＿２５.０	１９９００	２.３８０
＿＿＿	＿２５.０	１８１５０	２.３９１
＿＿＿	＿４０.０	＿６９５５	２.３４１
＿＿＿	＿４０.０	＿３６５５	２.３８０
＿＿＿	＿４０.０	＿４４５０	２.３９１
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　５０２

層番号　＿７、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	４４７００	２.４３６
＿＿＿	＿＿５.０	７１８００	２.４３５
＿＿＿	＿＿５.０	７４８５０	２.４１８
＿＿＿	＿２５.０	１６６００	２.４３６
＿＿＿	＿２５.０	１９２５０	２.４３５
＿＿＿	＿２５.０	２５８５０	２.４１８
＿＿＿	＿４０.０	＿４５２５	２.４３６
＿＿＿	＿４０.０	＿３７４０	２.４３５
＿＿＿	＿４０.０	＿４２２０	２.４１８
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式A－4－9　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　5 0 2

層番号　＿4、＿＿、＿＿　（様式A－1－3参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿5.0	＿＿21.5
＿＿＿	＿＿5.0	＿＿26.6
＿＿＿	＿＿5.0	＿＿24.7
＿＿＿	＿25.0	＿＿＿8.0
＿＿＿	＿25.0	＿＿＿7.7
＿＿＿	＿25.0	＿＿10.5
＿＿＿	＿40.0	＿＿＿1.5
＿＿＿	＿40.0	＿＿＿1.8
＿＿＿	＿40.0	＿＿＿1.7
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿

載荷速度　＿50.0　mm/min

試験方法　1

様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　５０２

層番号　＿５、＿６、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２３.１
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２６.６
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿３２.７
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿７.２
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿７.３
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿７.５
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.４
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿１.４
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿１.７
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　５０２

層番号　＿７、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿４１.９
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿３１.８
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿３２.３
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿７.８
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿７.３
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿７.５
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿１.７
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿１.８
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.１
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

S H R P

新 基 準 調 査

初 期 調 査 デ ー タ

1号 亀山バイパス

様式Ａ－１－１　一般データ　　調査区間番号　５０３

地建番号　５

報告年月　平成　３　年　２　月

担当部局　中部地方建設局　中部技術事務所　　内線　３５４

調査区間の地名　三重県亀山市川合町

路線番号　　１

調査種別　１

調査方向　☒上り　□下り

距離標　４１４ｋ９６０～４１４ｋ６６０

（ＫＰ未定の場合No.　　＋　　～　　＋　　）

様式Ａ－１－２　舗装構造データ　　調査区間番号　５０３

舗装の種別　１

調査方向の車線数　１

車線幅　３５０　cm

調査対象車線　第　１　車線

路肩の幅　１５０　cm

路肩の路面の種類　３

路肩の路盤の種類　２３

路肩の表層・基層の厚さ　＿５　cm

路肩の路盤の厚さ　＿１０　cm

地下排水工の種類　１，＿

縦断方向の配水管の内径　＿＿＿＿　mm

排水工の位置　＿

配水管の間隔　＿＿＿＿　cm

様式A－1－3　舗装構成データ　　調査区間番号　503

層の数　7

番号	層の名称	層の厚さ（mm）				材料
		最　大	最　小	平　均	標準偏差	
1	7					59
2	6	360	330	343		23
3	5	160	155	156		25
4	4	104	100	102		34
5	4	52	47	50		2
6	4	48	47	48		2
7	3	50	50	50		1
8						
9						
10						
11						
12						

舗装の等値換算厚 T_A　　37.0 cm

舗装厚H　　75.0 cm

高支持力層までの深さ　　　m

盛土厚さ　　8627 cm

様式Ａ－１－４　施工関係データ　　調査区間番号　５０３

施工年月　平成　２年１１月

交通開放（予定）年月　平成　２年１２月

施工費用　　３５百万円／km・車線

打換え年月　平成　　年　　月

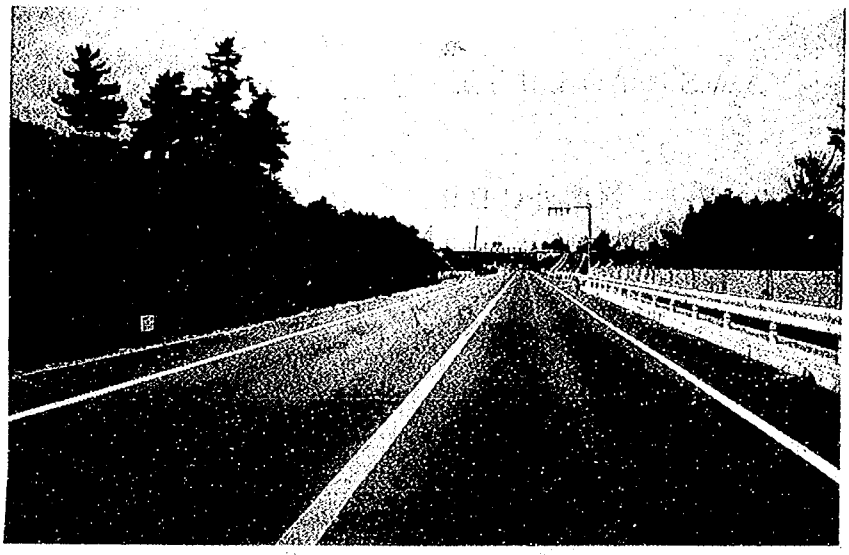
拡幅年月　　平成　　年　　月

当初の車線数　　車線

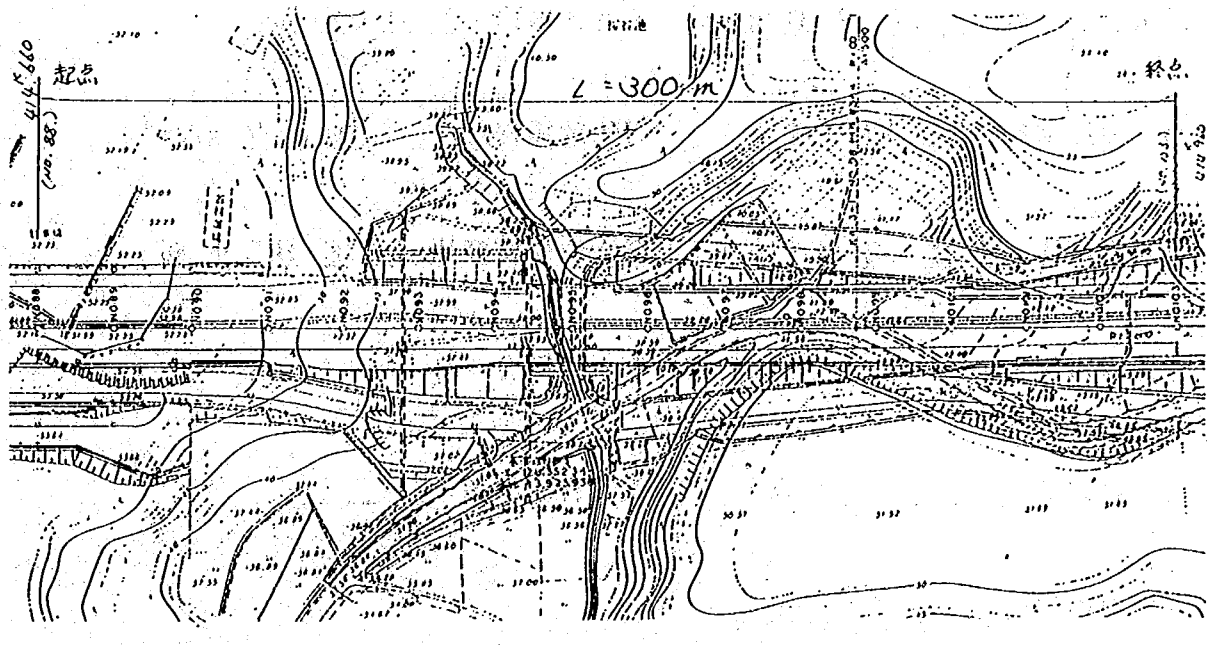
最終的な車線数　　車線

追加車線数　　車線

様式A－1－5　調査区間概要図　　調査区間番号　5 0 3



調査区間概要図



路床路盤材料の採取位置を示すこと。

様式Ａ－２－１　路床土に関する基礎データ　　調査区間番号　５０３

層番号　＿１、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

土質分類　＿ＳＭ　　ＡＡＳＨＴＯ土質分類　＿＿＿

ＣＢＲ　平均値　＿５４．７　区間のＣＢＲ　＿３３．９

Ｓ値　＿９．０２　Ｋ値　＿２７．８ kg/cm³

75μmふるい通過量　２０．５ %

塑性限界　＿＿．＿ %　液性限界　＿＿．＿ %

塑性指数　ＮＰ．＿ %

最大乾燥密度　２．０２０ g/cm³　最適含水比　１０．２ %

最大乾燥密度の算出方法　１　現場乾燥密度　１．９８７ g/cm³

現場含水比　１１．２ %　最大乾燥密度比　＿９８．４ %

最適含水比との比　１０９．８ %　凍上性区分　３

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

様式Ａ－２－２　弾性係数の測定（路床土）　　調査区間番号　５０３

層番号　＿１、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試料採取位置 KP＿＿＿k＿＿＿（KPが未定の場合　No.　＿＿＿＿＋＿＿）

供試体数　＿２　　ＡＡＳＨＴＯ土質分類　＿＿＿

含水比　＿１０．５％　　乾燥密度　１．８７０ g/cm³

試験の結果

側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
０．４１	０．５６	１４２６
０．２１	０．３５	１１１０
０．００	０．１４	９８０
０．４１	０．６８	１４０３
０．２１	０．４９	１２７６
０．００	０．２７	８８５
０．４１	０．９６	１３８７
０．２１	０．７６	１１１４
０．００	０．５５	８５３
０．４１	１．１０	１２２９
０．２１	０．９０	１０３５
０．００	０．６９	８７５
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿

回帰式　　log E = log A + B x log(stress)

A = １１３９．５ 10^3kg/cm²　　B = ０．１６７

様式Ａ－３－１　路盤材料の特性値　　調査区間番号　５０３

層番号　＿２、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

最大乾燥密度　２．１８５ g/cm³　最適含水比　＿５．０ %

最大乾燥密度の算出方法　１

現場乾燥密度　２．１３５ g/cm³　現場含水比　＿４．６ %

最大乾燥密度比　＿９７．７ %　最適含水比との比　＿９２．０ %

平板載荷試験　＿３５．４ kg/cm³

425μmふるい通過量　＿６．９ %　75μmふるい通過量　＿４．７ %

路盤材料の修正ＣＢＲ　＿７９．０

路盤材料の一軸圧縮強度　＿＿．＿ kg/cm²

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

様式Ａ－３－１　路盤材料の特性値　　調査区間番号　５０３

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

最大乾燥密度　２．３１０ g/cm³　最適含水比　＿５．５ %

最大乾燥密度の算出方法　１

現場乾燥密度　２．２５６ g/cm³　現場含水比　＿５．３ %

最大乾燥密度比　＿９７．６ %　最適含水比との比　＿９６．３ %

平板載荷試験　＿８１．０ kg/cm³

425μmふるい通過量　１５．８ %　75μmふるい通過量　＿７．０ %

路盤材料の修正ＣＢＲ　１０６．０

路盤材料の一軸圧縮強度　＿＿．＿ kg/cm²

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

様式Ａ－３－２　弾性係数の測定（路盤）　　調査区間番号　５０３

層番号　＿２、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

供試体数　＿＿　含水比　＿＿＿.＿％　乾燥密度　＿.＿＿＿g/cm³

試験の結果	側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿

回帰式　$\log E = \log A + B \times \log(\text{stress})$

$A =$ ＿＿＿＿.＿ $10^3 kg/cm^2$　$B =$ ＿.＿＿

様式A－3－2　弾性係数の測定（路盤）　　調査区間番号　5 0 3

層番号　＿3＿、＿＿、＿＿　（様式A－1－3参照）

供試体数　＿＿　含水比　＿＿＿.＿ %　乾燥密度　＿.＿＿＿ g/cm³

試験の結果	側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿

回帰式　$\log E = \log A + B \times \log(\text{stress})$

A = ＿＿＿＿.＿ 10^3kg/cm²　B = ＿.＿＿

様式A－4－1　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　5 0 3

層番号　＿4、＿＿、＿＿　（様式A－1－3参照）

粗骨材の種類　1　1 0 0　　細骨材の種類　1　1 0 0
＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿
＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿
＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

粗骨材の岩質　1 2　　フィラーの種類　＿

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿.＿	2.36mm	＿3 7.7
37.5mm	1 0 0.0	600μm	＿2 3.0
26.5mm	＿9 7.6	300μm	＿1 4.8
19mm	＿9 0.1	150μm	＿＿9.6
13.2mm	＿8 1.8	75μm	＿＿6.4
4.75mm	＿5 1.6		

骨材のかさ密度

粗骨材1（4号砕石）	＿.＿＿＿ g/cm³	細骨材1（粗砂）	2.6 5 0 g/cm³
粗骨材2（5号砕石）	＿.＿＿＿ g/cm³	細骨材2（中砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材3（6号砕石）	＿.＿＿＿ g/cm³	細骨材3（細砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材4（7号砕石）	＿.＿＿＿ g/cm³	フィラー	＿.＿＿＿ g/cm³
再生骨材	2.5 5 6 g/cm³	クラッシャラン	2.6 9 3 g/cm³

合成密度　2.6 4 4 g/cm³　有効密度　2.7 0 2 g/cm³

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　５０３

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類　１　１００　　細骨材の種類　１　＿６６
＿　＿＿＿　　２　＿３４
＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿
＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

粗骨材の岩質　１２　　フィラーの種類　１

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿.＿	2.36mm	＿２７.７
37.5mm	＿＿＿.＿	600μm	＿１６.１
26.5mm	１００.０	300μm	＿１０.１
19mm	＿９９.６	150μm	＿＿６.１
13.2mm	＿７９.８	75μm	＿＿４.７
4.75mm	＿４５.０		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	＿.＿＿＿ g/cm³	細骨材１（粗砂）	２.６１３ g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	２.７２９ g/cm³	細骨材２（中砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	２.７３２ g/cm³	細骨材３（細砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	２.７３４ g/cm³	フィラー	２.７１０ g/cm³
スクリーニングス	２.７２７ g/cm³	クラッシャラン	＿.＿＿＿ g/cm³

合成密度　２.７１４ g/cm³　有効密度　２.７１４ g/cm³

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　５０３

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類		細骨材の種類	
１	１００	１	＿６６
＿	＿＿＿	２	＿３４
＿	＿＿＿	＿	＿＿＿
＿	＿＿＿	＿	＿＿＿

粗骨材の岩質　１２　　フィラーの種類　１

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿.＿	2.36mm	＿２７.７
37.5mm	＿＿＿.＿	600μm	＿１６.１
26.5mm	１００.０	300μm	＿１０.１
19mm	＿９９.６	150μm	＿＿６.１
13.2mm	＿７９.８	75μm	＿＿４.７
4.75mm	＿４５.０		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	＿.＿＿＿ g/cm³	細骨材１（粗砂）	２.６１３ g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	２.７２９ g/cm³	細骨材２（中砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	２.７３２ g/cm³	細骨材３（細砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	２.７３４ g/cm³	フィラー	２.７１０ g/cm³
スクリーニングス	２.７２７ g/cm³	クラッシャラン	＿.＿＿＿ g/cm³

合成密度　２.７１４ g/cm³　有効密度　２.７１４ g/cm³

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　５０３

層番号　＿７、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類　１　１００
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

細骨材の種類　１　＿６４
２　＿３６
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

粗骨材の岩質　１２

フィラーの種類　１

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿．＿	2.36mm	＿４１．５
37.5mm	＿＿＿．＿	600μm	＿２５．１
26.5mm	１００．０	300μm	＿１５．４
19mm	＿９９．６	150μm	＿＿８．７
13.2mm	＿８２．１	75μm	＿＿６．６
4.75mm	＿５４．８		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	＿．＿＿＿ g/cm³	細骨材１（粗砂）	２．６１３ g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	２．７２９ g/cm³	細骨材２（中砂）	＿．＿＿＿ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	２．７３２ g/cm³	細骨材３（細砂）	＿．＿＿＿ g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	２．７３４ g/cm³	フィラー	２．７１０ g/cm³
スクリーニングス	２．７２７ g/cm³	クラッシャラン	＿．＿＿＿ g/cm³

合成密度　２．７０２ g/cm³　有効密度　２．７０２ g/cm³

様式Ａ－４－２　アスファルトの性状（原アスファルト）　調査区間番号　５０３

層番号　＿４、＿＿、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

針入度区分　＿８０～１００

アスファルトの製造元　昭和シェル石油(株)

密度　１.０２９ g/cm³

60℃粘度　＿＿１５６３ poise

135℃粘度　＿３２４ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０.０ cm

4℃伸度の伸長速度　＿５ cm/min

25℃針入度　＿７４

4℃針入度　＿２６

軟化点　＿４７℃

添加剤　商品名

添加剤の添加量　＿＿＿ %

様式Ａ－４－２　アスファルトの性状（原アスファルト）　調査区間番号　５０３

層番号　＿５、＿＿、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

針入度区分　＿６０～＿８０

アスファルトの製造元　コスモ石油(株)

密度　１.０３７ g/cm³

60℃粘度　＿＿２３９５ poise

135℃粘度　＿４８１ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０.５　cm

4℃伸度の伸長速度　＿５　cm/min

25℃針入度　＿６７

4℃針入度　＿＿８

軟化点　＿５０℃

添加剤　商品名

添加剤の添加量　＿＿＿％

様式Ａ－４－２　アスファルトの性状（原アスファルト）　調査区間番号　５０３

層番号　＿６、＿７、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

針入度区分　＿４０～＿６０

アスファルトの製造元　昭和シェル石油(株)

密度　１．０２１ g/cm³

60℃粘度　＿１１８８３ poise

135℃粘度　＿７３１ cSt

25℃伸度　＿３５　cm　または　□　１００＋

4℃伸度　＿０．０　cm

4℃伸度の伸長速度　＿５　cm/min

25℃針入度　＿４２

4℃針入度　＿２４

軟化点　＿５８ ℃

添加剤　商品名 ＡＣ－１００

添加剤の添加量　１００ %

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　５０３

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿４７６４ poise　　135℃粘度　＿４９４ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０．０ cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５　cm/min

25℃針入度　＿４７　　4℃針入度　＿１９

軟化点　＿５３ ℃

質量変化率　０．１４

回収アスファルトの試験結果　（再生アスファルト）

25℃針入度　＿３０　　4℃針入度　＿１６

60℃粘度　＿１５８９０ poise　　135℃粘度　＿８８６ cSt

25℃伸度　＿４９　cm　または　□　１００＋

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　５０３

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿５１７９ poise　　135℃粘度　＿６１１ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０．５ cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５　cm/min

25℃針入度　＿４５　　4℃針入度　＿＿７

軟化点　＿５５ ℃

質量変化率　０．０４

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿３４　　4℃針入度　＿１７

60℃粘度　＿１２７９３ poise　　135℃粘度　＿７６７ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　５０３

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿４９７０６ poise　　135℃粘度　＿９５６ cSt

25℃伸度　＿＿７　cm　または　□　１００＋

4℃伸度　＿０．０　cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５　cm/min

25℃針入度　＿３１　　4℃針入度　＿２０

軟化点　＿６６　℃

質量変化率　－０．０２

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿３４　　4℃針入度　＿１２

60℃粘度　＿５４９０４ poise　　135℃粘度　１６０３ cst

25℃伸度　＿１３　cm　または　□　１００＋

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　５０３

層番号　＿７、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿４９７０６ poise　　135℃粘度　＿９５６ cSt

25℃伸度　＿＿７　cm　または　□　１００＋

4℃伸度　＿０．０　cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５　cm/min

25℃針入度　＿３１　　4℃針入度　＿２０

軟化点　＿６６　℃

質量変化率　－０．０２

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿２８　　4℃針入度　＿１９

60℃粘度　＿８９６０８ poise　　135℃粘度　１５５９ cSt

25℃伸度　＿＿６　cm　または　□　１００＋

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　５０３

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３５４ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．５３８ g/cm³

アスファルト量　４．０ ％

空隙率　＿７．２ ％

骨材間隙率　１６．３ ％

有効アスファルト量　＿４．０ ％

突き固め回数　５０ 回

マーシャル安定度　１１１５ kg

フロー値　＿２８ (1/100cm)

ビーム安定度　＿６２．４

ビーム粘着度　＿４８８．０

様式A－4－4　アスファルト混合物の性状（配合試験1）調査区間番号　5 0 3

層番号　＿5、＿＿、＿＿　（様式A－1－3参照）

かさ密度　2.4 0 5 g/cm³

最大比重（理論密度）　2.5 1 1 g/cm³

アスファルト量　5.0 %

空隙率　＿4.2 %

骨材間隙率　1 5.8 %

有効アスファルト量　＿5.0 %

突き固め回数　7 5 回

マーシャル安定度　1 0 2 1 kg

フロー値　＿2 9 (1/100cm)

ビーム安定度　＿4 9.0

ビーム粘着度　＿5 2 6.1

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　５０３

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．４０６ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．５１０ g/cm³

アスファルト量　４．９ %

空隙率　＿４．１ %

骨材間隙率　１５．６ %

有効アスファルト量　＿４．９ %

突き固め回数　７５ 回

マーシャル安定度　１１２２ kg

フロー値　＿３２ (1/100cm)

ビーム安定度　＿５１．１

ビーム粘着度　＿４８８．０

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　５０３

層番号　＿７、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３９９ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．４９３ g/cm³

アスファルト量　５．１ %

空隙率　＿３．８ %

骨材間隙率　１５．８ %

有効アスファルト量　＿５．１ %

突き固め回数　７５ 回

マーシャル安定度　１００６ kg

フロー値　＿２８ (1/100cm)

ビーム安定度　＿５４．７

ビーム粘着度　＿５６３．４

様式Ａ－４－５　アスファルト混合物の性状（配合試験２）調査区間番号　５　０　３

層番号　＿　４　、＿　＿　、＿　＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の剝離試験結果（剝離率）　＿　１　２

剝離防止材の種類　商品名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

剝離防止材の添加量　＿　＿．＿　％

アスファルトプラントの形式　１

ホイールトラッキング試験結果　＿　＿　＿　＿　回/mm

スパイクラベリング試験結果　＿　＿　＿　＿　mm²

様式Ａ－４－５　アスファルト混合物の性状（配合試験２）調査区間番号　５０３

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の剥離試験結果（剥離率）　＿１８

剥離防止材の種類　商品名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

剥離防止材の添加量　＿＿．＿％

アスファルトプラントの形式　１

ホイールトラッキング試験結果　＿＿＿＿回/mm

スパイクラベリング試験結果　＿＿＿＿mm²

様式Ａ－４－５　アスファルト混合物の性状（配合試験２）調査区間番号　５０３

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の剥離試験結果（剥離率）　＿＿６

剥離防止材の種類　商品名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

剥離防止材の添加量　＿＿．＿％

アスファルトプラントの形式　１

ホイールトラッキング試験結果　４８９１回/mm

スパイクラベリング試験結果　＿＿＿＿mm²

様式Ａ－４－５　アスファルト混合物の性状（配合試験２）調査区間番号　５０３

層番号　＿７、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の剥離試験結果（剥離率）　＿＿６

剥離防止材の種類　商品名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

剥離防止材の添加量　＿＿.＿％

アスファルトプラントの形式　１

ホイールトラッキング試験結果　２６６７回/mm

スパイクラベリング試験結果　＿＿＿＿mm²

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　５０３

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３５４ g/cm³

アスファルト量　４．０ %

空隙率　＿７．２ %

骨材間隙率　１６．３ %

マーシャル安定度　１１１５ kg

フロー値　＿２８ (1/100cm)

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　５０３

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．４０５ g/cm³

アスファルト量　５．０ %

空隙率　＿４．２ %

骨材間隙率　１５．８ %

マーシャル安定度　１０２１ kg

フロー値　＿２９ (1/100cm)

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　５０３

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．４０６ g/cm³

アスファルト量　４．９ %

空隙率　＿４．１ %

骨材間隙率　１５．６ %

マーシャル安定度　１１２２ kg

フロー値　＿３２ (1/100cm)

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　５０３

層番号　＿７、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３９９ g/cm³

アスファルト量　５．１ %

空隙率　＿３．８ %

骨材間隙率　１５．８ %

マーシャル安定度　１００６ kg

フロー値　＿２８ (1/100cm)

様式Ａ－４－７　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　５０３

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３７６ g/cm³

最大比重　２．５０７ g/cm³

空隙率　＿２．１ %

アスファルト量　４．４ %

骨材間隙率　１０．９ %

様式A－4－7　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　5 0 3

層番号　＿ 5 、＿ ＿ 、＿ ＿　（様式A－1－3参照）

かさ密度　2 .3 7 0 g/cm³

最大比重　2 .4 6 1 g/cm³

空隙率　＿ 2 .7 %

アスファルト量　5 .7 %

骨材間隙率　1 5 .3 %

様式Ａ－４－７　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　５０３

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　＿．＿＿＿ g/cm³

最大比重　＿．＿＿＿ g/cm³

空隙率　＿＿．＿ ％

アスファルト量　＿．＿ ％

骨材間隙率　＿＿．＿ ％

様式Ａ－４－７　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　５０３

層番号　＿７、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３５８ g/cm³

最大比重　２．４７３ g/cm³

空隙率　＿２．６ %

アスファルト量　５．８ %

骨材間隙率　１５．５ %

様式A－4－8　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　5 0 3

層番号　＿4、＿＿、＿＿　（様式A－1－3参照）

試験方法　1

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿5.0	55750	2.357
＿＿＿	＿＿5.0	32650	2.362
＿＿＿	＿＿5.0	38450	2.400
＿＿＿	＿25.0	14850	2.357
＿＿＿	＿25.0	15200	2.362
＿＿＿	＿25.0	25350	2.400
＿＿＿	＿40.0	＿6035	2.357
＿＿＿	＿40.0	＿6180	2.362
＿＿＿	＿40.0	＿6045	2.400
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　0.4　秒

載荷周波数　1.0　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式A－4－8　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　5 0 3

層番号　＿ 5 、＿ ＿ 、＿ ＿　（様式A－1－3参照）

試験方法　1

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿5.0	49750	2.327
＿＿＿	＿＿5.0	50800	2.385
＿＿＿	＿＿5.0	52650	2.397
＿＿＿	＿25.0	24200	2.327
＿＿＿	＿25.0	29600	2.385
＿＿＿	＿25.0	23250	2.397
＿＿＿	＿40.0	＿4505	2.327
＿＿＿	＿40.0	＿7415	2.385
＿＿＿	＿40.0	＿9095	2.397
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　0.4　秒

載荷周波数　1.0　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　５０３

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿　kg/cm²

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　５０３

層番号　＿７、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	４１２００	２.３６２
＿＿＿	＿＿５.０	３９８５０	２.３６３
＿＿＿	＿＿５.０	４２５００	２.３５９
＿＿＿	＿２５.０	１８３５０	２.３６２
＿＿＿	＿２５.０	１２５５０	２.３６３
＿＿＿	＿２５.０	１８７００	２.３５９
＿＿＿	＿４０.０	＿５７４０	２.３６２
＿＿＿	＿４０.０	＿６２５０	２.３６３
＿＿＿	＿４０.０	＿６２２０	２.３５９
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　５０３

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿３３.７
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２５.５
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿１９.４
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿８.８
＿＿＿	＿２５.０	＿＿１０.３
＿＿＿	＿２５.０	＿＿１１.２
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.７
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.９
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿１.５
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　５０３

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２４.６
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２７.６
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２２.６
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿７.５
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿７.６
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿６.７
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.２
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.２
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.３
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　５０３

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿＿＿.＿
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿＿＿.＿
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿＿＿.＿
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿＿.＿
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿＿.＿
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿＿.＿
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿＿.＿
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿＿.＿
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿＿.＿
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　５０３

層番号　＿７、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２４.８
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２４.５
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２６.５
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿８.３
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿７.７
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿７.５
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.５
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.４
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.６
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

近　畿　地　方

S H R P

新 基 準 調 査

初 期 調 査 デ ー タ

１７５号　小野バイパス

様式Ａ－１－１　一般データ　　調査区間番号　６０１

地建番号　６

報告年月　平成　１　年　１０　月

担当部局　近畿地方建設局 兵庫国道工事事務所 工務課工務係　内線　４１２

調査区間の地名　兵庫県小野市天神町

路線番号　１７５

調査種別　１

調査方向　☒上り　□下り

距離標　２５ｋ５２０～２５ｋ２２０

（ＫＰ未定の場合No.＿＿＿＿＋＿＿～＿＿＿＿＋＿＿）

様式Ａ－１－２　舗装構造データ　　調査区間番号　６０１

舗装の種別　１

調査方向の車線数　２

車線幅　３５０　cm

調査対象車線　第　２　車線

路肩の幅　１５０　cm

路肩の路面の種類　３

路肩の路盤の種類　４６

路肩の表層・基層の厚さ　　５　cm

路肩の路盤の厚さ　　１５　cm

地下排水工の種類　２，３

縦断方向の配水管の内径　　３００　mm

排水工の位置　１

配水管の間隔　５０００　cm

様式A－1－3　舗装構成データ　　調査区間番号　601

層の数　6

番号	層の名称	層の厚さ（mm）				材料
		最　大	最　小	平　均	標準偏差	
1	7	200	150	161	20.80	63
2	7	850	800	839	20.80	43
3	6	180	150	160	11.10	46
4	4	105	95	102	2.30	31
5	4	55	47	51	2.30	2
6	3	55	50	53	1.50	1
7	—	—	—	—	—.—	—
8	—	—	—	—	—.—	—
9	—	—	—	—	—.—	—
10	—	—	—	—	—.—	—
11	—	—	—	—	—.—	—
12	—	—	—	—	—.—	—

舗装の等値換算厚 T_A　　23.3 cm

舗装厚H　　35.0 cm

高支持力層までの深さ　　3 m

盛土厚さ　　0 cm

様式Ａ－１－４　施工関係データ　　調査区間番号　６０１

施工年月　平成　１　年　３　月

交通開放（予定）年月　平成　１　年　４　月

施工費用　　３４　百万円／km・車線

打換え年月　平成　　年　　月

拡幅年月　　平成　　年　　月

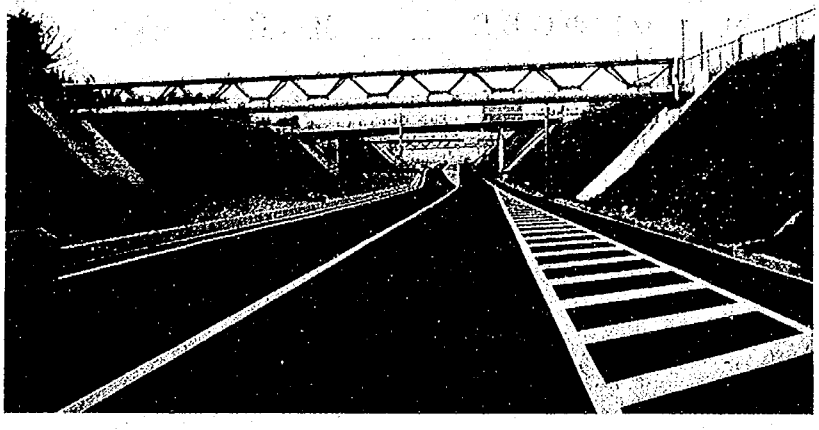
当初の車線数　　車線

最終的な車線数　　車線

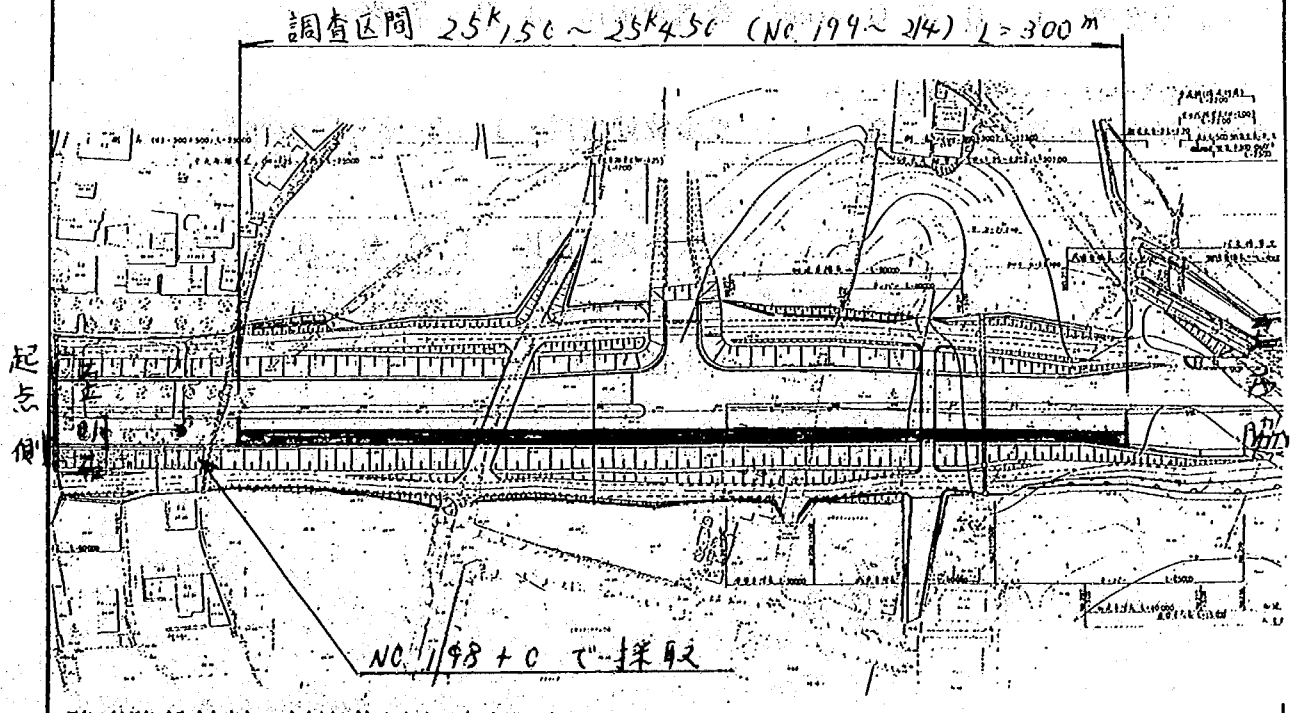
追加車線数　　車線

様式A－1－5　調査区間概要図　　調査区間番号　6 0 1

起点側より撮影



調査区間概要図



路床路盤材料の採取位置を示すこと。

完成時の平面図

様式Ａ－２－１　路床土に関する基礎データ　　調査区間番号　６０１

層番号　＿２、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

土質分類　＿ＳＣ　　ＡＡＳＨＴＯ土質分類　Ａ２６

ＣＢＲ　平均値　＿＿３．９　区間のＣＢＲ　＿＿２．３

Ｓ値　３２．０１　Ｋ値　＿２７．５ kg/cm³

75μmふるい通過量　２５．３ %

塑性限界　２３．５ %　液性限界　３４．７ %

塑性指数　１１．２ %

最大乾燥密度　１．６７０ g/cm³　最適含水比　１８．７ %

最大乾燥密度の算出方法　３　現場乾燥密度　１．７８１ g/cm³

現場含水比　１５．９ %　最大乾燥密度比　１０６．６ %

最適含水比との比　＿８５．０ %　凍上性区分　１

安定材添加量　＿５３ kg/m³　安定材の種類　＿＿４

安定材の混合比　４　１００
　　—　———
　　—　———

様式Ａ－２－２　弾性係数の測定（路床土）　　調査区間番号　６０１

層番号　＿２、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試料採取位置 KP＿２５ｋ１００（KPが未定の場合　No.　＿＿＿＿＋＿＿）

供試体数　＿３　　ＡＡＳＨＴＯ土質分類　Ａ２６

含水比　＿２０．７％　　乾燥密度　１．６７５ g/cm³

試験の結果

側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
＿０．４１	＿０．５６	２０７１
＿０．２１	＿０．３６	１２９２
＿０．００	＿０．１９	１６４２
＿０．４１	＿０．７０	２３５８
＿０．２１	＿０．５１	１６３３
＿０．００	＿０．３０	１６９７
＿０．４１	＿０．９７	２４３６
＿０．２１	＿０．７８	１７７５
＿０．００	＿０．５８	１８４９
＿０．４１	＿１．１１	２３５９
＿０．２１	＿０．９２	２１９４
＿０．００	＿０．７２	１８７３
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿

回帰式　　log E = log A + B x log(stress)

A = １９２６．６ 10^3kg/cm²　B = ０．１５６

様式Ａ－３－１　路盤材料の特性値　　調査区間番号　６０１

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

最大乾燥密度　２．２０８ g/cm³　最適含水比　＿９．０ %

最大乾燥密度の算出方法　１

現場乾燥密度　２．１６４ g/cm³　現場含水比　＿８．８ %

最大乾燥密度比　＿９８．０ %　最適含水比との比　＿９７．８ %

平板載荷試験　＿４３．０ kg/cm³

425μmふるい通過量　１７．３ %　75μmふるい通過量　＿７．１ %

路盤材料の修正ＣＢＲ　１７０．０

路盤材料の一軸圧縮強度　１８．８ kg/cm²

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿
　　＿　＿＿＿
　　＿　＿＿＿

様式Ａ－３－２　弾性係数の測定（路盤）　　調査区間番号　６０１

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

供試体数　＿２　含水比　＿＿６．５％　乾燥密度　２．１８８ g/cm³

試験の結果	側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
	１．３９	１．５３	２９３９
	１．３８	１．７４	３０２１
	１．３８	２．０９	３３９９
	１．３９	２．４２	３４７７
	１．３８	２．８０	３６５４
	１．０５	１．１９	２１６７
	１．０５	１．４０	２３７６
	１．０５	１．７５	２５６０
	１．０５	２．１１	２９６３
	１．０５	２．４５	３２３３
	０．６９	０．８３	２０４９
	０．６９	１．０５	１９４２
	０．６９	１．３９	２０６３
	０．６９	１．７５	２３２６
	０．３６	０．５１	１３６７
	０．３５	０．７４	１５６０
	０．３５	１．０７	１６４８
	０．３５	１．４３	１７５６
	０．０９	０．２３	１１６３
	０．０９	０．４１	１２８３
	０．０９	０．５８	１３１６
	０．１０	０．８３	１４４２
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿

回帰式　$\log E = \log A + B \times \log(\text{stress})$

$A =$ １２９４．６ 10^3kg/cm²　$B =$ ０．５２２

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　６０１

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類　１　１００
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

細骨材の種類　１　＿５０
２　＿５０
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

粗骨材の岩質　２３

フィラーの種類　１

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿．＿	2.36mm	＿３９．７
37.5mm	＿＿＿．＿	600μm	＿２２．３
26.5mm	１００．０	300μm	＿１３．１
19mm	＿９８．０	150μm	＿＿７．０
13.2mm	＿６７．２	75μm	＿＿５．０
4.75mm	＿４９．９		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	＿．＿＿＿ g/cm³	細骨材１（粗砂）	２．６１１ g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	２．７５０ g/cm³	細骨材２（中砂）	＿．＿＿＿ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	２．７３５ g/cm³	細骨材３（細砂）	＿．＿＿＿ g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	２．７３０ g/cm³	フィラー	２．７１０ g/cm³
スクリーニングス	２．７１２ g/cm³	クラッシャラン	＿．＿＿＿ g/cm³

合成密度　２．７０９ g/cm³　有効密度　２．７０９ g/cm³

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　６０１

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類　１　１００　　細骨材の種類　１　＿７６
＿　＿＿＿　　２　＿２４
＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿
＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

粗骨材の岩質　２３　　フィラーの種類　１

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿.＿	2.36mm	＿２８.４
37.5mm	＿＿＿.＿	600μm	＿１５.７
26.5mm	１００.０	300μm	＿＿９.４
19mm	＿９８.２	150μm	＿＿５.３
13.2mm	＿８０.４	75μm	＿＿４.２
4.75mm	＿４４.９		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	＿.＿＿＿ g/cm³	細骨材１（粗砂）	２.６１１ g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	２.７５０ g/cm³	細骨材２（中砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	２.７３５ g/cm³	細骨材３（細砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	２.７３０ g/cm³	フィラー	＿.＿＿＿ g/cm³
スクリーニングス	２.７１２ g/cm³	クラッシャラン	＿.＿＿＿ g/cm³

合成密度　２.７１４ g/cm³　有効密度　２.７１５ g/cm³

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　６０１

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類	1	100	細骨材の種類	1	＿80
	＿	＿＿＿		2	＿20
	＿	＿＿＿		＿	＿＿＿
	＿	＿＿＿		＿	＿＿＿

粗骨材の岩質　２３　　フィラーの種類　１

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿.＿	2.36mm	＿401
37.5mm	＿＿＿.＿	600μm	＿244
26.5mm	＿＿＿.＿	300μm	＿139
19mm	100.＿	150μm	＿＿73
13.2mm	＿98.1	75μm	＿＿54
4.75mm	＿62.2		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	＿.＿＿＿ g/cm³	細骨材１（粗砂）	2.611 g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	2.750 g/cm³	細骨材２（中砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	2.735 g/cm³	細骨材３（細砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	2.730 g/cm³	フィラー	2.710 g/cm³
スクリーニングス	2.712 g/cm³	クラッシャラン	＿.＿＿＿ g/cm³

合成密度　2.695 g/cm³　有効密度　2.695 g/cm³

様式Ａ－４－２　アスファルトの性状（原アスファルト）　調査区間番号　６０１

層番号　＿４、＿５、＿６、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

針入度区分　＿６０～＿８０

アスファルトの製造元　出光興産(株)

密度　１.０３０ g/cm³

60℃粘度　＿＿２４８０ poise

135℃粘度　＿４８０ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０.０ cm

4℃伸度の伸長速度　＿５ cm/min

25℃針入度　＿６９

4℃針入度　＿２４

軟化点　＿４９ ℃

添加剤　商品名

添加剤の添加量　＿＿＿ %

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　６０１

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿４６９０ poise　　135℃粘度　＿６６１ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０.０ cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５ cm/min

25℃針入度　＿４２　　4℃針入度　＿１６

軟化点　＿５２ ℃

質量変化率　０.０５

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿５４　　4℃針入度　＿２６

60℃粘度　＿＿２８０７ poise　　135℃粘度　＿４７０ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　６０１

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿４６９０ poise　　135℃粘度　＿６６１ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０.０ cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５　cm/min

25℃針入度　＿４２　　4℃針入度　＿１６

軟化点　＿５２ ℃

質量変化率　０.０５

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿５６　　4℃針入度　＿２７

60℃粘度　＿＿２９９５ poise　　135℃粘度　＿５２８ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　６０１

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿４６９０ poise　　135℃粘度　＿６６１ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０.０ cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５ cm/min

25℃針入度　＿４２　　4℃針入度　＿１６

軟化点　＿５２ ℃

質量変化率　０.０５

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿５５　　4℃針入度　＿２８

60℃粘度　＿＿３００４ poise　　135℃粘度　＿５５３ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　６０１

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３６８ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．５４３ g/cm³

アスファルト量　４．０ %

空隙率　＿６．９ %

骨材間隙率　１６．１ %

有効アスファルト量　＿４．０ %

突き固め回数　＿＿ 回

マーシャル安定度　＿６７２ kg

フロー値　＿２９ (1/100cm)

ビーム安定度　＿５９．３

ビーム粘着度　＿１４７．５

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　６０１

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．４１２ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．５１７ g/cm³

アスファルト量　４．８ %

空隙率　＿４．２ %

骨材間隙率　１５．４ %

有効アスファルト量　＿４．８ %

突き固め回数　＿＿ 回

マーシャル安定度　１１２０ kg

フロー値　＿２８ (1/100cm)

ビーム安定度　＿５６．６

ビーム粘着度　＿２０５．６

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　６　０　１

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３７４ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．４７５ g/cm³

アスファルト量　５．５ %

空隙率　＿４．１ %

骨材間隙率　１６．８ %

有効アスファルト量　＿５．５ %

突き固め回数　＿＿ 回

マーシャル安定度　１０９２ kg

フロー値　＿２５ (1/100cm)

ビーム安定度　＿６０．９

ビーム粘着度　＿１９９．９

様式Ａ－４－５　アスファルト混合物の性状（配合試験２）調査区間番号　６　０　１

層番号　＿４、＿５、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の剥離試験結果（剥離率）　＿＿７

剥離防止材の種類　商品名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

剥離防止材の添加量　＿＿．＿％

アスファルトプラントの形式　１

ホイールトラッキング試験結果　＿＿＿＿回/mm

スパイクラベリング試験結果　＿＿＿＿mm²

様式Ａ－４－５　アスファルト混合物の性状（配合試験２）調査区間番号　６　０　１

層番号　＿　６　、＿　＿　、＿　＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の剝離試験結果（剝離率）　＿　＿　７

剝離防止材の種類　商品名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

剝離防止材の添加量　＿　＿．＿　％

アスファルトプラントの形式　１

ホイールトラッキング試験結果　１　２　４　７　回/mm

スパイクラベリング試験結果　＿　＿　＿　＿　mm²

様式A－4－6　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　6 0 1

層番号　＿4、＿＿、＿＿　（様式A－1－3参照）

かさ密度　2.3 6 8 g/cm³

アスファルト量　4.0 %

空隙率　＿6.9 %

骨材間隙率　16.1 %

マーシャル安定度　＿6 7 2 kg

フロー値　＿2 9 (1/100cm)

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　６　０　１

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．４１２ g/cm³

アスファルト量　４．８ %

空隙率　＿４．２ %

骨材間隙率　１５．４ %

マーシャル安定度　１１２０ kg

フロー値　＿２８ (1/100cm)

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　６０１

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３７４ g/cm³

アスファルト量　５．５ %

空隙率　＿４．１ %

骨材間隙率　１６．８ %

マーシャル安定度　１０９２ kg

フロー値　＿２５ (1/100cm)

様式Ａ－４－７　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　６　０　１

層番号　＿　４　、　＿　＿　、　＿　＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．４　８　８　g/cm³

最大比重　２．５　４　４　g/cm³

空隙率　＿　２．２　％

アスファルト量　４．５　％

骨材間隙率　１　３．１　％

様式Ａ－４－７　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　６０１

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．４５４ g/cm³

最大比重　２．５０５ g/cm³

空隙率　＿２．１ %

アスファルト量　５．３ %

骨材間隙率　１４．７ %

様式Ａ－４－７　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　６０１

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．４２０ g/cm³

最大比重　２．４９０ g/cm³

空隙率　＿２．８ %

アスファルト量　５．７ %

骨材間隙率　１６．３ %

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　６０１

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	５８５９４	２.４８３
＿＿＿	＿＿５.０	８１６００	２.４７９
＿＿＿	＿＿５.０	５３２１６	２.５０２
＿＿＿	＿２５.０	１７４７４	２.４８３
＿＿＿	＿２５.０	１８７３９	２.４７９
＿＿＿	＿２５.０	２０６６２	２.５０２
＿＿＿	＿４０.０	＿５０２８	２.４８３
＿＿＿	＿４０.０	＿４６６３	２.４７９
＿＿＿	＿４０.０	＿４１７８	２.５０２
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　６０１

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	７８２５８	２.４５４
＿＿＿	＿＿５.０	７０７１２	２.４５９
＿＿＿	＿＿５.０	５８７５２	２.４４９
＿＿＿	＿２５.０	１５８３５	２.４５４
＿＿＿	＿２５.０	１９８８７	２.４５９
＿＿＿	＿２５.０	２４９５４	２.４４９
＿＿＿	＿４０.０	＿３７００	２.４５４
＿＿＿	＿４０.０	＿３８１４	２.４５９
＿＿＿	＿４０.０	＿３４９３	２.４４９
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　６０１

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	６３３５０	２.４１１
＿＿＿	＿＿５.０	５８８７８	２.４２３
＿＿＿	＿＿５.０	５８０６５	２.４２５
＿＿＿	＿２５.０	１８２０７	２.４１１
＿＿＿	＿２５.０	２０８２９	２.４２３
＿＿＿	＿２５.０	１８６７４	２.４２５
＿＿＿	＿４０.０	＿３６３４	２.４１１
＿＿＿	＿４０.０	＿３１２８	２.４２３
＿＿＿	＿４０.０	＿３３２３	２.４２５
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　６０１

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿３７.６
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿３９.０
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿３５.４
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿９.３
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿８.８
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿９.６
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.５
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.６
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.８
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　６０１

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿３３.５
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿３２.７
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿３２.０
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿５.７
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿５.９
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿６.３
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿１.９
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿１.７
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿１.７
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　６０１

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿３１.３
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿３１.１
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿３１.７
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿５.７
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿６.２
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿６.２
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿１.７
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿１.８
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿１.６
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

S H R P

新 基 準 調 査

初 期 調 査 デ ー タ

8号 福井バイパス

様式Ａ－１－１　一般データ　　調査区間番号　６０２

地建番号　６

報告年月　平成　２　年　３　月

担当部局　近畿地方建設局 福井工事事務所工務二課設計第一係　内線　＿＿＿＿

調査区間の地名　福井県武生市横市町地先

路線番号　＿＿８

調査種別　１

調査方向　☒上り　□下り

距離標　４２６ｋ９４９～４２６ｋ６４９

（ＫＰ未定の場合No.＿＿＿＿＋＿＿～＿＿＿＿＋＿＿）

様式Ａ－１－２　舗装構造データ　　調査区間番号　６０２

舗装の種別　１

調査方向の車線数　１

車線幅　３５０　cm

調査対象車線　第　１　車線

路肩の幅　１００　cm

路肩の路面の種類　３

路肩の路盤の種類　２３

路肩の表層・基層の厚さ　１５　cm

路肩の路盤の厚さ　＿３８　cm

地下排水工の種類　１，＿

縦断方向の配水管の内径　＿＿＿＿　mm

排水工の位置　＿

配水管の間隔　＿＿＿＿　cm

様式A－1－3　舗装構成データ　　調査区間番号　602

層の数　7

番号	層の名称	層の厚さ（mm）				材料
		最　大	最　小	平　均	標準偏差	
1	7					53
2	7			1000		63
3	6	193	140	164	15.50	23
4	5	165	139	152	7.40	25
5	4	98	76	87	6.80	31
6	4	112	96	102		2
7	3	56	48	52	1.90	1
8						
9						
10						
11						
12						

舗装の等値換算厚 T_A　　30.4 cm

舗装厚H　　53.0 cm

高支持力層までの深さ　　　m

盛土厚さ　　　cm

様式Ａ－１－４　施工関係データ　　調査区間番号　６０２

施工年月　平成 __ 2 年 __ 3 月

交通開放（予定）年月　平成 __ 2 年 __ 3 月

施工費用　__ __ __ __ 百万円／km・車線

打換え年月　平成 __ __ 年 __ __ 月

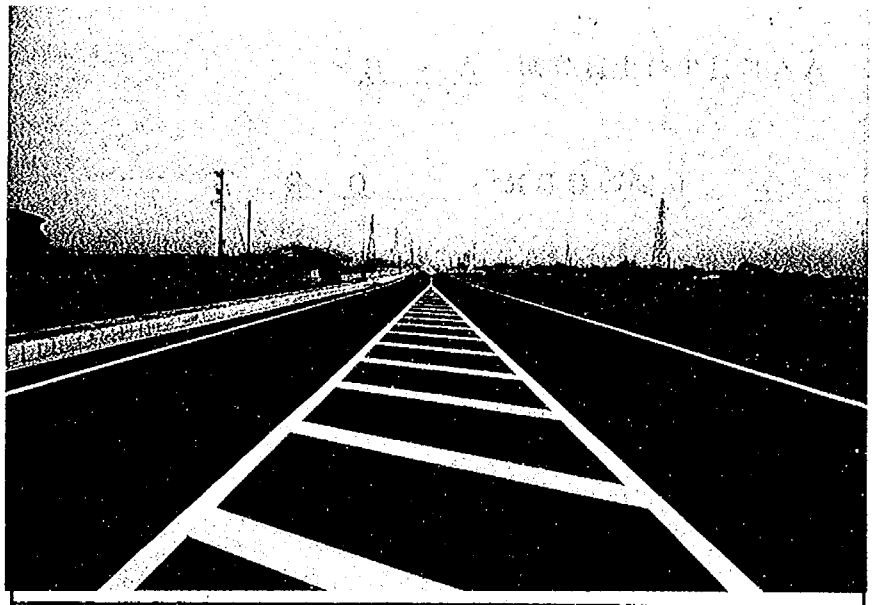
拡幅年月　　平成 __ __ 年 __ __ 月

当初の車線数　__ 車線

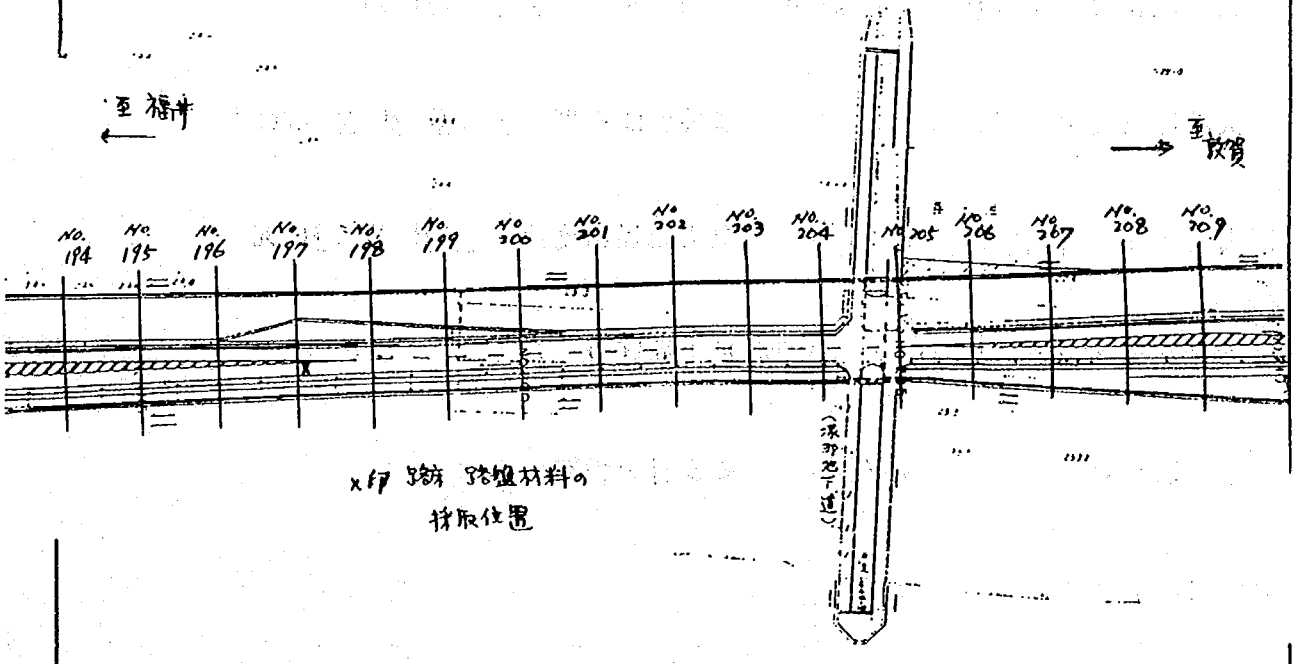
最終的な車線数　__ 車線

追加車線数　__ 車線

様式A－1－5　調査区間概要図　　調査区間番号　6 0 2



調査区間概要図



路床路盤材料の採取位置を示すこと。

様式Ａ－２－１　路床土に関する基礎データ　　調査区間番号　６０２

層番号　＿１、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

土質分類　＿ＣＬ　　ＡＡＳＨＴＯ土質分類　Ａ－６

ＣＢＲ　平均値　＿＿１．１　区間のＣＢＲ　＿＿０．９

Ｓ値　＿＿．＿＿　Ｋ値　＿＿＿．＿ kg/cm³

75μmふるい通過量　５２．０ %

塑性限界　１８．６ %　液性限界　３８．８ %

塑性指数　２０．２ %

最大乾燥密度　１．９２１ g/cm³　最適含水比　１０．０ %

最大乾燥密度の算出方法　１　現場乾燥密度　１．５８７ g/cm³

現場含水比　２０．７ %　最大乾燥密度比　＿８２．６ %

最適含水比との比　２０７．０ %　凍上性区分　５

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

様式Ａ－２－１　路床土に関する基礎データ　　調査区間番号　６０２

層番号　＿２、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

土質分類　＿ＳＣ　　ＡＡＳＨＴＯ土質分類　Ａ２６

ＣＢＲ　平均値　＿２０．６　区間のＣＢＲ　＿＿＿．＿

Ｓ値　＿７．７２　Ｋ値　＿１５．６ kg/cm³

75μmふるい通過量　２０．９ %

塑性限界　１２．９ %　液性限界　２５．７ %

塑性指数　１２．８ %

最大乾燥密度　２．０１０ g/cm³　最適含水比　＿８．７ %

最大乾燥密度の算出方法　１　現場乾燥密度　１．９４６ g/cm³

現場含水比　＿９．６ %　最大乾燥密度比　＿９６．８ %

最適含水比との比　１１０．３ %　凍上性区分　３

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿

＿　＿＿＿

＿　＿＿＿

様式Ａ－２－２　弾性係数の測定（路床土）　　調査区間番号　６０２

層番号　＿１、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試料採取位置 KP＿＿＿ k＿＿＿（KPが未定の場合　No.　＿＿＿＿＋＿＿）

供試体数　＿＿　　ＡＡＳＨＴＯ土質分類　＿＿＿

含水比　＿＿＿.＿ %　　乾燥密度　＿.＿＿＿ g/cm³

試験の結果

	側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿

回帰式　　log E = log A + B x log(stress)

A = ＿＿＿＿.＿ 10^3kg/cm²　B = ＿.＿＿

様式Ａ－２－２　弾性係数の測定（路床土）　　調査区間番号　６０２

層番号　＿２、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試料採取位置 KP＿＿＿ k＿＿＿（KPが未定の場合　No.　＿＿＿＿＋＿＿）

供試体数　＿２　　ＡＡＳＨＴＯ土質分類　＿＿＿

含水比　＿１０．１％　　乾燥密度　２．０２９ g/cm³

試験の結果

側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
＿０．４１	＿０．４８	１０００
＿０．２１	＿０．２８	＿７００
＿０．１２	＿０．１９	＿８２４
＿０．４２	＿０．５７	＿３３８
＿０．２４	＿０．３９	１６１４
＿０．１２	＿０．２６	＿８５９
＿０．４１	＿０．６９	＿７９５
＿０．２１	＿０．４８	＿７６６
＿０．１１	＿０．３９	１１６６
＿０．４１	＿０．９６	＿９０８
＿０．２２	＿０．７７	１１５３
＿０．１２	＿０．６７	＿９５４
＿０．４１	＿１．０９	１４８７
＿０．２３	＿０．９１	１０２７
＿０．１３	＿０．８２	＿９７６
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿

回帰式　　log E = log A + B x log(stress)

A = ＿８９５．４ 10^3kg/cm²　B = ＿０．０１４

様式Ａ－３－１　路盤材料の特性値　　調査区間番号　６０２

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

最大乾燥密度　２．１７６ g/cm³　最適含水比　＿７．２ %

最大乾燥密度の算出方法　１

現場乾燥密度　２．１２５ g/cm³　現場含水比　＿５．８ %

最大乾燥密度比　＿９７．７ %　最適含水比との比　＿８０．６ %

平板載荷試験　＿２４．８ kg/cm³

425μmふるい通過量　＿＿．＿ %　75μmふるい通過量　＿＿．＿ %

路盤材料の修正ＣＢＲ　＿９３．０

路盤材料の一軸圧縮強度　＿＿．＿ kg/cm²

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

様式Ａ－３－１　路盤材料の特性値　　調査区間番号　６０２

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

最大乾燥密度　２．２２８ g/cm³　最適含水比　＿７．５ %

最大乾燥密度の算出方法　１

現場乾燥密度　２．１８２ g/cm³　現場含水比　＿５．８ %

最大乾燥密度比　＿９７．９ %　最適含水比との比　＿７７．３ %

平板載荷試験　＿３４．３ kg/cm³

425μmふるい通過量　１７．５ %　75μmふるい通過量　＿５．２ %

路盤材料の修正ＣＢＲ　１１６．０

路盤材料の一軸圧縮強度　＿＿．＿ kg/cm²

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

様式A－3－2　弾性係数の測定（路盤）　　調査区間番号　6 0 2

層番号　＿3、＿＿、＿＿　（様式A－1－3参照）

供試体数　＿2　含水比　＿＿2.8％　乾燥密度　2.041 g/cm³

試験の結果	側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
	1.38	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	1.38	2.08	4030
	1.38	2.77	3776
	1.05	1.18	4500
	1.04	1.73	3302
	1.04	2.42	3346
	0.69	0.76	3500
	0.69	1.04	2859
	0.69	1.73	2913
	0.35	0.42	2333
	0.35	0.70	1729
	0.35	1.39	1800
	0.13	0.20	1400
	0.13	0.48	1523
	0.13	0.81	1344
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿

回帰式　$\log E = \log A + B \times \log(\text{stress})$

A = 1715.6 10^3kg/cm²　B = 0.877

様式Ａ－３－２　弾性係数の測定（路盤）　　調査区間番号　６０２

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

供試体数　＿２　含水比　＿＿２．８％　乾燥密度　２．０７９ g/cm³

試験の結果	側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
	１．３８	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	１．３８	２．０７	２０４５
	１．３８	２．７５	２２２０
	１．０５	１．２０	３３３３
	１．０５	１．７４	１９１７
	１．０５	２．４３	２１５６
	０．７０	０．７７	３５００
	０．７０	１．０５	２８１８
	０．７０	１．７４	１７８６
	０．３５	０．４２	２９１７
	０．３６	０．７１	２１２９
	０．３６	１．４０	１４９１
	０．１３	０．２０	２３３３
	０．１２	０．４７	１５５９
	０．１３	０．８２	１３２８
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿

回帰式　$\log E = \log A + B \times \log(\text{stress})$

A = ２０４１．６ 10^3kg/cm²　B = ０．０７４

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　６０２

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類	1	1００	細骨材の種類	1	＿６６
	＿	＿＿＿		2	＿３４
	＿	＿＿＿		＿	＿＿＿
	＿	＿＿＿		＿	＿＿＿

粗骨材の岩質　１２　　フィラーの種類　１

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿.＿	2.36mm	＿３４.４
37.5mm	＿＿＿.＿	600μm	＿＿＿.＿
26.5mm	１００.０	300μm	＿１２.４
19mm	＿９８.１	150μm	＿＿＿.＿
13.2mm	＿７１.８	75μm	＿＿４.４
4.75mm	＿４８.１		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	＿.＿＿＿ g/cm³	細骨材１（粗砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	２.６２１ g/cm³	細骨材２（中砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	２.６１６ g/cm³	細骨材３（細砂）	２.４８９ g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	２.６００ g/cm³	フィラー	１.７５０ g/cm³
スクリーニングス	２.５５６ g/cm³	クラッシャラン	＿.＿＿＿ g/cm³

合成密度　２.５３４ g/cm³　有効密度　２.６７７ g/cm³

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　６０２

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類　１　１００
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

細骨材の種類　１　＿６１
２　＿３９
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

粗骨材の岩質　１２

フィラーの種類　１

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿.＿	2.36mm	＿２８.９
37.5mm	＿＿＿.＿	600μm	＿１８.１
26.5mm	１００.０	300μm	＿１０.６
19mm	＿９８.７	150μm	＿＿５.６
13.2mm	＿７９.４	75μm	＿＿４.２
4.75mm	＿４５.５		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	＿.＿＿＿ g/cm³	細骨材１（粗砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	２.６２１ g/cm³	細骨材２（中砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	２.６１６ g/cm³	細骨材３（細砂）	２.４８９ g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	２.６００ g/cm³	フィラー	１.７５０ g/cm³
スクリーニングス	２.５５６ g/cm³	クラッシャラン	＿.＿＿＿ g/cm³

合成密度　２.５４０ g/cm³　有効密度　２.６８０ g/cm³

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　６０２

層番号　＿７、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類　１　１００
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

細骨材の種類　１　＿３４
２　＿６６
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

粗骨材の岩質　１２

フィラーの種類　１

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿.＿	2.36mm	＿３８.１
37.5mm	＿＿＿.＿	600μm	＿２１.６
26.5mm	１００.０	300μm	＿１３.３
19mm	＿９８.７	150μm	＿＿７.９
13.2mm	＿８０.６	75μm	＿＿５.８
4.75mm	＿５４.２		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	＿.＿＿ g/cm³	細骨材１（粗砂）	＿.＿＿ g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	２.６２１ g/cm³	細骨材２（中砂）	＿.＿＿ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	２.６１６ g/cm³	細骨材３（細砂）	２.４８９ g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	２.６００ g/cm³	フィラー	１.７５０ g/cm³
スクリーニングス	２.５５６ g/cm³	クラッシャラン	＿.＿＿ g/cm³

合成密度　２.５２５ g/cm³　有効密度　２.６８４ g/cm³

様式Ａ－４－２　アスファルトの性状（原アスファルト）　調査区間番号　６０２

層番号　＿５、＿６、＿７、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

針入度区分　＿６０～＿８０

アスファルトの製造元　出光興産　名古屋支店

密度　１．０３７ g/cm³

60℃粘度　＿＿２５３０ poise

135℃粘度　＿４００ cSt

25℃伸度　＿＿＿　cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０．５　cm

4℃伸度の伸長速度　＿５　cm/min

25℃針入度　＿６８

4℃針入度　＿２５

軟化点　＿４９℃

添加剤　商品名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

添加剤の添加量　＿＿＿％

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　６０２

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿５５６０ poise　　135℃粘度　＿６８２ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０．５　cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５　cm/min

25℃針入度　＿４３　　4℃針入度　＿３４

軟化点　＿５４ ℃

質量変化率　０．０９

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿３７　　4℃針入度　＿１８

60℃粘度　＿＿６０３０ poise　　135℃粘度　＿６５９ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　６０２

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿５５６０ poise　　135℃粘度　＿６８２ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０.５ cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５ cm/min

25℃針入度　＿４３　　4℃針入度　＿３４

軟化点　＿５４ ℃

質量変化率　０.０９

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿３８　　4℃針入度　＿１７

60℃粘度　＿＿６８５０ poise　　135℃粘度　＿６８７ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　６０２

層番号　＿７、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿５５６０ poise　　135℃粘度　＿６８２ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０．５ cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５ cm/min

25℃針入度　＿４３　　4℃針入度　＿３４

軟化点　＿５４ ℃

質量変化率　０．０９

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿４８　　4℃針入度　＿１８

60℃粘度　＿＿３８８０ poise　　135℃粘度　＿５５１ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　６０２

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３３３ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．５１８ g/cm³

アスファルト量　４．０ %

空隙率　＿７．３ %

骨材間隙率　１６．３ %

有効アスファルト量　＿４．０ %

突き固め回数　５０ 回

マーシャル安定度　＿８９０ kg

フロー値　＿３３ (1/100cm)

ビーム安定度　＿４９．２

ビーム粘着度　＿２９６．１

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　６０２

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３７８ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．４９１ g/cm³

アスファルト量　４．８ %

空隙率　＿４．５ %

骨材間隙率　１５．５ %

有効アスファルト量　＿４．８ %

突き固め回数　７５ 回

マーシャル安定度　１１６０ kg

フロー値　＿３４ (1/100cm)

ビーム安定度　＿４４．３

ビーム粘着度　＿３２２．０

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　６０２

層番号　＿７、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３８５ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．４６８ g/cm³

アスファルト量　５．５ %

空隙率　＿３．４ %

骨材間隙率　１６．０ %

有効アスファルト量　＿５．５ %

突き固め回数　７５ 回

マーシャル安定度　１２９０ kg

フロー値　＿３５ (1/100cm)

ビーム安定度　＿４３．２

ビーム粘着度　＿３７４．７

様式Ａ－４－５　アスファルト混合物の性状（配合試験２）調査区間番号　６０２

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の剥離試験結果（剥離率）　＿４３

剥離防止材の種類　商品名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

剥離防止材の添加量　＿＿．＿％

アスファルトプラントの形式　１

ホイールトラッキング試験結果　＿＿＿＿回/mm

スパイクラベリング試験結果　＿＿＿＿mm²

様式Ａ－４－５　アスファルト混合物の性状（配合試験２）調査区間番号　６０２

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の剝離試験結果（剝離率）　＿２７

剝離防止材の種類　商品名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

剝離防止材の添加量　＿＿．＿％

アスファルトプラントの形式　１

ホイールトラッキング試験結果　＿＿＿＿回/mm

スパイクラベリング試験結果　＿＿＿＿mm²

様式Ａ－４－５　アスファルト混合物の性状（配合試験２）調査区間番号　６０２

層番号　＿７、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の剥離試験結果（剥離率）　＿２４

剥離防止材の種類　商品名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

剥離防止材の添加量　＿＿．＿％

アスファルトプラントの形式　１

ホイールトラッキング試験結果　＿９６９回/mm

スパイクラベリング試験結果　＿＿＿＿mm²

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　６０２

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３３５ g/cm³

アスファルト量　４．０ %

空隙率　＿７．３ %

骨材間隙率　１６．３ %

マーシャル安定度　＿９００ kg

フロー値　＿３４ (1/100cm)

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　６０２

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３８０ g/cm³

アスファルト量　４．８ %

空隙率　＿４．５ %

骨材間隙率　１５．５ %

マーシャル安定度　１１８０ kg

フロー値　＿３３ (1/100cm)

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　６０２

層番号　＿７、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３８３ g/cm³

アスファルト量　５．５ %

空隙率　＿３．４ %

骨材間隙率　１６．０ %

マーシャル安定度　１２７０ kg

フロー値　＿３５ (1/100cm)

様式Ａ－４－７　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　６０２

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３１７ g/cm³

最大比重　２．５２８ g/cm³

空隙率　＿８．４ %

アスファルト量　４．０ %

骨材間隙率　１７．３ %

様式Ａ－４－７　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　６０２

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．２８２ g/cm³

最大比重　２．５０１ g/cm³

空隙率　＿８．８ %

アスファルト量　４．８ %

骨材間隙率　１９．３ %

様式Ａ－４－７　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　６０２

層番号　＿７、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３３３ g/cm³

最大比重　２．４６２ g/cm³

空隙率　＿５．３ %

アスファルト量　５．５ %

骨材間隙率　１７．６ %

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　６０２

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１～３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	３２５００	２.２９８
＿＿＿	＿＿５.０	４５６５０	２.３２０
＿＿＿	＿＿５.０	４６４５０	２.３３２
＿＿＿	＿２５.０	１４９５０	２.２９８
＿＿＿	＿２５.０	１２８００	２.３２０
＿＿＿	＿２５.０	１４２５０	２.３３２
＿＿＿	＿４０.０	＿４７０５	２.２９８
＿＿＿	＿４０.０	＿３５４５	２.３２０
＿＿＿	＿４０.０	＿４３０５	２.３３２
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　６０２

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	３９６５０	２.２７８
＿＿＿	＿＿５.０	３３９００	２.２６０
＿＿＿	＿＿５.０	２９５００	２.３０８
＿＿＿	＿２５.０	１６１００	２.２７８
＿＿＿	＿２５.０	１１６５０	２.２６０
＿＿＿	＿２５.０	１３７５０	２.３０８
＿＿＿	＿４０.０	＿３２５５	２.２７８
＿＿＿	＿４０.０	＿２８６０	２.２６０
＿＿＿	＿４０.０	＿４０５０	２.３０８
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　６０２

層番号　＿７、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	５８４００	２.３３４
＿＿＿	＿＿５.０	３２５５０	２.３２３
＿＿＿	＿＿５.０	４１５００	２.３４２
＿＿＿	＿２５.０	１３７００	２.３３４
＿＿＿	＿２５.０	１３７００	２.３２３
＿＿＿	＿２５.０	１３９００	２.３４２
＿＿＿	＿４０.０	＿２９９０	２.３３４
＿＿＿	＿４０.０	＿３６５０	２.３２３
＿＿＿	＿４０.０	＿３９５５	２.３４２
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　６０２

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿１５.８
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２８.３
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２１.２
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿６.３
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿５.３
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿６.４
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿１.８
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿１.７
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿１.９
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　６０２

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２２.２
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿１８.９
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２０.２
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿６.４
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿４.９
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿３.８
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿１.９
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿１.５
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿１.８
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

様式A－4－9　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　6 0 2

層番号　＿7、＿＿、＿＿　（様式A－1－3参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿5.0	＿＿26.5
＿＿＿	＿＿5.0	＿＿24.8
＿＿＿	＿＿5.0	＿＿26.6
＿＿＿	＿25.0	＿＿＿6.1
＿＿＿	＿25.0	＿＿＿5.9
＿＿＿	＿25.0	＿＿＿5.9
＿＿＿	＿40.0	＿＿＿2.1
＿＿＿	＿40.0	＿＿＿1.7
＿＿＿	＿40.0	＿＿＿2.3
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿50.0 mm/min

試験方法　1

S H R P

新 基 準 調 査

初 期 調 査 デ ー タ

１６１号 高島バイパス

様式Ａ－１－１　一般データ　　調査区間番号　６０３

地建番号　６

報告年月　平成　２　年　４　月

担当部局　近畿地方建設局　滋賀国道工事事務所　設計第三係　内線　４６６

調査区間の地名　滋賀県高島郡新旭町饗庭地先

路線番号　１６１

調査種別　＿

調査方向　□上り　☒下り

距離標　＿＿＿ｋ＿＿＿～＿＿＿ｋ＿＿＿

（ＫＰ未定の場合No.＿＿＿＿＋＿＿～＿＿＿＿＋＿＿）

様式Ａ－１－２　舗装構造データ　　調査区間番号　６０３

舗装の種別　１

調査方向の車線数　１

車線幅　３５０　cm

調査対象車線　第　１　車線

路肩の幅　２００　cm

路肩の路面の種類　３

路肩の路盤の種類　２５

路肩の表層・基層の厚さ　＿５　cm

路肩の路盤の厚さ　＿１５　cm

地下排水工の種類　１，＿

縦断方向の配水管の内径　＿＿＿＿　mm

排水工の位置　＿

配水管の間隔　＿＿＿＿　cm

様式Ａ－１－３　舗装構成データ　　調査区間番号　６０３

層の数　５

番号	層の名称	層の厚さ（mm）				材料
		最　大	最　小	平　均	標準偏差	
1	7	1000	1000	1000	＿＿.＿＿	57
2	6	215	200	204	5.48	25
3	4	118	103	106	6.66	31
4	4	55	49	51	2.25	2
5	3	70	49	60	7.56	1
6	＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿.＿＿	＿＿
7	＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿.＿＿	＿＿
8	＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿.＿＿	＿＿
9	＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿.＿＿	＿＿
10	＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿.＿＿	＿＿
11	＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿.＿＿	＿＿
12	＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿.＿＿	＿＿

舗装の等値換算厚 T_A　　25.0 cm

舗装厚H　　40.0 cm

高支持力層までの深さ　　＿＿＿ m

盛土厚さ　　＿＿＿＿ cm

様式Ａ－１－４　施工関係データ　　調査区間番号　６０３

施工年月　平成　２　年　３　月

交通開放（予定）年月　平成　２　年　４　月

施工費用　　２４　百万円／km・車線（舗装のみ）

打換え年月　平成　　年　　月

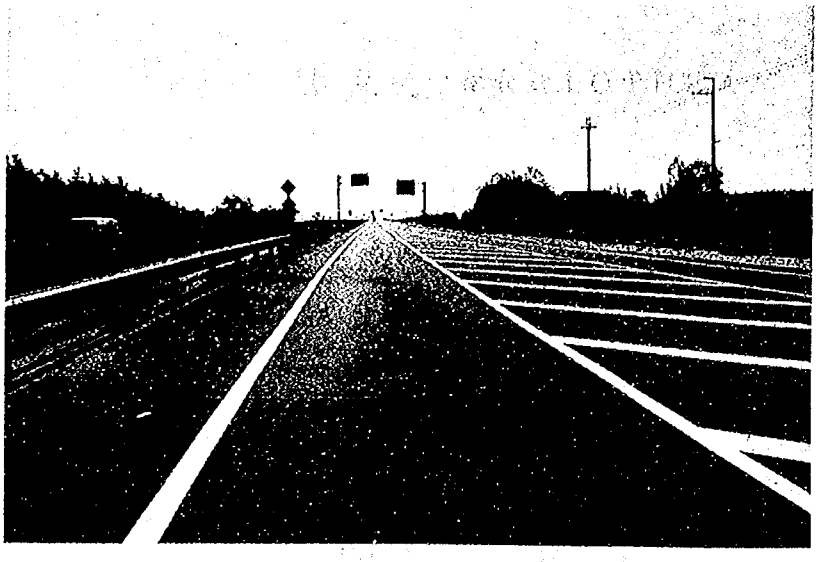
拡幅年月　　平成　　年　　月

当初の車線数　　車線

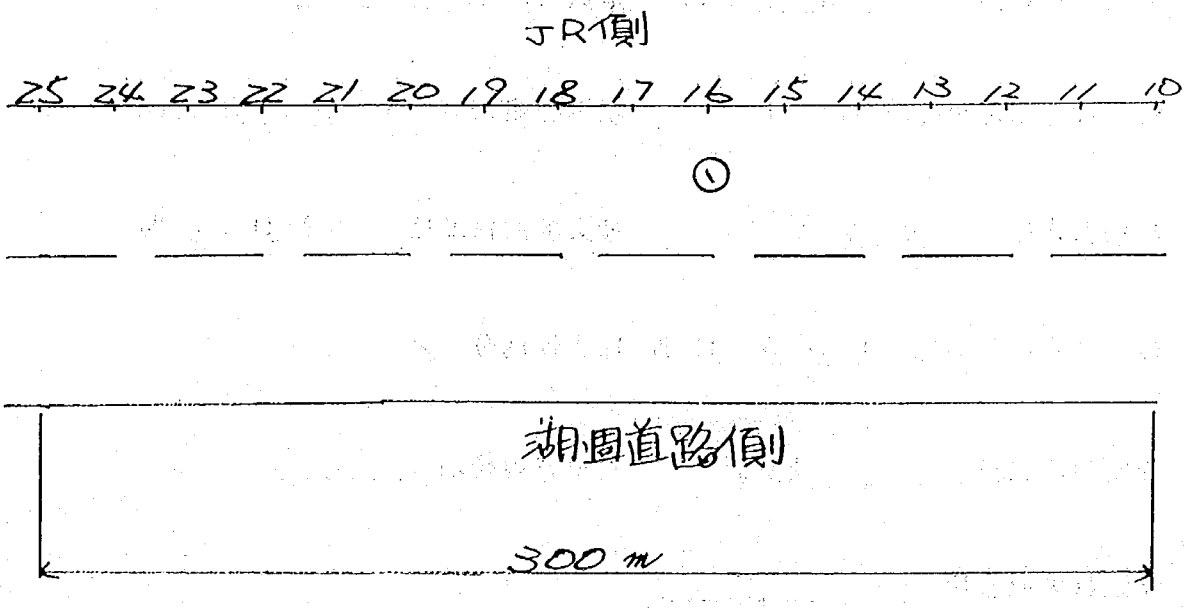
最終的な車線数　　車線

追加車線数　　車線

様式A－1－5　調査区間概要図　　調査区間番号　6 0 3



調査区間概要図



路床路盤材料の採取位置を示すこと。

様式A－2－1　路床土に関する基礎データ　　調査区間番号　6 0 3

層番号　＿1、＿＿、＿＿　（様式A－1－3参照）

土質分類　G－W　　AASHTO土質分類　A 2 4

CBR　平均値　＿3 6.7　区間のCBR　＿3 6.2

S値　＿7.6 9　K値　＿2 9.2 kg/cm³

75μmふるい通過量　＿9.6 %

塑性限界　1 5.7 %　液性限界　1 7.8 %

塑性指数　＿2.1 %

最大乾燥密度　2.1 6 8 g/cm³　最適含水比　＿8.4 %

最大乾燥密度の算出方法　1　現場乾燥密度　1.9 5 3 g/cm³

現場含水比　＿8.7 %　最大乾燥密度比　＿9 0.1 %

最適含水比との比　1 0 3.6 %　凍上性区分　2

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

様式Ａ－２－２　弾性係数の測定（路床土）　　調査区間番号　６０３

層番号　＿１、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試料採取位置 KP＿＿＿ k＿＿＿（KPが未定の場合　No.　＿＿＿＿＋＿＿）

供試体数　＿２　　ＡＡＳＨＴＯ土質分類　＿＿＿

含水比　＿１５．０％　　乾燥密度　１．９９１ g/cm³

試験の結果

側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
＿０．４２	＿０．５６	１０３９
＿０．２１	＿０．３５	＿７１７
＿０．０１	＿０．１５	＿５０５
＿０．４１	＿０．６９	１２４４
＿０．２１	＿０．４９	＿８７８
＿０．０１	＿０．２９	＿７６４
＿０．４２	＿０．９７	１７９２
＿０．２２	＿０．７７	１３１４
＿０．０４	＿０．５９	＿９８８
＿０．４１	＿１．１１	１９９９
＿０．２２	＿０．９１	１４０６
＿０．０４	＿０．７３	＿７１４
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿

回帰式　　log E = log A + B x log(stress)

A = １０８４．１ 10^3kg/cm²　B = ０．４８１

様式Ａ－３－１　路盤材料の特性値　　調査区間番号　６０３

層番号　＿２、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

最大乾燥密度　２．３３５ g/cm³　最適含水比　＿５．７ %

最大乾燥密度の算出方法　１

現場乾燥密度　２．２５７ g/cm³　現場含水比　＿５．５ %

最大乾燥密度比　＿９６．７ %　最適含水比との比　＿９６．５ %

平板載荷試験　＿２８．２ kg/cm³

425μmふるい通過量　１６．８ %　75μmふるい通過量　＿６．９ %

路盤材料の修正ＣＢＲ　１０９．０

路盤材料の一軸圧縮強度　＿＿．＿ kg/cm²

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

様式Ａ－３－２　弾性係数の測定（路盤）　　調査区間番号　６０３

層番号　＿２、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

供試体数　＿２　含水比　＿＿２.２％　乾燥密度　２.１６８ g/cm³

試験の結果	２側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
	＿１.３８	＿１.５２	２３３３
	＿１.３８	＿１.７３	２５１０
	＿１.３８	＿２.０７	２４６９
	＿１.３８	＿２.４２	２３６６
	＿１.３８	＿２.７６	２９６８
	＿１.０４	＿１.１９	１９３４
	＿１.０５	＿１.４０	２００２
	＿１.０４	＿１.７３	２０９１
	＿１.０４	＿２.０８	２２８８
	＿１.０４	＿２.４３	２４９６
	＿０.６９	＿０.８３	１６５３
	＿０.６９	＿１.０４	１７０７
	＿０.６９	＿１.３８	１７６９
	＿０.６９	＿１.７３	２０３０
	＿０.３５	＿０.５０	１３１９
	＿０.３５	＿０.７１	１１３８
	＿０.３５	＿１.０４	１２０６
	＿０.３５	＿１.３９	１４６０
	＿０.０７	＿０.２１	＿９６５
	＿０.０７	＿０.４３	＿９８６
	＿０.０７	＿０.５９	＿８８７
	＿０.０７	＿０.７６	＿８９２
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿

回帰式　　$\log E = \log A + B \times \log(\text{stress})$

A = １１５１.８ 10^3kg/cm²　B = ０.４５９

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　６０３

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類　１　１００　　細骨材の種類　１　＿７２
＿　＿＿＿　　２　＿２８
＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿
＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

粗骨材の岩質　＿８，１２　　フィラーの種類　１

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿．＿	2.36mm	＿３４．１
37.5mm	＿＿＿．＿	600μm	＿２１．３
26.5mm	１００．０	300μm	＿１０．７
19mm	＿９５．８	150μm	＿＿６．５
13.2mm	＿６９．５	75μm	＿＿３．１
4.75mm	＿４７．０		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	＿．＿＿＿ g/cm³	細骨材１（粗砂）	２．５３９ g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	２．８２７ g/cm³	細骨材２（中砂）	２．５４８ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	２．６２３ g/cm³	細骨材３（細砂）	＿．＿＿＿ g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	２．６３１ g/cm³	フィラー	２．７１０ g/cm³
スクリーニングス	２．７９５ g/cm³	クラッシャラン	＿．＿＿＿ g/cm³

合成密度　２．６８６ g/cm³　有効密度　２．７４０ g/cm³

様式A－4－1　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　6 0 3

層番号　＿4、＿＿、＿＿　（様式A－1－3参照）

粗骨材の種類　1　1 0 0　　細骨材の種類　1　＿6 2
＿　＿＿＿　　2　＿3 8
＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿
＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

粗骨材の岩質　＿8，1 2　　フィラーの種類　1

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿.＿	2.36mm	＿2 8.1
37.5mm	＿＿＿.＿	600μm	＿1 7.2
26.5mm	1 0 0.0	300μm	＿＿9.2
19mm	＿9 7.1	150μm	＿＿6.0
13.2mm	＿7 8.0	75μm	＿＿3.4
4.75mm	＿4 5.8		

骨材のかさ密度

粗骨材1（4号砕石）	＿.＿＿ g/cm³	細骨材1（粗砂）	2.5 3 9 g/cm³
粗骨材2（5号砕石）	2.8 2 7 g/cm³	細骨材2（中砂）	2.5 4 8 g/cm³
粗骨材3（6号砕石）	2.6 2 3 g/cm³	細骨材3（細砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材4（7号砕石）	2.6 3 1 g/cm³	フィラー	2.7 1 0 g/cm³
スクリーニングス	2.7 9 5 g/cm³	クラッシャラン	＿.＿＿＿ g/cm³

合成密度　2.6 7 2 g/cm³　有効密度　2.7 2 8 g/cm³

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　６０３

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類　１　１００
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

細骨材の種類　１　＿５７
２　＿４３
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

粗骨材の岩質　＿８，１２

フィラーの種類　１

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿．＿	2.36mm	＿４０．４
37.5mm	＿＿＿．＿	600μm	＿２５．１
26.5mm	１００．０	300μm	＿１３．０
19mm	＿９７．４	150μm	＿＿８．４
13.2mm	＿８１．７	75μm	＿＿４．９
4.75mm	＿５５．３		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	＿．＿＿＿ g/cm³	細骨材１（粗砂）	２．５３９ g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	２．８２７ g/cm³	細骨材２（中砂）	２．５４８ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	２．６２３ g/cm³	細骨材３（細砂）	＿．＿＿＿ g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	２．６３１ g/cm³	フィラー	２．７１０ g/cm³
スクリーニングス	２．７９５ g/cm³	クラッシャラン	＿．＿＿＿ g/cm³

合成密度　２．６７４ g/cm³　有効密度　２．７３２ g/cm³

様式Ａ－４－２　アスファルトの性状（原アスファルト）　調査区間番号　６０３

層番号　＿３、＿４、＿５、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

針入度区分　＿６０～＿８０

アスファルトの製造元　モービル石油(株)

密度　１.０３４ g/cm³

60℃粘度　＿＿１７６０ poise

135℃粘度　＿４０８ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０.０ cm

4℃伸度の伸長速度　＿５ cm/min

25℃針入度　＿６５

4℃針入度　＿３０

軟化点　＿４９ ℃

添加剤　商品名

添加剤の添加量　＿＿＿ %

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　６０３

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿４１２０ poise　　135℃粘度　＿４９２ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０．０ cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５ cm/min

25℃針入度　＿４５　　4℃針入度　＿２０

軟化点　＿５３ ℃

質量変化率　０．１７

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿３０　　4℃針入度　＿１３

60℃粘度　＿１１０３０ poise　　135℃粘度　＿７１８ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　６０３

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿４１２０ poise　　135℃粘度　＿４９２ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０.０ cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５　cm/min

25℃針入度　＿４５　　4℃針入度　＿２０

軟化点　＿５３ ℃

質量変化率　０.１７

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿３３　　4℃針入度　＿１３

60℃粘度　＿＿６８８１ poise　　135℃粘度　＿５６８ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　６０３

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿４１２０ poise　　135℃粘度　＿４９２ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０.０ cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５ cm/min

25℃針入度　＿４５　　4℃針入度　＿２０

軟化点　＿５３ ℃

質量変化率　０.１７

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿３７　　4℃針入度　＿１２

60℃粘度　＿＿５８２４ poise　　135℃粘度　＿５１９ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　６０３

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．４１７ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．５７０ g/cm³

アスファルト量　４．０ ％

空隙率　＿６．０ ％

骨材間隙率　１５．４ ％

有効アスファルト量　＿４．０ ％

突き固め回数　＿＿ 回

マーシャル安定度　＿８５２ kg

フロー値　＿２６ (1/100cm)

ビーム安定度　＿４６．６

ビーム粘着度　＿１５７．９

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　６０３

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．４２５ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．５４１ g/cm³

アスファルト量　４．５ %

空隙率　＿４．６ %

骨材間隙率　１５．２ %

有効アスファルト量　＿４．５ %

突き固め回数　＿＿ 回

マーシャル安定度　１００８ kg

フロー値　＿２５ (1/100cm)

ビーム安定度　＿５３．５

ビーム粘着度　＿２１３．８

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　６０３

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．４１４ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．５２１ g/cm³

アスファルト量　５．１ %

空隙率　＿４．２ %

骨材間隙率　１６．１ %

有効アスファルト量　＿５．１ %

突き固め回数　＿＿ 回

マーシャル安定度　＿９９１ kg

フロー値　＿２６ (1/100cm)

ビーム安定度　＿５５．０

ビーム粘着度　＿２３２．４

様式Ａ－４－５　アスファルト混合物の性状（配合試験２）調査区間番号　６０３

層番号　＿３、＿４、＿５　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の剥離試験結果（剥離率）　＿２５

剥離防止材の種類　商品名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

剥離防止材の添加量　＿＿．＿％

アスファルトプラントの形式　１

ホイールトラッキング試験結果　＿＿＿＿回/mm

スパイクラベリング試験結果　＿＿＿＿mm²

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　６０３

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．４１８ g/cm³

アスファルト量　４．０ %

空隙率　＿５．９ %

骨材間隙率　１５．３ %

マーシャル安定度　＿８３２ kg

フロー値　＿２９ (1/100cm)

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　６０３

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．４３１ g/cm³

アスファルト量　４．５ %

空隙率　＿４．３ %

骨材間隙率　１４．９ %

マーシャル安定度　＿９８７ kg

フロー値　＿２８ (1/100cm)

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　６０３

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．４２１ g/cm³

アスファルト量　５．１ %

空隙率　＿４．０ %

骨材間隙率　１６．０ %

マーシャル安定度　＿９６８ kg

フロー値　＿２８ (1/100cm)

様式A－4－7　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　6 0 3

層番号　＿3、＿＿、＿＿　（様式A－1－3参照）

かさ密度　2．4 1 2 g/cm³

最大比重　2．6 3 4 g/cm³

空隙率　＿8．4 %

アスファルト量　4．3 %

骨材間隙率　1 8．6 %

様式Ａ－４－７　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　６０３

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３９２ g/cm³

最大比重　２．６５３ g/cm³

空隙率　＿９．８ ％

アスファルト量　４．８ ％

骨材間隙率　２０．９ ％

様式Ａ－４－７　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　６０３

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．４６３ g/cm³

最大比重　２．５７６ g/cm³

空隙率　＿４．４ %

アスファルト量　５．３ %

骨材間隙率　１７．０ %

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　６０３

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	４０１００	２.４１２
＿＿＿	＿＿５.０	５４８００	２.４０１
＿＿＿	＿＿５.０	５１３５０	２.４２４
＿＿＿	＿２５.０	１５７５０	２.４１２
＿＿＿	＿２５.０	１５１００	２.４０１
＿＿＿	＿２５.０	１４３５０	２.４２４
＿＿＿	＿４０.０	＿５９７０	２.４１２
＿＿＿	＿４０.０	＿４９８０	２.４０１
＿＿＿	＿４０.０	＿４５４５	２.４２４
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　６０３

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	４５４５０	２.４１１
＿＿＿	＿＿５.０	６０７００	２.３８３
＿＿＿	＿＿５.０	３４８００	２.３８２
＿＿＿	＿２５.０	１６７５０	２.４１１
＿＿＿	＿２５.０	１６０００	２.３８３
＿＿＿	＿２５.０	１３１００	２.３８２
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿＿＿	２.４１１
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿＿＿	２.３８３
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿＿＿	２.３８２
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　６０３

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	３４４００	２.４２５
＿＿＿	＿＿５.０	６８１００	２.４９４
＿＿＿	＿＿５.０	３９０５０	２.４７０
＿＿＿	＿２５.０	１１４００	２.４２５
＿＿＿	＿２５.０	１５６５０	２.４９４
＿＿＿	＿２５.０	１５０００	２.４７０
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿＿＿	２.４２５
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿＿＿	２.４９４
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿＿＿	２.４７０
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　６０３

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿１７.８
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２１.８
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿１６.４
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿８.１
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿７.５
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿６.３
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.８
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.６
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿３.３
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

様式A－4－9　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　6 0 3

層番号　＿4、＿＿、＿＿　（様式A－1－3参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿5.0	＿＿26.1
＿＿＿	＿＿5.0	＿＿25.8
＿＿＿	＿＿5.0	＿＿19.0
＿＿＿	＿25.0	＿＿＿5.7
＿＿＿	＿25.0	＿＿＿6.7
＿＿＿	＿25.0	＿＿＿6.8
＿＿＿	＿40.0	＿＿＿1.5
＿＿＿	＿40.0	＿＿＿1.2
＿＿＿	＿40.0	＿＿＿1.5
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿50.0 mm/min

試験方法　1

様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　６０３

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２６.０
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿３３.５
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿３２.２
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿８.２
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿７.８
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿８.３
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.２
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿１.６
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿１.９
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

中　国　地　方

S H R P

新 基 準 調 査

初 期 調 査 デ ー タ

５４号　上根バイパス

様式Ａ－１－１　一般データ　　調査区間番号　７　０　１

地建番号　７

報告年月　平成　２　年　３　月

担当部局　中国地方建設局　中部技術事務所　工務課　計画係　内線　３　１　４

調査区間の地名　広島県広島市安佐北区可部町大林

路線番号　５　４

調査種別　１

調査方向　☒上り　□下り

距離標　２　６　ｋ　０　２　４　～　２　５　ｋ　７　６　４

（ＫＰ未定の場合No.＿＿＿＿＋＿＿　～　＿＿＿＿＋＿＿）

様式Ａ－１－２　舗装構造データ　　調査区間番号　７　０　１

舗装の種別　１

調査方向の車線数　１

車線幅　３　５　０　cm

調査対象車線　第　１　車線

路肩の幅　３　６　０　cm

路肩の路面の種類　３

路肩の路盤の種類　２　３

路肩の表層・基層の厚さ　＿　５　cm

路肩の路盤の厚さ　＿　１　５　cm

地下排水工の種類　＿，＿

縦断方向の配水管の内径　＿　＿　＿　＿　mm

排水工の位置　＿

配水管の間隔　＿　＿　＿　＿　cm

様式A－1－3　舗装構成データ　　調査区間番号　7 0 1

層の数　6

番号	層の名称	層の厚さ（mm）				材料
		最　大	最　小	平　均	標準偏差	
1	7					GW
2	6	155	150	151		23
3	5	120	115	116		25
4	4	51	49	50		31
5	4	104	101	103		2
6	3	53	48	51		1
7						
8						
9						
10						
11						
12						

舗装の等値換算厚 T_A　　26.3 cm

舗装厚H　　45.0 cm

高支持力層までの深さ　　　m

盛土厚さ　　3300 cm

様式Ａ－１－４　施工関係データ　　調査区間番号　７　０　１

施工年月　平成　２　年　２　月

交通開放（予定）年月　平成　２　年　３　月

施工費用　１　７　０　０　百万円／km・車線

打換え年月　平成　　年　　月

拡幅年月　　平成　　年　　月

当初の車線数　　車線

最終的な車線数　　車線

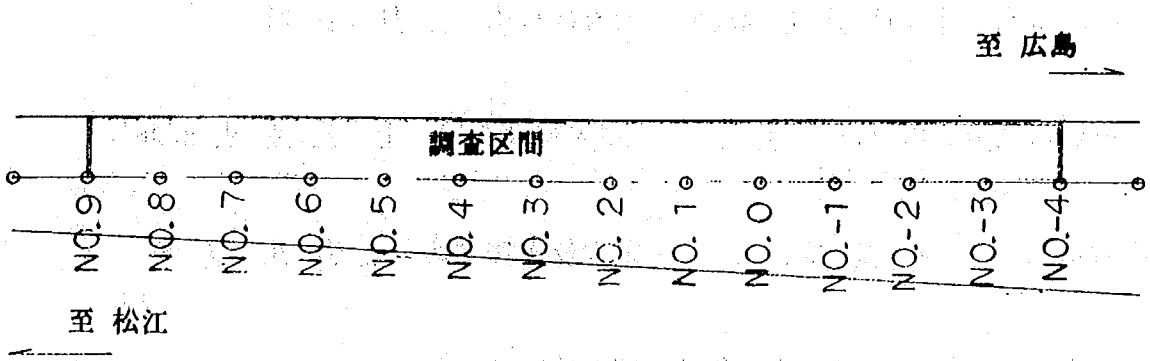
追加車線数　　車線

様式Ａ－１－５　調査区間概要図　　調査区間番号　７　０　１

至広島

至松江

調査区間概要図



路床材採取位置	NO.2
砕石（C－４０）採取位置	NO.7
砕石（M－４０）採取位置	NO.0

路床路盤材料の採取位置を示すこと。

様式Ａ－２－１　路床土に関する基礎データ　　調査区間番号　７０１

層番号　＿１、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

土質分類　＿ＧＷ　　ＡＡＳＨＴＯ土質分類　Ａ１ａ

ＣＢＲ　平均値　＿７１．０　区間のＣＢＲ　＿６２．７

Ｓ値　＿８．１７　Ｋ値　＿３１．７ kg/cm³

75μmふるい通過量　＿３．９％

塑性限界　ＮＰ．＿％　液性限界　ＮＰ．＿％

塑性指数　＿＿．＿％

最大乾燥密度　２．０５３ g/cm³　最適含水比　＿９．３％

最大乾燥密度の算出方法　１　現場乾燥密度　１．９４４ g/cm³

現場含水比　＿９．３％　最大乾燥密度比　＿９４．７％

最適含水比との比　１００．０％　凍上性区分　３

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿

＿　＿＿＿

＿　＿＿＿

様式Ａ－２－２　弾性係数の測定（路床土）　　調査区間番号　７０１

層番号　＿１、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試料採取位置 KP＿＿＿k＿＿＿（KPが未定の場合　No.　＿＿＿＿＋＿＿）

供試体数　＿２　　ＡＡＳＨＴＯ土質分類　＿＿＿

含水比　＿＿１５％　　乾燥密度　２．０９４ g/cm³

試験の結果

側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
０．４２	０．５１	２２５０
０．２３	０．３１	１８８９
０．１３	０．２１	２０６４
０．４２	０．５８	２１６９
０．２２	０．３８	１６８４
０．１３	０．２９	１８００
０．４２	０．７３	１７４３
０．２３	０．５３	１５８４
０．１３	０．４３	１５８５
０．４２	０．９９	１６８８
０．２２	０．８１	１５４０
０．１２	０．７１	１５８１
０．４２	１．１２	１６９７
０．２３	０．９４	１６２３
０．１２	０．７１	１６８４
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿

回帰式　$\log E = \log A + B \times \log(\text{stress})$

$A =$ １７５４．０ $10^3 kg/cm^2$　$B =$ －０．０１２

様式Ａ－３－１　路盤材料の特性値　　調査区間番号　７　０　１

層番号　＿　２　、＿　＿　、＿　＿　（様式Ａ－１－３参照）

最大乾燥密度　２．１　７　５　g/cm³　最適含水比　＿　５　．４　％

最大乾燥密度の算出方法　１

現場乾燥密度　２．１　３　４　g/cm³　現場含水比　＿　３　．２　％

最大乾燥密度比　＿　９　８　．１　％　最適含水比との比　＿　５　９　．３　％

平板載荷試験　＿　３　３　．４　kg/cm³

425μmふるい通過量　＿　５　．０　％　75μmふるい通過量　＿　２　．９　％

路盤材料の修正ＣＢＲ　＿　５　０　．０

路盤材料の一軸圧縮強度　＿　＿　．＿　kg/cm²

安定材添加量　＿　＿　＿　kg/m³　　安定材の種類　＿　＿　＿

安定材の混合比　＿　＿　＿　＿

＿　＿　＿　＿

＿　＿　＿　＿

様式Ａ－３－１　路盤材料の特性値　　調査区間番号　７０１

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

最大乾燥密度　２．２３２ g/cm³　最適含水比　＿７．０ %

最大乾燥密度の算出方法　＿

現場乾燥密度　２．２２２ g/cm³　現場含水比　＿５．４ %

最大乾燥密度比　＿９９．６ %　最適含水比との比　＿７７．１ %

平板載荷試験　＿４５．７ kg/cm³

425μmふるい通過量　１１．９ %　75μmふるい通過量　＿６．１ %

路盤材料の修正ＣＢＲ　＿８３．０

路盤材料の一軸圧縮強度　＿＿．＿ kg/cm²

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

様式A－3－2　弾性係数の測定（路盤）　　調査区間番号　7 0 1

層番号　＿2、＿＿、＿＿　（様式A－1－3参照）

供試体数　＿2　含水比　＿＿2.4 %　乾燥密度　2.1 1 2 g/cm³

試験の結果

側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
＿1.3 8	＿1.5 6	4 0 2 5
＿1.3 6	＿2.0 5	4 0 5 9
＿1.3 5	＿2.7 3	4 2 3 3
＿1.0 5	＿1.2 1	3 3 8 7
＿1.0 5	＿1.7 4	3 4 9 9
＿1.0 4	＿2.4 0	3 6 9 0
＿0.7 0	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
＿0.7 0	＿1.0 5	2 9 9 0
＿0.7 0	＿1.7 3	3 0 7 5
＿0.3 6	＿0.4 4	1 7 8 9
＿0.3 6	＿0.7 1	1 9 4 6
＿0.3 6	＿1.3 9	2 3 8 5
＿0.1 1	＿0.2 0	1 3 1 0
＿0.1 2	＿0.4 7	1 4 4 0
＿0.1 2	＿0.8 1	1 5 8 6
＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿

回帰式　$\log E = \log A + B \times \log(\text{stress})$

$A =$ 1 7 4 8.9 10^3kg/cm²　$B =$ 0.5 1 8

様式Ａ－３－２　弾性係数の測定（路盤）　　調査区間番号　７０１

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

供試体数　＿２　含水比　＿＿４.０％　乾燥密度　２.２２３ g/cm³

試験の結果	側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
	＿１.３９	＿１.５４	３８７５
	＿１.３９	＿２.０８	３３７６
	＿１.３８	＿２.７６	３４５２
	＿１.０６	＿１.２３	３７７５
	＿１.０６	＿１.７５	３１２２
	＿１.０６	＿２.４３	３１６３
	＿０.７０	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿０.７０	＿１.０６	２８９９
	＿０.７０	＿１.７４	２６０７
	＿０.３９	＿０.４７	１７７８
	＿０.３９	＿０.７５	１９５０
	＿０.３９	＿１.４３	１９１８
	＿０.１０	＿０.１９	１５８５
	＿０.１０	＿０.４７	１４０５
	＿０.１１	＿０.８０	１４５８
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿

回帰式　$\log E = \log A + B \times \log(\text{stress})$

A = １７７３.０ 10^3kg/cm²　B = ０.４０７

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　７０１

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類		細骨材の種類	
1	100	1	33
＿	＿＿＿	2	67
＿	＿＿＿	＿	＿＿＿
＿	＿＿＿	＿	＿＿＿

粗骨材の岩質　19　　フィラーの種類　1

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿.＿	2.36mm	＿39.6
37.5mm	100.0	600μm	＿19.5
26.5mm	＿＿＿.＿	300μm	＿11.4
19mm	＿98.8	150μm	＿＿6.3
13.2mm	＿75.5	75μm	＿＿4.4
4.75mm	＿53.0		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	＿.＿＿＿ g/cm³	細骨材１（粗砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	2.721 g/cm³	細骨材２（中砂）	2.470 g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	2.676 g/cm³	細骨材３（細砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	2.596 g/cm³	フィラー	2.720 g/cm³
スクリーニングス	2.526 g/cm³	クラッシャラン	＿.＿＿＿ g/cm³

合成密度　2.615 g/cm³　有効密度　2.708 g/cm³

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　７０１

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類　１　１００
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

細骨材の種類　１　＿６７
２　＿３３
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

粗骨材の岩質　１９　　フィラーの種類　１

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿．＿	2.36mm	＿２９．３
37.5mm	＿＿＿．＿	600μm	＿１７．３
26.5mm	１００．０	300μm	＿１０．４
19mm	＿９９．１	150μm	＿＿６．３
13.2mm	＿８１．３	75μm	＿＿５．０
4.75mm	＿４６．９		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	＿．＿＿ g/cm³	細骨材１（粗砂）	＿．＿＿＿ g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	２．７２１ g/cm³	細骨材２（中砂）	２．４７０ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	２．６７６ g/cm³	細骨材３（細砂）	＿．＿＿＿ g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	２．５９６ g/cm³	フィラー	２．７２０ g/cm³
スクリーニングス	２．５２６ g/cm³	クラッシャラン	＿．＿＿＿ g/cm³

合成密度　２．６２９ g/cm³　有効密度　２．７１０ g/cm³

様式A－4－1　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　7 0 1

層番号　＿ 6 、＿ ＿ 、＿ ＿　（様式A－1－3参照）

粗骨材の種類　1　1 0 0　　細骨材の種類　1　＿ 6 7
＿　＿ ＿ ＿　　2　＿ 3 3
＿　＿ ＿ ＿　　＿　＿ ＿ ＿
＿　＿ ＿ ＿　　＿　＿ ＿ ＿

粗骨材の岩質　1 9　　フィラーの種類　1

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿ ＿ ＿ . ＿	2.36mm	＿ 4 2 . 7
37.5mm	＿ ＿ ＿ . ＿	600μm	＿ 2 5 . 6
26.5mm	1 0 0 . 0	300μm	＿ 1 4 . 7
19mm	＿ 9 9 . 2	150μm	＿ ＿ 8 . 0
13.2mm	＿ 8 2 . 3	75μm	＿ ＿ 5 . 9
4.75mm	＿ 5 6 . 9		

骨材のかさ密度

粗骨材1（4号砕石）	＿ . ＿ ＿ ＿ g/cm³	細骨材1（粗砂）	＿ . ＿ ＿ ＿ g/cm³
粗骨材2（5号砕石）	2 . 7 2 1 g/cm³	細骨材2（中砂）	2 . 4 7 0 g/cm³
粗骨材3（6号砕石）	2 . 6 7 6 g/cm³	細骨材3（細砂）	＿ . ＿ ＿ ＿ g/cm³
粗骨材4（7号砕石）	2 . 5 9 6 g/cm³	フィラー	2 . 7 2 0 g/cm³
スクリーニングス	2 . 5 2 6 g/cm³	クラッシャラン	＿ . ＿ ＿ ＿ g/cm³

合成密度　2 . 6 0 5 g/cm³　有効密度　2 . 6 9 9 g/cm³

様式Ａ－４－２　アスファルトの性状（原アスファルト）　調査区間番号　７　０　１

層番号　＿４、＿５、＿６、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

針入度区分　＿６０～＿８０

アスファルトの製造元　コスモス石油坂出製油所

密度　１．０３０ g/cm³

60℃粘度　＿＿２０００ poise

135℃粘度　＿４６０ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０．５　cm

4℃伸度の伸長速度　＿５　cm/min

25℃針入度　＿６９

4℃針入度　＿２３

軟化点　＿４９ ℃

添加剤　商品名

添加剤の添加量　＿＿＿ %

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　７　０　１

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿３９３０ poise　　135℃粘度　＿５１５ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０．５　cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５　cm/min

25℃針入度　＿４５　　4℃針入度　＿２７

軟化点　＿５４ ℃

質量変化率　０．１２

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿５２　　4℃針入度　＿２８

60℃粘度　＿＿３３７０ poise　　135℃粘度　＿５６５ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　７　０　１

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿３９３０ poise　　135℃粘度　＿５１５ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０．５ cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５　cm/min

25℃針入度　＿４５　　4℃針入度　＿２７

軟化点　＿５４ ℃

質量変化率　０．１２

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿４９　　4℃針入度　＿２９

60℃粘度　＿＿３９９０ poise　　135℃粘度　＿５６５ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　７　０　１

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿３９３０ poise　　135℃粘度　＿５１５ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０．５ cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５ cm/min

25℃針入度　＿４５　　4℃針入度　＿２７

軟化点　＿５４ ℃

質量変化率　０．１２

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿４７　　4℃針入度　＿２８

60℃粘度　＿＿４９７０ poise　　135℃粘度　＿６４４ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　７　０　１

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３４５ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．５４２ g/cm³

アスファルト量　４．０ ％

空隙率　＿７．７ ％

骨材間隙率　１６．８ ％

有効アスファルト量　＿４．０ ％

突き固め回数　５０ 回

マーシャル安定度　＿７８９ kg

フロー値　＿３０ (1/100cm)

ビーム安定度　＿３８．１

ビーム粘着度　＿２４７．３

様式A－4－4　アスファルト混合物の性状（配合試験1）調査区間番号　7 0 1

層番号　＿5、＿＿、＿＿　（様式A－1－3参照）

かさ密度　2.4 0 3 g/cm³

最大比重（理論密度）　2.5 0 2 g/cm³

アスファルト量　5.1 %

空隙率　＿4.0 %

骨材間隙率　1 5.9 %

有効アスファルト量　＿4.0 %

突き固め回数　7 5 回

マーシャル安定度　＿9 4 3 kg

フロー値　＿3 1 (1/100cm)

ビーム安定度　＿3 7.6

ビーム粘着度　＿3 2 1.8

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　７　０　１

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３８４ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．４７８ g/cm³

アスファルト量　５．５ %

空隙率　＿３．８ %

骨材間隙率　１６．５ %

有効アスファルト量　＿５．５ %

突き固め回数　７５ 回

マーシャル安定度　１００３ kg

フロー値　＿３０ (1/100cm)

ビーム安定度　＿４０．０

ビーム粘着度　＿４１６．０

様式Ａ－４－５　アスファルト混合物の性状（配合試験２）調査区間番号　７　０　１

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の剝離試験結果（剝離率）　＿３　８

剝離防止材の種類　商品名

剝離防止材の添加量　＿＿．＿％

アスファルトプラントの形式　１

ホイールトラッキング試験結果　＿＿＿＿回/mm

スパイクラベリング試験結果　＿＿＿＿mm²

様式Ａ－４－５　アスファルト混合物の性状（配合試験２）調査区間番号　７　０　１

層番号　＿　５　、＿　＿　、＿　＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の剝離試験結果（剝離率）　＿　４　３

剝離防止材の種類　商品名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

剝離防止材の添加量　＿　＿　.　＿　％

アスファルトプラントの形式　１

ホイールトラッキング試験結果　＿　＿　＿　＿　回/mm

スパイクラベリング試験結果　＿　＿　＿　＿　mm^2

様式Ａ－４－５　アスファルト混合物の性状（配合試験２）調査区間番号　７　０　１

層番号　＿　６　、＿　＿　、＿　＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の剝離試験結果（剝離率）　＿　４　１

剝離防止材の種類　商品名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

剝離防止材の添加量　＿　＿　．＿　％

アスファルトプラントの形式　１

ホイールトラッキング試験結果　＿　６　４　３　回/mm

スパイクラベリング試験結果　＿　＿　＿　＿　mm²

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　７０１

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３４３ g/cm³

アスファルト量　４．１ %

空隙率　＿７．８ %

骨材間隙率　１７．１ %

マーシャル安定度　＿８２１ kg

フロー値　＿３０ (1/100cm)

様式A－4－6　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　7 0 1

層番号　＿5、＿＿、＿＿　（様式A－1－3参照）

かさ密度　2.4 0 1 g/cm³

アスファルト量　5.2 %

空隙率　＿4.0 %

骨材間隙率　1 6.2 %

マーシャル安定度　＿9 6 1 kg

フロー値　＿3 1 (1/100cm)

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　７０１

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．４０２ g/cm³

アスファルト量　５．２ %

空隙率　＿４．０ %

骨材間隙率　１６．１ %

マーシャル安定度　＿９５２ kg

フロー値　＿３１ (1/100cm)

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　７　０　１

層番号　＿　６　、＿　＿　、＿　＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３　８　３　g/cm³

アスファルト量　５．６　％

空隙率　＿　３．８　％

骨材間隙率　１　６．７　％

マーシャル安定度　＿　９　８　９　kg

フロー値　＿　３　０　(1/100cm)

様式Ａ－４－７　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　７　０　１

層番号　＿　４　、＿　＿　、＿　＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３８６ g/cm³

最大比重　２．５３１ g/cm³

空隙率　＿　５．７ %

アスファルト量　４．０ %

骨材間隙率　１５．０ %

様式A－4－7　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　7 0 1

層番号　＿ 5 、＿ ＿ 、＿ ＿　（様式A－1－3参照）

かさ密度　2 . 3 6 3 g/cm³

最大比重　2 . 5 2 9 g/cm³

空隙率　＿ 6 . 6 %

アスファルト量　5 . 1 %

骨材間隙率　1 8 . 3 %

様式Ａ－４－７　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　７０１

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３７６ g/cm³

最大比重　２．４９４ g/cm³

空隙率　＿４．７ %

アスファルト量　５．５ %

骨材間隙率　１７．４ %

様式A－4－8　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　7 0 1

層番号　＿4、＿＿、＿＿　（様式A－1－3参照）

試験方法　1

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿5.0	40550	2.406
＿＿＿	＿＿5.0	49400	2.354
＿＿＿	＿＿5.0	65200	2.369
＿＿＿	＿25.0	18050	2.406
＿＿＿	＿25.0	15000	2.354
＿＿＿	＿25.0	16300	2.369
＿＿＿	＿40.0	＿6275	2.406
＿＿＿	＿40.0	＿5195	2.354
＿＿＿	＿40.0	＿5700	2.369
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　0.4　秒

載荷周波数　1.0　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　７０１

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	４９１５０	２.３７６
＿＿＿	＿＿５.０	６２９５０	２.３５０
＿＿＿	＿＿５.０	５１５００	２.３６２
＿＿＿	＿２５.０	１３８００	２.３７６
＿＿＿	＿２５.０	１４４５０	２.３５０
＿＿＿	＿２５.０	１２５００	２.３６２
＿＿＿	＿４０.０	＿５２８５	２.３７６
＿＿＿	＿４０.０	＿５０４５	２.３５０
＿＿＿	＿４０.０	＿６１９０	２.３６２
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　７０１

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	５７６５０	２.４０９
＿＿＿	＿＿５.０	５７９５０	２.３５０
＿＿＿	＿＿５.０	４６８５０	２.３９９
＿＿＿	＿２５.０	１６５５０	２.４０９
＿＿＿	＿２５.０	１４３００	２.３５０
＿＿＿	＿２５.０	１７８００	２.３９９
＿＿＿	＿４０.０	＿５０２５	２.４０９
＿＿＿	＿４０.０	＿５６７５	２.３５０
＿＿＿	＿４０.０	＿５６７５	２.３９９
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　７０１

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿３５.９
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿３２.７
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿３５.３
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿５.６
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿６.５
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿５.５
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.１
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿１.４
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿１.９
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　７０１

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２７.８
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２６.６
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿３０.０
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿６.７
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿６.６
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿５.５
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿１.９
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿１.８
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿１.６
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　７０１

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿３２.０
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿３３.１
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２９.３
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿６.５
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿６.７
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿７.１
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿１.８
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.１
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.８
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

S H R P

新 基 準 調 査

初 期 調 査 デ ー タ

9号 北条バイパス

様式Ａ－１－１　一般データ　　調査区間番号　７０２

地建番号　７

報告年月　平成　２　年　１１　月

担当部局　中国地方建設局倉吉工事事務所工務第二課道路工務係　内線　４１２

調査区間の地名　鳥取県東伯郡大栄町大谷

路線番号　９

調査種別　１

調査方向　□上り　☒下り

距離標　２５８ｋ９４０～２５９ｋ２４０

（ＫＰ未定の場合No.＿＿＿＿＋＿＿～＿＿＿＿＋＿＿）

様式Ａ－１－２　舗装構造データ　　調査区間番号　７　０　２

舗装の種別　１

調査方向の車線数　１

車線幅　３　５　０　cm

調査対象車線　第　１　車線

路肩の幅　１　５　０　cm

路肩の路面の種類　３

路肩の路盤の種類　２　３

路肩の表層・基層の厚さ　１　０　cm

路肩の路盤の厚さ　＿　１　５　cm

地下排水工の種類　１，＿

縦断方向の配水管の内径　＿　＿　＿　＿　mm

排水工の位置　＿

配水管の間隔　＿　＿　＿　＿　cm

様式Ａ－１－３　舗装構成データ　　調査区間番号　７０２

層の数　６

番号	層の名称	層の厚さ（mm）				材料
		最　大	最　小	平　均	標準偏差	
1	7	1000	1000	1000	＿＿.＿＿	59
2	6	160	150	153	＿＿.＿＿	23
3	5	160	150	153	＿＿.＿＿	25
4	4	55	47	51	＿＿.＿＿	31
5	4	56	47	51	＿＿.＿＿	2
6	3	61	53	58	＿＿.＿＿	1
7	＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿.＿＿	＿＿
8	＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿.＿＿	＿＿
9	＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿.＿＿	＿＿
10	＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿.＿＿	＿＿
11	＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿.＿＿	＿＿
12	＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿.＿＿	＿＿

舗装の等値換算厚 T_A　　＿２３.０ cm

舗装厚Ｈ　　＿４５.０ cm

高支持力層までの深さ　＿＿＿ m

盛土厚さ　　＿２１９ cm

様式Ａ－１－４　施工関係データ　　調査区間番号　７０２

施工年月　平成　２　年　１０　月

交通開放（予定）年月　平成　２　年　１１　月

施工費用　　２５　百万円／km・車線

打換え年月　平成　　年　　月

拡幅年月　　平成　　年　　月

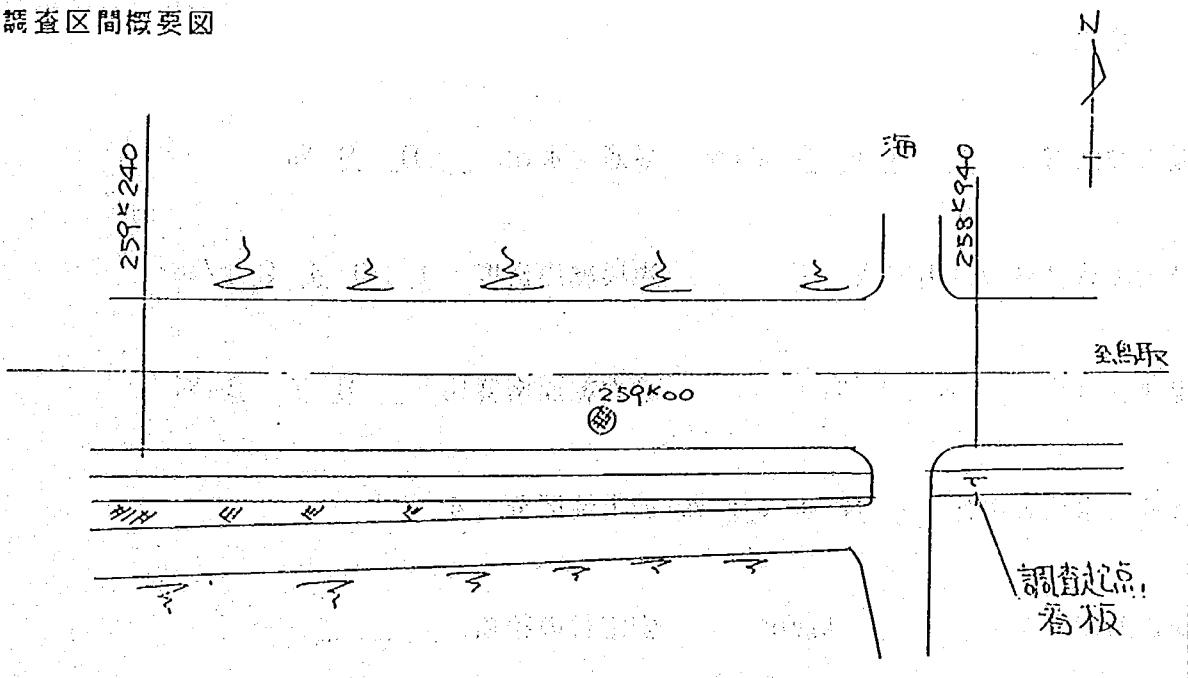
当初の車線数　　車線

最終的な車線数　　車線

追加車線数　　車線

様式A－1－5　調査区間概要図　　調査区間番号　7 0 2

調査区間概要図



路床路盤材料の採取位置を示すこと。 ㊎

様式Ａ－２－１　路床土に関する基礎データ　　調査区間番号　７０２

層番号　＿１、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

土質分類　＿ＳＭ　　ＡＡＳＨＴＯ土質分類　＿＿＿

ＣＢＲ　平均値　＿９５．５　区間のＣＢＲ　＿２４．３

Ｓ値　＿９．９９　Ｋ値　＿３３．７ kg/cm³

75μmふるい通過量　１１．３ %

塑性限界　＿＿．＿ %　液性限界　＿＿．＿ %

塑性指数　＿＿．＿ %

最大乾燥密度　１．９９８ g/cm³　最適含水比　＿９．９ %

最大乾燥密度の算出方法　１　現場乾燥密度　１．９４２ g/cm³

現場含水比　＿８．１ %　最大乾燥密度比　＿９７．２ %

最適含水比との比　＿８１．８ %　凍上性区分　４

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

様式Ａ－２－２　弾性係数の測定（路床土）　　調査区間番号　７０２

層番号　＿１、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試料採取位置 KP２５９k０００（KPが未定の場合　No.　＿＿＿＿＋＿＿）

供試体数　＿２　　ＡＡＳＨＴＯ土質分類　＿＿＿

含水比　＿＿７．３％　　乾燥密度　１．９２９ g/cm³

試験の結果	側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
	＿０．４１	＿０．５５	＿８５７
	＿０．２１	＿０．３５	１２８４
	＿０．０１	＿０．１５	＿８１０
	＿０．４１	＿０．６８	１１５９
	＿０．２１	＿０．４８	１０５９
	＿０．００	＿０．２９	＿６３３
	＿０．４１	＿０．９６	１１１９
	＿０．２１	＿０．７６	１０８０
	＿０．０１	＿０．５５	＿７８７
	＿０．４１	＿１．１０	１０９９
	＿０．２１	＿０．９０	１１２７
	＿０．０１	＿０．７０	＿９８５
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿

回帰式　$\log E = \log A + B \times \log(\text{stress})$

$A =$ ＿９９７．０ 10^3kg/cm²　$B =$ ０．１８７

様式Ａ－３－１　路盤材料の特性値　　調査区間番号　７０２

層番号　＿２、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

最大乾燥密度　２．１３８ g/cm³　最適含水比　＿６．４ %

最大乾燥密度の算出方法　１

現場乾燥密度　２．０８６ g/cm³　現場含水比　＿４．２ %

最大乾燥密度比　＿９７．６ %　最適含水比との比　＿６４．６ %

平板載荷試験　＿６５．３ kg/cm³

425μmふるい通過量　＿＿．＿ %　75μmふるい通過量　＿２．３ %

路盤材料の修正ＣＢＲ　＿７３．０

路盤材料の一軸圧縮強度　＿＿．＿ kg/cm²

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

様式Ａ－３－１　路盤材料の特性値　　調査区間番号　７０２

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

最大乾燥密度　２．２４１ g/cm³　最適含水比　＿６．２ %

最大乾燥密度の算出方法　１

現場乾燥密度　２．２００ g/cm³　現場含水比　＿５．４ %

最大乾燥密度比　＿９８．２ %　最適含水比との比　＿８７．１ %

平板載荷試験　＿６９．０ kg/cm³

425μmふるい通過量　１２．５ %　75μmふるい通過量　＿４．３ %

路盤材料の修正ＣＢＲ　１０９．０

路盤材料の一軸圧縮強度　＿＿．＿ kg/cm²

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿
　　＿　＿＿＿
　　＿　＿＿＿

様式Ａ－３－２　弾性係数の測定（路盤）　　調査区間番号　７０２

層番号　＿２、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

供試体数　＿２　含水比　＿＿４．２％　乾燥密度　１．９８９ g/cm³

試験の結果	側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
	＿１．３８	＿１．５３	４４７７
	＿１．３８	＿１．７３	４３９３
	＿１．３９	＿２．０８	３９９５
	＿１．３８	＿２．４２	４０１４
	＿１．３８	＿２．７６	３９１６
	＿１．０４	＿１．１８	３７５０
	＿１．０４	＿１．４０	３８５９
	＿１．０４	＿１．７５	３６５１
	＿１．０４	＿２．０８	３５４４
	＿１．０４	＿２．４２	３６１６
	＿０．６９	＿０．８４	３４３１
	＿０．６９	＿１．０４	３２７２
	＿０．６９	＿１．３８	３１９３
	＿０．６９	＿１．７４	３１７０
	＿０．３５	＿０．４９	２６７３
	＿０．３５	＿０．７１	２７００
	＿０．３５	＿１．０４	２６４８
	＿０．３５	＿１．３９	２７１３
	＿０．０７	＿０．２１	２２５０
	＿０．０７	＿０．４３	２２３０
	＿０．０７	＿０．５８	２３０７
	＿０．０７	＿０．７６	２３７０
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿

回帰式　　$\log E = \log A + B \times \log(\text{stress})$

$A =$ ２５７３．２ 10^3kg/cm²　$B =$ ０．２６４

様式Ａ－３－２　弾性係数の測定（路盤）　　調査区間番号　７０２

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

供試体数　＿２　含水比　＿＿４．２％　乾燥密度　２．０６５ g/cm³

試験の結果	側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
	＿１．３８	＿１．５２	３７５０
	＿１．３８	＿１．７３	３４３３
	＿１．３８	＿２．０７	３２５１
	＿１．３８	＿２．４２	３１９２
	＿１．３８	＿２．７６	３３８９
	＿１．０４	＿１．１８	３３０６
	＿１．０４	＿１．４０	３１７３
	＿１．０４	＿１．７２	２９３４
	＿１．０４	＿２．０８	２８９０
	＿１．０４	＿２．４２	３０２２
	＿０．６９	＿０．８３	２９５６
	＿０．６９	＿１．０５	２９００
	＿０．６９	＿１．３８	２６３８
	＿０．６９	＿１．７４	２７５１
	＿０．３５	＿０．４９	２５７３
	＿０．３５	＿０．７０	２６８０
	＿０．３５	＿１．０４	２４２２
	＿０．３５	＿１．４０	２９５９
	＿０．０７	＿０．２１	２２３８
	＿０．０７	＿０．４３	２３３２
	＿０．０７	＿０．５９	２３４５
	＿０．０７	＿０．７６	２２８１
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿

回帰式　$\log E = \log A + B \times \log(\text{stress})$

A = ２４９２．４ 10^3kg/cm²　B = ０．１６２

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　７０２

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類	1	1００	細骨材の種類	1	1００
	＿	＿＿＿		＿	＿＿＿
	＿	＿＿＿		＿	＿＿＿
	＿	＿＿＿		＿	＿＿＿

粗骨材の岩質　＿＿　　フィラーの種類　1

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿.＿	2.36mm	＿２４.６
37.5mm	＿＿＿.＿	600μm	＿＿＿.＿
26.5mm	１００.０	300μm	＿＿＿.＿
19mm	＿９７.７	150μm	＿＿＿.＿
13.2mm	＿６４.１	75μm	＿＿２.１
4.75mm	＿４０.７		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	＿.＿＿＿ g/cm³	細骨材１（粗砂）	２.５６０ g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	２.７０９ g/cm³	細骨材２（中砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	２.６７１ g/cm³	細骨材３（細砂）	２.６０９ g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	２.６７１ g/cm³	フィラー	２.７１０ g/cm³
スクリーニングス	＿.＿＿＿ g/cm³	クラッシャラン	＿.＿＿＿ g/cm³

合成密度　２.６６８ g/cm³　有効密度　２.７１２ g/cm³

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　７０２

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類　１　１００　　細骨材の種類　１　１００

＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

粗骨材の岩質　＿＿　　フィラーの種類　１

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿.＿	2.36mm	＿２７.１
37.5mm	＿＿＿.＿	600μm	＿１８.６
26.5mm	１００.０	300μm	＿１２.６
19mm	＿９７.５	150μm	＿＿６.１
13.2mm	＿７９.３	75μm	＿＿４.８
4.75mm	＿４７.４		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	＿.＿＿＿ g/cm³	細骨材１（粗砂）	２.５６０ g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	２.７０９ g/cm³	細骨材２（中砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	２.６７１ g/cm³	細骨材３（細砂）	２.６０９ g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	２.６７１ g/cm³	フィラー	２.７１０ g/cm³
スクリーニングス	＿.＿＿＿ g/cm³	クラッシャラン	＿.＿＿＿ g/cm³

合成密度　２.６６３ g/cm³　有効密度　２.７０６ g/cm³

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　７０２

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類　１　１００　　細骨材の種類　１　＿６２
　　＿　＿＿＿　　２　＿３８
　　＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿
　　＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

粗骨材の岩質　＿＿　　フィラーの種類　１

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿．＿	2.36mm	＿３９．８
37.5mm	＿＿＿．＿	600μm	＿２３．８
26.5mm	１００．０	300μm	＿１５．３
19mm	＿９８．４	150μm	＿＿７．６
13.2mm	＿８１．４	75μm	＿＿５．９
4.75mm	＿５６．０		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	＿．＿＿＿ g/cm³	細骨材１（粗砂）	２．５６０ g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	２．７０９ g/cm³	細骨材２（中砂）	＿．＿＿＿ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	２．６７１ g/cm³	細骨材３（細砂）	２．６０９ g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	２．６７１ g/cm³	フィラー	２．７１０ g/cm³
スクリーニングス	２．６４８ g/cm³	クラッシャラン	＿．＿＿＿ g/cm³

合成密度　２．６６１ g/cm³　有効密度　２．７０７ g/cm³

様式Ａ－４－２　アスファルトの性状（原アスファルト）　調査区間番号　７　０　２

層番号　＿４、＿５、＿６、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

針入度区分　＿６０～＿８０

アスファルトの製造元　三菱石油(株)　中国支店

密度　１．０４３ g/cm³

60℃粘度　＿＿２９０９ poise

135℃粘度　＿４６０ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０．０　cm

4℃伸度の伸長速度　＿５　cm/min

25℃針入度　＿５８

4℃針入度　＿２０

軟化点　＿５４ ℃

添加剤　商品名

添加剤の添加量　＿＿＿ %

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　７０２

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿５８３０ poise　　135℃粘度　＿６０７ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０．０ cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５ cm/min

25℃針入度　＿４１　　4℃針入度　＿１８

軟化点　＿５５ ℃

質量変化率　０．１２３

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿３９　　4℃針入度　＿１７

60℃粘度　＿＿８７５２ poise　　135℃粘度　＿５７８ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　７０２

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿５８３０ poise　　135℃粘度　＿６０７ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０．０ cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５ cm/min

25℃針入度　＿４１　　4℃針入度　＿１８

軟化点　＿５５ ℃

質量変化率　０．１２３

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿４３　　4℃針入度　＿２０

60℃粘度　＿＿７０３６ poise　　135℃粘度　＿５３５ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　７０２

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿５８３０ poise　　135℃粘度　＿６０７ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０．０ cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５　cm/min

25℃針入度　＿４１　　4℃針入度　＿１８

軟化点　＿５５ ℃

質量変化率　０．１２３

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿４１　　4℃針入度　＿１８

60℃粘度　＿＿９８１０ poise　　135℃粘度　＿５９２ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　７０２

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３６５ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．５４９ g/cm³

アスファルト量　４．０ ％

空隙率　＿７．２ ％

骨材間隙率　１６．３ ％

有効アスファルト量　＿３．９ ％

突き固め回数　５０ 回

マーシャル安定度　＿５６０ kg

フロー値　＿２８ (1/100cm)

ビーム安定度　＿４２．２

ビーム粘着度　＿１１９．８

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　７　０　２

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．４０５ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．５０６ g/cm³

アスファルト量　５．０ %

空隙率　＿４．０ %

骨材間隙率　１５．６ %

有効アスファルト量　＿５．０ %

突き固め回数　７５ 回

マーシャル安定度　＿８７４ kg

フロー値　＿３０ (1/100cm)

ビーム安定度　＿４１．２

ビーム粘着度　＿４１５．１

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　７　０　２

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３９９ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．４９６ g/cm³

アスファルト量　５．３ %

空隙率　＿３．９ %

骨材間隙率　１６．１ %

有効アスファルト量　＿５．３ %

突き固め回数　７５ 回

マーシャル安定度　＿９６６ kg

フロー値　＿３１ (1/100cm)

ビーム安定度　＿２８．１

ビーム粘着度　＿４６２．１

様式Ａ－４－５　アスファルト混合物の性状（配合試験２）調査区間番号　７０２

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の剝離試験結果（剝離率）　＿３６

剝離防止材の種類　商品名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

剝離防止材の添加量　＿＿．＿％

アスファルトプラントの形式　１

ホイールトラッキング試験結果　＿＿＿＿回/mm

スパイクラベリング試験結果　＿＿＿＿mm²

様式Ａ－４－５　アスファルト混合物の性状（配合試験２）調査区間番号　７　０　２

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の剝離試験結果（剝離率）　＿３　６

剝離防止材の種類　商品名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

剝離防止材の添加量　＿＿．＿％

アスファルトプラントの形式　１

ホイールトラッキング試験結果　＿４　１　４　回/mm

スパイクラベリング試験結果　＿＿＿＿　mm^2

様式Ａ－４－５　アスファルト混合物の性状（配合試験２）調査区間番号　７　０　２

層番号　＿　６　、＿　＿　、＿　＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の剝離試験結果（剝離率）　＿　３　６

剝離防止材の種類　商品名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

剝離防止材の添加量　＿　＿　．＿　％

アスファルトプラントの形式　１

ホイールトラッキング試験結果　＿　２　１　７　回/mm

スパイクラベリング試験結果　＿　＿　＿　＿　mm²

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　７０２

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３６５ g/cm³

アスファルト量　４．０ %

空隙率　＿７．２ %

骨材間隙率　１６．３ %

マーシャル安定度　＿５２６ kg

フロー値　＿２６ (1/100cm)

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　７０２

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．４０２ g/cm³

アスファルト量　５．１ %

空隙率　＿４．２ %

骨材間隙率　１５．７ %

マーシャル安定度　＿８５４ kg

フロー値　＿３１ (1/100cm)

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　７０２

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．４０２ g/cm³

アスファルト量　５．３ %

空隙率　＿３．８ %

骨材間隙率　１６．０ %

マーシャル安定度　＿９９０ kg

フロー値　＿２９ (1/100cm)

様式A－4－7　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　7 0 2

層番号　＿ 4 、＿ ＿ 、＿ ＿　（様式A－1－3参照）

かさ密度　2 . 3 9 9 g/cm³

最大比重　2 . 6 1 1 g/cm³

空隙率　＿ 8 . 1 %

アスファルト量　4 . 1 %

骨材間隙率　1 7 . 5 %

様式Ａ－４－７　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　７　０　２

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３９３ g/cm³

最大比重　２．６０７ g/cm³

空隙率　＿８．２ %

アスファルト量　５．２ %

骨材間隙率　２０．１ %

様式Ａ－４－７　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　７０２

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．４０３ g/cm³

最大比重　２．５３４ g/cm³

空隙率　＿５．２ %

アスファルト量　５．３ %

骨材間隙率　１７．４ %

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　７０２

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	４４６５０	２.４００
＿＿＿	＿＿５.０	４７９５０	２.３８２
＿＿＿	＿＿５.０	３５４５０	２.４０８
＿＿＿	＿２５.０	１１５００	２.４００
＿＿＿	＿２５.０	１７８５０	２.３８２
＿＿＿	＿２５.０	１３９４０	２.４０８
＿＿＿	＿４０.０	＿４７５０	２.４００
＿＿＿	＿４０.０	＿４４５０	２.３８２
＿＿＿	＿４０.０	＿４７３０	２.４０８
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　７０２

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	４５８００	２.３９７
＿＿＿	＿＿５.０	６１７５０	２.３９５
＿＿＿	＿＿５.０	４６３５０	２.３８６
＿＿＿	＿２５.０	１０９３０	２.３９７
＿＿＿	＿２５.０	１８９００	２.３９５
＿＿＿	＿２５.０	１５９００	２.３８６
＿＿＿	＿４０.０	＿２９４０	２.３９７
＿＿＿	＿４０.０	＿３５３０	２.３９５
＿＿＿	＿４０.０	＿３３４０	２.３８６
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　７０２

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	５２８５０	２.４２９
＿＿＿	＿＿５.０	５０９００	２.４１６
＿＿＿	＿＿５.０	４８２５０	２.３９４
＿＿＿	＿２５.０	１６０００	２.４２９
＿＿＿	＿２５.０	１７７５０	２.４１６
＿＿＿	＿２５.０	２０２００	２.３９４
＿＿＿	＿４０.０	＿４４９５	２.４２９
＿＿＿	＿４０.０	＿３６３０	２.４１６
＿＿＿	＿４０.０	＿３６２５	２.３９４
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　７０２

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿１３.４
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿１３.４
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿１２.９
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿４.８
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿５.３
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿６.０
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.０
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿１.３
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.０
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　７０２

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿１５.６
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿１８.０
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿１８.６
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿６.２
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿６.６
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿７.１
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿１.７
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿１.３
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿１.９
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

様式Ａ--４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　７０２

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２２.３
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿１８.７
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿１５.９
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿５.５
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿６.７
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿７.０
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.３
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.０
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.２
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

S H R P

新 基 準 調 査

初 期 調 査 デ ー タ

１８８号　下松バイパス

様式Ａ－１－１　一般データ　　調査区間番号　７０３

地建番号　７

報告年月　平成　３　年　３　月

担当部局　中国地方建設局 山口工事事務所 工務課道路工務第二係　内線　４１４

調査区間の地名　山口県下松市東豊井

路線番号　１８８

調査種別　１

調査方向　☒上り　☐下り

距離標　　３ｋ６００～　３ｋ３６０

（ＫＰ未定の場合No.＿＿＿＿＋＿＿～＿＿＿＿＋＿＿）

様式Ａ－１－２　舗装構造データ　　調査区間番号　７０３

舗装の種別　１

調査方向の車線数　１

車線幅　３５０　cm

調査対象車線　第　１　車線

路肩の幅　＿５０　cm

路肩の路面の種類　３

路肩の路盤の種類　２３，２５

路肩の表層・基層の厚さ　＿５　cm

路肩の路盤の厚さ　＿１５　cm

地下排水工の種類　１，＿

縦断方向の配水管の内径　＿＿＿＿　mm

排水工の位置　＿

配水管の間隔　＿＿＿＿　cm

様式Ａ－１－３　舗装構成データ　　調査区間番号　７０３

層の数　６

番号	層の名称	層の厚さ（mm）				材料
		最　大	最　小	平　均	標準偏差	
1	7					56
2	6			150		23
3	5			150		25
4	4			50		31
5	4			50		2
6	3			50		1
7						
8						
9						
10						
11						
12						

舗装の等値換算厚 T_A　　23.0 cm

舗装厚H　　45.0 cm

高支持力層までの深さ　　　m

盛土厚さ　　　cm

様式Ａ－１－４　施工関係データ　　調査区間番号　７０３

施工年月　平成　３　年　２　月

交通開放（予定）年月　平成　３　年　３　月

施工費用　　２０　百万円／km・車線

打換え年月　平成　　年　　月

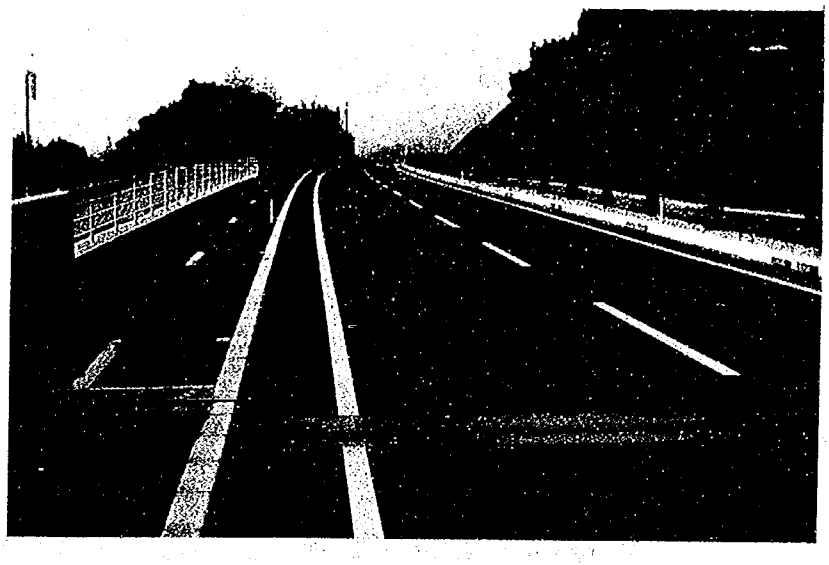
拡幅年月　　平成　　年　　月

当初の車線数　　車線

最終的な車線数　　車線

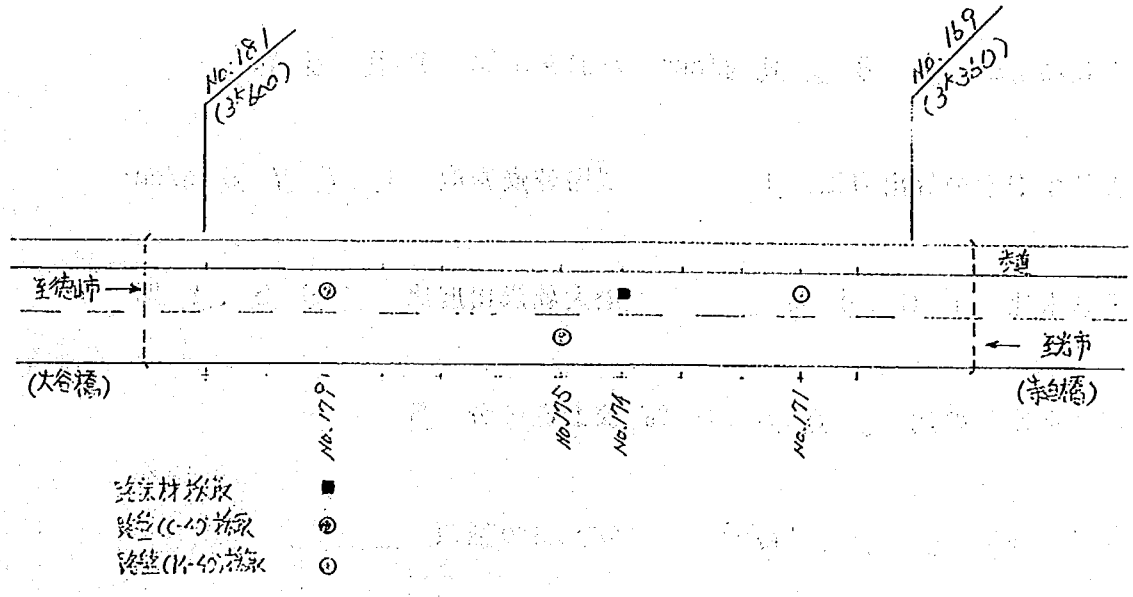
追加車線数　　車線

様式A－1－5　調査区間概要図　　調査区間番号　7 0 3



No. 18140 ～ No. 16940

調査区間概要図



路床路盤材料の採取位置を示すこと。

様式Ａ－２－１　路床土に関する基礎データ　　調査区間番号　７０３

層番号　＿１、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

土質分類　＿ＳＣ　　ＡＡＳＨＴＯ土質分類　Ａ２７

ＣＢＲ　平均値　＿１７．９　区間のＣＢＲ　＿１２．８

Ｓ値　＿７．８８　Ｋ値　＿１５．４ kg/cm³

75μmふるい通過量　３２．１ %

塑性限界　２４．５ %　液性限界　４０．６ %

塑性指数　１６．１ %

最大乾燥密度　１．６５９ g/cm³　最適含水比　１８．８ %

最大乾燥密度の算出方法　１　現場乾燥密度　１．５７９ g/cm³

現場含水比　１０．４ %　最大乾燥密度比　＿９５．１ %

最適含水比との比　＿５５．３ %　凍上性区分　５

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

様式Ａ－２－２　弾性係数の測定（路床土）　　調査区間番号　７０３

層番号　＿１、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試料採取位置 KP＿＿３ｋ４８０　（KPが未定の場合　No.　＿＿＿＿＋＿＿）

供試体数　＿２　　ＡＡＳＨＴＯ土質分類　＿＿＿

含水比　＿１６．７％　　乾燥密度　１．７７０ g/cm³

試験の結果

側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
０．４０	０．５４	７００
０．２１	０．３５	６１９
０．００	０．１４	９１９
０．４１	０．６８	６６８
０．２１	０．４９	７２９
０．００	０．２８	６８８
０．４１	０．９７	６７６
０．２１	０．７７	８７８
０．０１	０．５５	７２７
０．４１	１．０９	７２９
０．２１	０．９０	７１９
０．０１	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿

回帰式　log E = log A + B x log(stress)

A = ＿７１４．５ 10^3kg/cm²　B = ０．０５９

様式Ａ－３－１　路盤材料の特性値　　調査区間番号　７０３

層番号　＿２、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

最大乾燥密度　２．１６７ g/cm³　最適含水比　＿５．７ %

最大乾燥密度の算出方法　１

現場乾燥密度　２．１３９ g/cm³　現場含水比　＿６．０ %

最大乾燥密度比　＿９８．７ %　最適含水比との比　１０５．３ %

平板載荷試験　＿２３．２ kg/cm³

425μmふるい通過量　１２．５ %　75μmふるい通過量　＿４．８ %

路盤材料の修正ＣＢＲ　＿７７．０

路盤材料の一軸圧縮強度　＿＿．＿ kg/cm²

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

様式Ａ－３－１　路盤材料の特性値　　調査区間番号　７０３

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

最大乾燥密度　２．２４２ g/cm³　最適含水比　＿６．６ %

最大乾燥密度の算出方法　１

現場乾燥密度　２．２０９ g/cm³　現場含水比　＿７．６ %

最大乾燥密度比　＿９８．５ %　最適含水比との比　１１５．１ %

平板載荷試験　＿３３．６ kg/cm³

425μmふるい通過量　１９．０ %　75μmふるい通過量　＿３．５ %

路盤材料の修正ＣＢＲ　＿９８．０

路盤材料の一軸圧縮強度　＿＿．＿ kg/cm²

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

様式Ａ－３－２　弾性係数の測定（路盤）　　調査区間番号　７０３

層番号　＿２、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

供試体数　＿２　含水比　＿＿２．５％　乾燥密度　２．１０６ g/cm³

試験の結果	側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
	１．３８	１．５３	３３３３
	１．３８	１．７３	３２９６
	１．３７	２．０６	３３７４
	１．３８	２．４２	３７３２
	１．３８	２．７５	３７３２
	１．０５	１．１８	２５２２
	１．０５	１．４０	２６１６
	１．０４	１．７２	２７１５
	１．０４	２．０８	２７８６
	１．０４	２．４２	３１６２
	０．６９	０．８４	１８３４
	０．６９	１．０４	１９９２
	０．６９	１．３７	１９９５
	０．６９	１．７８	２３３３
	０．３５	０．４９	１２７３
	０．３５	０．７１	１４９３
	０．３５	１．０４	１６１６
	０　３５	１．３９	１９０８
	０．０７	０．２０	＿９６３
	０．０７	０．４２	＿９３９
	０．０７	０．５９	１０４３
	０．０７	０．７６	１２９４
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿

回帰式　　log E = log A + B × log(stress)

A = １３１８．４ 10^3kg/cm²　B = ０．９５７

様式Ａ－３－２　弾性係数の測定（路盤）　　調査区間番号　７０３

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

供試体数　＿２　含水比　＿＿２．８％　乾燥密度　２．１３８ g/cm³

試験の結果	側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
	＿１．３８	＿１．５３	３８１０
	＿１．３９	＿１．７４	３９２５
	＿１．３９	＿２．０８	３８０７
	＿１．３９	＿２．４３	４０４１
	＿１．３８	＿２．７６	４０６４
	＿１．０４	＿１．２０	３５０７
	＿１．０４	＿１．３９	３３６１
	＿１．０４	＿１．７３	３３６３
	＿１．０４	＿２．０９	３４６４
	＿１．０４	＿２．４１	３６８３
	＿０．６９	＿０．８３	２９３２
	＿０．６９	＿１．０６	２８８８
	＿０．６９	＿１．３７	２８５０
	＿０．６９	＿１．７４	３０８８
	＿０．３５	＿０．５０	２２３４
	＿０．３５	＿０．７０	２２３０
	＿０．３６	＿１．０５	２２６９
	＿０．３５	＿１．３９	２４４３
	＿０．０７	＿０．２１	１６３３
	＿０．０７	＿０．４３	１７３６
	＿０．０７	＿０．５９	１９０２
	＿０．０７	＿０．７６	１９９９
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿

回帰式　$\log E = \log A + B \times \log(\text{stress})$

A = ２０１３．０ 10^3kg/cm²　B = ０．３８５

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　７０３

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類		細骨材の種類	
1	100	1	67
―	―	2	33
―	―	―	―
―	―	―	―

粗骨材の岩質　12　　フィラーの種類　1

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿.＿	2.36mm	＿36.4
37.5mm	＿＿＿.＿	600μm	＿20.4
26.5mm	100.0	300μm	＿10.9
19mm	＿98.6	150μm	＿＿6.3
13.2mm	＿80.8	75μm	＿＿5.0
4.75mm	＿46.5		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	＿.＿＿＿ g/cm³	細骨材１（粗砂）	2.441 g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	2.703 g/cm³	細骨材２（中砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	2.698 g/cm³	細骨材３（細砂）	2.466 g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	2.688 g/cm³	フィラー	2.710 g/cm³
スクリーニングス	2.596 g/cm³	クラッシャラン	＿.＿＿＿ g/cm³

合成密度　2.629 g/cm³　有効密度　2.714 g/cm³

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　７０３

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類		細骨材の種類	
1	1００	1	＿７３
＿	＿＿＿	2	＿２７
＿	＿＿＿	＿	＿＿＿
＿	＿＿＿	＿	＿＿＿

粗骨材の岩質　１２　　フィラーの種類　１

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿.＿	2.36mm	＿２８.２
37.5mm	＿＿＿.＿	600μm	＿１７.３
26.5mm	１００.０	300μm	＿１０.０
19mm	＿９８.６	150μm	＿＿６.５
13.2mm	＿８０.８	75μm	＿＿５.４
4.75mm	＿４５.６		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	＿.＿＿＿ g/cm³	細骨材１（粗砂）	２.４４１ g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	２.７０３ g/cm³	細骨材２（中砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	２.６９８ g/cm³	細骨材３（細砂）	２.４６６ g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	２.６８８ g/cm³	フィラー	２.７１０ g/cm³
スクリーニングス	２.５９６ g/cm³	クラッシャラン	＿.＿＿＿ g/cm³

合成密度　２.６４９ g/cm³　有効密度　２.７２２ g/cm³

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　７０３

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類	1	1００	細骨材の種類	1	＿７６
	＿	＿＿＿		2	＿２４
	＿	＿＿＿		＿	＿＿＿
	＿	＿＿＿		＿	＿＿＿

粗骨材の岩質　１２　　フィラーの種類　１

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿.＿	2.36mm	＿４２.９
37.5mm	＿＿＿.＿	600μm	＿２５.３
26.5mm	１００.０	300μm	＿１３.７
19mm	＿９８.７	150μm	＿＿８.１
13.2mm	＿８２.７	75μm	＿＿６.６
4.75mm	＿５５.５		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	＿.＿＿＿ g/cm³	細骨材１（粗砂）	２.４４１ g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	２.７０３ g/cm³	細骨材２（中砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	２.６９８ g/cm³	細骨材３（細砂）	２.４６６ g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	２.６８８ g/cm³	フィラー	２.７１０ g/cm³
スクリーニングス	２.５９６ g/cm³	クラッシャラン	＿.＿＿＿ g/cm³

合成密度　２.６１５ g/cm³　有効密度　２.７０８ g/cm³

様式Ａ－４－２　アスファルトの性状（原アスファルト）　調査区間番号　７　０　３

層番号　＿４、＿５、＿６、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

針入度区分　＿６０～＿８０

アスファルトの製造元　日本石油(株)　下松製油所

密度　１．０３４ g/cm³

60℃粘度　＿＿２６５５ poise

135℃粘度　＿４２４ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０．０ cm

4℃伸度の伸長速度　＿５ cm/min

25℃針入度　＿６３

4℃針入度　＿２４

軟化点　＿６０ ℃

添加剤　商品名

添加剤の添加量　＿＿＿ %

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　７　０　３

層番号　＿　４　、＿　＿　、＿　＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿　＿　４　９　８　９ poise　　135℃粘度　＿　５　７　６ cSt

25℃伸度　＿　＿　＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿　０　.　０ cm　　4℃伸度の伸長速度　＿　５ cm/min

25℃針入度　＿　４　６　　4℃針入度　＿　１　８

軟化点　＿　５　４　℃

質量変化率　０　.　０　５

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿　３　５　　4℃針入度　＿　１　６

60℃粘度　＿　＿　９　０　１　２ poise　　135℃粘度　＿　６　９　３ cSt

25℃伸度　＿　＿　＿ cm　または　☒　１００＋

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　７　０　３

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿４９８９poise　　135℃粘度　＿５７６cSt

25℃伸度　＿＿＿cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０．０cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５　cm/min

25℃針入度　＿４６　　4℃針入度　＿１８

軟化点　＿５４℃

質量変化率　０．０５

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿４０　　4℃針入度　＿１８

60℃粘度　＿＿７２２４poise　　135℃粘度　＿６４８cSt

25℃伸度　＿＿＿cm　または　☒　１００＋

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　７０３

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿４９８９ poise　　135℃粘度　＿５７６ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０．０ cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５　cm/min

25℃針入度　＿４６　　4℃針入度　＿１８

軟化点　＿５４ ℃

質量変化率　０．０５

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿３５　　4℃針入度　＿１６

60℃粘度　＿＿９８８２ poise　　135℃粘度　＿７３６ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　７　０　３

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３７８ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．５４９ g/cm³

アスファルト量　４．０ %

空隙率　＿６．７ %

骨材間隙率　１５．９ %

有効アスファルト量　＿４．０ %

突き固め回数　５０ 回

マーシャル安定度　＿９７５ kg

フロー値　＿２７ (1/100cm)

ビーム安定度　＿４９．８

ビーム粘着度　＿２２７．０

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　７０３

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．４０２ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．５０９ g/cm³

アスファルト量　５．２ %

空隙率　＿４．３ %

骨材間隙率　１６．４ %

有効アスファルト量　＿５．２ %

突き固め回数　７５ 回

マーシャル安定度　１２３０ kg

フロー値　＿３１ (1/100cm)

ビーム安定度　＿５１．０

ビーム粘着度　＿２５２．８

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　７　０　３

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３９０ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．４９３ g/cm³

アスファルト量　５．３ %

空隙率　＿４．１ %

骨材間隙率　１６．４ %

有効アスファルト量　＿５．３ %

突き固め回数　７５ 回

マーシャル安定度　１２１２ kg

フロー値　＿２９ (1/100cm)

ビーム安定度　＿５１．９

ビーム粘着度　＿２９４．８

様式Ａ－４－５　アスファルト混合物の性状（配合試験２）調査区間番号　７　０　３

層番号　＿　４　、＿　＿　、＿　＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の剝離試験結果（剝離率）　＿　３　４

剝離防止材の種類　商品名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

剝離防止材の添加量　＿　＿　.　＿　％

アスファルトプラントの形式　１

ホイールトラッキング試験結果　＿　＿　＿　＿　回/mm

スパイクラベリング試験結果　＿　＿　＿　＿　mm^2

様式Ａ－４－５　アスファルト混合物の性状（配合試験２）調査区間番号　７　０　３

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の剝離試験結果（剝離率）　＿３４

剝離防止材の種類　商品名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

剝離防止材の添加量　＿＿.＿％

アスファルトプラントの形式　１

ホイールトラッキング試験結果　２４２３回/mm

スパイクラベリング試験結果　＿＿＿＿mm²

様式Ａ－４－５　アスファルト混合物の性状（配合試験２）調査区間番号　７０３

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の剝離試験結果（剝離率）　＿３４

剝離防止材の種類　商品名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

剝離防止材の添加量　＿＿.＿％

アスファルトプラントの形式　１

ホイールトラッキング試験結果　＿８２８回/㎜

スパイクラベリング試験結果　＿＿＿＿㎟

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　７０３

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３７８ g/cm³

アスファルト量　４．０ %

空隙率　＿６．７ %

骨材間隙率　１５．９ %

マーシャル安定度　＿９７５ kg

フロー値　＿２７ (1/100cm)

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　７０３

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．４０２ g/cm³

アスファルト量　５．２ %

空隙率　＿４．３ %

骨材間隙率　１６．４ %

マーシャル安定度　１２３０ kg

フロー値　＿３１ (1/100cm)

様式Ａ--４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　７０３

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３９０ g/cm³

アスファルト量　５．３ %

空隙率　＿４．１ %

骨材間隙率　１６．４ %

マーシャル安定度　１２１２ kg

フロー値　＿２９ (1/100cm)

様式Ａ－４－７　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　７０３

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３７７ g/cm³

最大比重　２．６２０ g/cm³

空隙率　＿９．３ %

アスファルト量　４．４ %

骨材間隙率　１９．４ %

様式Ａ－４－７　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　７０３

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３７９ g/cm³

最大比重　２．６０６ g/cm³

空隙率　＿８．７ %

アスファルト量　５．５ %

骨材間隙率　２１．３ %

様式Ａ－４－７　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　７０３

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３５７ g/cm³

最大比重　２．５７５ g/cm³

空隙率　＿８．５ %

アスファルト量　５．５ %

骨材間隙率　２０．９ %

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　７０３

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	４０２５０	２.３９１
＿＿＿	＿＿５.０	４８２５０	２.３５６
＿＿＿	＿＿５.０	４６７５０	２.３７９
＿＿＿	＿２５.０	１３４００	２.３９１
＿＿＿	＿２５.０	１１９００	２.３５６
＿＿＿	＿２５.０	１８５５０	２.３７９
＿＿＿	＿４０.０	＿３８８５	２.３９１
＿＿＿	＿４０.０	＿４１５０	２.３５６
＿＿＿	＿４０.０	＿３２４５	２.３７９
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　７０３

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	５３８００	２.３６９
＿＿＿	＿＿５.０	３４２００	２.３７５
＿＿＿	＿＿５.０	５０５５０	２.４１８
＿＿＿	＿２５.０	１６７００	２.３６９
＿＿＿	＿２５.０	１８８００	２.３７５
＿＿＿	＿２５.０	２０６５０	２.４１８
＿＿＿	＿４０.０	＿３９４５	２.３６９
＿＿＿	＿４０.０	＿４８６０	２.３７５
＿＿＿	＿４０.０	＿４００５	２.４１８
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　７０３

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	４５２００	２.３４２
＿＿＿	＿＿５.０	５４８５０	２.３８１
＿＿＿	＿＿５.０	３９６００	２.３５１
＿＿＿	＿２５.０	１９３５０	２.３４２
＿＿＿	＿２５.０	１８１５０	２.３８１
＿＿＿	＿２５.０	１９８００	２.３５１
＿＿＿	＿４０.０	＿４９７５	２.３４２
＿＿＿	＿４０.０	＿５５３０	２.３８１
＿＿＿	＿４０.０	＿３４５５	２.３５１
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式A－4－9　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　7 0 3

層番号　＿4、＿＿、＿＿　（様式A－1－3参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿5.0	＿＿＿6.9
＿＿＿	＿＿5.0	＿＿＿9.3
＿＿＿	＿＿5.0	＿＿＿9.0
＿＿＿	＿25.0	＿＿＿3.8
＿＿＿	＿25.0	＿＿＿3.4
＿＿＿	＿25.0	＿＿＿5.2
＿＿＿	＿40.0	＿＿＿1.5
＿＿＿	＿40.0	＿＿＿1.2
＿＿＿	＿40.0	＿＿＿1.0
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿50.0　mm/min

試験方法　1

様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　７０３

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿＿８.３
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿１０.９
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿１０.８
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿５.９
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿５.６
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿５.９
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿１.６
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿１.７
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿０.９
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　７０３

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿１６.０
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿１５.０
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿１６.１
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿７.１
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿６.４
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿６.７
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿１.９
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿１.７
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿１.６
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

四　国　地　方

S H R P

新 基 準 調 査

初 期 調 査 デ ー タ

11号 松 山 東 道 路

様式Ａ－１－１　一般データ　　調査区間番号　８０１

地建番号　８

報告年月　昭和　６３年１２月

担当部局　四国地方建設局　松山工事事務所　　内線　４１２

調査区間の地名　愛媛県松山市水泥

路線番号　１１

調査種別　１

調査方向　□上り　☒下り

距離標　２３０ｋ０６０～２３０ｋ３６０

（ＫＰ未定の場合No.＿＿＿＿＋＿＿～＿＿＿＿＋＿＿）

様式Ａ－１－２　舗装構造データ　　調査区間番号　８０１

舗装の種別　１

調査方向の車線数　２

車線幅　３５０ cm

調査対象車線　第　１　車線

路肩の幅　１５０ cm

路肩の路面の種類　３

路肩の路盤の種類　２３

路肩の表層・基層の厚さ　１０ cm

路肩の路盤の厚さ　＿３７ cm

地下排水工の種類　２，＿

縦断方向の配水管の内径　＿３００ mm

排水工の位置　１

配水管の間隔　＿＿＿＿ cm

様式Ａ－１－３　舗装構成データ　　調査区間番号　８０１

層の数　５

番号	層の名称	層の厚さ（mm）				材料
		最　大	最　小	平　均	標準偏差	
1	7					62
2	6	270	249	257	7.52	23
3	4	126	118	122	2.92	31
4	4	52	47	51	1.62	2
5	3	52	49	51	1.17	1
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						

舗装の等値換算厚T_A　　25.9 cm

舗装厚H　　47.0 cm

高支持力層までの深さ　　　m

盛土厚さ　　　cm

様式Ａ－１－４　施工関係データ　　調査区間番号　８０１

施工年月　昭和 ６３ 年 １２ 月

交通開放（予定）年月　昭和 ６４ 年 ＿ １ 月

施工費用　＿＿ ５８ 百万円／km・車線

打換え年月　平成 ＿＿ 年 ＿＿ 月

拡幅年月　　平成 ＿＿ 年 ＿＿ 月

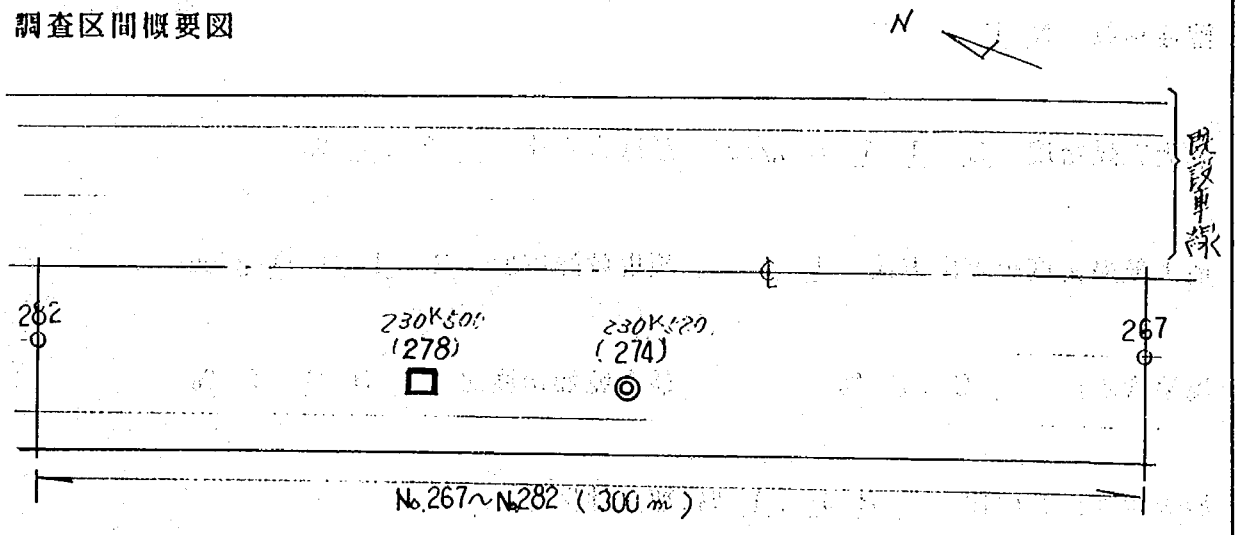
当初の車線数　＿ 車線

最終的な車線数　＿ 車線

追加車線数　＿ 車線

様式A－1－5　調査区間概要図　　調査区間番号　8 0 1

調査区間概要図



◎ 路床材料採取位置
□ 路盤材料採取位置

路床路盤材料の採取位置を示すこと。

様式Ａ－２－１　路床土に関する基礎データ　　調査区間番号　８０１

層番号　＿１、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

土質分類　Ｇ－Ｍ　　ＡＡＳＨＴＯ土質分類　Ａ１ａ

ＣＢＲ　平均値　＿２０．４　区間のＣＢＲ　＿１９．８

Ｓ値　２１．９７　　Ｋ値　＿２１．５ kg/cm³

75μmふるい通過量　１０．７ %

塑性限界　ＮＰ．＿ %　　液性限界　１８．７ %

塑性指数　ＮＰ．＿ %

最大乾燥密度　２．１１５ g/cm³　最適含水比　＿７．４ %

最大乾燥密度の算出方法　１　　現場乾燥密度　２．１００ g/cm³

現場含水比　＿６．３ %　　最大乾燥密度比　＿９９．３ %

最適含水比との比　＿８５．１ %　凍上性区分　＿

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

様式Ａ－２－２　弾性係数の測定（路床土）　　調査区間番号　８０１

層番号　＿１、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試料採取位置 KP＿＿＿k＿＿＿（KPが未定の場合　No.　＿＿＿＿＋＿＿）

供試体数　＿２　　ＡＡＳＨＴＯ土質分類　Ａ１ａ

含水比　＿＿７．４％　　乾燥密度　２．１９５ g/cm³

試験の結果

側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
＿０．４１	＿０．５６	＿６９５
＿０．２１	＿０．３６	１０３８
＿０．００	＿０．１２	１３４３
＿０．４１	＿０．７１	＿９８６
＿０．２１	＿０．５２	＿９６７
＿０．００	＿０．３１	１１０７
＿０．４１	＿０．９７	１３９２
＿０．２１	＿０．７８	１０５８
＿０．００	＿０．５９	１０９３
＿０．４１	＿１．１２	１７９７
＿０．２１	＿０．９１	１１３１
＿０．００	＿０．７４	＿９５７
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿

回帰式　　log E = log A + B x log(stress)

A = １０７８．９ 10^3kg/cm²　B = ０．０７４

様式Ａ－３－１　路盤材料の特性値　　調査区間番号　８０１

層番号　＿２、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

最大乾燥密度　２．０２０ g/cm³　最適含水比　＿５．３ %

最大乾燥密度の算出方法　１

現場乾燥密度　２．０００ g/cm³　現場含水比　＿５．４ %

最大乾燥密度比　＿９９．０ %　最適含水比との比　１０１．９ %

平板載荷試験　＿５０．１ kg/cm³

425μmふるい通過量　＿７．２ %　75μmふるい通過量　＿３．３ %

路盤材料の修正ＣＢＲ　＿９５．４

路盤材料の一軸圧縮強度　＿＿．＿ kg/cm²

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

様式Ａ－３－２　弾性係数の測定（路盤）　　調査区間番号　８０１

層番号　＿２、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

供試体数　＿２　含水比　＿＿３．６％　乾燥密度　２．１９５ g/cm³

試験の結果	側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
	＿１．３９	＿１．５３	３１５０
	＿１．３９	＿１．７３	３２８６
	＿１．３９	＿２．０６	３３３９
	＿１．３９	＿２．３９	３４９５
	＿１．３９	＿２．７１	３４４４
	＿１．０５	＿１．１９	２４６７
	＿１．０５	＿１．４０	２５２７
	＿１．０５	＿１．７１	２５６７
	＿１．０６	＿２．０６	２７２０
	＿１．０６	＿２．３８	２９００
	＿０．７０	＿０．８４	２２７３
	＿０．７０	＿１．０６	２１５６
	＿０．７０	＿１．３８	２１３０
	＿０．７０	＿１．７３	２３８６
	＿０．３６	＿０．５１	２０２５
	＿０．３６	＿０．７２	２２０７
	＿０．３６	＿１．０６	２０２８
	＿０．３６	＿１．３９	２１７６
	＿０．０８	＿０．２２	＿７１５
	＿０．０８	＿０．４７	１０８８
	＿０．０８	＿０．６４	１１６８
	＿０．０８	＿０．８１	１２１６
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿

回帰式　$\log E = \log A + B \times \log(\text{stress})$

A = １５６９．１ 10^3kg/cm²　B = ０．４２３

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　８０１

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類　１　１００
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

細骨材の種類　１　＿６７
２　＿３３
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

粗骨材の岩質　１２

フィラーの種類　１

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿.＿	2.36mm	＿３４.６
37.5mm	＿＿＿.＿	600μm	＿１７.３
26.5mm	１００.０	300μm	＿＿６.３
19mm	＿９９.５	150μm	＿＿１.６
13.2mm	＿７８.４	75μm	＿＿０.６
4.75mm	＿５１.７		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	＿.＿＿＿ g/cm³	細骨材１（粗砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	２.６０７ g/cm³	細骨材２（中砂）	２.４７１ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	２.５６８ g/cm³	細骨材３（細砂）	２.４２０ g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	２.５３６ g/cm³	フィラー	＿.＿＿＿ g/cm³
スクリーニングス	２.５１０ g/cm³	クラッシャラン	＿.＿＿＿ g/cm³

合成密度　２.５３４ g/cm³　有効密度　２.６２４ g/cm³

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　８０１

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類　１　１００
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

細骨材の種類　１　＿６５
２　＿３５
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

粗骨材の岩質　１２

フィラーの種類　１

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿.＿	2.36mm	＿３０.１
37.5mm	＿＿＿.＿	600μm	＿１７.３
26.5mm	１００.０	300μm	＿＿９.４
19mm	＿９９.６	150μm	＿＿６.２
13.2mm	＿８１.７	75μm	＿＿４.４
4.75mm	＿４６.８		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	＿.＿＿＿ g/cm³	細骨材１（粗砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	２.６０７ g/cm³	細骨材２（中砂）	２.４７１ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	２.５６８ g/cm³	細骨材３（細砂）	２.４２０ g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	２.５３６ g/cm³	フィラー	２.６９７ g/cm³
スクリーニングス	２.５１０ g/cm³	クラッシャラン	＿.＿＿＿ g/cm³

合成密度　２.５５０ g/cm³　有効密度　２.６３２ g/cm³

様式A－4－1　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　8 0 1

層番号　＿ 5 、＿ ＿ 、＿ ＿　（様式A－1－3参照）

粗骨材の種類　1　1 0 0　　細骨材の種類　1　＿ 6 8
＿　＿ ＿ ＿　　2　＿ 3 2
＿　＿ ＿ ＿　　＿　＿ ＿ ＿
＿　＿ ＿ ＿　　＿　＿ ＿ ＿

粗骨材の岩質　1 2　　フィラーの種類　1

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿ ＿ ＿ . ＿	2.36mm	＿ 4 3 . 6
37.5mm	＿ ＿ ＿ . ＿	600μm	＿ 2 5 . 3
26.5mm	＿ ＿ ＿ . ＿	300μm	＿ 1 3 . 6
19mm	1 0 0 . 0	150μm	＿ ＿ 8 . 5
13.2mm	＿ 9 9 . 7	75μm	＿ ＿ 6 . 3
4.75mm	＿ 6 3 . 5		

骨材のかさ密度

粗骨材1（4号砕石）	＿ . ＿ ＿ ＿ g/cm³	細骨材1（粗砂）	＿ . ＿ ＿ ＿ g/cm³
粗骨材2（5号砕石）	＿ . ＿ ＿ ＿ g/cm³	細骨材2（中砂）	2 . 4 7 1 g/cm³
粗骨材3（6号砕石）	2 . 5 6 8 g/cm³	細骨材3（細砂）	2 . 4 2 0 g/cm³
粗骨材4（7号砕石）	2 . 5 3 6 g/cm³	フィラー	2 . 6 9 7 g/cm³
スクリーニングス	2 . 5 1 0 g/cm³	クラッシャラン	＿ . ＿ ＿ ＿ g/cm³

合成密度　2 . 5 3 0 g/cm³　有効密度　2 . 6 2 1 g/cm³

様式Ａ－４－２　アスファルトの性状（原アスファルト）　調査区間番号　８０１

層番号　＿３、＿４、＿５、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

針入度区分　＿６０～＿８０

アスファルトの製造元　日本アスファルト(株)

密度　１.０３０ g/cm³

60℃粘度　＿＿２００３ poise

135℃粘度　＿４１０ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm または ☒ １００＋

4℃伸度　＿０.０ cm

4℃伸度の伸長速度　＿５ cm/min

25℃針入度　＿７０

4℃針入度　＿２３

軟化点　＿４９ ℃

添加剤　商品名

添加剤の添加量　＿＿＿ %

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　８０１

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿４４０９ poise　　135℃粘度　＿６３１ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０.０ cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５ cm/min

25℃針入度　＿４１　　4℃針入度　＿２０

軟化点　＿５４ ℃

質量変化率　０.０８

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿４１　　4℃針入度　＿２５

60℃粘度　＿＿６３９１ poise　　135℃粘度　＿８２６ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　８０１

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿４４０９ poise　　135℃粘度　＿６３１ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０．０ cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５　cm/min

25℃針入度　＿４１　　4℃針入度　＿２０

軟化点　＿５４℃

質量変化率　０．０８

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿５１　　4℃針入度　＿２９

60℃粘度　＿＿４１３４ poise　　135℃粘度　＿６８０ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　８０１

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿４４０９ poise　　135℃粘度　＿６３１ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０．０ cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５　cm/min

25℃針入度　＿４１　　4℃針入度　＿２０

軟化点　＿５４ ℃

質量変化率　０．０８

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿４２　　4℃針入度　＿２４

60℃粘度　＿＿６２３１ poise　　135℃粘度　＿７２１ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　８０１

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．２６１ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．４７１ g/cm³

アスファルト量　４．０ ％

空隙率　＿９．０ ％

骨材間隙率　１７．７ ％

有効アスファルト量　＿４．０ ％

突き固め回数　＿＿ 回

マーシャル安定度　＿７４１ kg

フロー値　＿３１ (1/100cm)

ビーム安定度　＿５７．７

ビーム粘着度　＿１０５．７

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　８　０　１

層番号　＿　４　、＿　＿　、＿　＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３３８ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．４４２ g/cm³

アスファルト量　５．０ ％

空隙率　＿　４．３ ％

骨材間隙率　１５．６ ％

有効アスファルト量　＿　５．０ ％

突き固め回数　＿　＿ 回

マーシャル安定度　１２３１ kg

フロー値　＿　３０ (1/100cm)

ビーム安定度　＿　５６．９

ビーム粘着度　＿　２１２．１

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　８０１

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３１４ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．４１２ g/cm³

アスファルト量　５．６ %

空隙率　＿４．５ %

骨材間隙率　１７．０ %

有効アスファルト量　＿５．６ %

突き固め回数　＿＿回

マーシャル安定度　１１７５ kg

フロー値　＿２７ (1/100cm)

ビーム安定度　＿５６．８

ビーム粘着度　＿２６０．２

様式Ａ－４－５　アスファルト混合物の性状（配合試験２）調査区間番号　８０１

層番号　＿３、＿４、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の剥離試験結果（剥離率）　＿＿５

剥離防止材の種類　商品名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

剥離防止材の添加量　＿＿.＿％

アスファルトプラントの形式　１

ホイールトラッキング試験結果　＿＿＿＿回/mm

スパイクラベリング試験結果　＿＿＿＿mm²

様式Ａ－４－５　アスファルト混合物の性状（配合試験２）調査区間番号　８０１

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の剝離試験結果（剝離率）　＿＿５

剝離防止材の種類　商品名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

剝離防止材の添加量　＿＿．＿％

アスファルトプラントの形式　１

ホイールトラッキング試験結果　＿９００回/mm

スパイクラベリング試験結果　＿＿＿＿mm²

様式A－4－6　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　8 0 1

層番号　＿3、＿＿、＿＿　（様式A－1－3参照）

かさ密度　2.261 g/cm³

アスファルト量　4.0 %

空隙率　＿8.5 %

骨材間隙率　17.3 %

マーシャル安定度　＿811 kg

フロー値　＿28 (1/100cm)

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　８０１

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３３５ g/cm³

アスファルト量　５．０ %

空隙率　＿４．４ %

骨材間隙率　１５．７ %

マーシャル安定度　１１０３ kg

フロー値　＿３０ (1/100cm)

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　８０１

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３１４ g/cm³

アスファルト量　５．６ %

空隙率　＿４．１ %

骨材間隙率　１６．７ %

マーシャル安定度　１１９０ kg

フロー値　＿２９ (1/100cm)

様式Ａ－４－７　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　８０１

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．２５４ g/cm³

最大比重　２．４６４ g/cm³

空隙率　＿８．５ %

アスファルト量　３．９ %

骨材間隙率　１７．０ %

様式A－4－7　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　8 0 1

層番号　＿4、＿＿、＿＿　（様式A－1－3参照）

かさ密度　2.3 6 1 g/cm³

最大比重　2.4 3 9 g/cm³

空隙率　＿3.2 %

アスファルト量　5.4 %

骨材間隙率　1 5.7 %

様式Ａ－４－７　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　８　０　１

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．２８４ g/cm³

最大比重　２．４３６ g/cm³

空隙率　＿６．２ %

アスファルト量　５．６ %

骨材間隙率　１８．６ %

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　８０１

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	３９４８２	２.２６４
＿＿＿	＿＿５.０	３９４００	２.２５７
＿＿＿	＿＿５.０	３４９５０	２.２４１
＿＿＿	＿２５.０	１０８２２	２.２６４
＿＿＿	＿２５.０	１０４０７	２.２５７
＿＿＿	＿２５.０	１０４８４	２.２４１
＿＿＿	＿４０.０	＿５２３２	２.２６４
＿＿＿	＿４０.０	＿４６４０	２.２５７
＿＿＿	＿４０.０	＿５０５８	２.２４１
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　８０１

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	５１６８１	２.３４８
＿＿＿	＿＿５.０	５８５８３	２.３６７
＿＿＿	＿＿５.０	５２２０２	２.３６８
＿＿＿	＿２５.０	１５１１３	２.３４７
＿＿＿	＿２５.０	１６０１５	２.３６７
＿＿＿	＿２５.０	１５７３３	２.３６８
＿＿＿	＿４０.０	＿６６０４	２.３４８
＿＿＿	＿４０.０	＿６５７１	２.３６７
＿＿＿	＿４０.０	＿６０１８	２.３６８
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　８０１

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	４７６９９	２.２８４
＿＿＿	＿＿５.０	４４５９８	２.２６１
＿＿＿	＿＿５.０	５６３２１	２.３０６
＿＿＿	＿２５.０	１３３４１	２.２８４
＿＿＿	＿２５.０	１０４１７	２.２６１
＿＿＿	＿２５.０	１３６９６	２.３０６
＿＿＿	＿４０.０	＿５４４０	２.２８４
＿＿＿	＿４０.０	＿４６１３	２.２６１
＿＿＿	＿４０.０	＿６５２８	２.３０６
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　８０１

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿１３.４
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿１６.０
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿１２.８
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿５.０
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿４.７
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿４.７
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿１.５
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿１.３
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿１.３
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　８０１

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２９.６
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿３１.０
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２５.７
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿７.９
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿７.１
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿６.３
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.１
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.０
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.０
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　８０１

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２７.８
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿１７.１
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿３１.１
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿７.７
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿５.４
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿８.２
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿１.８
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.６
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.３
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

S H R P
新 基 準 調 査

初 期 調 査 デ ー タ

１１号 西条バイパス

様式Ａ－１－１　一般データ　　調査区間番号　８０２

地建番号　８

報告年月　平成　２　年　４　月

担当部局　四国地方建設局　松山工事事務所　　内線　４１５

調査区間の地名　愛媛県西条市飯岡

路線番号　１１

調査種別　１

調査方向　□上り　☒下り

距離標　１８４ｋ３７０～１８４ｋ６７０

（ＫＰ未定の場合No.＿＿＿＿＋＿＿～＿＿＿＿＋＿＿）

様式Ａ－１－２　舗装構造データ　　調査区間番号　８０２

舗装の種別　１

調査方向の車線数　１

車線幅　３２５　cm

調査対象車線　第　１　車線

路肩の幅　＿７５　cm

路肩の路面の種類　３

路肩の路盤の種類　２３

路肩の表層・基層の厚さ　２０　cm

路肩の路盤の厚さ　＿２０　cm

地下排水工の種類　１，＿

縦断方向の配水管の内径　＿＿＿＿　mm

排水工の位置　＿

配水管の間隔　＿＿＿＿　cm

様式Ａ－１－３　舗装構成データ　　調査区間番号　８０２

層の数　５

番号	層の名称	層の厚さ（mm）				材料
		最　大	最　小	平　均	標準偏差	
1	7					55
2	6	229	188	202	13.00	23
3	4	110	95	101	4.00	31
4	4	55	47	51	2.00	2
5	3	55	48	52	2.00	1
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						

舗装の等値換算厚 T_A　　25.0 cm

舗装厚H　　40.0 cm

高支持力層までの深さ　　　m

盛土厚さ　　155 cm

様式A－1－4　施工関係データ　　調査区間番号　8 0 2

施工年月　平成 _ 2 年 _ 3 月

交通開放（予定）年月　平成 _ 2 年 _ 6 月

施工費用　_ _ 2 2 百万円／km・車線

打換え年月　平成 _ _ 年 _ _ 月

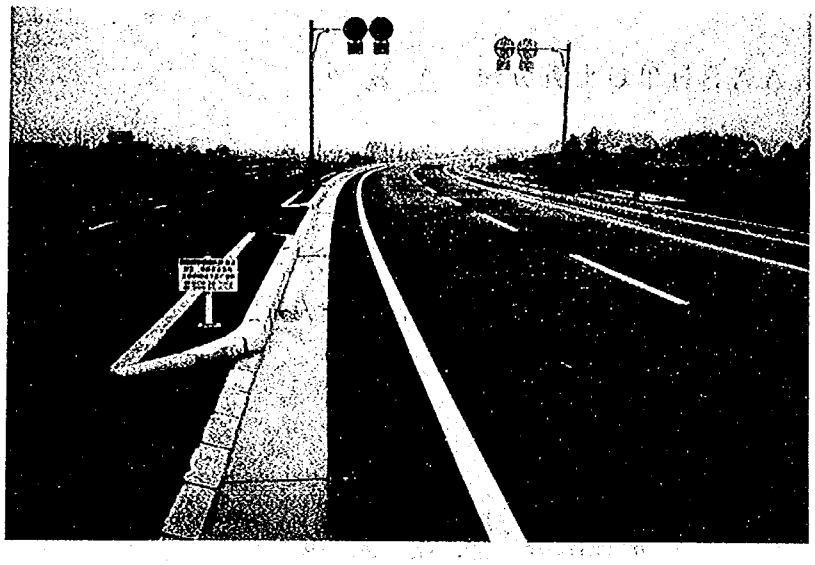
拡幅年月　平成 _ _ 年 _ _ 月

当初の車線数　_ 車線

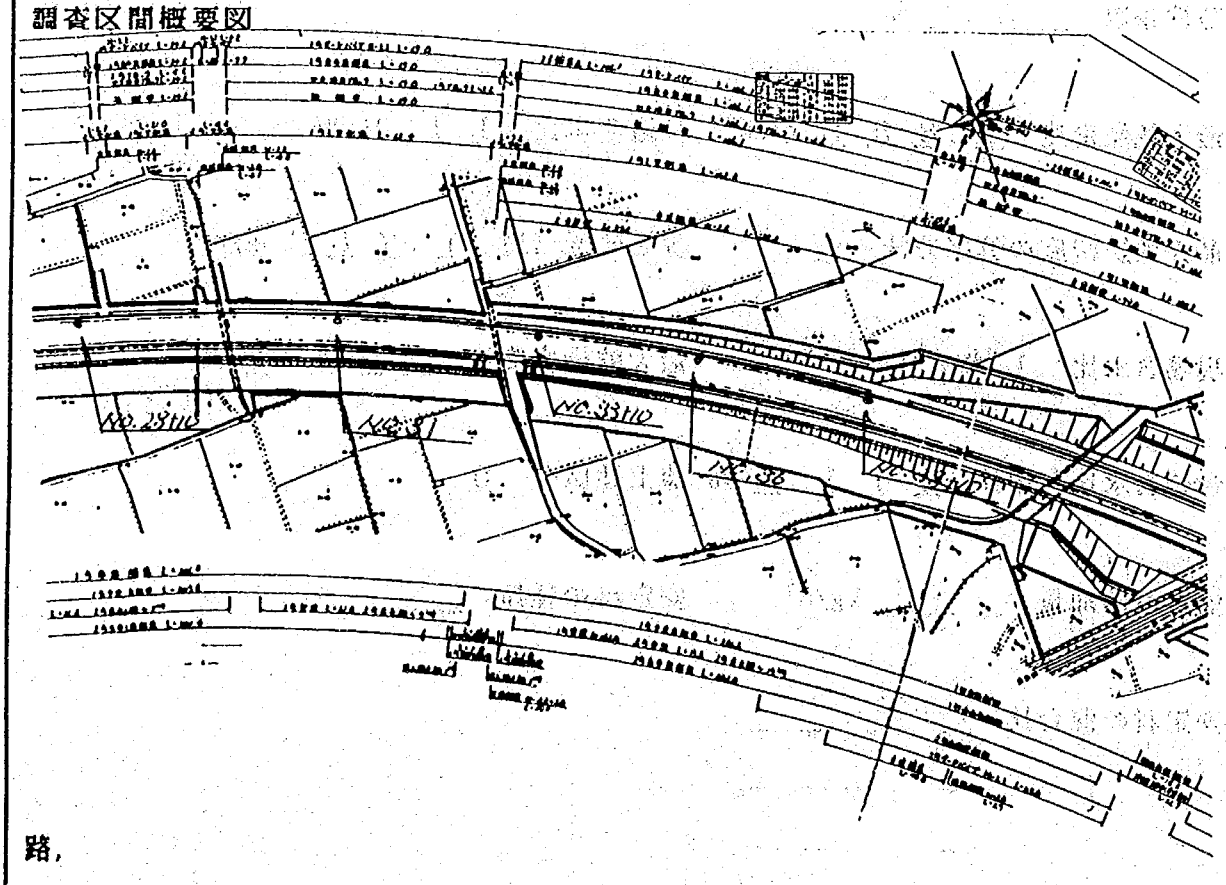
最終的な車線数　_ 車線

追加車線数　_ 車線

様式Ａ－１－５　調査区間概要図　　調査区間番号　８０２



調査区間概要図



路，

様式Ａ－２－１　路床土に関する基礎データ　　調査区間番号　８０２

層番号　＿１、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

土質分類　＿ＧＣ　　ＡＡＳＨＴＯ土質分類　Ａ２４

ＣＢＲ　平均値　＿２０．９　区間のＣＢＲ　＿１８．８

Ｓ値　＿８．２７　Ｋ値　＿２４．２ kg/cm³

75μmふるい通過量　２１．８ %

塑性限界　１３．７ %　液性限界　２２．２ %

塑性指数　＿８．５ %

最大乾燥密度　１．８９２ g/cm³　最適含水比　１１．８ %

最大乾燥密度の算出方法　１　現場乾燥密度　１．７８１ g/cm³

現場含水比　１３．２ %　最大乾燥密度比　＿９４．１ %

最適含水比との比　１１１．９ %　凍上性区分　３

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿

＿　＿＿＿

＿　＿＿＿

様式Ａ－２－２　弾性係数の測定（路床土）　　調査区間番号　８０２

層番号　＿２、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試料採取位置 KP＿＿＿ｋ＿＿＿（KPが未定の場合　No.　＿＿＿＿＋＿＿）

供試体数　＿２　　ＡＡＳＨＴＯ土質分類　＿＿＿

含水比　＿１２．２％　　乾燥密度　１．８９５ g/cm³

試験の結果

側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
＿０．４４	＿０．６６	２２１１
＿０．２５	＿０．４０	１２５９
＿０．１４	＿０．２９	１３１０
＿０．４３	＿０．７４	１６３３
＿０．２４	＿０．５５	１３４６
＿０．１２	＿０．４３	１２３２
＿０．４３	＿１．０２	１２８９
＿０．２５	＿０．８５	１３０５
＿０．１２	＿０．７１	１３５４
＿０．４３	＿１．１３	１１６３
＿０．２４	＿０．９３	１１０９
＿０．１２	＿０．８０	１０１９
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿

回帰式　　log E = log A + B x log(stress)

A = １２９７．５ 10^3kg/cm²　B = ０．１３１

様式Ａ－３－１　路盤材料の特性値　　調査区間番号　８０２

層番号　＿２、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

最大乾燥密度　２．１７１ g/cm³　最適含水比　＿５．６ %

最大乾燥密度の算出方法　１

現場乾燥密度　２．１２９ g/cm³　現場含水比　＿６．０ %

最大乾燥密度比　＿９８．１ %　最適含水比との比　１０７．１ %

平板載荷試験　＿３３．５ kg/cm³

425μmふるい通過量　＿８．５ %　75μmふるい通過量　＿３．４ %

路盤材料の修正ＣＢＲ　＿９３．０

路盤材料の一軸圧縮強度　＿＿．＿ kg/cm²

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿
　　＿　＿＿＿
　　＿　＿＿＿

様式Ａ－３－２　弾性係数の測定（路盤）　　調査区間番号　８０２

層番号　＿２、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

供試体数　＿２　含水比　＿＿３．８％　乾燥密度　２．０１１ g/cm³

試験の結果	側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
	＿１．４１	＿１．６０	３７４０
	＿１．４１	＿２．１５	２５２０
	＿１．４０	＿２．８３	２９６０
	＿１．１０	＿１．２９	３１２６
	＿１．１０	＿１．８９	２１６５
	＿１．１０	＿２．４８	２２４５
	＿０．７５	＿０．８６	４７１４
	＿０．７５	＿１．１２	２１４５
	＿０．７６	＿１．８１	１８１０
	＿０．３９	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿０．３９	＿０．７９	１６１８
	＿０．４１	＿１．４９	１６７２
	＿０．１４	＿０．２９	１２５０
	＿０．１４	＿０．５４	１４７０
	＿０．１４	＿０．８８	１５１１
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿

回帰式　$\log E = \log A + B \times \log(\text{stress})$

A = １４９１．１ 10^3kg/cm²　B = ０．３８０

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　８０２

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類　１　１００　　細骨材の種類　＿　＿＿＿

＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

粗骨材の岩質　１２　　フィラーの種類　＿

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	１００.０	2.36mm	＿３６.２
37.5mm	＿９５.３	600μm	＿＿＿.＿
26.5mm	＿８１.３	300μm	＿＿＿.＿
19mm	＿７５.２	150μm	＿＿＿.＿
13.2mm	＿６３.２	75μm	＿＿５.９
4.75mm	＿４８.２		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	＿.＿＿＿ g/cm³	細骨材１（粗砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	＿.＿＿＿ g/cm³	細骨材２（中砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	＿.＿＿＿ g/cm³	細骨材３（細砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	＿.＿＿＿ g/cm³	フィラー	＿.＿＿＿ g/cm³
スクリーニングス	＿.＿＿＿ g/cm³	クラッシャラン	２.５５７ g/cm³

合成密度　２.５５７ g/cm³　有効密度　２.６２８ g/cm³

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　８０２

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類　１　１００
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

細骨材の種類　１　＿６７
２　＿３３
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

粗骨材の岩質　２３　（安山岩）　　フィラーの種類　１

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿.＿	2.36mm	＿２９.８
37.5mm	＿＿＿.＿	600μm	＿１６.４
26.5mm	１００.０	300μm	＿＿９.５
19mm	＿９９.５	150μm	＿＿６.１
13.2mm	＿７９.１	75μm	＿＿４.２
4.75mm	＿４６.６		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	＿.＿＿＿ g/cm³	細骨材１（粗砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	２.６０７ g/cm³	細骨材２（中砂）	２.３７４ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	２.５８０ g/cm³	細骨材３（細砂）	２.４６５ g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	２.５３７ g/cm³	フィラー	２.７０７ g/cm³
スクリーニングス	２.４３７ g/cm³	クラッシャラン	＿.＿＿＿ g/cm³

合成密度　２.５４５ g/cm³　有効密度　２.６２７ g/cm³

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　８０２

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類		細骨材の種類	
1	1００	1	＿６８
＿	＿＿＿	2	＿３２
＿	＿＿＿	＿	＿＿＿
＿	＿＿＿	＿	＿＿＿

粗骨材の岩質　２３　（安山岩）　　フィラーの種類　１

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿．＿	2.36mm	＿４４．４
37.5mm	＿＿＿．＿	600μm	＿２４．４
26.5mm	＿＿＿．＿	300μm	＿１３．９
19mm	１００．０	150μm	＿＿８．７
13.2mm	＿９７．８	75μm	＿＿６．２
4.75mm	＿６３．５		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	＿．＿＿＿ g/cm³	細骨材１（粗砂）	＿．＿＿＿ g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	＿．＿＿＿ g/cm³	細骨材２（中砂）	２．３７４ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	２．５８０ g/cm³	細骨材３（細砂）	２．４６５ g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	２．５３７ g/cm³	フィラー	２．７０７ g/cm³
スクリーニングス	２．４３７ g/cm³	クラッシャラン	＿．＿＿＿ g/cm³

合成密度　２．５１９ g/cm³　有効密度　２．６０９ g/cm³

様式Ａ－４－２　アスファルトの性状（原アスファルト）　調査区間番号　８０２

層番号　＿３、＿４、＿５、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

針入度区分　＿６０～＿８０

アスファルトの製造元　富士興産(株)

密度　１．０３４ g/cm³

60℃粘度　＿＿２２７０ poise

135℃粘度　＿４３０ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm または ☒ １００＋

4℃伸度　＿０．５ cm

4℃伸度の伸長速度　＿５ cm/min

25℃針入度　＿７３

4℃針入度　＿２６

軟化点　＿４９ ℃

添加剤　商品名

添加剤の添加量　＿＿＿ %

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　８０２

層番号　＿３、＿４、＿５　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　＿

60℃粘度　＿＿＿＿＿＿poise　　135℃粘度　＿＿＿＿cSt

25℃伸度　＿＿＿　cm　または　□　１００＋

4℃伸度　＿＿.＿　cm　　4℃伸度の伸長速度　＿＿　cm/min

25℃針入度　＿＿＿　　4℃針入度　＿＿＿

軟化点　＿＿＿℃

質量変化率　＿.＿＿

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿＿＿　　4℃針入度　＿＿＿

60℃粘度　＿＿＿＿＿＿poise　　135℃粘度　＿＿＿＿cSt

25℃伸度　＿＿＿　cm　または　□　１００＋

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　８０２

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿５１３０ poise　　135℃粘度　＿６２９ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０．５ cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５ cm/min

25℃針入度　＿３６　　4℃針入度　＿２０

軟化点　＿５６ ℃

質量変化率　０．０１

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿３４　　4℃針入度　＿２０

60℃粘度　＿＿７６４０ poise　　135℃粘度　＿７５８ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　８　０　２

層番号　＿　４　、＿　＿　、＿　＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿　＿　＿　＿　＿　＿　poise　　135℃粘度　＿　＿　＿　＿　cSt

25℃伸度　＿　＿　＿　cm　または　□　１００＋

4℃伸度　＿　＿．＿　cm　　4℃伸度の伸長速度　＿　５　cm/min

25℃針入度　＿　＿　＿　　4℃針入度　＿　＿　＿

軟化点　＿　＿　＿　℃

質量変化率　＿．＿　＿

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿　３　４　　4℃針入度　＿　２　３

60℃粘度　＿　＿　４　２　６　０　poise　　135℃粘度　＿　５　９　２　cSt

25℃伸度　＿　＿　＿　cm　または　☒　１００＋

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　８０２

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿＿＿＿＿ poise　　135℃粘度　＿＿＿＿ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　□　１００＋

4℃伸度　＿＿.＿ cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５　cm/min

25℃針入度　＿＿＿　　4℃針入度　＿＿＿

軟化点　＿＿＿℃

質量変化率　＿.＿＿

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿３４　　4℃針入度　＿２０

60℃粘度　＿＿４８４０ poise　　135℃粘度　＿６１９ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　８０２

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．２５７ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．４７５ g/cm³

アスファルト量　４．０ %

空隙率　＿８．８ %

骨材間隙率　１７．５ %

有効アスファルト量　＿４．０ %

突き固め回数　５０ 回

マーシャル安定度　＿８１１ kg

フロー値　＿２８ (1/100cm)

ビーム安定度　＿４６．４

ビーム粘着度　＿３７７．０

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　８０２

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３４０ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．４４３ g/cm³

アスファルト量　４．９ %

空隙率　＿４．２ %

骨材間隙率　１５．３ %

有効アスファルト量　＿４．９ %

突き固め回数　７５ 回

マーシャル安定度　１１４４ kg

フロー値　＿３０ (1/100cm)

ビーム安定度　＿３９．３

ビーム粘着度　＿２６５．０

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　８０２

層番号　＿５、＿＿、＿５　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３０７ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．３９７ g/cm³

アスファルト量　５．８ %

空隙率　＿３．７ %

骨材間隙率　１６．６ %

有効アスファルト量　＿５．８ %

突き固め回数　７５ 回

マーシャル安定度　１０９０ kg

フロー値　＿２７ (1/100cm)

ビーム安定度　＿４０．３

ビーム粘着度　＿３４２．２

様式Ａ－４－５　アスファルト混合物の性状（配合試験２）調査区間番号　８０２

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の剝離試験結果（剝離率）　＿１６

剝離防止材の種類　商品名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

剝離防止材の添加量　＿＿．＿％

アスファルトプラントの形式　１

ホイールトラッキング試験結果　＿＿＿＿回/mm

スパイクラベリング試験結果　＿＿＿＿mm²

様式A－4－5 アスファルト混合物の性状（配合試験2）調査区間番号 8 0 2

層番号 ＿ 4 、＿ ＿、＿ ＿ （様式A－1－3参照）

粗骨材の剝離試験結果（剝離率） ＿ 1 7

剝離防止材の種類 商品名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

剝離防止材の添加量 ＿ ＿ ・＿ %

アスファルトプラントの形式 1

ホイールトラッキング試験結果 1 4 7 0 回/mm

スパイクラベリング試験結果 ＿ ＿ ＿ ＿ mm²

様式Ａ－４－５　アスファルト混合物の性状（配合試験２）調査区間番号　８０２

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の剥離試験結果（剥離率）　＿＿９

剥離防止材の種類　商品名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

剥離防止材の添加量　＿＿．＿％

アスファルトプラントの形式　１

ホイールトラッキング試験結果　＿８４０回/mm

スパイクラベリング試験結果　＿＿＿＿mm²

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　８０２

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．２６４ g/cm³

アスファルト量　４．０ %

空隙率　＿８．５ %

骨材間隙率　１７．３ %

マーシャル安定度　＿８１７ kg

フロー値　＿２７ (1/100cm)

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　８０２

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３３５ g/cm³

アスファルト量　４．９ %

空隙率　＿４．４ %

骨材間隙率　１５．５ %

マーシャル安定度　１１０３ kg

フロー値　＿２８ (1/100cm)

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　８０２

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３０９ g/cm³

アスファルト量　５．８ %

空隙率　＿３．７ %

骨材間隙率　１６．７ %

マーシャル安定度　１１２０ kg

フロー値　＿３１ (1/100cm)

様式Ａ－４－７　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　８０２

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３３２ g/cm³

最大比重　２．５２３ g/cm³

空隙率　＿７．６ %

アスファルト量　４．０ %

骨材間隙率　１６．６ %

様式Ａ－４－７　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　８０２

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３８３ g/cm³

最大比重　２．４８５ g/cm³

空隙率　＿４．１ %

アスファルト量　４．９ %

骨材間隙率　１５．５ %

様式Ａ－４－７　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　８０２

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３２１ g/cm³

最大比重　２．４４９ g/cm³

空隙率　＿５．３％

アスファルト量　５．９％

骨材間隙率　１８．４％

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　８０２

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	３４３５０	２.３０７
＿＿＿	＿＿５.０	３９４００	２.３２７
＿＿＿	＿＿５.０	３８８５０	２.３６１
＿＿＿	＿２５.０	１５４５０	２.３０７
＿＿＿	＿２５.０	１７８００	２.３２７
＿＿＿	＿２５.０	１１５９５	２.３６１
＿＿＿	＿４０.０	＿４３５０	２.３０７
＿＿＿	＿４０.０	＿５７６５	２.３２７
＿＿＿	＿４０.０	＿５６７５	２.３６１
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　８０２

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	４１３５０	２.３９０
＿＿＿	＿＿５.０	３５５５０	２.３７７
＿＿＿	＿＿５.０	４８６００	２.３８２
＿＿＿	＿２５.０	１９０５０	２.３９０
＿＿＿	＿２５.０	１３３５０	２.３７７
＿＿＿	＿２５.０	１５５５０	２.３８２
＿＿＿	＿４０.０	＿３４２０	２.３９０
＿＿＿	＿４０.０	＿４０１５	２.３７７
＿＿＿	＿４０.０	＿４８３０	２.３８２
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　８０２

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	４１１００	２.３２８
＿＿＿	＿＿５.０	４２５５０	２.３２８
＿＿＿	＿＿５.０	４５９５０	２.３０６
＿＿＿	＿２５.０	１７５００	２.３２８
＿＿＿	＿２５.０	１５４００	２.３２８
＿＿＿	＿２５.０	１３６５０	２.３０６
＿＿＿	＿４０.０	＿２８４５	２.３２８
＿＿＿	＿４０.０	＿４４３５	２.３２８
＿＿＿	＿４０.０	＿３６９０	２.３０６
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　８０２

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２４.８
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿３６.９
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿３７.１
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿９.０
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿８.１
＿＿＿	＿２５.０	＿＿１１.１
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿４.７
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿５.０
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿３.９
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　８０２

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿３１.１
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２８.９
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２６.７
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿６.６
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿７.６
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿７.２
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.４
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.６
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.８
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　８０２

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿１１.０
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿１６.１
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２１.８
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿６.７
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿８.０
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿６.０
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.１
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.４
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.１
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

S H R P

新 基 準 調 査

初 期 調 査 デ ー タ

５５号　徳島南バイパス

様式Ａ－１－１　一般データ　　調査区間番号　８０３

地建番号　８

報告年月　平成＿２　年＿４　月

担当部局　四国地方建設局　　内線＿＿＿＿

調査区間の地名　徳島県小松島市田野町赤石南

路線番号　＿５５

調査種別　１

調査方向　□上り　☒下り

距離標　＿＿＿ｋ＿＿＿＿～＿＿＿＿ｋ＿＿＿

（ＫＰ未定の場合No.＿＿＿＿＋＿＿～＿＿＿＿＋＿＿）

様式Ａ－１－２　舗装構造データ　　調査区間番号　８０３

舗装の種別　１

調査方向の車線数　１

車線幅　３２５　cm

調査対象車線　第１車線

路肩の幅　＿５０　cm

路肩の路面の種類　３

路肩の路盤の種類　２３

路肩の表層・基層の厚さ　１０　cm

路肩の路盤の厚さ　＿２５　cm

地下排水工の種類　１，＿

縦断方向の配水管の内径　＿＿＿＿　mm

排水工の位置　＿

配水管の間隔　＿＿＿＿　cm

様式Ａ－１－３　舗装構成データ　　調査区間番号　８０３

層の数　５

番号	層の名称	層の厚さ（mm）				材料
		最　大	最　小	平　均	標準偏差	
1	7					63
2	6			255		23
3	4			123		31
4	4			53		2
5	3			55		1
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						

舗装の等値換算厚 T_A　　25.9 cm

舗装厚Ｈ　　47.0 cm

高支持力層までの深さ　　28 m

盛土厚さ　　300 cm

様式Ａ－１－４　施工関係データ　　調査区間番号　８０３

施工年月　平成 __ 3 年 __ 3 月

交通開放（予定）年月　平成 __ 3 年 __ 3 月

施工費用　__ __ __ __ 百万円／km・車線

打換え年月　平成 __ __ 年 __ __ 月

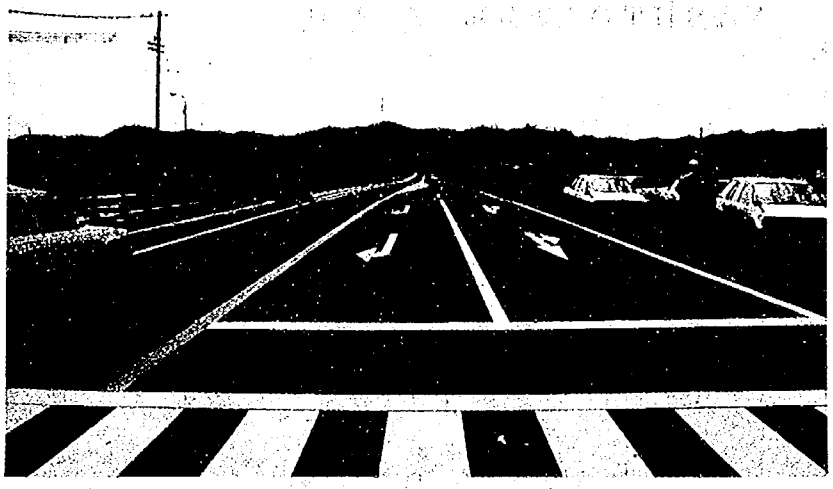
拡幅年月　　平成 __ __ 年 __ __ 月

当初の車線数　__ 車線

最終的な車線数　__ 車線

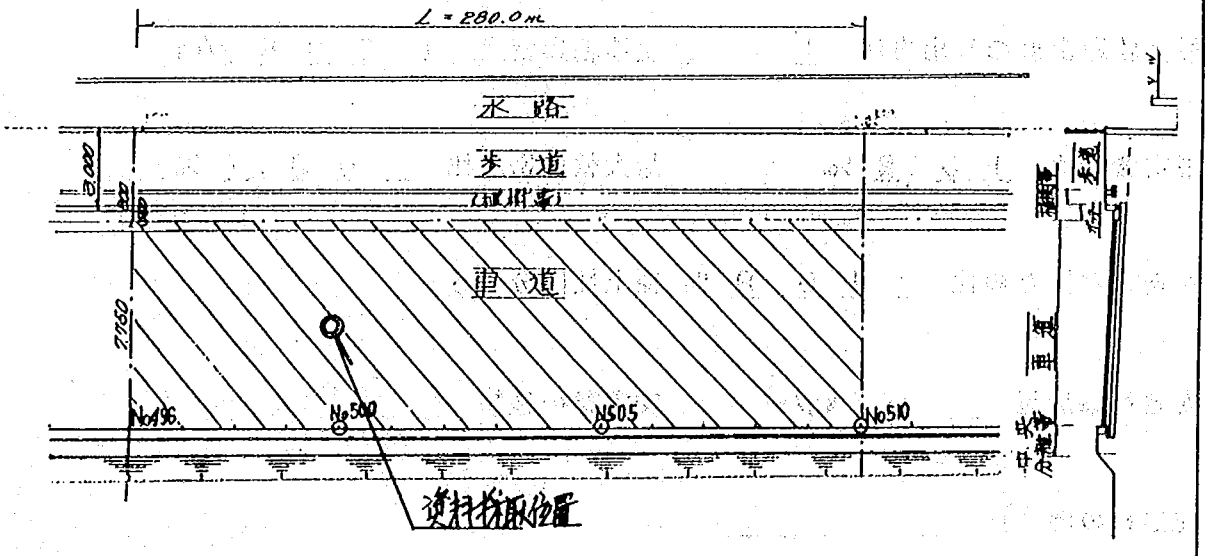
追加車線数　__ 車線

様式A－1－5　調査区間概要図　　調査区間番号　８０３



調査区間概要図

平面図



路床路盤材料の採取位置を示すこと。

様式Ａ－２－１　路床土に関する基礎データ　　調査区間番号　８０３

層番号　＿１、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１～３参照）

土質分類　＿ＳＣ　　ＡＡＳＨＴＯ土質分類　Ａ２６

ＣＢＲ　平均値　＿１５．４　区間のＣＢＲ　＿＿＿．＿

Ｓ値　＿９．７６　Ｋ値　＿３６．０ kg/cm³

75μmふるい通過量　３７．０％

塑性限界　２２．１％　液性限界　３９．０％

塑性指数　１６．９％

最大乾燥密度　１．８５４ g/cm³　最適含水比　１１．９％

最大乾燥密度の算出方法　１　現場乾燥密度　１．７３８ g/cm³

現場含水比　１３．２％　最大乾燥密度比　＿９３．７％

最適含水比との比　１１０．９％　凍上性区分　５

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

様式Ａ－２－２　弾性係数の測定（路床土）　　調査区間番号　８０３

層番号　＿１、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試料採取位置 KP＿＿＿k＿＿＿（KPが未定の場合　No.　＿＿＿＿＋＿＿）

供試体数　＿２　　ＡＡＳＨＴＯ土質分類　＿＿＿

含水比　＿１２．１％　　乾燥密度　１．８４７ g/cm³

試験の結果

側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
０．４１	０．５６	２２３３
０．２１	０．３４	１８６７
０．００	０．１４	１３７３
０．４１	０．６９	１９８０
０．２１	０．４９	１６７５
０．００	０．２９	１２９２
０．４１	０．９７	１５２８
０．２１	０．７６	１３５９
０．００	０．５６	１１１８
０．４１	１．１０	１５４８
０．２１	０．９１	１３０７
０．００	０．６９	１１３６
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿

回帰式　　log E = log A + B x log(stress)

A = １５２９．０ 10^3kg/cm²　B = ０．１１５

様式Ａ－３－１　路盤材料の特性値　　調査区間番号　８０３

層番号　＿２、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

最大乾燥密度　２．０６１ g/cm³　最適含水比　＿４．７ %

最大乾燥密度の算出方法　１

現場乾燥密度　２．０３５ g/cm³　現場含水比　＿４．９ %

最大乾燥密度比　＿９８．７ %　最適含水比との比　１０４．３ %

平板載荷試験　＿４１．６ kg/cm³

425μmふるい通過量　＿７．０ %　75μmふるい通過量　＿３．０ %

路盤材料の修正ＣＢＲ　＿８７．０

路盤材料の一軸圧縮強度　＿＿．＿ kg/cm²

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿
　　＿　＿＿＿
　　＿　＿＿＿

様式A－3－2　弾性係数の測定（路盤）　　調査区間番号　8 0 3

層番号　＿2＿、＿＿、＿＿　（様式A－1－3参照）

供試体数　＿＿　含水比　＿＿＿.＿％　乾燥密度　＿.＿＿＿g/cm³

試験の結果	側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿

回帰式　$\log E = \log A + B \times \log(\text{stress})$

A = ＿＿＿＿.＿ 10^3kg/cm²　B = ＿.＿＿

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　８０３

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類　１　１００　　細骨材の種類　１　１００

＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

粗骨材の岩質　＿＿　　フィラーの種類　１

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿．＿	2.36mm	＿４０．０
37.5mm	１００．０	600μm	＿＿＿．＿
26.5mm	＿＿＿．＿	300μm	＿＿＿．＿
19mm	＿８３．２	150μm	＿＿＿．＿
13.2mm	＿＿＿．＿	75μm	＿＿５．１
4.75mm	＿＿＿．＿		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	＿．＿＿＿ g/cm³	細骨材１（粗砂）	２．４９６ g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	２．５０６ g/cm³	細骨材２（中砂）	＿．＿＿＿ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	２．６０２ g/cm³	細骨材３（細砂）	２．５０５ g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	２．５８６ g/cm³	フィラー	２．７１０ g/cm³
スクリーニングス	＿．＿＿＿ g/cm³	クラッシャラン	＿．＿＿＿ g/cm³

合成密度　２．５３２ g/cm³　有効密度　２．４３９ g/cm³

様式Ａ－４－1　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　８０３

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類	1	100	細骨材の種類	1	100
	―	―		―	―
	―	―		―	―
	―	―		―	―

粗骨材の岩質　＿＿　　フィラーの種類　1

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿.＿	2.36mm	＿28.1
37.5mm	＿＿＿.＿	600μm	＿18.7
26.5mm	100.0	300μm	＿11.0
19mm	＿99.0	150μm	＿＿6.3
13.2mm	＿80.1	75μm	＿＿5.0
4.75mm	＿45.2		

骨材のかさ密度

粗骨材1（4号砕石）	＿.＿＿g/cm³	細骨材1（粗砂）	2.496 g/cm³
粗骨材2（5号砕石）	2.620 g/cm³	細骨材2（中砂）	＿.＿＿ g/cm³
粗骨材3（6号砕石）	2.602 g/cm³	細骨材3（細砂）	2.505 g/cm³
粗骨材4（7号砕石）	2.586 g/cm³	フィラー	＿.＿＿ g/cm³
スクリーニングス	＿.＿＿ g/cm³	クラッシャラン	2.710 g/cm³

合成密度　2.584 g/cm³　有効密度　2.665 g/cm³

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　８０３

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類　１　１００　　細骨材の種類　１　１００

＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

粗骨材の岩質　＿＿　　フィラーの種類　１

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿.＿	2.36mm	＿４２.５
37.5mm	＿＿＿.＿	600μm	＿２８.２
26.5mm	＿＿＿.＿	300μm	＿１５.７
19mm	１００.０	150μm	＿＿８.０
13.2mm	＿９７.３	75μm	＿＿６.１
4.75mm	＿６４.６		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	＿.＿＿＿ g/cm³	細骨材１（粗砂）	２.４９６ g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	＿.＿＿＿ g/cm³	細骨材２（中砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	２.６０２ g/cm³	細骨材３（細砂）	２.５０５ g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	２.５８６ g/cm³	フィラー	２.７１０ g/cm³
スクリーニングス	＿.＿＿＿ g/cm³	クラッシャラン	＿.＿＿＿ g/cm³

合成密度　２.５５６ g/cm³　有効密度　２.６５４ g/cm³

様式Ａ－４－２　アスファルトの性状（原アスファルト）　調査区間番号　８０３

層番号　＿３、＿４、＿５、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

針入度区分　＿６０～＿８０

アスファルトの製造元　日本アスファルト(株)

密度　１．０３４ g/cm³

60℃粘度　＿＿２７３１ poise

135℃粘度　＿４４２ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　□　１００＋

4℃伸度　＿０．０　cm

4℃伸度の伸長速度　＿５　cm/min

25℃針入度　＿６２

4℃針入度　＿２４

軟化点　＿４９℃

添加剤　商品名

添加剤の添加量　＿＿＿％

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　８０３

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿５９７３ poise　　135℃粘度　＿６１８ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０.０ cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５ cm/min

25℃針入度　＿４５　　4℃針入度　＿２０

軟化点　＿５４ ℃

質量変化率　０.１１

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿３４　　4℃針入度　＿１８

60℃粘度　＿１２３８７ poise　　135℃粘度　＿８３５ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　８０３

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿５９７３ poise　　135℃粘度　＿６１８ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０．０ cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５　cm/min

25℃針入度　＿４５　　4℃針入度　＿２０

軟化点　＿５４ ℃

質量変化率　０．１１

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿３５　　4℃針入度　＿１８

60℃粘度　＿１２８８０ poise　　135℃粘度　＿８０４ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　８０３

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿５９７３ poise　　135℃粘度　＿６１８ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０．０ cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５ cm/min

25℃針入度　＿４５　　4℃針入度　＿２０

軟化点　＿５４ ℃

質量変化率　０．１１

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿３６　　4℃針入度　＿１８

60℃粘度　＿１１８９１ poise　　135℃粘度　＿７９４ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　８０３

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．２７２ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．４８０ g/cm³

アスファルト量　４．０ %

空隙率　＿８．４ %

骨材間隙率　１７．２ %

有効アスファルト量　＿４．０ %

突き固め回数　７５ 回

マーシャル安定度　＿７３０ kg

フロー値　＿２９ (1/100cm)

ビーム安定度　＿５７．０

ビーム粘着度　＿２８２．８

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　８０３

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３３８ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．４６６ g/cm³

アスファルト量　５．１ %

空隙率　＿５．１ %

骨材間隙率　１６．６ %

有効アスファルト量　＿５．１ %

突き固め回数　７５ 回

マーシャル安定度　１０５０ kg

フロー値　＿３７ (1/100cm)

ビーム安定度　＿５２．３

ビーム粘着度　＿３０２．３

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　８０３

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３２２ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．４３３ g/cm³

アスファルト量　５．８ %

空隙率　＿４．６ %

骨材間隙率　１７．６ %

有効アスファルト量　＿５．８ %

突き固め回数　７５ 回

マーシャル安定度　１１１０ kg

フロー値　＿２８ (1/100cm)

ビーム安定度　＿５２．５

ビーム粘着度　＿２５６．５

様式Ａ－４－５　アスファルト混合物の性状（配合試験２）調査区間番号　８０３

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の剝離試験結果（剝離率）　＿１２

剝離防止材の種類　商品名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

剝離防止材の添加量　＿＿.＿％

アスファルトプラントの形式　＿

ホイールトラッキング試験結果　１５００回/mm

スパイクラベリング試験結果　＿＿＿＿ mm²

様式Ａ－４－５　アスファルト混合物の性状（配合試験２）調査区間番号　８　０　３

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の剥離試験結果（剥離率）　＿１　２

剥離防止材の種類　商品名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

剥離防止材の添加量　＿＿．＿％

アスファルトプラントの形式　＿

ホイールトラッキング試験結果　１　５　８　０　回/mm

スパイクラベリング試験結果　＿＿＿＿　mm^2

様式Ａ－４－５　アスファルト混合物の性状（配合試験２）調査区間番号　８０３

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の剝離試験結果（剝離率）　＿１２

剝離防止材の種類　商品名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

剝離防止材の添加量　＿＿．＿％

アスファルトプラントの形式　＿

ホイールトラッキング試験結果　＿＿＿＿回/mm

スパイクラベリング試験結果　＿＿＿＿mm²

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　８０３

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．２６６ g/cm³

アスファルト量　４．０ %

空隙率　＿８．６ %

骨材間隙率　１７．４ %

マーシャル安定度　＿７３６ kg

フロー値　＿２７ (1/100cm)

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　８０３

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３２７ g/cm³

アスファルト量　５．１ %

空隙率　＿５．６ %

骨材間隙率　１７．１ %

マーシャル安定度　１０５７ kg

フロー値　＿３４ (1/100cm)

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　８０３

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３１７ g/cm³

アスファルト量　５．８ %

空隙率　＿４．８ %

骨材間隙率　１７．８ %

マーシャル安定度　１１２９ kg

フロー値　＿２６ (1/100cm)

様式A－4－7　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　8 0 3

層番号　＿3、＿＿、＿＿　（様式A－1－3参照）

かさ密度　2.2 5 4 g/cm³

最大比重　2.4 4 2 g/cm³

空隙率　＿5.1 %

アスファルト量　4.6 %

骨材間隙率　1 2.7 %

様式Ａ－４－７　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　８０３

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３２２ g/cm³

最大比重　２．４４８ g/cm³

空隙率　＿４．７ %

アスファルト量　５．６ %

骨材間隙率　１４．５ %

様式Ａ－４－７　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　８０３

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３４５ g/cm³

最大比重　２．４２９ g/cm³

空隙率　＿４．３ %

アスファルト量　５．６ %

骨材間隙率　２０．３ %

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　８０３

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	３３７００	２.２５３
＿＿＿	＿＿５.０	４１３００	２.２４７
＿＿＿	＿＿５.０	４００５０	２.２５６
＿＿＿	＿２５.０	１５２５０	２.２５３
＿＿＿	＿２５.０	１３８５０	２.２４７
＿＿＿	＿２５.０	２２２００	２.２５６
＿＿＿	＿４０.０	＿５４２５	２.２５３
＿＿＿	＿４０.０	＿３０７５	２.２４７
＿＿＿	＿４０.０	＿３７７５	２.２５６
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　８０３

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	６１３５０	２.３２３
＿＿＿	＿＿５.０	７３２５０	２.３２９
＿＿＿	＿＿５.０	６９３００	２.３２７
＿＿＿	＿２５.０	１２８５０	２.３２３
＿＿＿	＿２５.０	２２８５０	２.３２９
＿＿＿	＿２５.０	２２３５０	２.３２７
＿＿＿	＿４０.０	＿７７４０	２.３２３
＿＿＿	＿４０.０	＿７７３０	２.３２９
＿＿＿	＿４０.０	＿７０１５	２.３２７
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　８０３

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	６４７５０	２.４４０
＿＿＿	＿＿５.０	６２０００	２.４３０
＿＿＿	＿＿５.０	６１０５０	２.４１６
＿＿＿	＿２５.０	２２２００	２.４４０
＿＿＿	＿２５.０	２１０５０	２.４３０
＿＿＿	＿２５.０	２０７５０	２.４１６
＿＿＿	＿４０.０	＿５１８５	２.４４０
＿＿＿	＿４０.０	＿４４４０	２.４３０
＿＿＿	＿４０.０	＿６３７５	２.４１６
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　８０３

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿１９.２
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿１８.５
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２１.９
＿＿＿	＿２５.０	＿＿１０.０
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿６.５
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿７.８
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.０
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.２
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.０
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　８０３

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２７.５
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２６.９
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２８.０
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿６.３
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿７.４
＿＿＿	＿２５.０	＿＿１０.１
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.１
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.１
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿１.９
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　８０３

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２８.５
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿３１.１
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２８.８
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿７.４
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿８.９
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿８.１
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.２
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.０
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.３
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

九州地方

S H R P

新 基 準 調 査

初 期 調 査 デ ー タ

3号 岡垣バイパス

様式A－1－1　一般データ　　調査区間番号　９０１

地建番号　９

報告年月　平成＿２　年＿６　月

担当部局　九州地方建設局　北九州国道工事事務所小倉出張所　内線＿５０１

調査区間の地名　福岡県遠賀郡岡垣町大字山田

路線番号　＿＿３

調査種別　１

調査方向　□上り　☒下り

距離標　＿３９ｋ４６０～＿３９ｋ７６０

（ＫＰ未定の場合No.＿＿＿＿＋＿＿～＿＿＿＿＋＿＿）

様式A－1－2　舗装構造データ　　調査区間番号　9 0 1

舗装の種別　1

調査方向の車線数　1

車線幅　3 5 0　cm

調査対象車線　第 1 車線

路肩の幅　1 1 2　cm

路肩の路面の種類　3

路肩の路盤の種類　2 3，2 5

路肩の表層・基層の厚さ　1 5　cm

路肩の路盤の厚さ　＿ 3 5　cm

地下排水工の種類　1，＿

縦断方向の配水管の内径　＿ ＿ ＿ ＿　mm

排水工の位置　＿

配水管の間隔　＿ ＿ ＿ ＿　cm

様式Ａ－１－３　舗装構成データ　　調査区間番号　９０１

層の数　８

番号	層の名称	層の厚さ（mm）				材料
		最　大	最　小	平　均	標準偏差	
1	7					
2	7	1041	980	1010		
3	6	157	141	150		23
4	5	112	98	105		25
5	4	104	90	98		31
6	4	118	99	106		2
7	4					2
8	3	52	50	51		1
9						
10						
11						
12						

舗装の等値換算厚 T_A　　30.3 cm

舗装厚Ｈ　　50.0 cm

高支持力層までの深さ　　　m

盛土厚さ　　　cm

様式Ａ－１－４　施工関係データ　　調査区間番号　９０１

施工年月　平成＿２年＿５月

交通開放（予定）年月　平成＿２年＿７月

施工費用　＿＿８３百万円／km・車線

打換え年月　平成＿＿年＿＿月

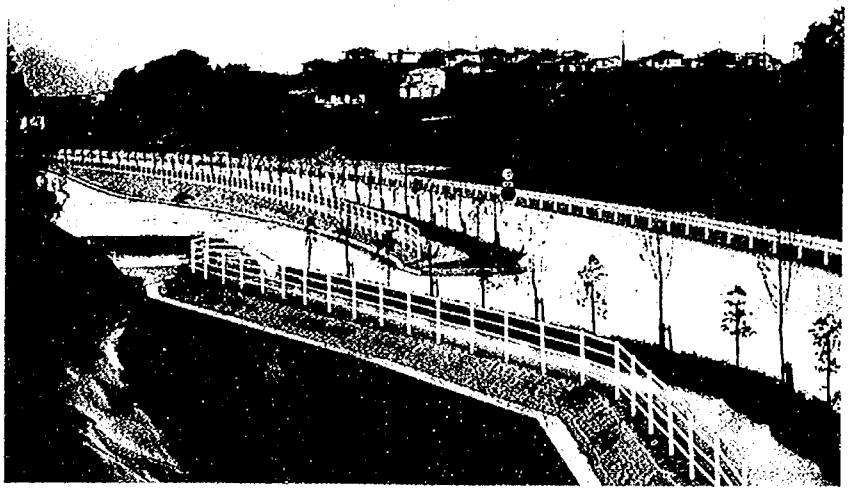
拡幅年月　　平成＿＿年＿＿月

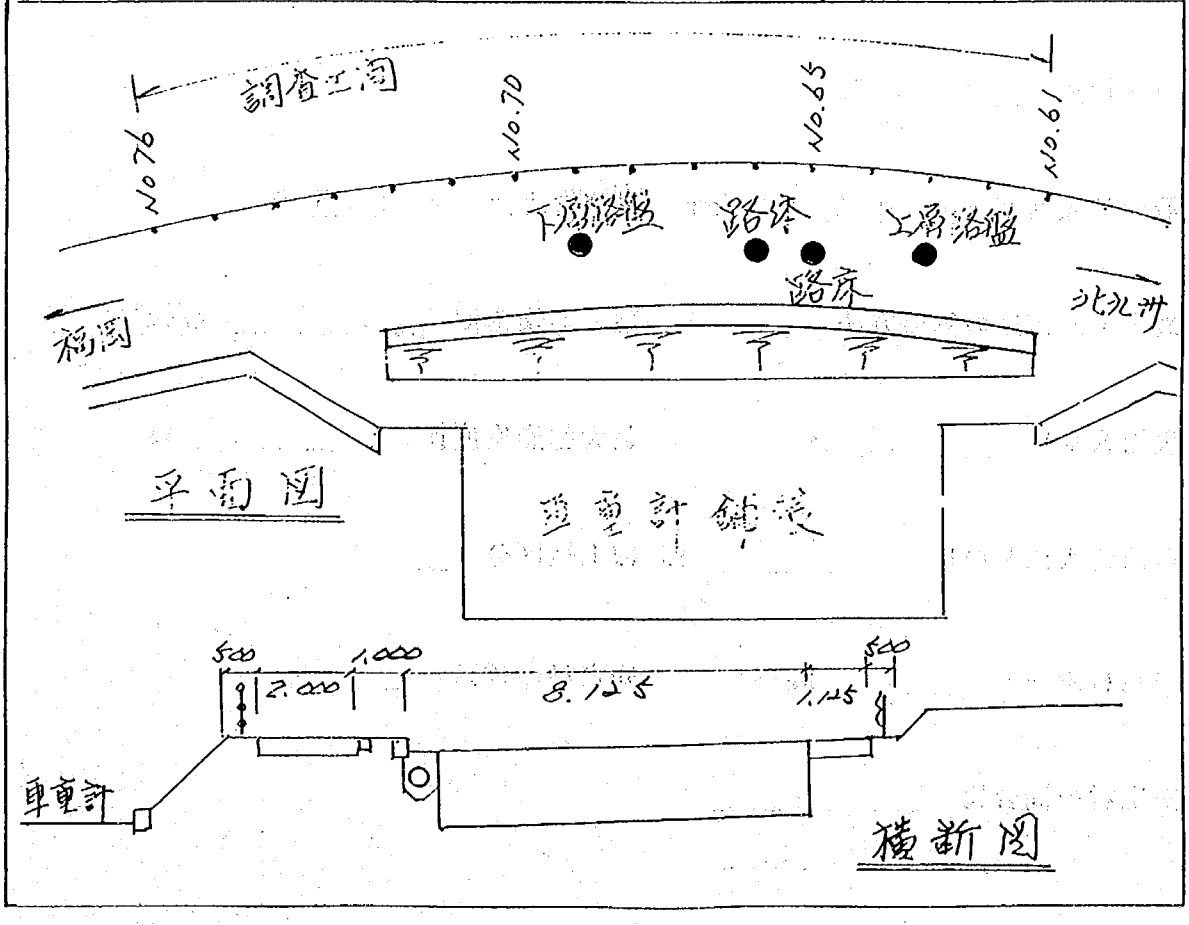
当初の車線数　＿車線

最終的な車線数　＿車線

追加車線数　＿車線

様式A－1－5　調査区間概要図　　調査区間番号　９０１





様式Ａ－２－１　路床土に関する基礎データ　　調査区間番号　９０１

層番号　＿１、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

土質分類　＿ＣＨ　　ＡＡＳＨＴＯ土質分類　＿＿＿

ＣＢＲ　平均値　＿＿２．４　区間のＣＢＲ　＿＿１．０

Ｓ値　＿９．３６　Ｋ値　＿＿＿．＿ kg/cm³

75μmふるい通過量　６１．６ %

塑性限界　６０．４ %　液性限界　２８．３ %

塑性指数　３２．１ %

最大乾燥密度　１．４７０ g/cm³　最適含水比　２６．５ %

最大乾燥密度の算出方法　＿　現場乾燥密度　＿．＿＿＿ g/cm³

現場含水比　＿＿．＿ %　最大乾燥密度比　＿＿＿．＿ %

最適含水比との比　＿＿＿．＿ %　凍上性区分　＿

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

様式A－2－1　路床土に関する基礎データ　　調査区間番号　9 0 1

層番号　＿2、＿＿、＿＿　（様式A－1－3参照）

土質分類　G－M　　AASHTO土質分類　＿＿＿

CBR　平均値　＿31.1　区間のCBR　＿＿＿.＿

S値　＿6.93　K値　＿54.1 kg/cm³

75μmふるい通過量　10.1 %

塑性限界　27.3 %　液性限界　34.9 %

塑性指数　＿7.6 %

最大乾燥密度　2.193 g/cm³　最適含水比　＿6.4 %

最大乾燥密度の算出方法　1　現場乾燥密度　2.103 g/cm³

現場含水比　＿6.4 %　最大乾燥密度比　＿95.9 %

最適含水比との比　100.5 %　凍上性区分　3

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

様式Ａ－２－２　弾性係数の測定（路床土）　　調査区間番号　９０１

層番号　＿１、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試料採取位置 KP＿＿＿k＿＿＿（KPが未定の場合　No.　＿＿＿＿＋＿＿）

供試体数　＿２　　ＡＡＳＨＴＯ土質分類　＿＿＿

含水比　＿＿７．２％　　乾燥密度　１．９１６ g/cm³

試験の結果

側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
０．４１	０．５５	２３８９
０．２１	０．３５	２４８９
０．１４	０．２８	２３３４
０．４１	０．７０	２３１４
０．２１	０．４９	２０９３
０．１４	０．４２	１９２０
０．４１	０．９７	１９２０
０．２１	０．７６	１６５８
０．１４	０．７０	１６３２
０．４１	１．０９	１９６０
０．２１	０．９１	１６２９
０．１４	０．８３	１５５３
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿

回帰式　　log E = log A + B x log(stress)

A = １４９２．６ 10^3kg/cm²　B =－０．０９８

様式Ａ－２－２　弾性係数の測定（路床土）　　調査区間番号　９０１

層番号　＿２、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試料採取位置 KP＿＿＿ k＿＿＿（KPが未定の場合　No.　＿＿＿＿＋＿＿）

供試体数　＿２　　ＡＡＳＨＴＯ土質分類　＿＿＿

含水比　＿＿９．６％　　乾燥密度　＿．＿＿＿ g/cm³

試験の結果

側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
＿０．４１	＿０．５６	２４９７
＿０．２１	＿０．３５	２５５６
＿０．１３	＿０．２７	２３３４
＿０．４１	＿０．６８	２４１９
＿０．２１	＿０．４９	２１５１
＿０．１３	＿０．４０	２０２０
＿０．４１	＿０．９５	２１３０
＿０．２１	＿０．７６	１８２７
＿０．１３	＿０．６８	１９３１
＿０．４１	＿１．０９	２１０８
＿０．２１	＿０．９１	１７８１
＿０．１３	＿０．８２	１７０６
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿

回帰式　　log E = log A + B x log(stress)

A = １６７９．７ 10^3kg/cm²　B = ０．１６７

様式Ａ－３－１　路盤材料の特性値　　調査区間番号　９０１

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

最大乾燥密度　２．１３２ g/cm³　最適含水比　＿６．２ %

最大乾燥密度の算出方法　１

現場乾燥密度　２．０８１ g/cm³　現場含水比　＿５．８ %

最大乾燥密度比　＿９７．６ %　最適含水比との比　＿９３．７ %

平板載荷試験　＿５３．３ kg/cm³

425μmふるい通過量　＿６．７ %　75μmふるい通過量　＿０．７ %

路盤材料の修正ＣＢＲ　＿７７．０

路盤材料の一軸圧縮強度　＿＿．＿ kg/cm²

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

様式Ａ－３－１　路盤材料の特性値　　調査区間番号　９０１

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

最大乾燥密度　２．１３４ g/cm³　最適含水比　＿７．８ %

最大乾燥密度の算出方法　１

現場乾燥密度　２．０９３ g/cm³　現場含水比　＿７．０ %

最大乾燥密度比　＿９８．１ %　最適含水比との比　＿９０．２ %

平板載荷試験　＿４６．６ kg/cm³

425μmふるい通過量　１４．３ %　75μmふるい通過量　＿８．２ %

路盤材料の修正ＣＢＲ　＿９６．０

路盤材料の一軸圧縮強度　＿＿．＿ kg/cm²

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

様式Ａ－３－２　弾性係数の測定（路盤）　　調査区間番号　９０１

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

供試体数　＿＿　含水比　＿＿＿.＿％　乾燥密度　＿.＿＿＿g/cm³

試験の結果	側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿

回帰式　$\log E = \log A + B \times \log(\text{stress})$

$A =$ ＿＿＿＿.＿ $10^3 kg/cm^2$　$B =$ ＿.＿＿

様式Ａ－３－２　弾性係数の測定（路盤）　　調査区間番号　９０１

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

供試体数　＿＿　含水比　＿＿＿.＿％　乾燥密度　＿.＿＿＿g/cm³

試験の結果

側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿

回帰式　$\log E = \log A + B \times \log(\text{stress})$

$A =$ ＿＿＿＿.＿ $10^3 kg/cm^2$　$B =$ ＿.＿＿

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　９０１

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類	1	100	細骨材の種類	1	100
	―	―		―	―
	―	―		―	―
	―	―		―	―

粗骨材の岩質　12　　フィラーの種類　2

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿.＿	2.36mm	＿38.2
37.5mm	＿＿＿.＿	600μm	＿＿＿.＿
26.5mm	100.0	300μm	＿＿＿.＿
19mm	＿99.4	150μm	＿＿＿.＿
13.2mm	＿＿＿.＿	75μm	＿＿5.1
4.75mm	＿＿＿.＿		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	＿.＿＿＿ g/cm³	細骨材１（粗砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	2.693 g/cm³	細骨材２（中砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	2.680 g/cm³	細骨材３（細砂）	2.576 g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	2.634 g/cm³	フィラー	2.710 g/cm³
スクリーニングス	＿.＿＿＿ g/cm³	クラッシャラン	＿.＿＿＿ g/cm³

合成密度　2.646 g/cm³　有効密度　2.702 g/cm³

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　９０１

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類　１　１００　　細骨材の種類　１　１００

＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

粗骨材の岩質　１２　　フィラーの種類　２

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿.＿	2.36mm	＿２８.４
37.5mm	＿＿＿.＿	600μm	＿１６.３
26.5mm	１００.０	300μm	＿＿９.９
19mm	＿９８.３	150μm	＿＿６.９
13.2mm	＿７９.３	75μm	＿＿５.９
4.75mm	＿４７.１		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	＿.＿＿＿ g/cm³	細骨材１（粗砂）	２.５９２ g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	２.６８６ g/cm³	細骨材２（中砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	２.６７６ g/cm³	細骨材３（細砂）	２.５７６ g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	２.５８５ g/cm³	フィラー	＿.＿＿＿ g/cm³
スクリーニングス	＿.＿＿＿ g/cm³	クラッシャラン	２.７１０ g/cm³

合成密度　２.６３８ g/cm³　有効密度　２.６９４ g/cm³

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　９０１

層番号　＿８、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類　１　１００　　細骨材の種類　１　１００

＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

粗骨材の岩質　１２　　フィラーの種類　２

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿.＿	2.36mm	＿４１.７
37.5mm	＿＿＿.＿	600μm	＿２２.３
26.5mm	１００.０	300μm	＿１２.５
19mm	＿９８.５	150μm	＿＿８.０
13.2mm	＿８２.５	75μm	＿＿６.７
4.75mm	＿５７.１		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	＿.＿＿＿ g/cm³	細骨材１（粗砂）	２.５９２ g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	２.６８６ g/cm³	細骨材２（中砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	２.６７６ g/cm³	細骨材３（細砂）	２.５７６ g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	２.５８５ g/cm³	フィラー	２.７１０ g/cm³
スクリーニングス	＿.＿＿＿ g/cm³	クラッシャラン	＿.＿＿＿ g/cm³

合成密度　２.６３１ g/cm³　有効密度　２.６９２ g/cm³

様式Ａ－４－２　アスファルトの性状（原アスファルト）　調査区間番号　９０１

層番号　＿５、＿６、＿７、＿８　（様式Ａ－１－３参照）

針入度区分　＿６０～＿８０

アスファルトの製造元　出光興産(株)　徳山製油所

密度　１．０３６ g/cm³

60℃粘度　＿＿２５００ poise

135℃粘度　＿４８５ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０．５　cm

4℃伸度の伸長速度　＿５　cm/min

25℃針入度　＿５５

4℃針入度　＿２４

軟化点　＿５０℃

添加剤　商品名

添加剤の添加量　＿＿＿ %

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　９０１

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿５４５０ poise　　135℃粘度　＿６８５ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０.５ cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５ cm/min

25℃針入度　＿４２　　4℃針入度　＿２２

軟化点　＿５５ ℃

質量変化率　０.００

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿２４　　4℃針入度　＿２０

60℃粘度　＿＿８７８０ poise　　135℃粘度　＿７７８ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　９０１

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿＿＿＿＿ poise　　135℃粘度　＿＿＿＿ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　□　１００＋

4℃伸度　＿＿.＿ cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５　cm/min

25℃針入度　＿＿＿　　4℃針入度　＿＿＿

軟化点　＿＿＿℃

質量変化率　＿.＿＿

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿３４　　4℃針入度　＿２５

60℃粘度　＿＿７７９０ poise　　135℃粘度　＿７５７ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　９０１

層番号　＿８、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿＿＿＿＿ poise　　135℃粘度　＿＿＿＿ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　□　１００＋

4℃伸度　＿＿.＿ cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５　cm/min

25℃針入度　＿＿＿　　4℃針入度　＿＿＿

軟化点　＿＿＿ ℃

質量変化率　＿.＿＿

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿２９　　4℃針入度　＿２４

60℃粘度　＿＿８２５０ poise　　135℃粘度　＿７９０ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　９　０　１

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．２７５ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．５２６ g/cm³

アスファルト量　４．３ %

空隙率　＿９．８ %

骨材間隙率　１９．３ %

有効アスファルト量　＿４．３ %

突き固め回数　５０ 回

マーシャル安定度　＿５２６ kg

フロー値　＿３８ (1/100cm)

ビーム安定度　＿５６．４

ビーム粘着度　＿２９６．８

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　９０１

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．４１８ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．５１３ g/cm³

アスファルト量　４．５ %

空隙率　＿３．８ %

骨材間隙率　１４．３ %

有効アスファルト量　＿＿．＿ %

突き固め回数　５０ 回

マーシャル安定度　１０３７ kg

フロー値　＿２９ (1/100cm)

ビーム安定度　＿４５．１

ビーム粘着度　＿３２１．０

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　９０１

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．４２７ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．５２６ g/cm³

アスファルト量　４．２ %

空隙率　＿３．９ %

骨材間隙率　１３．７ %

有効アスファルト量　＿＿．＿ %

突き固め回数　７５ 回

マーシャル安定度　＿９９０ kg

フロー値　＿２７ (1/100cm)

ビーム安定度　＿４５．１

ビーム粘着度　＿３２１．０

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　９０１

層番号　＿８、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．４０８ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．５０２ g/cm³

アスファルト量　４．７ %

空隙率　＿３．８ %

骨材間隙率　１４．７ %

有効アスファルト量　＿＿．＿ %

突き固め回数　７５ 回

マーシャル安定度　＿９８７ kg

フロー値　＿２７ (1/100cm)

ビーム安定度　＿４８．７

ビーム粘着度　＿４１３．３

様式Ａ－４－５　アスファルト混合物の性状（配合試験２）調査区間番号　９０１

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の剥離試験結果（剥離率）　＿１１

剥離防止材の種類　商品名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

剥離防止材の添加量　＿＿．＿％

アスファルトプラントの形式　１

ホイールトラッキング試験結果　＿＿＿＿回/mm

スパイクラベリング試験結果　＿＿＿＿mm²

様式Ａ－４－５　アスファルト混合物の性状（配合試験２）調査区間番号　９　０　１

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の剥離試験結果（剥離率）　＿１９

剥離防止材の種類　商品名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

剥離防止材の添加量　＿＿．＿％

アスファルトプラントの形式　１

ホイールトラッキング試験結果　＿＿＿＿回/mm

スパイクラベリング試験結果　＿＿＿＿mm²

様式Ａ－４－５　アスファルト混合物の性状（配合試験２）調査区間番号　９０１

層番号　＿８、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の剥離試験結果（剥離率）　＿＿＿

剥離防止材の種類　商品名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

剥離防止材の添加量　＿＿．＿％

アスファルトプラントの形式　＿

ホイールトラッキング試験結果　＿＿＿＿回/mm

スパイクラベリング試験結果　＿＿＿＿mm²

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　９０１

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．２７５ g/cm³

アスファルト量　４．３ %

空隙率　＿９．８ %

骨材間隙率　１９．３ %

マーシャル安定度　＿５２３ kg

フロー値　＿３７ (1/100cm)

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　９０１

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．４１８ g/cm³

アスファルト量　４．５ %

空隙率　＿３．８ %

骨材間隙率　１４．３ %

マーシャル安定度　１０３７ kg

フロー値　＿２９ (1/100cm)

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　９０１

層番号　＿７、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．４２７ g/cm³

アスファルト量　４．２ ％

空隙率　＿３．９ ％

骨材間隙率　１３．７ ％

マーシャル安定度　＿９９０ kg

フロー値　＿２７ (1/100cm)

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　９０１

層番号　＿８、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．４０８ g/cm³

アスファルト量　４．７ ％

空隙率　＿３．８ ％

骨材間隙率　１４．７ ％

マーシャル安定度　＿９８７ kg

フロー値　＿２７ (1/100cm)

様式Ａ－４－７　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　９０１

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．４１３ g/cm³

最大比重　２．５７８ g/cm³

空隙率　＿６．４ %

アスファルト量　４．３ %

骨材間隙率　１６．５ %

様式Ａ－４－７　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　９０１

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．４０１ g/cm³

最大比重　２．５４９ g/cm³

空隙率　＿５．８ %

アスファルト量　４．６ %

骨材間隙率　１６．４ %

様式Ａ－４－７　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　９０１

層番号　＿８、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３７３ g/cm³

最大比重　２．５１２ g/cm³

空隙率　＿５．５ %

アスファルト量　４．６ %

骨材間隙率　１６．４ %

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　９０１

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	６６６５０	２.４１５
＿＿＿	＿＿５.０	４９９５０	２.４１５
＿＿＿	＿＿５.０	４４４００	２.４１０
＿＿＿	＿２５.０	１６５５０	２.４１５
＿＿＿	＿２５.０	１９３５０	２.４１５
＿＿＿	＿２５.０	１８１００	２.４１０
＿＿＿	＿４０.０	＿４１４０	２.４１５
＿＿＿	＿４０.０	＿５７２５	２.４１５
＿＿＿	＿４０.０	＿７３４５	２.４１０
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　９０１

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	５７０００	２.３６４
＿＿＿	＿＿５.０	３８０００	２.４４５
＿＿＿	＿＿５.０	６０７００	２.３９４
＿＿＿	＿２５.０	１１４８０	２.３６４
＿＿＿	＿２５.０	１４２００	２.４４５
＿＿＿	＿２５.０	＿９８８０	２.３９４
＿＿＿	＿４０.０	＿４８６５	２.３６４
＿＿＿	＿４０.０	＿４９５０	２.４４５
＿＿＿	＿４０.０	＿６２８０	２.３９４
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　９０１

層番号　＿８、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	５５９００	２.３７３
＿＿＿	＿＿５.０	５２５５０	２.３７６
＿＿＿	＿＿５.０	４３５５０	２.３７１
＿＿＿	＿２５.０	１０４００	２.３７３
＿＿＿	＿２５.０	１５５００	２.３７６
＿＿＿	＿２５.０	１２０５０	２.３７１
＿＿＿	＿４０.０	＿３３７０	２.３７３
＿＿＿	＿４０.０	＿４６４０	２.３７６
＿＿＿	＿４０.０	＿３８１５	２.３７１
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　９０１

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿３１.８
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２７.５
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２０.２
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿７.２
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿８.９
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿６.３
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.２
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿４.４
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿３.９
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　９０１

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿１７.６
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２５.４
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿１２.９
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿６.８
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿９.２
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿９.７
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿１.８
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.９
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.０
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　９０１

層番号　＿８、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿１６.４
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２１.５
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿１４.２
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿９.０
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿８.３
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿７.５
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.８
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.４
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.２
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

S H R P

新 基 準 調 査

初 期 調 査 デ ー タ

10号 椎 田 道 路

様式Ａ－１－１　一般データ　　調査区間番号　９０２

地建番号　９

報告年月　平成　３　年　３　月

担当部局　九州地方建設局　北九州国道工事事務所　　内線

調査区間の地名　福岡県行橋市道場寺

路線番号　１０

調査種別　１

調査方向　□上り　☒下り

距離標　３８ｋ８００～３９ｋ１００

（ＫＰ未定の場合No.　＋　～　＋　）

様式Ａ－１－２　舗装構造データ　　調査区間番号　９０２

舗装の種別　１

調査方向の車線数　１

車線幅　３５０　cm

調査対象車線　第　１　車線

路肩の幅　＿７５　cm

路肩の路面の種類　３

路肩の路盤の種類　２５

路肩の表層・基層の厚さ　＿５　cm

路肩の路盤の厚さ　＿１０　cm

地下排水工の種類　１，＿

縦断方向の配水管の内径　＿＿＿＿　mm

排水工の位置　＿

配水管の間隔　＿＿＿＿　cm

様式Ａ－１－３　舗装構成データ　　調査区間番号　９０２

層の数　８

番号	層の名称	層の厚さ（mm）				材料
		最　大	最　小	平　均	標準偏差	
1	7	620	570	595	＿＿.＿＿	65
2	7	420	375	398	＿＿.＿＿	55
3	6	175	120	151	＿＿.＿＿	23
4	5	125	＿80	102	＿＿.＿＿	25
5	4	115	＿90	102	＿＿.＿＿	31
6	4	＿57	＿46	＿52	＿＿.＿＿	＿2
7	4	＿56	＿45	＿51	＿＿.＿＿	＿2
8	3	＿63	＿50	＿54	＿＿.＿＿	＿1
9	＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿.＿＿	＿＿
10	＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿.＿＿	＿＿
11	＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿.＿＿	＿＿
12	＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿.＿＿	＿＿

舗装の等値換算厚 T_A　　＿３０.３ cm

舗装厚Ｈ　　＿５０.０ cm

高支持力層までの深さ　＿＿＿ m

盛土厚さ　　＿１００ cm

様式Ａ－１－４　施工関係データ　　調査区間番号　９０２

施工年月　平成 _ 3 年 _ 3 月

交通開放（予定）年月　平成 _ 3 年 _ 3 月

施工費用　_ _ _ _ 百万円／km・車線

打換え年月　平成 _ _ 年 _ _ 月

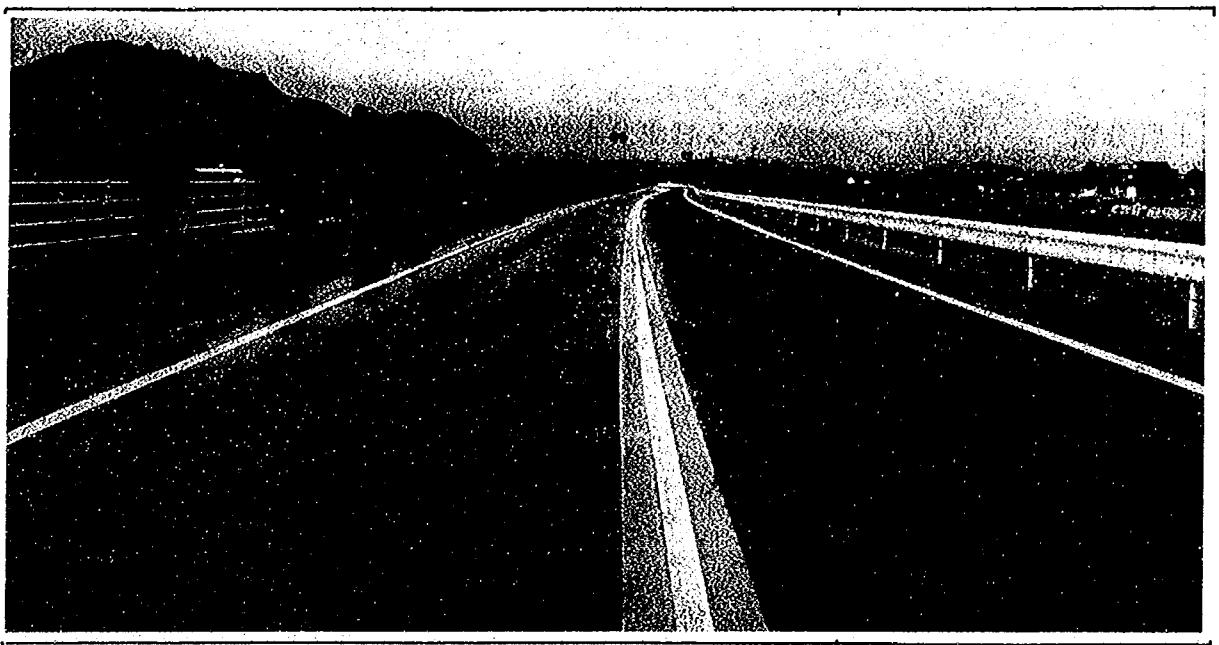
拡幅年月　　平成 _ _ 年 _ _ 月

当初の車線数　_ 車線

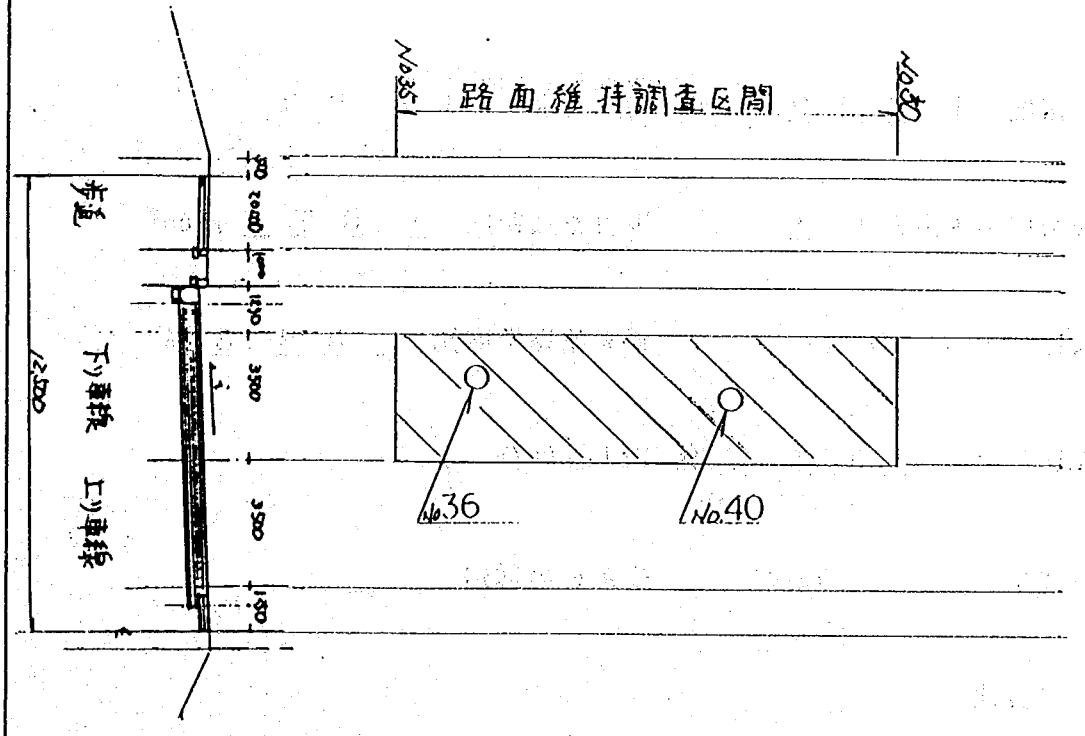
最終的な車線数　_ 車線

追加車線数　_ 車線

様式Ａ－１－５　調査区間概要図　　調査区間番号　９０２



調査区間概要図



路床路盤材料の採取位置を示すこと。

様式Ａ－２－１　路床土に関する基礎データ　　調査区間番号　９０２

層番号　＿１、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

土質分類　＿ＳＣ　　ＡＡＳＨＴＯ土質分類　＿＿＿

ＣＢＲ　平均値　＿＿７．５　区間のＣＢＲ　＿＿２．１

Ｓ値　＿０．６６　Ｋ値　＿＿＿．＿ kg/cm³

75μmふるい通過量　＿＿．＿ ％

塑性限界　＿＿．＿ ％　液性限界　＿＿．＿ ％

塑性指数　＿＿．＿ ％

最大乾燥密度　１．８０９ g/cm³　最適含水比　１５．２ ％

最大乾燥密度の算出方法　１　現場乾燥密度　１．６７９ g/cm³

現場含水比　１５．０ ％　最大乾燥密度比　＿９２．８ ％

最適含水比との比　＿９８．７ ％　凍上性区分　１

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

様式Ａ－２－１　路床土に関する基礎データ　　調査区間番号　９０２

層番号　＿２、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

土質分類　＿ＳＭ　　ＡＡＳＨＴＯ土質分類　＿＿＿

ＣＢＲ　平均値　＿１７．８　区間のＣＢＲ　＿１５．７

Ｓ値　＿８．３８　Ｋ値　＿１５．２ kg/cm³

75μmふるい通過量　２１．３ %

塑性限界　ＮＰ．＿ %　液性限界　２７．３ %

塑性指数　ＮＰ．＿ %

最大乾燥密度　１．８５２ g/cm³　最適含水比　１３．４ %

最大乾燥密度の算出方法　１　現場乾燥密度　１．７１８ g/cm³

現場含水比　１２．７ %　最大乾燥密度比　＿９２．８ %

最適含水比との比　＿９４．８ %　凍上性区分　３

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

様式Ａ－２－２　弾性係数の測定（路床土）　　調査区間番号　９０２

層番号　＿１、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試料採取位置 KP＿＿＿k＿＿＿（KPが未定の場合　No.　＿＿３６＋００）

供試体数　＿１　　ＡＡＳＨＴＯ土質分類　＿＿＿

含水比　＿１５．０％　　乾燥密度　１．６７９ g/cm³

試験の結果

	側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
	＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿

回帰式　　log E = log A + B x log(stress)

A = ＿＿＿＿．＿ 10^3kg/cm²　B = ＿．＿＿＿

様式Ａ－２－２　弾性係数の測定（路床土）　　調査区間番号　９０２

層番号　＿２、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試料採取位置 KP＿＿＿k＿＿＿（KPが未定の場合　No.　＿＿４０＋００）

供試体数　＿１　　ＡＡＳＨＴＯ土質分類　＿＿＿

含水比　＿１２．７％　　乾燥密度　１．７１８ g/cm³

試験の結果

側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
＿０．４１	＿０．５６	＿５５５
＿０．２１	＿０．３６	＿９９２
＿０．００	＿０．１４	＿９６０
＿０．４１	＿０．６９	＿６８７
＿０．２１	＿０．４８	＿９４０
＿０．００	＿０．２８	＿９３６
＿０．４１	＿０．９６	＿７６５
＿０．２１	＿０．７６	＿７７６
＿０．００	＿０．５６	＿９０９
＿０．４１	＿１．１０	＿８０３
＿０．２１	＿０．８９	１０１０
＿０．００	＿０．７０	１００４
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿

回帰式　　log E = log A + B x log(stress)

A =　＿８１５．６ 10^3kg/cm²　B =　０．１１８

様式Ａ－３－１　路盤材料の特性値　　調査区間番号　９０２

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

最大乾燥密度　２．１０３ g/cm³　最適含水比　＿３．７ %

最大乾燥密度の算出方法　１

現場乾燥密度　２．０３８ g/cm³　現場含水比　＿３．１ %

最大乾燥密度比　＿９６．９ %　最適含水比との比　＿８３．８ %

平板載荷試験　＿２１．５ kg/cm³

425μmふるい通過量　＿７．６ %　75μmふるい通過量　＿２．７ %

路盤材料の修正ＣＢＲ　＿６９．０

路盤材料の一軸圧縮強度　＿＿．＿ kg/cm²

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

様式Ａ－３－１　路盤材料の特性値　　調査区間番号　９０２

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

最大乾燥密度　２．１１０ g/cm³　最適含水比　＿５．９ %

最大乾燥密度の算出方法　１

現場乾燥密度　２．０６１ g/cm³　現場含水比　＿５．２ %

最大乾燥密度比　＿９７．７ %　最適含水比との比　＿８８．１ %

平板載荷試験　＿３１．１ kg/cm³

425μmふるい通過量　１５．１ %　75μmふるい通過量　＿５．６ %

路盤材料の修正ＣＢＲ　＿９４．０

路盤材料の一軸圧縮強度　＿＿．＿ kg/cm²

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

様式A－3－2　弾性係数の測定（路盤）　　調査区間番号　9 0 2

層番号　＿3、＿＿、＿＿　（様式A－1－3参照）

供試体数　＿2　含水比　＿＿2.5％　乾燥密度　2.004 g/cm³

試験の結果	側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
	1.39	1.53	4084
	1.39	1.74	3854
	1.38	2.14	3865
	1.38	2.43	3893
	1.38	2.76	2453
	1.04	1.19	3375
	1.04	1.39	3373
	1.04	1.73	3385
	1.04	2.08	3453
	1.04	2.42	3576
	0.69	0.82	2522
	0.69	1.05	2394
	0.69	1.38	2527
	0.69	1.74	2613
	0.35	0.50	1809
	0.35	0.71	1696
	0.36	1.05	1804
	0.36	1.40	1932
	0.07	0.22	1304
	0.07	0.42	1233
	0.07	0.59	1240
	0.08	0.76	1367
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿

回帰式　$\log E = \log A + B \times \log(\text{stress})$

A = 1570.4 10^3kg/cm²　B = 0.538

様式A－3－2　弾性係数の測定（路盤）　　調査区間番号　9 0 2

層番号　＿4、＿＿、＿＿　（様式A－1－3参照）

供試体数　＿2　含水比　＿＿2.1 %　乾燥密度　2.0 9 3 g/cm³

試験の結果	側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
	1.3 9	1.5 3	3 8 7 5
	1.3 9	1.7 5	3 4 1 5
	1.3 9	2.0 7	3 4 0 0
	1.3 8	2.4 2	3 4 5 8
	1.3 8	2.7 5	3 8 0 1
	1.0 5	1.1 9	2 9 3 9
	1.0 4	1.4 0	2 6 4 7
	1.0 4	1.7 3	2 7 7 4
	1.0 4	2.0 8	2 9 6 2
	1.0 4	2.4 3	3 1 6 9
	0.6 9	0.8 3	2 0 1 1
	0.6 9	1.0 4	1 8 4 7
	0.6 9	1.3 9	2 0 7 8
	0.6 9	1.7 4	2 2 0 3
	0.3 5	0.4 9	1 7 5 0
	0.3 5	0.7 1	1 5 1 3
	0.3 5	1.0 4	1 6 2 7
	0.3 5	1.3 9	1 8 3 3
	0.0 7	0.2 1	9 8 3
	0.0 7	0.4 2	9 1 5
	0.0 7	0.5 9	1 0 7 2
	0.0 8	0.7 6	1 2 1 8
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿

回帰式　$\log E = \log A + B \times \log(\text{stress})$

A = 1 3 4 5.0 10^3kg/cm²　B = 0.5 5 3

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　９０２

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類　１　１００　　細骨材の種類　１　＿５０
＿　＿＿＿　　２　＿５０
＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿
＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

粗骨材の岩質　１２　　フィラーの種類　１

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿．＿	2.36mm	＿３２．５
37.5mm	１００．０	600μm	＿２２．７
26.5mm	＿９３．２	300μm	＿１２．７
19mm	＿８４．９	150μm	＿＿５．１
13.2mm	＿６９．０	75μm	＿＿４．０
4.75mm	＿５１．１		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	２．７７８ g/cm³	細骨材１（粗砂）	＿．＿＿＿ g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	２．７６４ g/cm³	細骨材２（中砂）	＿．＿＿＿ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	２．７６０ g/cm³	細骨材３（細砂）	２．５４２ g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	２．７５７ g/cm³	フィラー	２．７１０ g/cm³
スクリーニングス	２．７０９ g/cm³	クラッシャラン	＿．＿＿＿ g/cm³

合成密度　２．７１４ g/cm³　有効密度　２．７８０ g/cm³

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　９０２

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類　１　１００
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

細骨材の種類　１　＿５７
２　＿４３
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

粗骨材の岩質　１２

フィラーの種類　１

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿．＿	2.36mm	＿２９．０
37.5mm	＿＿＿．＿	600μm	＿１８．０
26.5mm	１００．０	300μm	＿１０．８
19mm	＿９９．４	150μm	＿＿５．４
13.2mm	＿８１．０	75μm	＿＿４．６
4.75mm	＿４６．３		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	＿．＿＿ g/cm³	細骨材１（粗砂）	＿．＿＿＿ g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	２．７６４ g/cm³	細骨材２（中砂）	＿．＿＿＿ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	２．７６０ g/cm³	細骨材３（細砂）	２．５４２ g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	２．７５７ g/cm³	フィラー	２．７１０ g/cm³
スクリーニングス	２．７０９ g/cm³	クラッシャラン	＿．＿＿＿ g/cm³

合成密度　２．７２４ g/cm³　有効密度　２．７８３ g/cm³

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　９０２

層番号　＿７、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類　１　１００
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿＿　＿＿＿

細骨材の種類　１　＿５７
２　＿４３
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

粗骨材の岩質　＿＿

フィラーの種類　＿

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿.＿	2.36mm	＿２９.０
37.5mm	＿＿＿.＿	600μm	＿１８.０
26.5mm	１００.０	300μm	＿１０.８
19mm	＿９９.４	150μm	＿＿５.４
13.2mm	＿８１.０	75μm	＿＿４.６
4.75mm	＿４６.３		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	＿.＿＿＿ g/cm³	細骨材１（粗砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	２.７６４ g/cm³	細骨材２（中砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	２.７６０ g/cm³	細骨材３（細砂）	２.５４２ g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	２.７５７ g/cm³	フィラー	２.７１０ g/cm³
スクリーニングス	２.７０９ g/cm³	クラッシャラン	＿.＿＿＿ g/cm³

合成密度　２.７２４ g/cm³　有効密度　２.７８３ g/cm³

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　９０２

層番号　＿８、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類　１　１００
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

細骨材の種類　１　＿４９
２　＿５１
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

粗骨材の岩質　１２

フィラーの種類　１

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿.＿	2.36mm	＿４０.９
37.5mm	＿＿＿.＿	600μm	＿２５.５
26.5mm	１００.０	300μm	＿１５.１
19mm	＿９９.４	150μm	＿＿７.２
13.2mm	＿８２.７	75μm	＿＿５.９
4.75mm	＿５５.２		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	＿.＿＿＿ g/cm³	細骨材１（粗砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	２.７６４ g/cm³	細骨材２（中砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	２.７６０ g/cm³	細骨材３（細砂）	２.５４２ g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	２.７５７ g/cm³	フィラー	２.７１０ g/cm³
スクリーニングス	２.７０９ g/cm³	クラッシャラン	＿.＿＿＿ g/cm³

合成密度　２.７０８ g/cm³　有効密度　２.７７４ g/cm³

様式Ａ－４－２　アスファルトの性状（原アスファルト）　調査区間番号　９０２

層番号　＿５、＿６、＿７、＿８　（様式Ａ－１－３参照）

針入度区分　＿６０～＿８０

アスファルトの製造元　出光興産　徳山精油所

密度　１．０３１ g/cm³

60℃粘度　＿＿２６２２ poise

135℃粘度　＿４９０ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０．０ cm

4℃伸度の伸長速度　＿５ cm/min

25℃針入度　＿６５

4℃針入度　＿２５

軟化点　＿５０ ℃

添加剤　商品名

添加剤の添加量　＿＿＿ %

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　９０２

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿５０６１ poise　　135℃粘度　＿５８８ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０.０ cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５ cm/min

25℃針入度　＿４８　　4℃針入度　＿２０

軟化点　＿５４ ℃

質量変化率　０.０８１

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿２９　　4℃針入度　＿１４

60℃粘度　＿２２８９８ poise　　135℃粘度　１０３８ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　９０２

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿５０６１ poise　　135℃粘度　＿５８８ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０．０ cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５　cm/min

25℃針入度　＿４８　　4℃針入度　＿２０

軟化点　＿５４ ℃

質量変化率　０．０８１

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿３１　　4℃針入度　＿１５

60℃粘度　＿１７０５４ poise　　135℃粘度　＿９６６ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　９０２

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿５０６１poise　　135℃粘度　＿５８８cSt

25℃伸度　＿＿＿cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０．０cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５　cm/min

25℃針入度　＿４８　　4℃針入度　＿２０

軟化点　＿５４℃

質量変化率　０．０８１

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿３４　　4℃針入度　＿１６

60℃粘度　＿１０２１２poise　　135℃粘度　＿７５０cSt

25℃伸度　＿＿＿cm　または　☒　１００＋

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　９０２

層番号　＿７、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿５０６１ poise　　135℃粘度　＿５８８ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０．０ cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５ cm/min

25℃針入度　＿４８　　4℃針入度　＿２０

軟化点　＿５４ ℃

質量変化率　０．０８１

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿３５　　4℃針入度　＿１７

60℃粘度　＿１１９３３ poise　　135℃粘度　＿８１６ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　９０２

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．４４０ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．５９１ g/cm³

アスファルト量　４．３ %

空隙率　＿５．８ %

骨材間隙率　１６．０ %

有効アスファルト量　＿４．３ %

突き固め回数　５０回

マーシャル安定度　＿８２０ kg

フロー値　＿２９ (1/100cm)

ビーム安定度　＿５１．２

ビーム粘着度　＿２０４．３

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　９０２

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．４６２ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．５７３ g/cm³

アスファルト量　４．８ %

空隙率　＿４．３ %

骨材間隙率　１５．８ %

有効アスファルト量　＿４．８ %

突き固め回数　５０回

マーシャル安定度　＿９７６ kg

フロー値　＿３３ (1/100cm)

ビーム安定度　＿４５．９

ビーム粘着度　＿２１０．７

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　９０２

層番号　＿７、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．４７１ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．５７７ g/cm³

アスファルト量　４．７ ％

空隙率　＿４．１ ％

骨材間隙率　１５．４ ％

有効アスファルト量　＿４．７ ％

突き固め回数　７５ 回

マーシャル安定度　１０３４ kg

フロー値　＿３４ (1/100cm)

ビーム安定度　＿４９．０

ビーム粘着度　＿２８１．０

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　９０２

層番号　＿８、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．４６３ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．５５８ g/cm³

アスファルト量　５．０ %

空隙率　＿３．７ %

骨材間隙率　１５．６ %

有効アスファルト量　＿５．０ %

突き固め回数　７５ 回

マーシャル安定度　１０６３ kg

フロー値　＿２９ (1/100cm)

ビーム安定度　＿５０．８

ビーム粘着度　＿２７０．９

様式Ａ－４－５　アスファルト混合物の性状（配合試験２）調査区間番号　９　０　２

層番号　＿５、＿６、＿７　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の剥離試験結果（剥離率）　＿２５

剥離防止材の種類　商品名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

剥離防止材の添加量　＿＿．＿％

アスファルトプラントの形式　１

ホイールトラッキング試験結果　＿＿＿＿回/mm

スパイクラベリング試験結果　＿＿＿＿mm²

様式Ａ－４－５　アスファルト混合物の性状（配合試験２）調査区間番号　９０２

層番号　＿８、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の剝離試験結果（剝離率）　＿２５

剝離防止材の種類　商品名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

剝離防止材の添加量　＿＿．＿％

アスファルトプラントの形式　１

ホイールトラッキング試験結果　３１５０回/mm

スパイクラベリング試験結果　＿＿＿＿mm²

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　９０２

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．４４０ g/cm³

アスファルト量　４．４ ％

空隙率　＿５．９ ％

骨材間隙率　１６．３ ％

マーシャル安定度　＿８５１ kg

フロー値　＿３１ (1/100cm)

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　９０２

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．４６１ g/cm³

アスファルト量　４．８ %

空隙率　＿４．４ %

骨材間隙率　１５．９ %

マーシャル安定度　＿９６８ kg

フロー値　＿３１ (1/100cm)

様式A－4－6　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　9 0 2

層番号　＿ 7 、＿ ＿ 、＿ ＿　（様式A－1－3参照）

かさ密度　2 .4 7 1 g/cm³

アスファルト量　4 .8 %

空隙率　＿ 4 .1 %

骨材間隙率　1 5 .6 %

マーシャル安定度　1 0 2 7 kg

フロー値　＿ 3 3 (1/100cm)

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　９０２

層番号　＿８、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．４６０ g/cm³

アスファルト量　５．１ ％

空隙率　＿３．８ ％

骨材間隙率　１６．０ ％

マーシャル安定度　１１５５ kg

フロー値　＿３２ (1/100cm)

様式Ａ－４－７　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　９　０　２

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．４６９ g/cm³

最大比重　２．７０９ g/cm³

空隙率　＿８．９ %

アスファルト量　４．７ %

骨材間隙率　２０．０ %

様式Ａ－４－７　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　９０２

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．３７６ g/cm³

最大比重　２．５８１ g/cm³

空隙率　＿７．９ %

アスファルト量　５．２ %

骨材間隙率　２０．０ %

様式Ａ－４－７　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　９０２

層番号　＿７、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．４０４ g/cm³

最大比重　２．６４０ g/cm³

空隙率　＿８．９ %

アスファルト量　５．４ %

骨材間隙率　２１．６ %

様式Ａ－４－７　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　９０２

層番号　＿８、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．４７４ g/cm³

最大比重　２．６７６ g/cm³

空隙率　＿７．６ %

アスファルト量　７．３ %

骨材間隙率　２５．２ %

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　９０２

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	５３６００	２.４８８
＿＿＿	＿＿５.０	２１０５０	２.４６５
＿＿＿	＿＿５.０	４３２５０	２.４５４
＿＿＿	＿２５.０	２４３５０	２.４８８
＿＿＿	＿２５.０	２８６５０	２.４６５
＿＿＿	＿２５.０	３２１００	２.４５４
＿＿＿	＿４０.０	１１６００	２.４８８
＿＿＿	＿４０.０	１００８５	２.４６５
＿＿＿	＿４０.０	＿６５３０	２.４５４
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　９０２

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	３１４００	２.４０５
＿＿＿	＿＿５.０	１１４００	２.３５７
＿＿＿	＿＿５.０	２５９００	２.３６５
＿＿＿	＿２５.０	１７７５０	２.４０５
＿＿＿	＿２５.０	１９５５０	２.３５７
＿＿＿	＿２５.０	２５４５０	２.３６５
＿＿＿	＿４０.０	＿７５０５	２.４０５
＿＿＿	＿４０.０	＿５１６０	２.３５７
＿＿＿	＿４０.０	＿７２６５	２.３６５
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　９０２

層番号　＿７、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	５７１５０	２.３８０
＿＿＿	＿＿５.０	７６９００	２.４１７
＿＿＿	＿＿５.０	４９８００	２.４１６
＿＿＿	＿２５.０	１７７００	２.３８０
＿＿＿	＿２５.０	２３９００	２.４１７
＿＿＿	＿２５.０	１４３５０	２.４１６
＿＿＿	＿４０.０	＿８１５０	２.３８０
＿＿＿	＿４０.０	＿９９７５	２.４１７
＿＿＿	＿４０.０	＿６０９０	２.４１６
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　９０２

層番号　＿８、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	６４２５０	２.４７１
＿＿＿	＿＿５.０	４７６００	２.４５６
＿＿＿	＿＿５.０	３７７５０	２.４９６
＿＿＿	＿２５.０	１８６５０	２.４７１
＿＿＿	＿２５.０	１７１５０	２.４５６
＿＿＿	＿２５.０	１９１００	２.４９６
＿＿＿	＿４０.０	＿９６０５	２.４７１
＿＿＿	＿４０.０	＿６７６０	２.４５６
＿＿＿	＿４０.０	＿６４９０	２.４９６
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　９０２

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２１.３
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿１５.７
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２２.０
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿８.３
＿＿＿	＿２５.０	＿＿１０.１
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿９.３
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿３.６
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿３.３
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿３.９
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　９０２

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿１９.６
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿１５.０
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿１６.９
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿５.９
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿５.２
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿９.４
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿５.９
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.４
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.５
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　９０２

層番号　＿７、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２９.９
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿１７.９
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２１.８
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿９.６
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿６.９
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿５.１
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.５
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.８
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.７
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　９０２

層番号　＿８、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２９.７
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２４.２
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２８.１
＿＿＿	＿２５.０	＿＿１０.４
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿８.１
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿８.９
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿４.２
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿３.９
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.９
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

S H R P

新 基 準 調 査

初 期 調 査 デ ー タ

２０３号　東多久バイパス

様式Ａ－１－１　一般データ　　調査区間番号　９０３

地建番号　９

報告年月　平成　２　年　１２　月

担当部局　九州地方建設局　九州技術事務所　工務課　計画係　内線　３１４

調査区間の地名　佐賀県多久市東多久町大字別府地内

路線番号　２０３

調査種別　１

調査方向　□上り　☒下り

距離標　２４ｋ６５０～２４ｋ９５０

（ＫＰ未定の場合No.＿＿＿＿＋＿＿～＿＿＿＿＋＿＿）

様式Ａ－１－２　舗装構造データ　　調査区間番号　９０３

舗装の種別　１

調査方向の車線数　１

車線幅　３５０　cm

調査対象車線　第　１　車線

路肩の幅　＿２５　cm

路肩の路面の種類　３

路肩の路盤の種類　２３，２５

路肩の表層・基層の厚さ　２０　cm

路肩の路盤の厚さ　＿３０　cm

地下排水工の種類　３，＿

縦断方向の配水管の内径　＿＿＿＿　mm

排水工の位置　２

配水管の間隔　２０００　cm

様式Ａ－１－３　舗装構成データ　　調査区間番号　９０３

層の数　６

番号	層の名称	層の厚さ（mm）				材料
		最　大	最　小	平　均	標準偏差	
1	7					64
2	6	178	150	164	14.96	23
3	5	168	150	154	29.36	25
4	4	115	98	104	6.47	31
5	4	65	50	58	9.49	2
6	3	54	47	51	2.22	1
7						
8						
9						
10						
11						
12						

舗装の等値換算厚T_A　　27.0 cm

舗装厚H　　50.0 cm

高支持力層までの深さ　　m

盛土厚さ　　cm

様式Ａ－１－４　施工関係データ　　調査区間番号　９０３

施工年月　平成　２　年　１　１　月

交通開放（予定）年月　平成　２　年　１　２　月

施工費用　　３　３　百万円／km・車線

打換え年月　平成　　年　　月

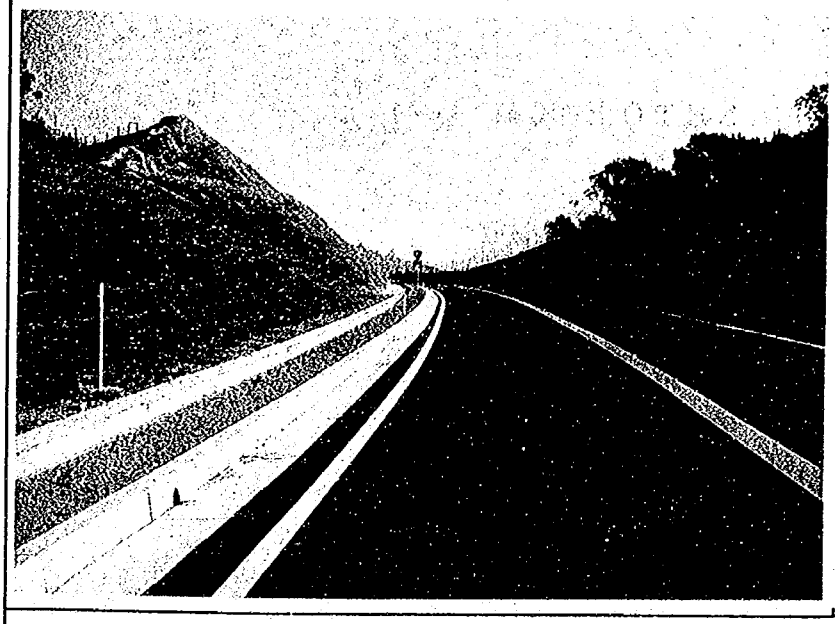
拡幅年月　　平成　　年　　月

当初の車線数　　車線

最終的な車線数　　車線

追加車線数　　車線

様式Ａ－１－５　調査区間概要図　　調査区間番号　９０３

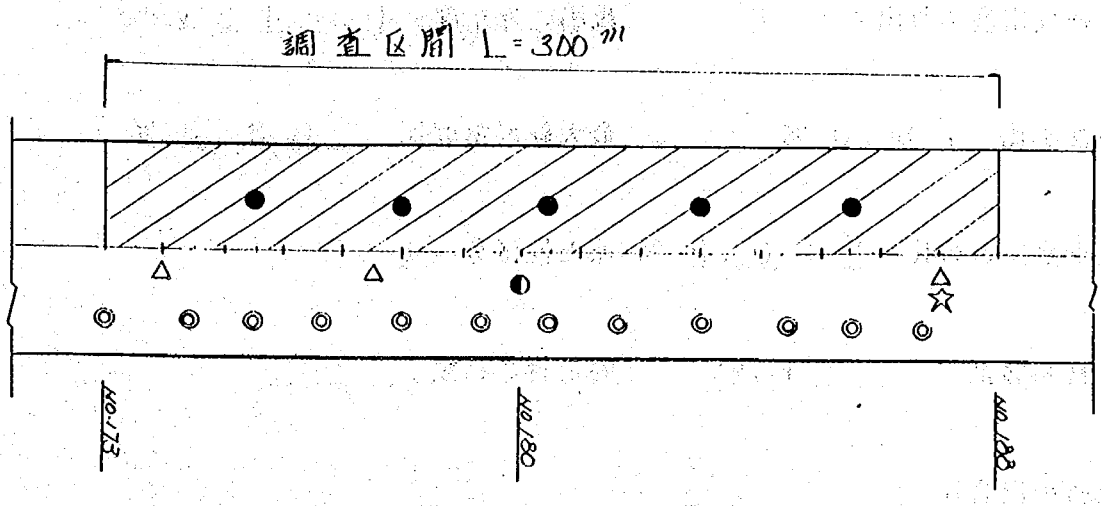


No.173 ~ No.188
L = 300 m

起点(No.173)より～
終点側を望む

調査区間概要図

●平板載荷試験
○現場密度試験
△CBR試料採取
☆提出用路床土採取
◐路盤材採取
◎コア－採取



路床路盤材料の採取位置を示すこと。

様式Ａ－２－１　路床土に関する基礎データ　　調査区間番号　９０３

層番号　＿１、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

土質分類　ＧＰ＿　　ＡＡＳＨＴＯ土質分類　Ａ１ａ

ＣＢＲ　平均値　＿１１．１　区間のＣＢＲ　＿＿８．６

Ｓ値　＿５．２７　Ｋ値　＿１４．２ kg/cm³

75μmふるい通過量　＿８．４ %

塑性限界　１８．３ %　液性限界　１８．３ %

塑性指数　１５．６ %

最大乾燥密度　１．８７０ g/cm³　最適含水比　１３．６ %

最大乾燥密度の算出方法　１　現場乾燥密度　１．７４５ g/cm³

現場含水比　１５．０ %　最大乾燥密度比　＿９３．３ %

最適含水比との比　１１０．３ %　凍上性区分　４

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

様式Ａ－２－２　弾性係数の測定（路床土）　　調査区間番号　９０３

層番号　＿１、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試料採取位置 KP＿２４ｋ９２９　（KPが未定の場合　No.　＿１８７＋＿＿）

供試体数　＿２　　ＡＡＳＨＴＯ土質分類　＿＿＿

含水比　＿１５．３％　　乾燥密度　１．８０４ g/cm³

試験の結果

側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
＿０．４２	＿０．５６	１２９８
＿０．２２	＿０．３６	＿９３６
＿０．００	＿０．１５	＿４９９
＿０．４１	＿０．７０	１５８７
＿０．２１	＿０．５０	１２８９
＿０．００	＿０．２９	＿８４２
＿０．４１	＿０．９６	１９７９
＿０．２１	＿０．７７	１５３１
＿０．００	＿０．５５	１０５６
＿０．４１	＿１．０９	１８６５
＿０．２１	＿０．９０	１４２２
＿０．００	＿０．６９	１４５５
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿
＿＿．＿＿	＿＿．＿＿	＿＿＿＿

回帰式　　log E = log A + B x log(stress)

A = １３３５．８ 10^3kg/cm²　B = ０．４６９

様式Ａ－３－１　路盤材料の特性値　　調査区間番号　９０３

層番号　＿２、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

最大乾燥密度　２．０９３ g/cm³　最適含水比　＿５．８ %

最大乾燥密度の算出方法　１

現場乾燥密度　２．０３１ g/cm³　現場含水比　＿５．０ %

最大乾燥密度比　＿９７．０ %　最適含水比との比　＿８６．２ %

平板載荷試験　＿２０．５ kg/cm³

425μmふるい通過量　＿７．０ %　75μmふるい通過量　＿４．０ %

路盤材料の修正ＣＢＲ　１２０．０

路盤材料の一軸圧縮強度　＿＿．＿ kg/cm²

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

様式Ａ－３－１　路盤材料の特性値　　調査区間番号　９０３

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

最大乾燥密度　２．３００ g/cm³　最適含水比　＿６．７ %

最大乾燥密度の算出方法　１

現場乾燥密度　２．２４９ g/cm³　現場含水比　＿６．５ %

最大乾燥密度比　＿９７．８ %　最適含水比との比　＿９７．０ %

平板載荷試験　＿２７．３ kg/cm³

425μmふるい通過量　１６．０ %　75μmふるい通過量　＿９．０ %

路盤材料の修正ＣＢＲ　２４４．０

路盤材料の一軸圧縮強度　＿＿．＿ kg/cm²

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

様式Ａ－３－２　弾性係数の測定（路盤）　　調査区間番号　９０３

層番号　＿２、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

供試体数　＿２　含水比　＿＿３.０％　乾燥密度　１.９９１ g/cm³

試験の結果	側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
	＿１.３８	＿１.５３	１１６９
	＿１.３８	＿１.７５	１３７３
	＿１.３８	＿２.０６	１８２８
	＿１.３８	＿２.４３	２４６２
	＿１.３８	＿２.７５	３７６８
	＿１.０４	＿１.１９	１０３９
	＿１.０４	＿１.４０	１２６９
	＿１.０４	＿１.７３	１６０５
	＿１.０４	＿２.０８	２４２０
	＿１.０４	＿２.４２	３６５１
	＿０.６９	＿０.８４	＿８１８
	＿０.６９	＿１.０５	１０５２
	＿０.６９	＿１.３８	１６４４
	＿０.６９	＿１.７３	２３８９
	＿０.３５	＿０.４９	＿５５７
	＿０.３５	＿０.７０	＿８９２
	＿０.３５	＿１.０３	１５４３
	＿０.３５	＿１.３９	２１２３
	＿０.０７	＿０.２４	＿５６３
	＿０.０７	＿０.４３	＿６６７
	＿０.０７	＿０.５８	＿８８５
	＿０.０７	＿０.７６	１２８４
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿

回帰式　$\log E = \log A + B \times \log(\text{stress})$

A = ＿８９４.５ 10^3kg/cm²　B = ０.５２３

様式Ａ－３－２　弾性係数の測定（路盤）　　調査区間番号　９０３

層番号　＿３、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

供試体数　＿２　含水比　＿＿４.６％　乾燥密度　１.９４４ g/cm³

試験の結果	側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
	＿１.３８	＿１.５３	１５９７
	＿１.３８	＿１.７５	１７４３
	＿１.３８	＿２.０６	２１７９
	＿１.３８	＿２.４３	２５１９
	＿１.３８	＿２.７５	２９３６
	＿１.０４	＿１.１９	１３５９
	＿１.０４	＿１.４０	１５４６
	＿１.０４	＿１.７３	１８２５
	＿１.０４	＿２.０８	２２００
	＿１.０４	＿２.４２	２６０５
	＿０.６９	＿０.８４	１２１８
	＿０.６９	＿１.０５	１４１９
	＿０.６９	＿１.３８	１６４６
	＿０.６９	＿１.７３	２０９７
	＿０.３５	＿０.４９	１１９０
	＿０.３５	＿０.７０	１１７６
	＿０.３５	＿１.０３	１５５０
	＿０.３５	＿１.３９	１８４４
	＿０.０７	＿０.２４	＿７２５
	＿０.０７	＿０.４３	＿９５０
	＿０.０７	＿０.５８	１０１８
	＿０.０７	＿０.７６	１０２３
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿

回帰式　　log E = log A + B × log(stress)

A = １０４９.４ 10^3kg/cm²　B = ０.４３９

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　９０３

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類		細骨材の種類	
1	1００	1	＿６４
＿	＿＿＿	2	＿３６
＿	＿＿＿	＿	＿＿＿
＿	＿＿＿	＿	＿＿＿

粗骨材の岩質　１７，２３　　フィラーの種類　１

（４号砕石、安山岩）

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿.＿	2.36mm	＿３５.５
37.5mm	１００.０	600μm	＿１９.４
26.5mm	＿８７.３	300μm	＿１３.６
19mm	＿７９.７	150μm	＿＿７.１
13.2mm	＿６１.９	75μm	＿＿４.２
4.75mm	＿４３.７		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	２.７８７ g/cm³	細骨材１（粗砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	２.７６９ g/cm³	細骨材２（中砂）	２.４９０ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	２.７４２ g/cm³	細骨材３（細砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	２.７０３ g/cm³	フィラー	２.７００ g/cm³
スクリーニングス	２.６４７ g/cm³	クラッシャラン	＿.＿＿＿ g/cm³

合成密度　２.６８３ g/cm³　有効密度　２.７６８ g/cm³

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　９０３

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類　１　１００
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

細骨材の種類　１　＿６４
２　＿３６
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

粗骨材の岩質　１７

フィラーの種類　１

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿．＿	2.36mm	＿３１．４
37.5mm	＿＿＿．＿	600μm	＿１８．１
26.5mm	１００．０	300μm	＿１３．０
19mm	＿９８．４	150μm	＿＿８．０
13.2mm	＿８０．９	75μm	＿＿５．４
4.75mm	＿４９．８		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	＿．＿＿＿ g/cm³	細骨材１（粗砂）	＿．＿＿＿ g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	２．７６９ g/cm³	細骨材２（中砂）	２．４９０ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	２．７４２ g/cm³	細骨材３（細砂）	＿．＿＿＿ g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	２．７０３ g/cm³	フィラー	２．７００ g/cm³
スクリーニングス	２．６４７ g/cm³	クラッシャラン	＿．＿＿＿ g/cm³

合成密度　２．６８６ g/cm³　有効密度　２．７５５ g/cm³

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号　９０３

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類　１　１００　　細骨材の種類　１　＿６１
＿　＿＿＿　　２　＿３９
＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿
＿　＿＿＿　　＿　＿＿＿

粗骨材の岩質　１７　　フィラーの種類　１

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿．＿	2.36mm	＿４３．４
37.5mm	＿＿＿．＿	600μm	＿２４．１
26.5mm	１００．０	300μm	＿１７．２
19mm	＿９８．７	150μm	＿＿９．８
13.2mm	＿８４．７	75μm	＿＿６．２
4.75mm	＿５９．６		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	＿．＿＿＿ g/cm³	細骨材１（粗砂）	＿．＿＿＿ g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	２．７６９ g/cm³	細骨材２（中砂）	２．４９０ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	２．７４２ g/cm³	細骨材３（細砂）	＿．＿＿＿ g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	２．７０３ g/cm³	フィラー	２．７００ g/cm³
スクリーニングス	２．６４７ g/cm³	クラッシャラン	＿．＿＿＿ g/cm³

合成密度　２．６６２ g/cm³　有効密度　２．７４０ g/cm³

様式Ａ－４－２　アスファルトの性状（原アスファルト）　調査区間番号　９０３

層番号　＿４、＿５、＿６、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

針入度区分　＿６０～＿８０

アスファルトの製造元　日本鉱業(株)　知多工場

密度　１．０２９ g/cm³

60℃粘度　＿＿２１１８ poise

135℃粘度　＿３４９ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０．０ cm

4℃伸度の伸長速度　＿５ cm/min

25℃針入度　＿６２

4℃針入度　＿３０

軟化点　＿４９ ℃

添加剤　商品名

添加剤の添加量　＿＿＿ %

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　９０３

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿５５４０ poise　　135℃粘度　＿５９０ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０．０ cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５ cm/min

25℃針入度　＿４１　　4℃針入度　＿２０

軟化点　＿５４ ℃

質量変化率　０．０２

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿２８　　4℃針入度　＿１２

60℃粘度　＿＿８９４９ poise　　135℃粘度　＿６８１ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　９０３

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿５５４０ poise　　135℃粘度　＿５９０ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０.０ cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５ cm/min

25℃針入度　＿４１　　4℃針入度　＿２０

軟化点　＿５４ ℃

質量変化率　０.０２

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿３３　　4℃針入度　＿１２

60℃粘度　＿１０１６７ poise　　135℃粘度　＿７５８ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　☒　１００＋

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　９０３

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　１

60℃粘度　＿＿５５４０poise　　135℃粘度　＿５９０cSt

25℃伸度　＿＿＿cm　または　☒　１００＋

4℃伸度　＿０．０cm　　4℃伸度の伸長速度　＿５　cm/min

25℃針入度　＿４１　　4℃針入度　＿２０

軟化点　＿５４℃

質量変化率　０．０２

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿２６　　4℃針入度　＿１１

60℃粘度　＿１６６２７poise　　135℃粘度　＿８７３cSt

25℃伸度　＿＿＿cm　または　☒　１００＋

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　９０３

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．４２８ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．５９３ g/cm³

アスファルト量　４．０ %

空隙率　＿６．４ %

骨材間隙率　１５．８ %

有効アスファルト量　＿４．０ %

突き固め回数　５０ 回

マーシャル安定度　＿９４１ kg

フロー値　＿２３ (1/100cm)

ビーム安定度　＿５２．８

ビーム粘着度　＿２７４．５

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　９０３

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．４５５ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．５５８ g/cm³

アスファルト量　４．６ %

空隙率　＿４．０ %

骨材間隙率　１５．０ %

有効アスファルト量　＿４．６ %

突き固め回数　７５ 回

マーシャル安定度　１１６４ kg

フロー値　＿２７ (1/100cm)

ビーム安定度　＿４５．２

ビーム粘着度　＿３５１．５

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　９０３

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．４３７ g/cm³

最大比重（理論密度）　２．５３０ g/cm³

アスファルト量　５．０ ％

空隙率　＿３．７ ％

骨材間隙率　１５．５ ％

有効アスファルト量　＿５．０ ％

突き固め回数　７５ 回

マーシャル安定度　１２３３ kg

フロー値　＿２８ (1/100cm)

ビーム安定度　＿５２．３

ビーム粘着度　＿３０７．４

様式Ａ－４－５　アスファルト混合物の性状（配合試験２）調査区間番号　９０３

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の剥離試験結果（剥離率）　＿２２

剥離防止材の種類　商品名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

剥離防止材の添加量　＿＿．＿％

アスファルトプラントの形式　＿

ホイールトラッキング試験結果　＿＿＿＿回/mm

スパイクラベリング試験結果　＿＿＿＿mm²

様式Ａ－４－５　アスファルト混合物の性状（配合試験２）調査区間番号　９０３

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の剝離試験結果（剝離率）　＿２２

剝離防止材の種類　商品名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

剝離防止材の添加量　＿＿．＿％

アスファルトプラントの形式　１

ホイールトラッキング試験結果　１３１２回/mm

スパイクラベリング試験結果　＿＿＿＿mm²

様式Ａ－４－５　アスファルト混合物の性状（配合試験２）調査区間番号　９０３

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の剝離試験結果（剝離率）　＿２２

剝離防止材の種類　商品名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

剝離防止材の添加量　＿＿.＿％

アスファルトプラントの形式　１

ホイールトラッキング試験結果　＿９８４回/mm

スパイクラベリング試験結果　＿＿＿＿mm²

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　９０３

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．４１７ g/cm³

アスファルト量　４．０ %

空隙率　＿６．８ %

骨材間隙率　１６．２ %

マーシャル安定度　＿９５３ kg

フロー値　＿２２ (1/100cm)

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　９０３

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．４６０ g/cm³

アスファルト量　４．６ %

空隙率　＿３．８ %

骨材間隙率　１４．８ %

マーシャル安定度　１１３７ kg

フロー値　＿２７ (1/100cm)

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　９０３

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．４３８ g/cm³

アスファルト量　５．０ %

空隙率　＿３．６ %

骨材間隙率　１５．４ %

マーシャル安定度　１１６８ kg

フロー値　＿２８ (1/100cm)

様式Ａ－４－７　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　９０３

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．５２４ g/cm³

最大比重　２．６０１ g/cm³

空隙率　＿３．０ %

アスファルト量　４．５ %

骨材間隙率　１４．０ %

様式Ａ－４－７　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　９０３

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．４６３ g/cm³

最大比重　２．６３４ g/cm³

空隙率　＿６．５ ％

アスファルト量　４．７ ％

骨材間隙率　１７．６ ％

様式Ａ－４－７　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　９０３

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　２．４２７ g/cm³

最大比重　２．６２０ g/cm³

空隙率　＿７．４ %

アスファルト量　５．６ %

骨材間隙率　２０．５ %

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　９０３

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	４４５００	２.５０９
＿＿＿	＿＿５.０	４２７００	２.５４６
＿＿＿	＿＿５.０	７０２００	２.５１８
＿＿＿	＿２５.０	２１６００	２.５０９
＿＿＿	＿２５.０	２１７００	２.５４６
＿＿＿	＿２５.０	２８６００	２.５１８
＿＿＿	＿４０.０	＿６７３５	２.５０９
＿＿＿	＿４０.０	＿４４８５	２.５４６
＿＿＿	＿４０.０	＿４３８０	２.５１８
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　９０３

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	４３３００	２.４７１
＿＿＿	＿＿５.０	５３９５０	２.４７４
＿＿＿	＿＿５.０	６５７００	２.４４３
＿＿＿	＿２５.０	１６８５０	２.４７１
＿＿＿	＿２５.０	２０８００	２.４７４
＿＿＿	＿２５.０	２１２５０	２.４４３
＿＿＿	＿４０.０	＿４８００	２.４７１
＿＿＿	＿４０.０	＿４２３０	２.４７４
＿＿＿	＿４０.０	＿４８８０	２.４４３
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号　９０３

層番号　＿６、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法　１

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿５.０	７０２５０	２.４１９
＿＿＿	＿＿５.０	６９８００	２.４３４
＿＿＿	＿＿５.０	７０３００	２.４２８
＿＿＿	＿２５.０	＿９２４０	２.４１９
＿＿＿	＿２５.０	１４８００	２.４３４
＿＿＿	＿２５.０	２０２５０	２.４２８
＿＿＿	＿４０.０	＿５１４０	２.４１９
＿＿＿	＿４０.０	＿６９８５	２.４３４
＿＿＿	＿４０.０	＿７４４５	２.４２８
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　０.４　秒

載荷周波数　１.０　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　９０３

層番号　＿４、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２９.９
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿３０.２
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿３０.８
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿７.９
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿８.４
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿８.９
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿３.３
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.０
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.３
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　９０３

層番号　＿５、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２２.９
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿３０.８
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２７.０
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿５.８
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿７.０
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿６.６
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿１.８
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿１.８
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.０
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　９０３

層番号　＿７、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿３３.４
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿３１.９
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿２９.４
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿８.１
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿８.６
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿９.３
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿２.５
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿３.１
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿３.３
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

第３分冊　新基準調査結果報告
初期調査編，初期調査データ
（その２）

ISSN　0386－5878
土木研究所資料第3157号
平成５年４月（1993）

舗装研究室　室　長　中村　俊行
研究員　伊佐　真秋

要　旨

新基準調査は，アメリカ合衆国が中心となって進めている新道路研究計画（Strategic Highway Research Program：SHRP）の中の舗装の長期供用性（Long－Term Pavement Performance：LTPP）に関する調査への研究協力および我国での基礎データの収集を目的とするものである。

本報告は全国の各試験舗装箇所の道路構造，舗装構造，材料特性データ等の初期調査データが整ったのを受け，全調査箇所のデータを取りまとめたものである。

キーワード：新道路研究計画（SHRP），舗装の長期供用性（LTPP），アスファルト舗装，新基準調査，舗装材料の弾性係数

郵　便　はがき

切手をはって下さい

3 0 5 - □ □

茨城県つくば市大字旭一番地

建設省土木研究所
道路部舗装研究室　行

No.

No.

配布先氏名　　○

配布先住所

土木研究所資料第3157号　　部

第3分冊　新基準調査結果報告
初期調査編，初期調査データ（その2）

上記のとおり受領しました。

所　属（住所）

氏　名　　印

1．調査の概要

1.1　調査の適用箇所

新基準調査の箇所選定にあたっては、アスファルト舗装で、新設または打換えの箇所、平坦かつ直線で原則として300m程度の区間をとることのできる箇所等の条件に基づき決定した。

調査は、全国２８箇所（地建当り３箇所程度）で行われており、地建別、舗設年度別に全試験舗装箇所の一覧を表－１に示す。

表－１　試験舗装箇所一覧表　　（ＢＰ：バイパス）

地建	昭和63年度施工		平成元年度施工		平成２年度施工		計
	路線	路線名	路線	路線名	路線	路線名	
北海道			36 228	白老ＢＰ 木古内ＢＰ	337	銭函ＢＰ	3
東北	13	山形北ＢＰ	4	柴田ＢＰ	108	涌谷ＢＰ	3
関東	246	大和･厚木BP	17 51	深谷ＢＰ 佐原ＢＰ	4	新４号国道	4
北陸	8	長岡東ＢＰ	7	新々ＢＰ	8	くりからＢＰ	3
中部	23	南勢ＢＰ			1 1	沼津ＢＰ 亀山ＢＰ	3
近畿	175	小野ＢＰ	8	福井ＢＰ	161	高島ＢＰ	3
中国			54	上根ＢＰ	9 188	北条ＢＰ 下松ＢＰ	3
四国	11	松山東道路	11	西条ＢＰ	55	徳島南ＢＰ	3
九州			3	岡垣ＢＰ	10 203	椎田道路 東多久ＢＰ	3
箇所数	６		１０		１２		２８

1.2　調査内容

調査項目は、大きく以下の６つに分類される。

①初期調査

初期調査は、地先名、路線名や距離標等の一般的なデータ、試験舗装地点の車線数、幅員等の道路構造データ、舗装を構成する各層の材料や厚さを示す舗装構造データ、各材料の特性値を示す材料特性データ等からなる。

②路面調査

ひびわれ、平坦性、わだち掘れ量、すべり抵抗等の路面性状やたわみ量等について交通に供用されることによる変化を定期的（毎年９～１１月）に観測する。

③環境調査

気温や降水量等の現場の気象条件を示すデータを収集する。

④交通調査

交通量や車両重量を調査する。

⑤維持調査

維持作業の方法、規模、使用材料、施工費等のデータを収集する。

⑥修繕調査

修繕作業の方法、規模、使用材料、施工費等のデータを収集する。

なお、調査は、粒状路盤までの打換えあるいは２回目の修繕が必要になったときに終了する。

現在は、全ての調査箇所において舗装施工時に行われる初期調査が終了し、②、③、④といった追跡調査を中心に調査を継続している。また、各調査箇所とも供用を開始してから４年未満と新しいため⑤、⑥といった補修に関する調査は行われていない。

２．試験舗装箇所の舗装構造

2.1　舗装構成

調査箇所ごとの使用材料を地方建設局別に整理したものを表－２に示す。ほとんどの箇所で各地建の標準的な舗装構成、材料を採用していることや、また、全ての箇所で上層路盤にアスファルト安定処理層を設けてある等の類似点が多く、特色のある舗装構造は少ないようである。

アスファルト混合物の種類では一般地域に属する地建(28箇所中19箇所)おいては密粒(20)または密粒(13)を用いており、そのうち5箇所では耐流動対策として比較的硬いストレートアスファルト(針入度40-60)やセミブローンアスファルト(AC-100)を使用している。

雪寒地域(28箇所中9箇所)では細粒ギャップや密粒ギャップ(20F)を用いており、そのうち5箇所では耐摩耗対策として改質アスファルトや剥離防止剤を使用している。

表－２　試験舗装箇所舗装材料一覧

地建	バイパス	路床	路床改良	使用材料						備考
				下層路盤	上層路盤１	上層路盤２	基層	中間層	表層	
北海道	36号白老ＢＰ	火山灰	－	切込砂利	－	アス安定	粗粒	粗粒	細粒Ｇ13	表層ゴム
	228号木古内ＢＰ	砂質土	－	切込砂利	－	アス安定	粗粒	粗粒	細粒Ｇ13	ストアス80-100
	337号銭函ＢＰ	砂質土	－	ｸﾗｯｼｬﾗﾝ	－	アス安定	粗粒	粗粒	細粒Ｇ13	表層ゴム
東北	13号山形北ＢＰ	山砂利	－	ｸﾗｯｼｬﾗﾝ	－	アス安定	粗粒	粗粒	細粒Ｇ13Ｆ	
	４号柴田ＢＰ	砂質粘土	ズリ	ｸﾗｯｼｬﾗﾝ	－	アス安定	粗粒	粗粒	密粒Ｇ20Ｆ	
	108号涌谷ＢＰ	砂質土	－	ｸﾗｯｼｬﾗﾝ	粒調砕石	アス安定	粗粒	粗粒	密粒Ｇ20Ｆ	
関東	246号大和厚木BP	関東ﾛｰﾑ	－	ｸﾗｯｼｬﾗﾝ	粒調砕石	アス安定	粗粒	粗粒	密粒20	表･基層 40-60
	17号深谷ＢＰ	ｼﾙﾄ質粘土	石灰｜砂	ｸﾗｯｼｬﾗﾝ	粒調砕石	アス安定	粗粒	粗粒	密粒20	表･基層 40-60
	51号佐原ＢＰ	粘性土	－	ｸﾗｯｼｬﾗﾝ	粒調砕石	アス安定	粗粒	粗粒	密粒20	表･基層 40-60
	４号新４号国道	ｼﾙﾄ質粘土	礫質土	ｸﾗｯｼｬﾗﾝ	粒調砕石	アス安定	粗粒	粗粒	密粒20	表･基層 40-60
北陸	17号長岡東ＢＰ	礫質土	－	－	粒調砕石	アス安定	粗粒	粗粒	細粒Ｇ20Ｆ	表層ゴム
	７号新々ＢＰ	－	砂	ｸﾗｯｼｬﾗﾝ	粒調砕石	アス安定	粗粒	粗粒	細粒Ｇ20Ｆ	表層ゴム
	８号くりからＢＰ	ｼﾙﾄ質粘土	ｾﾒﾝﾄ安定	ｸﾗｯｼｬﾗﾝ	粒調砕石	アス安定	粗粒	－	細粒Ｇ20Ｆ	表層剥離防止剤
中部	23号南勢ＢＰ	礫質土	－	ｸﾗｯｼｬﾗﾝ	粒調砕石	アス安定	粗粒	－	密粒20	
	１号沼津ＢＰ	砂質土	－	ｸﾗｯｼｬﾗﾝ	ｾﾒﾝﾄ安定	アス安定	粗粒	粗粒	密粒20	
	１号亀山ＢＰ	ｼﾙﾄ質砂	－	ｸﾗｯｼｬﾗﾝ	粒調砕石	再生合材	粗粒	粗粒	密粒20	表･中層 AC-100
近畿	175号小野ＢＰ	礫質土	ｾﾒﾝﾄ安定	スラグ	－	アス安定	粗粒	－	密粒13	
	８号福井ＢＰ	粘性土	ﾚｷ混じり砂	ｸﾗｯｼｬﾗﾝ	粒調砕石	アス安定	粗粒	粗粒	密粒20	
	161号高島ＢＰ	真砂土	－	－	粒調砕石	アス安定	粗粒	－	密粒20	
中国	54号上根ＢＰ	真砂土	－	ｸﾗｯｼｬﾗﾝ	粒調砕石	アス安定	粗粒	粗粒	密粒20	
	９号北条ＢＰ	真砂土	－	ｸﾗｯｼｬﾗﾝ	粒調砕石	アス安定	粗粒	粗粒	密粒20	
	188号下松ＢＰ	砂質土	－	ｸﾗｯｼｬﾗﾝ	粒調砕石	アス安定	粗粒	－	密粒20	
四国	11号松山東道路	礫質土	－	ｸﾗｯｼｬﾗﾝ	－	アス安定	粗粒	－	密粒20	
	11号西条ＢＰ	ｼﾙﾄ質粘土	－	ｸﾗｯｼｬﾗﾝ	－	アス安定	粗粒	－	密粒13	
	55号徳島南ＢＰ	礫質土	－	ｸﾗｯｼｬﾗﾝ	－	アス安定	粗粒	－	密粒13	ｱｽ安定２層仕上
九州	３号岡垣ＢＰ	真砂土	－	ｸﾗｯｼｬﾗﾝ	粒調砕石	アス安定	粗粒	粗粒	密粒13	
	10号椎田ＢＰ	砂質｜礫質	－	ｸﾗｯｼｬﾗﾝ	粒調砕石	アス安定	粗粒	－	密粒20	
	203号東多久ＢＰ	けつ岩	－	ｸﾗｯｼｬﾗﾝ	粒調砕石	アス安定	粗粒	－	密粒20	

2.2 路床の材料特性

路床材料の各特性値について整理したものを表－３に示す。

表－３ 路床の材料特性

測定箇所		最大乾燥密度	最適含水比	PI (%)	CBR (%)	K値 (kgf/cm³)	設計CBR	大型車交通量
白老バイパス		1.260	29.5	－	61.6	13.1	4	2,585
木古内バイパス		1.595	20.4	－	－	－	3	1,510
銭函バイパス		1.630	17.2	NP	5.5	6.3	－	－
山形北バイパス		1.973	9.0	11.9	47.8	20.9	20	3,188
柴田バイパス	上	2.041	7.7	NP	61.3	27.8	12	3,500
	下	－	－	－	2.3	－		
涌谷バイパス		1.640	15.5	19.9	17.8	10.5	8	－
大和厚木バイパス		－	－	－	12.4	－	8	6,000
深谷バイパス	上	1.421	30.8	－	5.3	－	12	3,900
	下	1.544	24.7	21.0	0.9	－		
佐原バイパス		1.618	23.0	23.0	8.0	17.9	8	1,960
新４号国道	上	2.165	4.1	－	12.7	16.0	12	－
	下	0.789	72.0	67.0	0.7	－		
長岡東バイパス		2.052	8.8	NP	42.7	18.4	－	－
新々バイパス		1.675	15.4	10.4	12.4	10.4	8	4,700
くりからﾊﾞｲﾊﾟｽ	上	1.351	26.1	－	25.4	19.2	8	－
	下	－	－	25.1	1.6	－		
南勢バイパス		2.116	7.5	10.0	4.1	9.7	4	1,000
沼津バイパス		1.935	10.2	NP	66.6	31.7	8	－
亀山バイパス		2.020	10.2	NP	33.9	27.8	6	－
小野バイパス	上	1.670	18.7	11.2	2.3	27.5	12	1,100
	下	－	－	－	－	－		
福井バイパス	上	2.010	8.7	12.8	20.6	15.6	12	5,700
	下	1.921	10.0	20.2	0.9	－		
高島バイパス		2.168	8.4	2.1	36.2	29.2	12	－
上根バイパス		2.053	9.3	NP	62.7	31.7	12	1,840
北条バイパス		1.998	9.9	－	24.3	33.7	－	－
下松バイパス		1.659	40.6	16.1	12.8	15.4	－	－
松山東道路		2.115	7.4	7.4	19.8	21.5	12	2,600
徳島南バイパス		1.854	39.0	16.9	15.4	36.0	12	－
西条バイパス		1.892	11.8	8.5	18.8	24.2	12	1,700
岡垣バイパス	上	2.193	6.4	7.6	31.1	54.1	12	3,410
	下	1.470	26.5	32.1	2.4	－		
椎田道路	上	1.852	27.3	NP	15.7	15.2	12	－
	下	1.809	15.2	－	2.1	－		
東多久バイパス		1.870	18.3	15.6	8.6	14.2	8	－
平均		1.792	18.4	17.8	20.5	21.9	10.5	2980
標準偏差		0.308	13.5	13.6	19.7	10.4	3.8	1521

2.3 路盤の材料特性

路盤材料の各特性値について整理したものを表－４に示す。

表－４　路盤の材料特性

測定箇所		最大乾燥密度	最適含水比	現場乾燥密度	修正CBR (%)	K値 (kgf/cm³)	ﾌﾙｲ通過量 (425μm)
白老バイパス		—	—	—	—	—	—
木古内バイパス		2.115	7.0	2.116	71.0	43.3	—
銭函バイパス		2.109	7.2	2.064	86.5	37.9	10.0
山形北バイパス		2.105	5.2	2.040	76.0	42.2	21.6
柴田バイパス		2.160	6.1	2.138	75.0	33.8	7.5
涌谷バイパス	上	2.049	7.5	1.999	100.0	21.0	11.2
	下	2.170	3.4	2.104	123.9	13.4	7.1
大和厚木バイパス		2.212	4.3	2.263	180.0	—	—
深谷バイパス	上	2.292	6.0	2.261	120.0	42.1	19.4
	下	2.310	4.1	2.272	106.0	43.8	—
佐原バイパス	上	2.238	5.9	2.191	118.0	26.6	19.6
	下	2.160	3.7	2.114	74.0	26.4	—
新４号国道	上	2.262	5.7	2.224	113.0	40.0	2.6
	下	2.208	4.8	2.160	86.0	22.7	5.0
長岡東バイパス		2.200	6.3	2.183	115.0	—	15.5
新々バイパス	上	2.274	6.3	2.243	110.0	34.4	14.6
	下	2.036	5.6	2.001	84.0	20.8	9.2
くりからﾊﾞｲﾊﾟｽ	上	2.118	6.6	2.051	110.1	33.8	46.0
	下	2.062	7.7	1.991	79.7	29.4	32.0
南勢バイパス	上	2.442	6.0	2.429	108.0	36.2	—
	下	2.416	5.0	2.344	84.0	21.6	—
沼津バイパス	上	2.127	7.8	2.106	106.0	142.3	15.8
	下	2.032	6.5	1.984	93.0	44.0	10.3
亀山バイパス	上	2.310	5.5	2.256	106.0	81.0	15.8
	下	2.185	5.0	2.135	79.0	35.4	6.9
小野バイパス		2.208	9.0	2.164	170.0	43.0	17.3
福井バイパス	上	2.228	7.5	2.182	116.0	34.3	—
	下	2.176	7.2	2.125	93.0	24.8	—
高島バイパス		2.335	5.7	2.257	109.0	28.2	16.8
上根バイパス	上	2.232	7.0	2.222	83.0	45.7	5.4
	下	2.175	5.4	2.134	50.0	33.4	5.0
北条バイパス	上	2.241	6.2	2.200	109.0	69.0	12.5
	下	2.138	6.4	2.086	73.0	65.3	—
下松バイパス	上	2.242	6.6	2.209	98.0	33.6	19.0
	下	2.167	5.7	2.139	77.0	23.2	12.5
松山東道路		2.020	5.3	2.000	95.4	50.1	7.2
西条バイパス		2.171	6.0	2.129	93.0	33.5	8.5
徳島南バイパス		2.061	4.7	2.035	87.0	41.6	7.0
岡垣バイパス	上	2.134	7.8	2.093	96.0	46.6	14.3
	下	2.132	6.2	2.081	77.0	53.3	6.7
椎田道路	上	2.110	5.9	2.061	94.0	31.1	7.6
	下	2.103	3.7	2.038	69.0	21.5	15.1
東多久バイパス	上	2.300	6.7	2.249	244.0	27.3	16.0
	下	2.093	5.8	2.031	120.0	20.5	7.0
平　均		2.182	6.0	2.142	101.3	39.0	13.2
標準偏差		0.096	1.2	0.100	32.4	21.2	8.3

2.4　FWDの測定値より推定した舗装材料の弾性係数

各試験舗装において施工直後にFWD（Falling Weight Deflectometer）を用いてたわみ量を測定し、多層弾性プログラムELSAの逆解析の手法により各層における弾性係数を推定した結果を表－5に示す。

粒状材料では、上層路盤の値の範囲が多少広いものの路床、下層路盤ともほぼ適切な値が得られた。また、瀝青安定処理路盤、表基層については、FWD測定時の温度による影響が大きいため、この結果から一概に評価することはできないが、推定値の範囲から概ね妥当な値と考えられる。

表－5　施工直後のFWDを用いた推定弾性係数

地建	バイパス	推定弾性係数 (kgf/cm²)					路面温度
		路床	下層路盤	上層路盤	アス安定	表・基層	(℃)
北海道	36号白老BP	1,000	3,100	—	48,000	70,000	10.7
	228号木古内BP	830	2,500	—	53,000	60,000	9.7
	337号銭函BP	1,100	4,000	—	48,000	70,000	13.3
東北	13号山形北BP	2,000	2,900	—	65,000	100,000	10.8
	4号柴田BP	1,500	3,300	—	85,000	80,000	13.0
	108号涌谷BP	1,500	—	2,600	20,000	40,000	7.0
関東	246号大和厚木BP	1,300	1,900	3,600	23,000	40,000	14.3
	17号深谷BP	2,000	3,300	15,000	27,000	60,000	9.0
	51号佐原BP	1,400	1,800	5,600	12,000	20,000	30.2
	4号新4号国道	1,300	3,000	8,100	20,000	30,000	19.8
北陸	17号長岡東BP	1,400	—	3,000	130,000	120,000	4.7
	7号新々BP	950	3,200	10,000	28,000	35,000	9.9
	8号くりからBP	1,100	1,500	2,700	6,500	25,000	19.7
中部	23号南勢BP	2,000	2,700	6,500	14,000	70,000	13.1
	1号沼津BP	2,300	3,600	12,000	12,000	40,000	32.1
	1号亀山BP	1,700	1,700	5,800	18,000	50,000	16.7
近畿	175号小野BP	3,000	5,300	—	35,000	50,000	10.2
	8号福井BP	1,200	1,100	2,900	9,500	20,000	29.1
	161号高島BP	1,800	—	2,800	5,800	10,000	34.4
中国	54号上根BP	1,600	3,000	12,000	22,000	70,000	8.0
	9号北条BP	1,100	900	4,100	24,000	50,000	17.7
	188号下松BP	1,500	1,100	4,800	22,000	70,000	10.1
四国	11号松山東道路	1,300	3,000	—	25,000	100,000	9.3
	11号西条BP	1,700	3,500	—	25,000	70,000	20.6
	55号徳島南BP	2,000	4,000	—	21,000	70,000	16.3
九州	3号岡垣BP	2,000	1,900	5,400	7,500	20,000	16.6
	10号椎田BP	1,400	3,100	12,200	19,000	50,000	12.4
	203号東多久BP	1,800	1,700	7,800	18,000	70,000	18.3

付録－１　調査実施要領(初期調査編)

直轄国道管理調査

路面維持調査

(新基準調査)

調査実施要領

平成2年6月

道路局道路経済調査室
土木研究所舗装研究室

初　期　調　査　編

１．調査区間に関するデータの報告
１－１　一般共通事項
１－２　調査区間に関するデータの記入
２．試料の採取
２－１　一般共通事項
２－２　路床材料の採取
２－３　下層路盤材料の採取
２－４　上層路盤材料の採取
２－５　アスファルト混合物用材料の採取
２－６　コアの採取
２－７　採取試料の数量（例）
３．路床に関するデータの報告
３－１　一般共通事項
３－２　路床に関するデータの記入
４．路盤に関するデータの報告
４－１　一般共通事項
４－２　路盤に関するデータの記入
５．アスファルト混合物に関するデータの報告
５－１　一般共通事項
５－２　アスファルト混合物に関するデータの報告
６．その他
付録－１　提出書類の一覧表
－２　コード表
－３　追加調査事項一覧表

1．調査区間に関するデータの報告

1－1　一般共通事項

調査の結果は、所定の様式(A４版)に記入して提出する。本章で解説する様式類は、新設または打換えにより調査を開始した時期に１度提出すればよい。文中で、＊が付いているものは調査のうえ土研で記入する部分である。

設定された調査区間については、ＳＨＲＰ専門委員会（共通編、第２章参照）により調査区間番号が設定される。その調査区間番号は、調査区間に特有なものであり、調査が終了するまで一定の番号を使用する。

1－2　調査区間に関するデータの記入

データは、わかる範囲で記入する。不明な場合は、？マークを記入する。

(1) 様式Ａ－１－１　一般データ

1)地建番号

下記の番号を使用する。

１：北海道開発局　２：東北地方建設局　３：関東地方建設局
４：北陸地方建設局　５：中部地方建設局　６：近畿地方建設局
７：中国地方建設局　８：四国地方建設局　９：九州地方建設局

2)報告年月

報告様式を提出した年月を報告する。

3)担当部局

とりまとめの担当部局を、係名まで報告する。また、マイクロ番号を記入する。

4)地名

調査区間が設定された場所の地名を報告する。

5)路線番号

路線番号を報告する。

6)調査種別＊

新道路研究計画における調査種別を報告する。

7)調査方向

上り、下りの別を報告する。

8)距離標

調査区間の始点および終点を報告する。距離標が未確定の場合は、工事の測点を報告する。

(2) 様式Ａ－１－２　舗装構造データ

1)舗装の種別＊

新道路研究計画で定義された、舗装の種別を報告する。

2)調査方向の車線数

調査方向（上りまたは下り）の車線数（片側車線数）を報告する。ただし、右左折のために交差点付近のみに増設した車線や、高速道路の流入出ランプは数に含めない。

3)車線幅

調査対象車線の幅員をcm単位で報告する。

4)調査対象車線

調査対象の車線番号を、センターライン側を第1車線として報告する。

5)路肩の幅

路肩が設けられている場合は、その幅員をcm単位で報告する。路肩がない場合は、0を報告する。片側3車線以上の道路の第2車線のように、道路としては路肩があっても、路肩に接していない車線については、路肩がないものと考え0を記入する。

6)路肩の路面の種類

路肩の路面の種類を、以下の記号で報告する。路肩がない場合は空白にする。

1：草地(芝)　2：粒状材料　3：アスファルト　4：セメントコンクリート

5：表面処理(薄層舗装)　6：その他(具体的に記入する)

7)路肩の路盤の種類

路盤の種類を、コード表－2に従って報告する。路肩がない場合は空白にする。

8)路肩の表層・基層の厚さ

6)で記入した層の合計厚さをcm単位で報告する。路肩がない場合は空白にする。

9)路肩の路盤の厚さ

7)で記入した路盤の合計厚さをcm単位で報告する。路肩がない場合は空白にする。

10)地下排水工の種類

設置されている地下排水工の種類を以下の記号で報告する。

1：地下排水工なし　2：縦断方向の排水管　3：横断方向の排水管

4：不透水材料(層)の設置　5：排水機の設置

6：不透水材料(層)および縦断方向の排水管　7：その他(具体的に記入する)

11)縦断方向排水管の内径

10)で2を選択した場合は、排水管の内側の直径をmm単位で報告する。

12)排水工の位置

10)で1を選択した場合以外は、調査区間全てについて設置されているかどうかを、下記の記号で報告する。

1：全区間に設置されている。　2：設置されていない部分がある。

13)排水管の間隔

排水管が設置されている場合は、その間隔をcm単位で報告する。

(3) 様式A－1－3　舗装構成データ

1)層の数

路床も1層と数えたうえで、舗装の全層の数を報告する。

2)層の名称

層の名称を下記のコードを使用して報告する。層の順番は路床を第1層目とし下から2、3層目と数える

1：オーバーレイ(新設・打換え時は使用しない)

2：シールコート(新設・打換え時は使用しない)

３：元の表面(新設・打換え直後の表面はこれになる、摩耗層にはこれを適用しない)
４：加熱アスファルト層(表層以外はアス処理を含めてこれを使用する)
５：上層路盤　６：下層路盤　７：路床(改良された路床も含む)
８：結合層(日本では使用していないので欠番扱い)　９：摩耗層(すべり止めを含む)
１０：表面処理(日本では新設には使用していないので欠番扱い)
１１：盛土(路床以外の部分)
１２～２０：(コンクリート関係なので欠番)
２１：遮断層　２２：凍上抑制層

3)各層の厚さ

施工管理データを使用し、各層の厚さについて、最小厚さ、最大厚さ、平均厚さ、標準偏差をmm単位で報告する。管理データの数が４個以下の場合は、平均厚さのみの報告でよい。

4)各層の材料

各層の材料の種類を、コード表－１～３を使用して報告する。コード表の中に該当するものがない場合は、名称そのものを記入する。

5)等値換算厚

舗装のT_Aをcm単位で記入する。

6)舗装厚

舗装厚Ｈをcm単位で記入する。

7)高支持力層までの深さ

路床の下の層で、舗装表面から岩盤等の高支持力層までの深さがわかっていればｍ単位で報告する。

8)盛土厚さ

盛土をしている場合は、その厚さをcm単位で報告する。

(4) 様式Ａ－１－４　施工関連データ

1)施工年月

新設の場合は、舗装の表層の施工が完了した年月を報告する。打換えの場合は、最初の舗装の施工が完了した年月を報告する。

2)交通開放（予定）年月

施工後交通開放した年月（報告時点で未開放の場合は、供用開始予定年月）を報告する。打換えの場合は、最初の舗装が交通に開放された年月を報告する。

3)施工費用

舗装の施工（ガードレール等の付帯工事を含まない、路床までの土工に関する施工費を除く、路床改良の費用は含む）に費やした費用を、１kmの道路１車線を施工するための単位費用に形で、百万円単位で報告する。設計の構成が複雑な場合には、直接工事比の比率に従って比例配分し、単位延長当りの工費に直す。

4)打換え年月

打換えの現場の場合は、打換えの施工が完了した年月を報告する。

5)拡幅年月
過去に拡幅をしている場合には、拡幅を行った年月を報告する。
6)当初の車線数
過去に拡幅をしている場合には、拡幅前の調査方向の車線数を報告する。
7)最終的な車線数
過去に拡幅をしている場合には、拡幅後の調査方向の車線数を報告する。
8)追加車線数
過去に拡幅をしている場合には、拡幅により調査方向に追加された車線数を報告する。

(5) 様式Ａ－１－５　調査区間概要図
調査区間に設定した場所の平面図を示し、全景がわかる完成写真を付ける。

2．試料の採取

2－1　一般共通事項

土木研究所で実施する材料試験用の試料を現場から採取し、土木研究所舗装研究室あてに送付する。採取した材料のうち、土、砂、砕石、安定材等については、含水比が変化したり、水分を吸収したりしないように厚手のビニール袋に入れ、袋の口を密閉したうえで、広口の缶（１斗缶など、下図参照）に入れる。アスファルトは、広口の缶（１斗缶など）に直接入れる。タックコートやプライムコート用の瀝青材料は、採取しなくてもよい。採取量は、路床路盤材は各層について30kg、アスファルト混合物用材料は30kg×必要配合数、石粉は10kg×必要配合数とする。

缶には、必ず現場の名称、材料の名称を明記する。材料の名称の例は、以下のとおりである。

路床土	アスコン用砕石（５号、６号、７号）
路床用安定材	アスコン用粗砂
下層路盤用クラッシャラン	アスコン用細砂
上層路盤用粒度調整砕石	フィラー
下層路盤用安定材	アスファルト
上層路盤用安定材	改質アスファルト

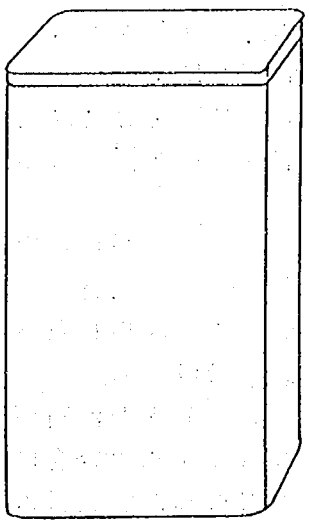


図　試料採取用の缶の例

2－2　路床材料の採取

試料は、原則として工事中に採取する。ただし、すでに路盤までの施工が完了している場合には、路側部等の掘削しても差しつかえない部分から掘削して採取する。

(1) 現路床土の採取

施工現場の路床を開削し、路床面から約50cmの位置の路床土（レキ除く）を30kg採取する。

(2) 安定処理の場合

安定処理を施す場合には、(1)と別途に安定処理前の土約30kgと安定材を10kg送付する。また、安定材の品質試験結果および安定処理混合物の配合設計書を添付する。

(3) 置換の場合

置換を施す（施した）場合には、置換材料約30kgを採取する。置換材料について、製造

者による品質試験結果があれば添付する。
(4) 遮断層を設けた場合
遮断層を設けた場合には、遮断層の材料30kgを採取する。遮断層の材料について、製造者による品質試験結果があれば添付する。
(5) 凍上抑制層を設けた場合
凍上抑制層を設けた場合には、凍上抑制層の材料30kgを採取する。凍上抑制層の材料について、製造者による品質試験結果があれば添付する。

2－3　下層路盤材料の採取
(1) 粒状路盤の場合
下層路盤に使用した材料約30kgを採取する。材料について、製造者による品質試験結果があれば添付する。
(2) 安定処理路盤の場合
安定処理を施す場合には、安定処理前の材料約30kgと安定材10kgを採取する。また、試験室で得られた安定材の添加量を報告する。安定材について、製造者による品質試験結果があれば添付する。
(3) 下層路盤を2層以上とした場合
各層の材料が異なる場合には、それぞれ(1)および(2)に従って材料を採取する。

2－4　上層路盤材料の採取
(1) 粒状路盤の場合
上層路盤に使用した材料約30kgを採取する。材料について、製造者による品質試験結果があれば添付する。
(2) セメントまたは石灰系の安定処理路盤の場合
安定処理を施す場合には、安定処理前の材料約30kgと安定材10kgを採取する。また、試験室で得られた安定材の添加量を報告する。安定材について、製造者による品質試験結果があれば添付する。
(3) アスファルト安定処理の場合
2－5に準ずる。
(4) 上層路盤を2層以上とした場合
各層の材料が異なる場合には、それぞれ(1)から(3)に従って材料を採取する。

2－5　アスファルト混合物用材料の採取
アスファルト混合物の製造に使用した材料を、30kg×配合の種類だけ採取する。また、各層の材料について、配合試験の結果がわかる資料を添付する。配合試験の結果として必要なデータは、
①各骨材の配合比
②アスファルト混合物の合成粒度
③アスファルト混合物の理論密度
④マーシャル安定度試験結果

⑥ホイールトラッキング試験結果（あれば）
⑥ラベリング試験結果（あれば）
である。各素材について、製造者による品質試験結果があれば添付する。

２－６　コアの採取

アスファルトの回収、弾性係数の測定等を目的とした、アスファルト混合物のコア12本を採取し、破損しないように梱包して土木研究所あてに発送する。コアは、アスファルト安定処理層も含めてコア抜きし、各層一体のまま送る。コアの直径は10cmとする。

コアは、調査対象区間と同一の舗装構成で、同一のアスファルト混合物で施工されている場所であればどの車線から採取してもよい。また、調査対象の区間からは、品質管理用のコアを含めて、コア採取を行ってはならない。

２－７　採取試料の数量（例）

下記のような断面の舗装の場合、採取試料の量は下記のとおりとなる。

No	層名	材　料
８	表層	密粒(13)・改質アスファルト使用
７	中間層	粗粒(20)・ストレートアスファルト使用
６	基層	粗粒(20)・ストレートアスファルト使用
５	上層路盤	アスファルト安定処理・ストレートアスファルト使用
４		粒調砕石
３	下層路盤	クラッシャラン
２	石灰安定処理した路床	
１	路床	

表層　密粒(13)=　６号＋７号＋粗砂＋細砂＋石粉＋改質アス
中間層　粗粒(20)=　５号＋６号＋７号＋粗砂＋細砂＋石粉＋ストアス
基層　粗粒(20)=　〃
アス安定路盤　アス安定=クラッシャラン＋粗砂＋ストアス

クラッシャラン	30kg×1=30kg（クラッシャランはアス安定に使用している）
５号砕石	30kg×1=30kg（５号砕石は粗粒に使用している）
６号砕石	30kg×2=60kg（６号砕石は粗粒、密粒に使用している）
７号砕石	30kg×2=60kg（７号砕石は粗粒、密粒に使用している）
粗砂	30kg×3=90kg（粗砂はアス安定、粗粒、密粒に使用している）
細砂	30kg×2=60kg（細砂は粗粒、密粒に使用している）
石粉	10kg×2=20kg（石粉は粗粒、密粒に使用している）
ストアス	30kg×2=60kg（ストアスはアス安定と粗粒に使用している）
改質アス	30kg×1=30kg（改質アスは密粒に使用している）
粒調砕石	30kg×1=30kg
クラッシャラン	30kg×1=30kg

路床土	30kg×2=60kg（安定処理する部分としない部分）
石灰	30kg×1=30kg

3．路床に関するデータの報告

3－1　一般共通事項

調査の結果は、所定の様式(A４版)に記入して提出する。様式は付録に示すとおりである。文中で、＊が付いているものは調査のうえ土研で記入する。＊＊が付いているものは、通常の工事では実施されないものなので、一般的には試験を発注する必要がある。本章で解説する様式類は、新設または打換えにより調査を開始した時期に１度提出すればよい。

設定された調査区間については、ＳＨＲＰ専門委員会（第２章参照）により調査区間番号が設定される。その調査区間番号は調査区間に特有なものであり、調査が終了するまで一定の番号を使用する。

調査項目の凡例には、米国の調査計画と番号を合わせるため、日本国内では使用されていない材料や工法が含まれているが無視してよい。

路床の安定処理を施した場合は、安定処理後の土について試験を行う。

3－2　路床に関するデータの記入

(1) 様式Ａ－２－１　路床土に関する基礎データ

1)層番号

様式Ａ－１－３に従って、該当する層の番号を報告する。

2)土質分類

土質調査法（土質工学会編）による、統一土質分類を報告する。

3)ＡＡＳＨＴＯ土質分類＊

ＡＡＳＨＴＯによる土質分類を報告する。

4)ＣＢＲ＊＊

路床土のＣＢＲ試験の結果を、小数点第１位まで報告する。ここで報告するＣＢＲは、ＣＢＲ試験の結果の平均値そのものと、アスファルト舗装要綱に示される、ばらつきを差し引いたＣＢＲ値（区間のＣＢＲ）の２つである。ＣＢＲ試験方法は、アスファルト舗装要綱の方法による。

5)Ｓ値＊

ビーム安定度試験によるビーム安定度値（Ｓ値）を報告する。

6)Ｋ値＊＊

JIS A 1215による平板載荷試験の結果を報告する。測定位置は、調査の起点から50m間隔とする。ただし、起点および終点では測定を行わない。

7)75μmふるい通過量＊＊

75μmふるい通過量を、％単位で小数点以下第１位まで報告する。

8)塑性限界＊＊

JIS A 1205による塑性限界を、％単位で小数点以下第１位まで報告する。

9)液性限界＊＊

JIS A 1206による液性限界を、％単位で小数点以下第１位まで報告する。

10)塑性指数＊＊

液性限界の値から塑性限界の値を差し引いた数値を、小数点以下第１位まで報告する。

11)最大乾燥密度＊＊

突固め試験によって求められる最大乾燥密度を、g/cm³単位で小数点以下第２位まで報告する。

12)最適含水比＊＊

突固め試験によって求められる最適含水比を、％単位で小数点以下第１位まで報告する。

13)最大乾燥密度を算出した方法

最大乾燥密度を求めるために用いた試験方法を、下記のコードに従って報告する。

１：AASHTO T99(JIS A 1210)　２：AASHTO T180　３：その他(具体的に記入する)

14)現場乾燥密度＊＊

現場の路床材料の乾燥密度を、g/cm³単位で小数点以下第２位まで報告する。現状土の場合は、不撹乱の状態での乾燥密度を測定する。安定処理の場合は、転圧後の乾燥密度を測定する。

15)現場含水比＊＊

現場の路床材料の含水比を、％単位で小数点以下第１位まで報告する。現状土の場合は、不撹乱の状態での乾燥密度を測定する。安定処理の場合は、転圧後の乾燥密度を測定する。

16)現場乾燥密度（最大乾燥密度比）

現場の路床材料の乾燥密度を、最大乾燥密度に対する百分率で、小数点以下第１位まで報告する。

17)現場含水比（最適含水比比）

現場の路床材料の含水比を、最適含水比に対する百分率で、小数点以下第１位まで報告する。

18)凍上性区分

路床土の凍上性を下記のコードに従って報告する。判定は、現場担当者の経験による。

１：凍上性なし　２：凍上性は非常に少ない　３：少ない

４：普通　５：やや凍上しやすい　６：凍上しやすい

19)安定材添加量

安定処理を施す（施した）場合には、安定材の添加量をkg/m³単位で報告する。

20)安定材の種類

安定処理を施す（施した）場合には、安定材の種類を下記のコードで記入する。

１：アスファルト(現場混合の場合のみ)

２：アスファルト乳剤(現場混合の場合のみ)

３：カットバックアスファルト(現場混合の場合のみ)

４：セメント　５：石灰

６：フライアッシュ　７：石灰＋フライアッシュ

８：セメント＋フライアッシュ

９：石灰＋セメント　１０：石灰＋アスファルト乳剤

１１：セメント＋アスファルト乳剤

１２：その他(具体的に記入する、セメント系・石灰系を含む)

21)安定材の混合比

安定処理を施す（施した）場合には、安定材の使用比率を20)の回答記号と混合比を百分

率で報告する。たとえば、石灰のみを使用した場合は、５　１００とすればよい。

(2) 様式Ａ－２－２　弾性係数の測定（路床土）

1)層番号

様式Ａ－１－３に従って、該当する層の番号を報告する。

2)試料採取位置

供試体の作製に使用した土の採取位置を報告する。

3)供試体数＊

試験に使用した供試体の数を報告する。

4)ＡＡＳＨＴＯ土質分類＊

様式Ａ－２－１の2)の分類を記入する。

5)含水比＊

供試体の含水比を報告する。

6)乾燥密度＊

供試体の乾燥密度を報告する。

7)レジリエントモデュラス試験の結果＊

レジリエントモデュラス試験の、側圧の大きさ、圧縮応力およびレジリエントモデュラスを報告する。

8)回帰式の定数項＊

応力とレジリエントモデュラスの１次回帰式を作成し、その係数と切片を報告する。

4．路盤に関するデータの報告

4－1　一般共通事項

調査の結果は、所定の様式(A４版)に記入して提出する。様式は付録に示すとおりである。文中で、＊が付いているものは調査のうえ土研で記入する。＊＊が付いているものは、通常の工事では実施されないものなので、一般的には試験を発注する必要がある。＊＊＊が付いているものは、材料の試験成績書や管理試験結果に記入されているものなので、その値を流用してもよい。本章で解説する様式類は、新設または打換えにより調査を開始した時期に１度提出すればよい。

設定された調査区間については、ＳＨＲＰ専門委員会（第２章参照）により調査区間番号が設定される。その調査区間番号は、調査区間に特有なものであり、調査が終了するまで一定の番号を使用する。

調査項目の凡例には、米国の調査計画と番号を合わせるため、日本国内では使用されていない材料や工法が含まれているが無視してよい。

文中では、かさ密度を用いているが、見掛密度のデータによっている場合は、かさ密度を見掛密度に読み替えてよい。

上層路盤に使用されるアスファルト安定処理のうち、日本国内で一般的に使用されているプラントでの加熱混合式の材料は、アスファルト混合物層として取り扱う。

4－2　路盤に関するデータの記入

(1) 様式Ａ－３－１　路盤材料の特性値

1)最大乾燥密度＊＊＊

突固め試験によって求められる最大乾燥密度を、g/cm³単位で小数点以下第２位まで報告する。

2)最適含水比＊＊＊

突固め試験によって求められる最適含水比を、％単位で小数点以下第１位まで報告する。

3)最大乾燥密度を求めるための試験方法

最大乾燥密度を求めるために用いた試験方法を、下記のコードに従って報告する。

１：AASHTO T99(JIS A 1210)　２：AASHTO T180　３：その他(具体的に記入する)

4)現場乾燥密度＊＊＊

現場の路盤材料の転圧後の乾燥密度を、g/cm³単位で小数点以下第２位まで報告する。

5)現場含水比＊＊＊

現場の路盤材料の転圧後の含水比を、％単位で小数点以下第１位まで報告する。

6)現場乾燥密度（最大乾燥密度比）

現場の路盤材料の乾燥密度を、最大乾燥密度に対する百分率で、小数点以下第１位まで報告する。

7)現場含水比（最適含水比比）

現場の路盤材料の含水比を、最適含水比に対する百分率で、小数点以下第１位まで報告する。

8)平板載荷試験＊＊

路盤の仕上がり面における、平板載荷試験の結果を小数点第１位まで報告する。測定位置は、調査の起点から50m間隔とする。ただし、起点および終点では測定を行わない。

9)425μmふるい通過量＊＊

セメント・石灰安定処理路盤の場合、路盤材料の425μmふるい通過量を、％単位で小数点以下第１位まで報告する。

10)75μmふるい通過量＊＊

セメント・石灰安定処理路盤の場合、路盤材料の75μmふるい通過量を、％単位で小数点以下第１位まで報告する。

11)路盤材料の修正ＣＢＲ＊＊＊

粒状路盤の場合、修正ＣＢＲを小数点以下第１位まで報告する。

12)路盤材料の一軸圧縮強度＊＊＊

セメント・石灰安定処理路盤の場合、アスファルト舗装要綱で示された方法による一軸圧縮強度をkg/cm^2単位で小数点以下第２位まで報告する。

13)安定材添加量

安定材の添加量をkg/m^3単位で報告する。

14)安定材の種類

安定材の種類を下記のコードで記入する。

１：アスファルト(現場混合の場合のみ)

２：アスファルト乳剤(現場混合の場合のみ)

３：カットバックアスファルト(現場混合の場合のみ)

４：セメント　５：石灰　６：フライアッシュ　７：石灰＋フライアッシュ

８：その他（具体的に記入する、セメント系・石灰系を含む）

15)安定材の混合比

複数の安定材の使用比率を、14)の回答記号と混合比を百分率で報告する。たとえば、石灰のみを使用した場合は、５　１００とすればよい。

(2) 様式Ａ－３－２　弾性係数の測定（路盤）

1)層番号

様式Ａ－１－３に従って、該当する層の番号を報告する。

2)供試体数＊

試験に使用した供試体数を報告する。

3)含水比＊

供試体の含水比を報告する。

4)乾燥密度＊

供試体の乾燥密度を報告する。

5)レジリエントモデュラス試験の結果＊

レジリエントモデュラス試験の、側圧の大きさ、圧縮応力、およびレジリエントモデュラスを報告する。

6)回帰式の定数項＊

応力とレジリエントモデュラスの１次回帰式を作成し、その係数と切片を報告する。

5．アスファルト混合物に関するデータの報告

5－1　一般共通事項

調査の結果は、所定の様式(A４版)に記入して提出する。様式は付録に示すとおりである。文中で、＊が付いているものは調査のうえ土研で記入する。＊＊が付いているものは、通常の工事では実施されないものなので、一般的には試験を発注する必要がある。＊＊＊が付いているものは、材料の試験成績書や管理試験結果に記入されているものなので、その値を流用してもよい。本章で解説する様式類は、新設または打換えにより調査を開始した時期に１度提出すればよい。

設定された調査区間については、ＳＨＲＰ専門委員会（第２章参照）により調査区間番号が設定される。その調査区間番号は、調査区間に特有なものであり、調査が終了するまで一定の番号を使用する。

調査項目の凡例には、米国の調査計画と番号を合わせるため、日本国内では使用されていない材料や工法が含まれているが無視してよい。

文中では、かさ密度を用いているが、見掛密度のデータによっている場合には、かさ密度を見掛密度に読み替えてよい。

上層路盤に使用されるアスファルト安定処理のうち、日本国内で一般的に使用されているプラントでの加熱混合式の材料は、アスファルト混合物層として取り扱う。

5－2　アスファルト混合物に関するデータの記入

(1) 様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材

1)層番号

様式Ａ－１－３に従って、該当する層の番号を記入する。

2)粗骨材の種類

使用した粗骨材の種類および配合比を、下記のコードに従って報告する。たとえば、砕石のみを使用している場合には、１　１００とすればよい。

１：砕石　２：砂利　３：玉砕　４：鉄鋼スラグ　５：人工軽量骨材

６：その他(具体的に記入する)

3)粗骨材の岩質

粗骨材の岩質を、コード表－４に従って報告する。

4)細骨材の種類

使用した細骨材の種類および配合比を、下記のコードに従って報告する。たとえば、砂およびスクリーニングスを３：１の割合で使用した場合は、１　７５、２　２５と記入すればよい。

１：天然砂　２：人工砂（スクリーニングスなど）　３：再生コンクリート

４：その他(具体的に記入する)

5)フィラーの種類（剥離防止石灰を除く）

１：石粉　２：石灰　３：セメント　４：フライアッシュ

４：その他(具体的に記入する)

6)アスファルト混合物の合成粒度

室内の配合試験における合成粒度を報告する。

7)骨材のかさ密度

各骨材のかさ密度および合成された骨材の密度を、g/cm³単位で小数点以下第３位まで報告する。合成密度は、下式で計算する。

$$Gsb=\frac{P1+P2+\cdots Pn}{P1/G1+P2/G2+\cdots Pn/Gn}$$

Gsb：合成密度(g/cm³)
Pi：骨材配合比(%)
Gi：骨材のかさ密度(g/cm³)

8)有効密度

有効密度を下式で計算し、g/cm³単位で小数点以下第３位まで報告する。

$$Gse=\frac{100-Pb}{100/Gm-Pb/Gb}$$

Gse：有効密度(g/cm³)
Gm：アスファルト混合物の理論最大密度(g/cm³)
Pb：アスファルト量(%)
Gb：アスファルトの密度(比重、g/cm³)

(2) 様式Ａ－４－２　アスファルトの性状（原アスファルトの性状）

1)層番号

様式Ａ－１－３に従って、該当する層の番号を報告する。

2)アスファルトの種類＊＊＊

針入度区分を報告する。プラントミックスタイプの改質アスファルトについては、原アスファルトの種類を報告する。

3)アスファルトの製造元＊＊＊

アスファルト（プラントミックスタイプの改質アスファルトについては原アスファルトの）製造会社と精油所の名称を報告する。

4)アスファルトの密度＊＊＊

アスファルトの密度（または比重）を、g/cm³単位で小数点以下第３位まで報告する。

5)アスファルトの60℃粘度＊

アスファルトの60℃粘度をpoise単位で報告する。

6)アスファルトの135℃高温動粘度＊＊＊

アスファルトの135℃高温動粘度をcSt単位で報告する。

7)アスファルトの25℃での伸度＊

アスファルトの25℃での伸度をcm単位で報告する。

8)アスファルトの4℃での伸度＊
　アスファルトの4℃での伸度をcm単位で報告する。
9)アスファルトの4℃での伸度試験の伸長速度＊
　4℃での伸度試験の引き伸ばし速度をcm/min単位で報告する。
10)アスファルトの25℃での針入度＊＊＊
　アスファルトの25℃での針入度を報告する。試験条件は、荷重が100gf、載荷時間が5秒とする。
11)アスファルトの4℃での針入度＊
　アスファルトの4℃での針入度を報告する。試験条件は、荷重が200gf、載荷時間が60秒とする。
12)アスファルトの軟化点＊＊＊
　環球法によるアスファルトの軟化点を報告する。
13)アスファルトへの添加剤
　改質アスファルトを使用した場合、プラントミックスタイプでは添加剤の商品名を、プレミックスタイプでは改質アスファルトの商品名を報告する。
14)アスファルトへの添加剤の量
　プラントミックスタイプの改質アスファルトを使用した場合、アスファルトの質量を100として添加剤の質量を報告する。なお、水を含んでいる添加剤の場合は固形分で換算する。

(3) 様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後のアスファルトの性状）
1)層番号
　様式Ａ－１－３に従って、該当する層の番号を報告する。
2)劣化試験の方法＊
　劣化試験に用いた試験の方法を、下記のコードで報告する。
　１：薄膜加熱試験(日本の一般的な方法)　２：回転式薄膜加熱試験
　３：その他(具体的に記入する)
3)アスファルトの60℃粘度＊
　劣化試験後のアスファルトの60℃粘度をpoise単位で報告する。
4)アスファルトの135℃高温動粘度＊
　劣化試験後のアスファルトの135℃高温動粘度をcSt単位で報告する。
5)アスファルトの25℃での伸度＊
　劣化試験後のアスファルトの25℃での伸度をcm単位で報告する。
6)アスファルトの4℃での伸度＊
　劣化試験後のアスファルトの4℃での伸度をcm単位で報告する。
7)アスファルトの4℃での伸度試験の伸長速度＊
　4℃での伸度試験の引き伸ばし速度をcm/min単位で報告する。
8)アスファルトの25℃での針入度＊
　劣化試験後のアスファルトの25℃での針入度を報告する。試験条件は、荷重が100gf、載荷時間が5秒とする。
9)アスファルトの4℃での針入度＊

劣化試験後のアスファルトの4℃での針入度を報告する。試験条件は、荷重が200gf、載荷時間が60秒とする。

10)アスファルトの軟化点＊

環球法による劣化試験後のアスファルトの軟化点を報告する。

11)質量変化率＊

劣化試験前後のアスファルトの質量変化率を%単位で小数点以下第1位まで報告する。

12)回収アスファルトの25℃での針入度＊

回収アスファルトの25℃での針入度を報告する。試験条件は、荷重が100gf、載荷時間が5秒とする。

13)回収アスファルトの4℃での針入度＊

回収アスファルトの4℃での針入度を報告する。試験条件は、荷重が200gf、載荷時間が60秒とする。

14)回収アスファルトの60℃粘度＊

回収アスファルトの60℃粘度をpoise単位で報告する。

15)回収アスファルトの135℃高温動粘度＊

回収アスファルトの135℃高温動粘度をcSt単位で報告する。

16)回収アスファルトの25℃での伸度＊

回収アスファルトの25℃での伸度をcm単位で報告する。

(4) 様式A－4－4　アスファルト混合物の性状（配合試験結果その1）

1)層番号

様式A－1－3に従って、該当する層の番号を報告する。

2)かさ密度＊＊＊

OACにおけるマーシャル供試体のかさ密度を、g/cm³単位で小数点以下第3位まで報告する。

3)最大比重（理論密度）＊＊＊

OACにおける、アスファルト混合物の理論密度を、g/cm³単位で小数点以下第3位まで報告する。

4)アスファルト量＊＊＊

最適アスファルト量（OAC）を、%単位で小数点以下第1位まで報告する。

5)空隙率＊＊＊

OACにおける空隙率を、%単位で小数点以下第1位まで報告する。計算は下式のとおりである。この式は、アスファルト混合物の配合設計で用いられる空隙率の計算と同様であるので、配合設計のデータを流用してもよい。

$$V=(1-G_{mb}/G_{mm})\times 100$$

V：空隙率(%)

Gmb：2)に記入した締固めた供試体のかさ密度の平均値(g/cm³)

Gmm：3)に記入した理論密度(g/cm³)

6)骨材間隙率（ＶＭＡ）＊＊＊

ＯＡＣにおける骨材間隙率を、％単位で小数点以下第１位まで報告する。計算は下式のとおりである。この式は、アスファルト混合物の配合設計で用いられる空隙率の計算と同様であるので、配合設計のデータを流用してもよい。

$$VMA = V + OAC \times Gmb / Gb$$

ＶＭＡ：骨材間隙率(％)
Ｖ：5)に記入した空隙率(％)
ＯＡＣ：4)に記入した最適アスファルト量(％)
Ｇｍｂ：2)に記入した締め固めた供試体のかさ密度の平均値(g/cm³)
Ｇｂ：様式Ａ－４－２の4)に記入したアスファルトの密度(g/cm³)

7)有効アスファルト量＊＊＊

下式により有効アスファルト量を計算し報告する。

$$Pae = OAC - Pab$$
$$= OAC - Gb \times (Gse - Gsb)/Gsb/Gse \times (1 - OAC/100)$$

Ｐａｅ：有効アスファルト量(％)
Ｐａｂ：吸収されるアスファルト量(％)
Ｇｂ：様式Ａ－４－２の4)に記入したアスファルトの密度(g/cm³)
Ｇｓｅ：様式Ａ－４－１の8)に記入した骨材の有効密度(g/cm³)
Ｇｓｂ：様式Ａ－４－１の7)に記入した骨材の合成密度(g/cm³)
ＯＡＣ：2)のＯＡＣ(％)

8)突き固め回数＊＊＊

マーシャル供試体作製時の突き固め回数（片面）を報告する。

9)マーシャル安定度＊＊＊

ＯＡＣでのマーシャル安定度をkg単位で報告する。

10)マーシャルフロー＊＊＊

ＯＡＣでのマーシャルフローを1/100cm単位で報告する。

11)ビーム安定度＊

AASHTO T246に規定される試験方法により、ビーム安定度を測定し報告する。

12)ビーム粘着度＊

AASHTO T246に規定される試験方法により、ビーム粘着度を測定し報告する。

(5) 様式Ａ－４－５　アスファルト混合物の性状（配合試験結果その２）

1)層番号

様式Ａ－１－３に従って、該当する層の番号を報告する。

2)粗骨材の剝離試験結果＊

石油学会の方法による粗骨材の剝離率を報告する。

3)剝離防止剤の種類

剝離防止剤を使用した場合は、その種類を記入する。石灰以外の剝離防止材を使用した場合は、その商品名を記入する。

4)剝離防止剤の添加量

石灰の場合は、骨材に占める質量を報告する。その他の場合は、アスファルトの質量を100としたときの添加量を報告する。

5)アスファルトプラントの形式

施工に使用したアスファルトプラントの形式を、下記のコードで報告する。

１：バッチ式プラント　２：ドラムミキシング式プラント

３：その他(具体的に記入する)

6)ホイールトラッキング試験＊＊

流動によるわだち掘れが考えられる場合は、ホイールトラッキング試験を実施し、動的安定度の平均値を報告する。

7)ラベリング試験＊＊

摩耗によるわだち掘れが考えられる場合は、スパイクラベリング試験を実施し、平均摩耗量を報告する。

(6) 様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（プラント管理試験）

1)層番号

様式Ａ－１－３に従って、該当する層の番号を報告する。

2)かさ密度＊＊＊

プラントのアスファルト混合物を突き固めて作製した供試体のかさ密度を、g/cm^{3}単位で小数点以下第３位まで報告する。

3)アスファルト量＊＊＊

管理試験におけるアスファルト量を、％単位で小数点以下第１位まで報告する。

4)空隙率＊＊＊

プラントのアスファルト混合物を突き固めて作製した供試体の空隙率を、％単位で小数点以下第１位まで報告する。計算は下式のとおりである。

$$V=(1-Gmb/Gmm)\times 100$$

Ｖ：空隙率(％)

Ｇmb：2)に記入した締固めた供試体のかさ密度の平均値(g/cm^3)

Ｇmm：様式Ａ－４－４の3)に記入した理論密度(g/cm^3)

5)骨材間隙率（ＶＭＡ）＊＊＊

プラントのアスファルト混合物を突き固めて作製した供試体の骨材間隙率を、％単位で小数点以下第１位まで報告する。計算は下式のとおりである。

$$VMA = V + OAC \times Gmb / Gb$$

ＶＭＡ：骨材間隙率(％)
Ｖ：4)に記入した空隙率(％)
ＯＡＣ：3)に記入したアスファルト量の平均値(％)
Ｇｍｂ：2)に記入した締固めた供試体のかさ密度の平均値(g/cm³)
Ｇｂ：様式Ａ－４－２の4)に記入したアスファルトの密度(g/cm³)

6)マーシャル安定度＊＊＊

プラントのアスファルト混合物を突き固めて作製した供試体の、マーシャル安定度をkg単位で報告する。

7)マーシャルフロー＊＊＊

プラントのアスファルト混合物を突き固めて作製した供試体の、マーシャルフローを1/100cm単位で報告する。

(7) 様式Ａ－４－７　アスファルト混合物の性状（現場コア）

現場からアスファルトコアを採取して以下の試験を実施する。コアは、アスファルト混合物層全層にわたって採取し、試験室で各層に分離して試験を行う。

1)層番号

様式Ａ－１－３に従って、該当する層の番号を報告する。

2)かさ密度＊

現場採取供試体のかさ密度を、g/cm³単位で小数点以下第３位まで報告する。

3)最大比重＊

真空法によりアスファルト混合物の最大比重を測定する。

4)空隙率＊

2)のかさ密度と3)の最大比重を用いて、空隙率を％単位で小数点以下第１位まで報告する。計算は下式のとおりである。

$$V = (1 - Gmb/Gmm) \times 100$$

Ｖ：空隙率(％)
Ｇｍｂ：2)に記入した締固めた供試体のかさ密度の平均値(g/cm³)
Ｇｍｍ：3)に記入した最大密度(g/cm³)

5)アスファルト量＊

抽出によりアスファルト量を測定し、％単位で小数点以下第１位まで報告する。

6)骨材間隙率（ＶＭＡ）＊

$$VMA = V + Pa \times Gmb / Gb$$

ＶＭＡ：骨材間隙率(%)
Ｖ：4)に記入した空隙率(%)
Ｐａ：5)に記入したアスファルト量の平均値(%)
Ｇｍｂ：2)に記入した供試体のかさ密度の平均値(g/cm³)
Ｇｂ：様式Ａ－４－２の4)に記入したアスファルトの密度(g/cm³)

(8) 様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の弾性係数の測定（現場採取コア）
1)層番号
様式Ａ－１－３に従って、該当する層の番号を報告する。
2)レジリエントモデュラスの測定方法＊
レジリエントモデュラスの測定に使用した方法を、下記のコードで記入する。
１：間接引張試験　２：一軸圧縮試験　３：三軸圧縮試験
４：回帰式による方法　５：その他
3)レジリエントモデュラスの測定結果＊
レジリエントモデュラスの測定結果を、測定温度、載荷時間、載荷周波数ごとに報告する。
4)載荷時間＊
5)載荷周波数＊
6)側圧の大きさ＊
三軸圧縮試験によった場合は、側圧の大きさをkg/cm³単位で小数点以下第１位まで報告する。

(9) 様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の引張り強度の測定（現場採取コア）
1)層番号
様式Ａ－１－３に従って、該当する層の番号を報告する。
2)引張強度＊
引張試験の結果をkg/cm³単位で小数点以下第１位まで報告する。
3)載荷速度＊
載荷の速度を測定温度ごとに、mm/分単位で報告する。
4)試験方法＊
引張試験の方法を下記のコードで報告する。
１：間接引張試験　２：直接引張試験　３：その他(具体的に記入する)

付録－1　提出物の一覧表

初期調査に関する提出物は以下のとおりである。数量は、調査区間1箇所あたりの必要数である。

(1) 書類

内　容	数　量	担当			
		地	建	土	研
様式A－1－1	1枚	○		○	
様式A－1－2	1枚	○		○	
様式A－1－3	1枚	○			
様式A－1－4	1枚	○			
様式A－1－5	1枚	○			
様式A－2－1	路床の層数	○		○	
様式A－2－2	路床の層数			○	
様式A－3－1	路盤の層数	○			
様式A－3－2	路盤の層数			○	
様式A－4－1	アスコンの種類数	○			
様式A－4－2	アスファルトの種類数	○		○	
様式A－4－3	アスファルトの種類数	○		○	
様式A－4－4	アスコンの種類数	○		○	
様式A－4－5	アスコンの種類数	○		○	
様式A－4－6	アスコンの種類数	○			
様式A－4－7	アスコンの種類数			○	
様式A－4－8	アスコンの種類数			○	
様式A－4－9	アスコンの種類数			○	
アスコンの配合試験結果	アスコンの種類数	○			
アスファルトの品質証明書	アスファルトの種類数	○			
粗骨材の品質証明書	粗骨材の種類数	○			
石粉の品質証明書	1通	○			
安定処理の配合設計書	安定処理の種類数	○			
路盤材料の品質証明書	粒状路盤の種類数	○			

(2) 採取試料

路床土
路床の安定材
下層路盤材
下層路盤の安定材
上層路盤材（粒状）
上層路盤の安定材
アスコン用粗骨材（クラッシャラン）
（４号）
（５号）
（６号）
（７号）
アスコン用細骨材（粗砂）
（中砂）
（細砂）
（スクリーニングス）
フィラー
アスファルト
改質アスファルト
アスファルト添加剤

付録－２　コード表

・コード表－１　表層・基層用材料

アスファルト混合物（密粒、細粒系）	1
アスファルト混合物（粗粒、開粒系）	2
サンドアスファルト	3
無筋コンクリート（目地あり）	4
鉄筋コンクリート（目地あり）	5
連続鉄筋コンクリート	6
プレストレスコンクリート	7
ファイバー入りコンクリート	8
常温アスファルト混合物（アスファルト乳剤）	9
常温アスファルト混合物（カットバックアスファルト）	１０
表面処理（１層仕上げ）	１１
表面処理（２層仕上げ）	１２
プラント再生加熱アスファルト混合物	１３
プラント再生常温アスファルト混合物	１４
現場再生常温アスファルト混合物	１５
現場再生加熱アスファルト混合物	１６
再生コンクリート舗装（目地あり無筋）	１７
再生コンクリート舗装（目地あり鉄筋）	１８
再生コンクリート舗装（連続鉄筋）	１９

・コード表－２　路盤材料

路盤なし	２１
砂利	２２
砕石	２３
砂	２４
良質細粒土と骨材の混合物	２５
良質粗粒土と骨材の混合物	２６
セメント安定処理土	２７
密粒・細粒系加熱プラント混合アスファルト混合物	２８
密粒・細粒系常温プラント混合アスファルト混合物	２９
密粒・細粒系常温現場混合アスファルト混合物	３０
粗粒・開粒系加熱プラント混合アスファルト混合物	３１
粗粒・開粒系常温プラント混合アスファルト混合物	３２
粗粒・開粒系常温現場混合アスファルト混合物	３３
加熱プラント再生アスファルト混合物	３４
常温プラント再生アスファルト混合物	３５
常温現場再生アスファルト混合物	３６

セメント安定処理骨材	３７
貧配合セメントコンクリート	３８
再生セメントコンクリート	３９
砂と貝殻の混合物	４０
石灰岩	４１
石灰安定処理路床土	４２
セメント安定処理路床土	４３
ポゾラン系硬化剤入り骨材	４４
セメントコンクリート版	４５
その他	４６

・コード表－３　路床材料

細粒土	
粘土	５１
砂質粘土	５２
シルト質粘土	５３
シルト	５４
砂質シルト	５５
粘土質シルト	５６
粗粒土	
砂	５７
単粒度砂	５８
シルト質砂	５９
粘土質砂	６０
砂利	６１
単粒度砂利	６２
粘土混じり砂利	６３
けつ岩	６４
岩	６５

・コード表－４　岩種

火成岩	
花崗岩	1
閃長斑岩	2
閃緑岩	3
斑れい岩	4
かんらん岩	5
珪長岩	6
玄武岩	7
輝緑岩	8

堆積岩
- 石灰岩　9
- ドロマイト　10
- けつ岩　11
- 砂岩　12
- チャート　13
- れき岩　14
- かくれき岩　15

変成岩
- 片麻岩　16
- 結晶片岩　17
- 角閃岩　18
- 粘板岩　19
- 珪岩　20
- 結晶質石灰岩（大理石）　21
- 蛇紋岩　22

その他　23

付録－３　追加調査事項一覧表

ここでは、通常の工事管理に含まれない、試験項目を一覧にしている。

路床

下記の項目について、試験を実施し結果を様式に記入する。安定処理や置換を施す場合、遮断層や凍上抑制層を設ける場合には、それぞれの層の材料について試験を実施する。路床を安定処理する場合には、安定処理後の路床材料について試験を実施する。

①ＣＢＲ試験
②平板載荷試験
③75μmふるい通過量
④塑性限界
⑤液性限界
⑥最大乾燥密度
⑦最適含水比
⑧現場乾燥密度
⑨現場含水比

路盤

下記の項目について、試験を実施し結果を様式に記入する。

①425μmふるい通過量
②75μmふるい通過量

アスファルト混合物層

①コア採取

様式Ａ－１－１　一般データ　　調査区間番号　＿＿＿

地建番号　＿

報告年月　平成＿＿　年＿＿　月

担当部局　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　内線＿＿＿＿

調査区間の地名　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

路線番号　＿＿＿

調査種別　＿

調査方向　□上り　□下り

距離標　＿＿＿ｋ＿＿＿～＿＿＿ｋ＿＿＿

（ＫＰ未定の場合No.＿＿＿＿＋＿＿～＿＿＿＿＋＿＿）

様式Ａ－１－２　舗装構造データ　　調査区間番号　＿＿＿

舗装の種別　＿

調査方向の車線数　＿

車線幅　＿＿＿ cm

調査対象車線　第＿車線

路肩の幅　＿＿＿ cm

路肩の路面の種類　＿

路肩の路盤の種類　＿＿

路肩の表層・基層の厚さ　＿＿ cm

路肩の路盤の厚さ　＿＿＿ cm

地下排水工の種類　＿，＿

縦断方向の配水管の内径　＿＿＿＿ mm

排水工の位置　＿

配水管の間隔　＿＿＿＿ cm

様式Ａ－１－３　舗装構成データ　　調査区間番号 ＿＿＿

層の数 ＿

番号	層の名称	層の厚さ（mm）				材料
		最　大	最　小	平　均	標準偏差	
1	＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿
2	＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿
3	＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿
4	＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿
5	＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿
6	＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿
7	＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿
8	＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿
9	＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿
10	＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿
11	＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿
12	＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿

舗装の等値換算厚 T_A　＿＿＿．＿ cm

舗装厚Ｈ　＿＿＿．＿ cm

高支持力層までの深さ　＿＿＿ m

盛土厚さ　＿＿＿＿ cm

様式Ａ－１－４　施工関係データ　　調査区間番号　＿＿＿

施工年月　平成＿＿年＿＿月

交通開放（予定）年月　平成＿＿年＿＿月

施工費用　＿＿＿＿百万円／km・車線

打換え年月　平成＿＿年＿＿月

拡幅年月　　平成＿＿年＿＿月

当初の車線数　＿車線

最終的な車線数　＿車線

追加車線数　＿車線

様式Ａ－１－５　調査区間概要図　　調査区間番号　＿＿＿

調査区間の完成写真を貼る	

調査区間概要図

路床路盤材料の採取位置を示すこと。

様式Ａ－２－１　路床土に関する基礎データ　　調査区間番号　＿＿＿

層番号　＿＿、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

土質分類　＿＿＿　　ＡＡＳＨＴＯ土質分類　＿＿＿

ＣＢＲ　平均値　＿＿＿.＿　区間のＣＢＲ　＿＿＿.＿

Ｒ値　＿＿.＿＿　Ｋ値　＿＿＿.＿ kg/cm³

75μmふるい通過量　＿＿.＿ %

塑性限界　＿＿.＿ %　液性限界　＿＿.＿ %

塑性指数　＿＿.＿ %

最大乾燥密度　＿.＿＿＿ g/cm³　最適含水比　＿＿.＿ %

最大乾燥密度の算出方法　＿　現場乾燥密度　＿.＿＿＿ g/cm³

現場含水比　＿＿.＿ %　最大乾燥密度比　＿＿＿.＿ %

最適含水比との比　＿＿＿.＿ %　凍上性区分　＿

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

様式Ａ－２－２　弾性係数の測定（路床土）　　調査区間番号　＿＿＿

層番号　＿＿、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試料採取位置 KP＿＿＿ k ＿＿＿　（KPが未定の場合　No. ＿＿＿＿ + ＿＿ ）

供試体数　＿＿　　ＡＡＳＨＴＯ土質分類　＿＿＿

含水比　＿＿＿.＿ %　　乾燥密度　＿.＿＿＿ g/cm³

試験の結果	側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿

回帰式　　log E = log A + B x log(stress)

A = ＿＿＿＿.＿ 10^3kg/cm²　B = ＿.＿＿

様式Ａ－３－１　路盤材料の特性値　　調査区間番号　＿＿＿

層番号　＿＿、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

最大乾燥密度　＿．＿＿＿ g/cm³　最適含水比　＿＿．＿ ％

最大乾燥密度の算出方法　＿

現場乾燥密度　＿．＿＿＿ g/cm³　現場含水比　＿＿．＿ ％

最大乾燥密度比　＿＿＿．＿ ％　最適含水比との比　＿＿＿．＿ ％

平板載荷試験　＿＿＿．＿ kg/cm³

425μmふるい通過量　＿＿．＿ ％　75μmふるい通過量　＿＿．＿ ％

路盤材料の修正ＣＢＲ　＿＿＿．＿

路盤材料の一軸圧縮強度　＿＿．＿ kg/cm²

安定材添加量　＿＿＿ kg/m³　　安定材の種類　＿＿＿

安定材の混合比　＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

様式Ａ－３－２　弾性係数の測定（路盤）　　調査区間番号 ＿＿＿

層番号 ＿＿、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

供試体数 ＿＿　含水比 ＿＿＿＿.＿ ％　乾燥密度 ＿.＿＿＿ g/cm³

試験の結果	側圧kg/cm²	鉛直荷重kg/cm²	弾性係数kg/cm²
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿
	＿＿.＿＿	＿＿.＿＿	＿＿＿＿

回帰式　　$\log E = \log A + B \times \log(\text{stress})$

A = ＿＿＿＿.＿ 10^3kg/cm²　B = ＿.＿＿

様式Ａ－４－１　アスファルト混合物用骨材　　調査区間番号 ＿＿＿

層番号 ＿＿、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の種類 ＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

細骨材の種類 ＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿
＿　＿＿＿

粗骨材の岩質 ＿＿

フィラーの種類 ＿

アスファルト混合物の合成粒度（通過重量百分率）

53mm	＿＿＿.＿	2.36mm	＿＿＿.＿
37.5mm	＿＿＿.＿	600μm	＿＿＿.＿
26.5mm	＿＿＿.＿	300μm	＿＿＿.＿
19mm	＿＿＿.＿	150μm	＿＿＿.＿
13.2mm	＿＿＿.＿	75μm	＿＿＿.＿
4.75mm	＿＿＿.＿		

骨材のかさ密度

粗骨材１（４号砕石）	＿.＿＿＿ g/cm³	細骨材１（粗砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材２（５号砕石）	＿.＿＿＿ g/cm³	細骨材２（中砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材３（６号砕石）	＿.＿＿＿ g/cm³	細骨材３（細砂）	＿.＿＿＿ g/cm³
粗骨材４（７号砕石）	＿.＿＿＿ g/cm³	フィラー	＿.＿＿＿ g/cm³
スクリーニングス	＿.＿＿＿ g/cm³	クラッシャラン	＿.＿＿＿ g/cm³

合成密度 ＿.＿＿＿ g/cm³　有効密度 ＿.＿＿＿ g/cm³

様式Ａ－４－２　アスファルトの性状（原アスファルト）　調査区間番号　＿＿＿

層番号　＿＿、＿＿、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

針入度区分　＿＿＿～＿＿＿

アスファルトの製造元　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

密度　＿．＿＿＿ g/cm³

60℃粘度　＿＿＿＿＿＿ poise

135℃粘度　＿＿＿＿ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　□　１００＋

4℃伸度　＿＿．＿ cm

4℃伸度の伸長速度　＿５　cm/min

25℃針入度　＿＿＿

4℃針入度　＿＿＿

軟化点　＿＿＿ ℃

添加剤　商品名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

添加剤の添加量　＿＿＿ %

様式Ａ－４－３　アスファルトの性状（劣化試験後）　　調査区間番号　＿＿＿

層番号　＿＿、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

劣化試験の結果

劣化試験の方法　1

60℃粘度　＿＿＿＿＿＿ poise　　135℃粘度　＿＿＿＿ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　□　１００＋

4℃伸度　＿＿.＿ cm　　4℃伸度の伸長速度　＿5　cm/min

25℃針入度　＿＿＿　　4℃針入度　＿＿＿

軟化点　＿＿＿℃

質量変化率　＿.＿＿

回収アスファルトの試験結果

25℃針入度　＿＿＿　　4℃針入度　＿＿＿

60℃粘度　＿＿＿＿＿＿ poise　　135℃粘度　＿＿＿＿ cSt

25℃伸度　＿＿＿ cm　または　□　１００＋

様式Ａ－４－４　アスファルト混合物の性状（配合試験１）調査区間番号　＿＿＿

層番号　＿＿、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　＿.＿＿＿ g/cm³

最大比重（理論密度）　＿.＿＿＿ g/cm³

アスファルト量　＿.＿ %

空隙率　＿＿.＿ %

骨材間隙率　＿＿.＿ %

有効アスファルト量　＿＿.＿ %

突き固め回数　＿＿ 回

マーシャル安定度　＿＿＿＿ kg

フロー値　＿＿＿ (1/100cm)

ビーム安定度　＿＿＿.＿

ビーム粘着度　＿＿＿＿.＿

様式Ａ－４－５　アスファルト混合物の性状（配合試験２）調査区間番号　＿＿＿

層番号　＿＿、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

粗骨材の剝離試験結果（剝離率）　＿＿＿

剝離防止材の種類　商品名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

剝離防止材の添加量　＿＿.＿％

アスファルトプラントの形式　＿

ホイールトラッキング試験結果　＿＿＿＿回/mm

スパイクラベリング試験結果　＿＿＿＿mm²

様式Ａ－４－６　アスファルト混合物の性状（ﾌﾟﾗﾝﾄ管理試験）調査区間番号　＿＿＿

層番号　＿＿、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　＿．＿＿＿ g/cm³

アスファルト量　＿．＿ ％

空隙率　＿＿．＿ ％

骨材間隙率　＿＿．＿ ％

マーシャル安定度　＿＿＿＿ kg

フロー値　＿＿＿ (1/100cm)

様式Ａ－４－７　アスファルト混合物の性状（現場コア）　調査区間番号　＿＿＿

層番号　＿＿、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

かさ密度　＿．＿＿＿ g/cm³

最大比重　＿．＿＿＿ g/cm³

空隙率　＿＿．＿ ％

アスファルト量　＿．＿ ％

骨材間隙率　＿＿．＿ ％

様式Ａ－４－８　アスファルト混合物の性状（弾性係数）　調査区間番号 ＿＿＿

層番号 ＿＿、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

試験方法 ＿

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	弾性係数(kg/cm²)	密度(g/cm³)
＿＿＿	＿＿5.0	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿
＿＿＿	＿＿5.0	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿
＿＿＿	＿＿5.0	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿
＿＿＿	＿25.0	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿
＿＿＿	＿25.0	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿
＿＿＿	＿25.0	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿
＿＿＿	＿40.0	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿
＿＿＿	＿40.0	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿
＿＿＿	＿40.0	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿＿	＿.＿＿＿

載荷時間　0.4　秒

載荷周波数　1.0　Hz

側圧の大きさ　＿＿.＿ kg/cm²

様式Ａ－４－９　アスファルト混合物の性状（引張強度）　調査区間番号　＿＿＿

層番号　＿＿、＿＿、＿＿　（様式Ａ－１－３参照）

弾性係数の測定結果

供試体番号	試験温度(℃)	引張強度(kg/cm²)
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿＿＿.＿
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿＿＿.＿
＿＿＿	＿＿５.０	＿＿＿＿.＿
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿＿.＿
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿＿.＿
＿＿＿	＿２５.０	＿＿＿＿.＿
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿＿.＿
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿＿.＿
＿＿＿	＿４０.０	＿＿＿＿.＿
＿＿＿	＿＿＿.＿	＿＿＿＿.＿

載荷速度　＿５０.０　mm/min

試験方法　１

付録－２　調査箇所一覧表

新基準調査試験舗装箇所一覧表

車線はすべて外側車線

調査区間番号	調査箇所		地先名	方向	起点	終点	延長	調査期間（年度） 63 元 2 3	備考
１０１	北海道 ３６号	白老ＢＰ	北海道白老郡 白老町石山	上り	距離標 89k800	距離標 89k500	300m		
１０２	北海道 228号	木古内ＢＰ	北海道上磯郡 木古内町新道	上り	距離標 38k700	距離標 38k400	300m		
１０３	北海道 337号	銭函ＢＰ	北海道 小樽市銭函町	下り	距離標 99k185	距離標 99k385	200m		
２０１	東北 １３号	山形北ＢＰ	山形県 村山市大字林崎	下り	距離標 120k165	距離標 120k465	300m		
２０２	東北 ４号	柴田ＢＰ	宮城県柴田郡 柴田町土平	下り	距離標 325k200	距離標 325k500	300m		
２０３	東北 108号	涌谷ＢＰ	宮城県　遠田郡 涌谷町田町裏地	下り	距離標 19K837	距離標 20K137	300m		
３０１	関東 246号	大和厚木ＢＰ	東京都 町田市鶴間	上り	距離標 33k667	距離標 33k467	200m		
３０２	関東 １７号	深谷ＢＰ	埼玉県 深谷市大塚島	下り	距離標 81k478	距離標 81k778	300m		
３０３	関東 ５１号	佐原ＢＰ	千葉県 佐原市玉造	下り	距離標 49k260	距離標 49k500	240m		※調査車線を追越車線側に設定
３０４	関東 ４号	新４号国道	茨城県　猿島郡 三和町下片田	下り	距離標 62K802	距離標 63K082	280m		
４０１	北陸 １７号	長岡東ＢＰ	新潟県 長岡市川崎町	上り	距離標 283k870	距離標 283k570	300m		
４０２	北陸 ７号	新新ＢＰ	新潟県北蒲原郡 聖籠町大夫工野	下り	距離標 21k100	距離標 21k400	300m		
４０３	北陸 ８号	くりからＢＰ	石川県　河北郡 津幡町坂戸	上り	距離標 298k700	距離標 298K400	300m		
５０１	中部 ２３号	南勢ＢＰ	三重県 伊勢市通町	下り	距離標 65k590	距離標 65k890	300m		
５０２	中部 １号	沼津ＢＰ	静岡県 富士市田中新田	下り	距離標 138K010	距離標 138K330	280m		調査区間を280mに設定 138K19-138K23を除く
５０３	中部 １号	亀山ＢＰ	三重県 亀山市川合町	上り	距離標 414K960	距離標 414K660	300m		

新基準調査試験舗装箇所一覧表

車線はすべて外側車線

調査区間番号	調査箇所		地先名	方向	起点	終点	延長	調査期間（年度） 63 元 2 3	備考
６０１	近畿 175号	小野ＢＰ	兵庫県 小野市天神町	上り	距離標 25k520	距離標 25k220	300m		
６０２	近畿 8号	福井ＢＰ	福井県 武生市横市町	上り	距離標 426k949	距離標 426k649	300m		
６０３	近畿 161号	高島ＢＰ	滋賀県 高島郡 高島町	下り	工事測点 NO10	工事測点 NO25	300m		
７０１	中国 ５４号	上根ＢＰ	広島県 広島市 安佐北区大林	上り	距離標 26K024	距離標 25K764	260m		
７０２	中国 9号	北条ＢＰ	鳥取県 東伯郡 大栄町大谷	下り	距離標 258K940	距離標 259K240	300m		
７０３	中国 188号	下松ＢＰ	山口県 下松市東豊井	上り	距離標 3K600	距離標 3K360	240m		
８０１	四国 １１号	松山東道路	愛媛県 松山市水泥	下り	距離標 230k060	距離標 230k360	300m		
８０２	四国 １１号	西条ＢＰ	愛媛県 西条市飯岡	下り	距離標 184K370	距離標 184K670	300m		
８０３	四国 ５５号	徳島南ＢＰ	徳島県 小松島市田野町	下り	工事測点 NO496	工事測点 NO511	300m		
９０１	九州 3号	岡垣ＢＰ	福岡県 遠賀郡 岡垣町山田	下り	距離標 39K460	距離標 39K760	300m		
９０２	九州 １０号	椎田道路	福岡県 行橋市道場寺	下り	距離標 38K800	距離標 39K100	300m		
９０３	九州 203号	東多久ＢＰ	佐賀県 多久市東多久町	下り	距離標 24K650	距離標 24K950	300m		

付録－３　舗装構成一覧表

北海道開発局

Ｎｏ．１０１（T_A=43.9cm　H=85cm）
３６号　白老バイパス

細　粒G(13)	５ｃｍ
粗　粒(20)	１２ｃｍ
ｱｽﾌｧﾙﾄ安定処理	１８ｃｍ
切込砂利(40)	５０ｃｍ
路　床（火山灰）	

Ｎｏ．１０２（T_A=37.4cm　H=81cm）
２２８号　木古内バイパス

細　粒G(13)	４ｃｍ
粗　粒(20)	１０ｃｍ
ｱｽﾌｧﾙﾄ安定処理	１２ｃｍ
切込砂利(40)	５５ｃｍ
路　床（砂質土）	

Ｎｏ．１０３（T_A=37.4cm　H=81cm）
３３７号　銭函バイパス

細　粒G(13F)	５ｃｍ
粗　粒(20)	１２ｃｍ
ｱｽﾌｧﾙﾄ安定処理	１８ｃｍ
切込砂利(40)	６５ｃｍ
路　床（砂質土）	

東北地方建設局

Ｎｏ．２０１（T_A=28.4cm　H=45cm）
１３号　山形北バイパス

細　粒G(13F)	４ｃｍ
粗　粒(20)	１３ｃｍ
ｱｽﾌｧﾙﾄ安定処理	８ｃｍ
クラッシャラン	２０ｃｍ
路　床（山砂利）	

Ｎｏ．２０２（T_A=30.5cm　H=55cm）
４号　柴田バイパス

密　粒G(20F)	５ｃｍ
粗　粒(20)	１０ｃｍ
ｱｽﾌｧﾙﾄ安定処理	１０ｃｍ
クラッシャラン	３０ｃｍ
改良路床（岩ずり）	９０ｃｍ
路　床（砂質粘土）	１０ｃｍ

Ｎｏ．２０３（T_A=37.0cm　H=53cm）
１０８号　涌谷バイパス

密　粒G(20F)	５ｃｍ
粗　粒(20)	１３ｃｍ
ｱｽﾌｧﾙﾄ安定処理	１５ｃｍ
粒調砕石	２０ｃｍ
路　床（砂質土）	

関東地方建設局

Ｎｏ．３０１（T_A=34.5cm　H=65cm）
２４６号　大和厚木バイパス

密　粒(20	５ｃｍ
粗　粒(20)	１０ｃｍ
ｱｽﾌｧﾙﾄ安定処理	１０ｃｍ
粒調砕石	１５ｃｍ
クラッシャラン	２５ｃｍ
路　床（粘性土）	

Ｎｏ．３０２（T_A=30.3cm　H=50cm）
１７号　深谷バイパス

密　粒(20	５ｃｍ
粗　粒(20)	１０ｃｍ
ｱｽﾌｧﾙﾄ安定処理	１０ｃｍ
粒調砕石	１０ｃｍ
クラッシャラン	１５ｃｍ
改良路床（礫混じり砂）	１００ｃｍ
路　床（石灰処理）	５０ｃｍ
路　床（シルト）	

Ｎｏ．３０３（T_A=34.5cm　H=65cm）
５１号　佐原バイパス

密　粒(20)	５ｃｍ
粗　粒(20)	１０ｃｍ
ｱｽﾌｧﾙﾄ安定処理	１０ｃｍ
粒調砕石	１５ｃｍ
クラッシャラン	２５ｃｍ
路　床（粘性土）	

Ｎｏ．３０４（T_A=34.5cm　H=65cm）
４号　新４号国道

密　粒(20)	５ｃｍ
粗　粒(20)	１０ｃｍ
ｱｽﾌｧﾙﾄ安定処理	１０ｃｍ
粒調砕石	１５ｃｍ
クラッシャラン	２５ｃｍ
改良路床（礫質土）	１００ｃｍ
路　床　（ｼﾙﾄ質粘土）	

北陸地方建設局

Ｎｏ．４０１（T_A=26.5cm　H=35cm）
１７号　長岡東バイパス

細　粒G(20F)	５ｃｍ
粗　粒(20)	１０ｃｍ
ｱｽﾌｧﾙﾄ安定処理	１０ｃｍ
粒調砕石	１０ｃｍ
路　床（礫質土）	

Ｎｏ．４０２（T_A=34.5cm　H=65cm）
７号　新新バイパス

細　粒G(20F)	５ｃｍ
粗　粒(20)	１０ｃｍ
ｱｽﾌｧﾙﾄ安定処理	１０ｃｍ
粒調砕石	１５ｃｍ
クラッシャラン	２５ｃｍ
路　床（砂）	

Ｎｏ．４０３　（T_A=31.5cm　H=55cm）
８号　くりからバイパス

細　粒G(20F)	５ｃｍ
粗　粒(20)	１０ｃｍ
ｱｽﾌｧﾙﾄ安定処理	１０ｃｍ
粒調砕石	１０ｃｍ
クラッシャラン	２０ｃｍ
改良路床（セメ安）	６０ｃｍ
路　床（ｼﾙﾄ質粘土）	

中部地方建設局

Ｎｏ．５０１　（T_A=32.0cm　H=70cm）
２３号　南勢バイパス

密　粒(20)	５ｃｍ
粗　粒(20)	５ｃｍ
ｱｽﾌｧﾙﾄ安定処理	１０ｃｍ
粒調砕石	１５ｃｍ
クラッシャラン	３５ｃｍ
路　床（礫質土）	

Ｎｏ．５０２　（T_A=35.0cm　H=55cm）
１号　沼津バイパス

密　粒(20)	５ｃｍ
粗　粒(20)	１０ｃｍ
ｱｽﾌｧﾙﾄ安定処理	１０ｃｍ
ｾﾒﾝﾄ安定処理	１５ｃｍ
クラッシャラン	１５ｃｍ
路　床（砂質土）	

Ｎｏ．５０３　（T_A=37.0cm　H=75cm）
１号　亀山バイパス

密　粒(20)	５ｃｍ
粗　粒(20)	５ｃｍ
粗　粒(20)	５ｃｍ
再生合材	１０ｃｍ
粒調砕石	１５ｃｍ
クラシャラン	３５ｃｍ
路　床（ｼﾙﾄ質砂）	

近畿地方建設局

Ｎｏ．６０１　（T_A=23.3cm　H=35cm）
１７５号　小野バイパス

密　粒(13)	５ｃｍ
粗　粒(20)	５ｃｍ
ｱｽﾌｧﾙﾄ安定処理	１０ｃｍ
粒調砕石	１５ｃｍ
路　床（礫質土）	

Ｎｏ．６０２　（T_A=30.4cm　H=53cm）
８号　福井バイパス

密　粒(20)	５ｃｍ
粗　粒(20)	１０ｃｍ
ｱｽﾌｧﾙﾄ安定処理	８ｃｍ
粒調砕石	１５ｃｍ
クラッシャラン	１５ｃｍ
改良路床（礫混じり砂）	１００ｃｍ
路　床（粘性土）	

Ｎｏ．６０３　（T_A=25.0cm　H=40cm）
１６１号　高島バイパス

密　粒(13)	５ｃｍ
粗　粒(20)	５ｃｍ
ｱｽﾌｧﾙﾄ安定処理	１０ｃｍ
粒調砕石	２０ｃｍ
路　床（真砂土）	

中国地方建設局

Ｎｏ．７０１（T_A=30.3cm　H=50cm）
５４号　上根バイパス

密　粒(20)	５ｃｍ
粗　粒(20)	１０ｃｍ
ｱｽﾌｧﾙﾄ安定処理	１０ｃｍ
粒調砕石	１０ｃｍ
クラッシャラン	１５ｃｍ
路　床（真砂土）	

Ｎｏ．７０２（T_A=23.0cm　H=45cm）
９号　北条バイパス

密　粒(20)	５ｃｍ
粗　粒(20)	５ｃｍ
ｱｽﾌｧﾙﾄ安定処理	５ｃｍ
粒調砕石	１５ｃｍ
クラッシャラン	１５ｃｍ
路　床（真砂土）	

Ｎｏ．７０３（T_A=23.0cm　H=45cm）
１８８号　下松バイパス

密　粒(20)	５ｃｍ
粗　粒(20)	５ｃｍ
ｱｽﾌｧﾙﾄ安定処理	５ｃｍ
粒調砕石	１５ｃｍ
クラッシャラン	１５ｃｍ
路　床（真砂土）	

四国地方建設局

Ｎｏ．８０１（T_A=25.9cm　H=47cm）
１１号　松山東道路

密　粒(13)	５ｃｍ
粗　粒(20)	５ｃｍ
ｱｽﾌｧﾙﾄ安定処理	１２ｃｍ
クラッシャラン	２５ｃｍ
路　床（礫質土）	

Ｎｏ．８０２（T_A=23.0cm　H=40cm）
１１号　西条バイパス

密　粒(13)	５ｃｍ
粗　粒(20)	５ｃｍ
ｱｽﾌｧﾙﾄ安定処理	１０ｃｍ
クラッシャラン	２０ｃｍ
路　床（ｼﾙﾄ質粘土）	

Ｎｏ．８０３（T_A=25.9cm　H=47cm）
５５号　徳島南バイパス

密　粒(13)	５ｃｍ
粗　粒(20)	５ｃｍ
ｱｽﾌｧﾙﾄ安定処理	１２ｃｍ
クラッシャラン	２５ｃｍ
路　床（礫混じり砂）	

九州地方建設局

Ｎｏ．９０１（T_A=30.3cm　H=50cm）
３号　岡垣バイパス

密　粒(20)	５ｃｍ
粗　粒(20)	１０ｃｍ
ｱｽﾌｧﾙﾄ安定処理	１０ｃｍ
粒調砕石	１０ｃｍ
クラッシャラン	１５ｃｍ
路　床（真砂土）	

Ｎｏ．９０２（T_A=30.3cm　H=50cm）
１０号　椎田道路

密　粒(20)	５ｃｍ
粗　粒(20)	５ｃｍ
粗　粒(20)	５ｃｍ
ｱｽﾌｧﾙﾄ安定処理	１０ｃｍ
粒調砕石	１０ｃｍ
クラッシャラン	１５ｃｍ
路　床（礫質土）	４０ｃｍ
路　床（砂質土）	

Ｎｏ．９０３（T_A=27.0cm　H=50cm）
２０３号　東多久バイパス

密　粒(20)	５ｃｍ
粗　粒(20)	５ｃｍ
ｱｽﾌｧﾙﾄ安定処理	１０ｃｍ
粒調砕石	１５ｃｍ
クラッシャラン	１５ｃｍ
路　床（けつ岩）	

付録－４　新基準調査データ(初期調査)

付録－５　日米の試験法の対比

TEST METHODの日米比較

Inventory Data
91.9.13現在

○：日本でも測定を規定　×：測定を規定せず　－：試験、測定項目を含まないシート
○：許容できる　△：問題あり

Shee NO.	Sheet Title／試験項目		規定の名称 USA	規定の名称 JAPAN	規定	差異の有無 無	①	②	③	④	⑤	備考、主要な差異の内容 ①目的、②適用範囲、③器具寸法、④試験方法、⑤結果整理	神谷
1	Section Identification		－	－	－								
2	Geometric, Shoulder and Drainage		－	－	－								
3	Layer Description		－	－	－								
4	Major Pavement Improvement		－	－	－								
12	Aggregate Properties		－	－	－								
-13	Aggregate Durability Test			－	×								
	Polish Value			－	×								
	Gradation	Coarse	AASHTO T27 ASTM C 136	JIS A 1102	○				○			③Coarse(米)50, 37.5, 25.4, 19.0, 12.5, 9.5, (日)53, 37.5, 31.5, 26.5, 19.0, 13.2, 9.5, Fine (米)4.75.2.00mm, 425, 180.75μm (日)4.75.2.36mm, 600, 300.150.75	○
	Bulk Specific Gravities	Coarse	AASHTO T85, ASTM C 127	JIS A 1110	○					○	○	④(米)各ふるい残留分について試験 (日)4,5,6,7号の砕石種類ごとに試験 ⑤(米)各ふるい骨材の密度より、粗骨材の合成密度算出 (日)粗骨材の合成密度算出の規定なし (算出は可能、また、骨材全体の合成密度は規定)	○
		Fine	AASHTO T84 ASTM D 70	JIS A 1109	○				○	○		③フローコーンの寸法にわずかの違い ④試料準備 (米)110℃乾燥→放冷後、6%の水添加→15～19hr放置 (日)24時間水浸 ＊ いずれにしても、フローコーンによる表乾状態の判定があるので、問題はない。 比重試験におけるフラスコの養生温度 (米)23±1.7℃　(日)20±2℃	○

	Filler	AASHTO T100, ASTM D 854	JIS A 5008	○				○	○		③比重びん (米)ピクノメータ (日)ルシャリテエ比重びん ④試料量：(米)25g (日)80g 試料乾燥温度：(米)110±5℃ (日)105～110℃	○
14	Asphalt Cement Properties	—	—	—								
-15	Secific Gravity	ASTM D 70	JIS K 2207	○				○	○	○	③日本では比重びんに「あふれ液貯蔵部」あり ④測定精度：(米) 1mg(日)0.1mg ⑤報告温度：(米)25℃または15.6℃(日)15℃	
	Viscosity at 140° F	ASTM D 2171	P.398	○				○	○		③粘度管：(米)Cannon-Manning、AI、Modified Copperの３種類 (日)AI(Asphalt Institute)型のみ 温度計精度：(米)0.02℃(日)0.03℃ ④試料溶融温度：(米)一律275℃ (日)ストアス135℃、セミブローン150℃、改質170℃ ＊改質アスの場合、試料調整温度は測定結果に若干影響すると考えられるが、日本のＧＰＳではほとんどがストアスなので影響ないといえる。	
	Viscosity at 275° F	ASTM D 2170	JIS K 2207	○			○	○	○	○	②適用範囲：(米)140、275F(日)60℃ (140F) ③粘度管：(米)Cannon-Fenske、Zeitfuchs Croaa Arm、Lantz-Zeitfuchs Type Reverse Flowの３類 (日)Cannon-Fenske型のみ 温度計精度：(米)0.02℃(日)0.05℃ オイルバス温度精度：(米)0.03℃(日)0.1℃ ④試験時温度精度：(米)0.03℃(日)0.1℃ ⑤報告温度(米)135℃(日)120、150、180の値より135℃における粘度を算出（劣化後の粘度は140℃で測定）	
	Penetration at 77° F	ASTM D 5	JIS K 2207	○				○			③針入度針の先端角：(米)8°40'～9°40'(日)8°42'～9°42' 試料カップ：針入度200以上の深さについてのみ差異あり (米)45mm(日)50mm	
	Ductility at 77° F	ASTM D 113	JIS K 2207	○	○							
	Ductility at 39.2° F	ASTM D 113	JIS K 2207	○	○							

	Penetration at 39.2° F	ASTM D 5	ASTM D 5	○	○						日本には低温針入度の試験規定はないため、ASTMに準拠実施	
	Ring & ball softening point	AASHTO T53	JIS K 2207	−				○	○	○	③環台底版から加熱浴の底までの距離 (米)12.7-19.1mm (日)13-19mm ④試料加熱温度（予想軟化点に対して） (米)100℃ (日)90℃ 加熱開始初期温度：(米)４℃ (日)５℃、ただし軟化点80℃以上の場合は３２℃ ⑤繰返し精度 (米)２℃以下 (日)軟化点80℃以下：１℃ 80℃以上：２℃ 再現精度 (米)３℃以下 (日)軟化点80℃以下：４℃ 80℃以上：８℃	
	Aging Effects (TFOT)	ASTM D 1754	JIS K 2207	○				○			③恒温槽サイズ：(米)330×330mm以上 (日)400～500mm四方 回転盤：(米)直径：250mm 回転数：5.5 r/min (日) 360～370mm 5～6r/min 試料容器 (米) (日) 材質：アルミまたは鉄 アルミ 肉厚：0.76mm 0.7～1.0mm 深さ：9.5mm 9.5mm	○
I6	Original Mixture Properties	−	−	−								
	Maximum Specific Gravity	D 2041, T209	P.601	○	○							
	Bulk Specific Gravity	ASTM D 1188 AASHTO T166	便覧P.574	○					○	○	④コアサイズ： [直径] [厚さ] (米)15cm、最大粒径の４倍以上 1.5倍以上 (日)10cm 水浸時間：(米)３～５min (日)１min ⑤結果の算出：(米)密度、(日)比重	○
	Marshall Stability	ASTM D 1559	P.574	○				○	○		③ランマ [重量] [落下高さ] (米)4536±9g 457.2±1.524mm (日)4.5kg 45.7cm フロー計目盛り：(米)0.025mm (日)0.01mm	○

	Hveem Stabity Hveem Cohesion	ASTM D 1560	ASTM D 1560	○	○						日本に規定ないため、ASTMに準拠実施	
-17	Moisture Susceptibility Test Tensile Strength Retained Strength		—	×								
18	Construction Data	—	—	×								—
19	Subbase Material Description	—	—	—								—
-20	PL	ASTM D 4318	JIS A 1206	○					○		④試料量：(米)20g(日)15g 作製するひもの直径：(米)3.2±0.5mm(日)約3mm ひもを作製するに要する時間：(米)最大2分 (日)特に規定なし	
	LL		JIS A 1205	○				○	○		③みぞきり寸法：別添図のとおり ④溝が合流したとする判断：(米)15mm(日)13mm	
	Maximum Dry Density Optimum Moisture Content	AASHTO T99 AASHTO T180	JIS A 1210 →第1法 →第2法	○				○			③モールド、ランマ寸法にわずかの違い (米)ではスペーサディスクなし ＊第1法：2.5kgランマ　第2法：4.5kgランマ	○
	In Situ Dry Density In Situ Moisture Content	ASTM D 1556	P.214 KODAN A 1214	○ ○				○	○		③ベースプレート孔直径：(米)6.5inch(日)150または250mm 試験用砂：(米)均等係数≦2、最小粒径0.25mm通過3%以下 (日)2～0.075mm ④砂ｷｬﾘﾌﾞﾚｰｼｮﾝ精度：(米)3回の測定の(最大)－(最小)が平均値の1％ (日)0.85% 削孔、試料量：(米) 最大粒径 削孔量 含水比用試料量 4.75mm 710cm² 100g 12.5 1420 300 25 2120 500 50 2830 1000 (日)ﾍﾞｰｽﾌﾟﾚｰﾄ孔150mm：約15cm 250mm：約25cm	

											砂の注入：(米)砂注入器による注入のみ (日)注入後突き棒による締固めの規定あり ＊上記のような違いはあるが、日本でもASTMと同様の器具を使用して試験を実施している場合も多いと考えられる。
	Gradation	ASTM C 136 AASHTO T88	JIS A 1204	○			○				＊2㎜ふるい残留分についてはSHEET12-13に同じ ③2㎜ふるい通過分については、日本では比重浮標による測定法の規定あり。 ＊ASTMの他のナンバー、AASHTOには同様の規定があるかもしれない。
	Compressing Strength	ASTM D 1633 (圧縮試験) ASTM D 558 ASTM D 559 ASTM D 1632 (供試体作製)	JIS A 1216 P.199 (圧縮試験) P.192 (試料作製)	○			○	○	△		②(米)セメント安定処理　(日)セメントおよび石灰安定処理 米では方法A、Bの2種類の方法あり。通常方法Aとする ③モールド(米)［方法A］直径101.6㎜高さ116.4㎜ ［方法B］直径 71.1㎜高さ142.2㎜の2種類 (日)直径100㎜高さ127㎜ ランマ：(米)直径50.8㎜、重量2.49kg、高さ304.8㎜ (日)直径50 ㎜、重量2.5 kg、高さ300 ㎜ ④試料調整方法：(米)まず、4.75㎜通過量にｾﾒﾝﾄ添加、混合の後、4.75㎜残分を混合。 含水量用試料量：(米)500g以上 (日)最大粒経により異なる 5㎜ 約 50g 20 250 40 500 供試体養生：(米)室内養生21±1.7℃、7日 (セメント　(日)室内養生20±3 ℃、6日 の場合)　水中養生20±3 ℃、1日 ＊水浸の影響がどの程度あるか 載荷速度：(米)1㎜/min　(日)1%/min
	Calcium Carbonate Content		P.216	×							
	CBR	ASTM D 1883	P.171	○			○	○	○	△	②日本では修正ＣＢＲが規定。米ではASTM D 1883中の「Bearing Ratio at Optimum Water Content」がこれに該当すると思われる。ただし、これには4日水浸の規定はなく、「Bearing Ratio for a Range of Water Content」に4日水浸の規定がある。 ③モールド：(米)直径152.4±0.66㎜　高さ177.8±0.46㎜ (日)　150㎜　175㎜

										スペーサディスク：(米)高さ61.37±0.127mm(日)50mm ランマ：(米)重量2.49kg、高さ304.8mmまたは 重量4.54kg、高さ457.2mm (日)重量4.5 kg、高さ450 mm ④試料調整：(米)19mm以上の礫を除く (日)40mm以上の礫を除く 突固め回数：(米)10.25.56(回/層)×3(層) ただし、必ずしもこれに縛られない (日)17.42.92(回/層)×3(層) 荷重板重量：(米)4.54kg (日)5kg ピストンの：(米)44N以下 予備載荷：(日)5kgf以下 載荷速度 ：(米)1.27mm/min (日)1mm/min 貫入量読み：(米) 1.27, , 1.91, 2.54, 3.18, 取り時点 3.81, 4.45, 5.08, 7.62.10.16.12.7mm (日) 0.5 , 1.0 , 1.5 , 2.0 , 2.5 , 3.0 , 4.0, 5.0 , 7.5 ,10.0 ,12.5mm ⑤標準荷重強さ：貫入量 2.5mm 5.0mm (米) 6.9 MPa 10.3MPa (日) 6.86 10.30 ＊どの時点の締固め度をもってCBRとしているのか。 (米)最大乾燥密度？ (日)所要の締固め度（通常、最大乾燥密度と考えられるが）	
R-Value	ASTM D 1560	ASTM D 1560	○					△	⑤(日)所定垂直荷重(2700kgf)前にスタビロメータの圧力指針が指示限界をオーバする場合、その限界の垂直応力と圧力からビーム安定度を算出 ＊日本で得られたR値は全く使用できないと考えられる。 日本の土に試験を適用することが間違いと考えられる。	
K-Value	ASTM D 1196	JIS A 1215	○			○	○	△	＊ASTM D 1195は繰り返し載荷による試験方法で、JISと同等の試験はD 1196と考えられる。 ③載荷板：(米)152～762mmで4種類以上 (日)300、400、750mmの3種類 ＊日本のGPSでは300mmのみの測定としている。 ダイヤルゲージ：(米)最小目盛0.03mm 測定範囲0～25mm (日) 0.01mm 0～20mm 沈下量測定梁：(米)長さ5.5m以上、 載荷点からの支持脚の距離2.4m以上	○

											(日)長さ3m以上、 載荷点からの支持脚の距離1m以上 ④プレロード：(米)ﾀﾞｲﾔﾙｹﾞｰｼﾞの読みで0.25～0.51mm (日)0.35kgf/cm² 載荷方法 荷重増分：(米)特に規定なし（6点以上の観測値が確保されるようにする） (日)0.35kgf/cm²刻み 沈下停止の判断：(米)たわみ進行速度0.03mm/min以下が3分 (日)1%/min ⑤支持力係数の算定：(米)荷重10psi (日)沈下量0.25mmの時点(ｱｽ舗装)	
21-22	Subgrade Data			−								
	CBR	ASTM D 3668	JIS A 1211	○				○			③供試体作成突固め回数：(日)67(回/層)×3(層) ＊上記に違いの他は、Subbaseと同じ	○
	R-value	ASTM D 1560	ASTM D 1560	○							Subbaseに同じ	
	K-Value	ASTM D 1196	JIS A 1215	○							Subbaseに同じ	○
	PI	ASTM D 4318	JIS A 1206	○							Subbaseに同じ	
	LL		JIS A 1205	○								
	Dry Density	AASHTO T 180	JIS A 1210	○							Subbaseに同じ	○
	Moisture Content			○							Subbaseに同じ	
	Measured Density			○							Subbaseに同じ	
	Relative Density	ASTM D 2049	−	×								
	Soil Suction		−	×								
	Expansion Test		−	×								
	Freezing Test		−	×								

以下、Laboratory Material Testに規定されているもの、日本独自のもの

	Subgrade	–	–								
	Resilient Modulus	AASHTO T274	AASHTO T274	○	○						
	Subbase	–	–	–							
	Resilient Modulus	AASHTO T274	AASHTO T274	○	○						
	Asphalt	–	–	–							
	質量変化率	–	JIS K 2207	–							日本独自で実施している試験
	コアから回収したアスファルト	–	–	–							日本独自で実施している試験
	針入度（25℃）	–	JIS K 2207	–							
	針入度（4℃）	–	JIS K 2207	–							
	粘度（60℃）	–	P.398	–							
	粘度（135℃）	–	JIS K 2207	–							
	伸度（25℃）	–	JIS K 2207	–							
	Asphalt Mixture	–	–								
	ホイールトラッキング試験	–	P.539	–	–						日本独自で実施している試験
	スパイクラベリング試験	–	P.517	–	–						日本独自で実施している試験
	Resilient Modulus　Surface and Binder Course	ASTM D 4123 一部追加規定あり	ASTM D 4123	○					△	△	④試験条件の差異は下記のとおり

項　目	USA	JAPAN
供試体直径	4 inch	10cm
試験温度	15, 25, 40℃	5, 25, 40℃

Indirect Tensile Test	Laboratory Tests Manual	P.568	○			△	△	③試験器具、④試験条件の差異は下記のとおり。	

項　目	USA	JAPAN
供試体直径	4 inch	10cm
試験温度	25℃	5，25，40℃
載荷速度	50．8mm/min	50mm/min
載荷板形状	ASTM D 4123に同じ（曲率を有する）	平板

載荷周波数		0.33.0.5.1.0	1.0
載荷波形		haversine	haversine
載荷時間＊		0．1秒	0．4秒
休止時間＊		0．9秒	0．6秒
載荷荷重＊＊	5℃	25℃圧裂強35%強度の 20	100kgf
	25℃		40kgf
	40℃	5	10kgf

TEST METHODの日米比較

Monitoring Data 89/11/6

Sheet NO.	Sheet Title／試験項目	規定の名称 USA	規定の名称 JAPAN	規定	差異の有無 無	①	②	③	④	⑤	備考、主要な差異の内容 ①目的、②適用範囲、③器具寸法、④試験方法、⑤結果整理	神谷
1	Skid Data	−	−	−								
	Skid Test	ASTM E 274	すべり抵抗車	○					○	○	日本では、 1)すべり抵抗測定車（ASTMと同等のものと考えられる） 2)ＤＦテスタ ２種類の測定を行っている。	
			ＤＦテスタ					△	○	△		

項目		USA ASTM	JAPAN すべり抵抗車	JAPAN ＤＦテスタ
③試験機の構造		測定車を走行した状態でロックさせたタイヤを路面に接地させ、その時の摩擦抵抗力を測定する。		ゴム片のついた円盤を回転させながら路面に接地させ抵抗力を測定する。
④測定種類		縦すべり（100%制動）	縦すべり（100%制動） 横すべり（すべり角度15度）	−
③タイヤ仕様	種類	リブタイヤ	リブタイヤ スムースタイヤ の２種類	−
	サイズ	ASTM E 501	165-SR13	−
	空気圧	特になし	１．７kgf/cm²	−
	残溝	2.5mm	スリップサインの位置で1.7mm	−

	Rut Depth		P.941	○				○	③④ＳＨＲＰマニュアルには詳しい測定方法は記されていない。しかし、測定内容から考えて互換性に問題ないと考えられる。 ④測定間隔：(米)50feetごと(日)20mごと
	Lane-to-shoulder Dropoff		P.976	○				○	
	Deflection Measurement			－					
	Deflection Using FWD			○		○	○		

項　目	USA	JAPAN
③メーカ	Dynatest Co. Ltd (USA)	Kuab Co. Ltd (SWEDEN)
③センサ数	7	4
③センサ位置(cm)	0.20.30.45.60.90.150	(1991年度より) 0.20.45.90 (1991年度より) 0.20.40.60.90.150 200
④測定位置	特に指定なし	３点／工区 工区の３等分の位置
④測定種別	最大たわみ測定 たわみ時系列測定	最大たわみ測定
④予備載荷	53.3kNで３回	5000kgfで１回
④測定荷重	26.7,40.0,53.3,71.1 kN	5000kgf(49.6kN)
④測定回数	最大たわみ測定： ３回／１測定 たわみ時系列測定 １回／１測定	最大たわみ測定： ３回／１測定

＊センサ数以外の試験器の仕様の違いは問題ないと思う（日本で比較試験を実施したところ問題なかった）。

<table>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>センサ数については、1991年度以降はSHRP仕様と同等以上のものとなるため、問題ないと考えられる。1990年度以前のデータについても、センサ位置とたわみ量をセットでデータシートに記入するようになっているため、データ信頼性の問題はあるものの、解析上の互換性はあると考えられる。</td></tr>
<tr><td>＊</td><td>Roughness
（まだ、改訂中であり、Interium）</td><td>－</td><td>P.931</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td>△</td><td>△</td><td>△</td><td>まだ、SHRPにおいてマニュアルが完成していない。Interium Guideにしたがって、試験条件を対比すると下記のとおり。
<table>
<tr><th>項　目</th><th>USA</th><th>JAPAN</th></tr>
<tr><td>③測定機器</td><td>Surface Dynamics Road Profilomete Model 690DNC</td><td>3mﾌﾟﾛﾌｨﾙﾒｰﾀ</td></tr>
<tr><td>④測定方法</td><td>走行しながらの測定</td><td>停止状態での測定</td></tr>
<tr><td>④測定位置</td><td>両わだち部</td><td>両わだち部</td></tr>
<tr><td>⑤結果</td><td>ＩＲＩ</td><td>平坦性</td></tr>
</table>
＊平坦性からＩＲＩへの換算は難しいと考えられる。
（測定時のデータを入手すれば可能だが非常に繁雑）</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th rowspan="2">Shee
NO.</th><th rowspan="2">Sheet Title／試験項目</th><th colspan="2">規定の名称</th><th rowspan="2">規定</th><th colspan="6">差異の有無</th><th rowspan="2">備考、主要な差異の内容
①目的、②適用範囲、③器具寸法、④試験方法、⑤結果整理</th><th rowspan="2">神谷</th></tr>
<tr><th>USA</th><th>JAPAN</th><th>無</th><th>①</th><th>②</th><th>③</th><th>④</th><th>⑤</th></tr>
<tr><td>2</td><td>Traffic Volumes And Load Estimates</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td></td><td>
<table>
<tr><th>項　目</th><th>USA</th><th>JAPAN</th></tr>
<tr><td>調査車線</td><td>両側＋調査方向＋
ＧＰＳ調査車線</td><td>調査方向の全車線</td></tr>
<tr><td>換算輪重</td><td>1.8kips換算</td><td>５トン換算</td></tr>
</table>
</td><td></td></tr>
<tr><td>4</td><td>Traffic Volume Counts</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td>ＳＨＲＰのデータシートでは測定開始日時並びに終了日時を記入するようになっている。
また、最終的に報告するデータはＧＰＳ調査車線の日平均交通量であるとして、観測した生データに加えて以下のような補正係数も報告する。
<table>
<tr><th>USA</th><th>JAPAN</th></tr>
<tr><td>1.ADJUSTMENT TO 24-HOUR COUNT
測定データを24時間データに
補正（原則として４８時間観測）</td><td>24時間データ
7:00～19:00
19:00～7:00</td></tr>
<tr><td>2.AXLE CORRECTION FACTOR
得られた交通量を換算輪数に
補正（原則は1.8kips換算）</td><td>５トン換算輪数</td></tr>
<tr><td>3.DAY OF WEEK FACTOR
測定日が平日か休日かによる
影響を補正（曜日の指定はなし）</td><td>火～金のうちの
１日</td></tr>
<tr><td>4.MONTH FACTOR
測定した月による影響を補正
（月の規定はなし）</td><td>９～１１月の間</td></tr>
<tr><td>5.DIRECTIONAL DISTRIBUTION FACTOR
２方向の全交通量に占める
調査方向の交通量の比</td><td>反対車線のデータ無し</td></tr>
</table>
</td><td></td></tr>
</table>

6. GPS LANE DISTRIBUTION FACTOR 調査方向の全交通量に占める ＧＰＳ車線の交通量の比	調査方向の 全車線測定

5-7	Vehicle Classification			○				△			

SHEET5ではＦＨＷＡで定めた１３段階の車種別に報告するような様式となっている。
この１３車種とは別の分け方をしている場合は、それぞれの調査機関で実施している分け方に従い、SHEET6に記入することとなっている。
SHEET5とSHEET6の関連付けについてはSHEET7で行う。

USA	JAPAN
1. FHWA CLASSES 1-3 (Cars, Motorcycles, Vans) 2. FHWA CLASS 4 (Buses) 3. FHWA CLASS 5 (2-Axle, 6-Tired S.U. Truck) 4. FHWA CLASS 6 (3-Axle S.U. Truck) 5. FHWA CLASS 7 (4+-Axle S.U. Truck) 6. FHWA CLASS 8 (4+-Axle S.T. Truck) 7. FHWA CLASS 9 (5-Axle S.T. Truck) 8. FHWA CLASS 10 (6+-Axle S.T. Truck) 9. FHWA CLASS 11 (5+-Axle M.T. Truck) 10. FHWA CLASS 12 (6-Axle M.T. Truck) 11. FHWA CLASS 13 (7+-Axle M.T. Truck) 12. OTHER VEHICLES	輪荷重による差別化以外、車両のクラス分け規準はなし。

9	Truck Axle Load Measurements By Vehicle Classification			○					○		

	USA	JAPAN	
単　位	ポンド	トン	
ｼﾝｸﾞﾙ軸	W<3,000、W>30,000 3,000<W<30,000 1,000刻み	0～14の1ﾄﾝ刻み & 14以上 で区別	2軸車
ﾀﾝﾃﾞﾑ軸	W<6,000、W>60,000 6,000<W<60,000 2,000刻み		3軸(ﾀﾝﾃﾞﾑ)以上で合わせて算出
ﾄﾗｲﾃﾞﾑ軸	W<12,000、W>80,000 12,000<W<80,000 3,000刻み		

11	Volume Data Transmittal Form										
	Type of Sensor			○				○			

USA	JAPAN
交通量測定の際の センサーのタイプを記入 ・PIEZO FILM ・LOOPS ・PIEZO CABLE	PIEZO FILMのみ

TEST METHODの日米比較

Environmental Data 12/90/

PAGE NO.	Sheet Title／試験項目	規定の名称 USA	規定の名称 JAPAN	規定	差異の有無 無	①	②	③	④	⑤	備考、主要な差異の内容 ①目的、②適用範囲、③器具寸法、④試験方法、⑤結果整理	神谷
1	Site Specific Environmental Data Associated Weather Station			△						○		
2-3	Weather Station Data			△						○		

USA	JAPAN
調査地点および近隣気象観測点の緯度・経度・標高	最寄りの観測地点の緯度・経度・標高

項目	USA	JAPAN
気温	F 平均 日最大・最小の平均 日平均気温差	℃ 平均 日最大・最小の平均
凍結融解	月毎の回数	年間の全回数 凍結防止剤の散布量
風速	mile/hour 平均 平均日最大瞬間	m/sec. 平均
降水量	inch 月間降水量 日降水量の平均 0.01inch以上の降水のあった日数 0.5inch以上の降水のあった日数 日積雪量の平均 月間積雪量	mm 月間降水量 降水日数 （1mm以上）
日照	日照率[1)] 日出から日没までの蒸量[2)]	日照時間

	0時～0時までの雲量	
湿　度	日最大湿度の平均 日最小湿度の平均	

1) 日照率＝日照時間／可照時間
2) 雲量：空が雲に覆われている程度（%？）

TEST METHODの日米比較

Maintenance Data 89/8/30

Sheet NO.	Sheet Title／試験項目	規定の名称 USA	規定の名称 JAPAN	規定	差異の有無 無	①	②	③	④	⑤	備考、主要な差異の内容 ①目的、②適用範囲、③器具寸法、④試験方法、⑤結果整理	神谷
1	Historical Maintenence Information	—	—	—							試験方法に関する項目なし	
2	Maintenence Location	—	—	—							試験方法に関する項目なし	
3-4	Seal Coat Application Data	—	—	—							—	
	Gradiation of Aggregate	—	—	○							Inventory Dataに同じ	
5	Crack Sealing Data	—	—	—							試験方法に関する項目なし	
6	Patching Data	—	—	—							試験方法に関する項目なし	
12	Diamond Grinding	—	—	—							試験方法に関する項目なし	
17	Cost Data	—	—	—							試験方法に関する項目なし ＊単位に違いあり 米：金額 S／長さ Feet／面積 SQ. YARD 日：金額 ¥／長さ m／面積 m^2 ＊当方では、¥→Sの換算はしますが、長さ、面積の換算をするつもりはありません。	

＊上記で欠番となっているシート番号はアスファルト舗装以外のもの。

Sheet NO.	Sheet Title／試験項目		規定の名称 USA	規定の名称 JAPAN	規定	差異の有無 無	①	②	③	④	⑤	備考、主要な差異の内容 ①目的、②適用範囲、③器具寸法、④試験方法、⑤結果整理	神谷
1	Improvement Listing		–	–	–							試験方法に関する項目なし	
2	Revised Layer Descriptions		–	–	–							試験方法に関する項目なし	
3-4	AC Over-lay	Aggregate Properties			–							Inventory Dataに同じ	
5		Asphalt Cement Properties	–	–	–							Inventory Dataに同じ	
6		Lab. Aged AC Properties	–	–	–							Inventory Data Sheet 14-15に同じ	
7		Lab. Mixture Design	–	–	–							Inventory Data Sheet 16に同じ	
8-9		Mixture Properties as Placed	–	–	–							Moisture Susceptibility Testについては、Inventory Data Sheet 16に同じ その他には試験方法に関する項目なし	
10		Construction Data	–	–	–							試験方法に関する項目なし	
11	Hot-Mix Recycled AC	General Information	–	–	–							Gradation of Aggregate, Bulk Specific Gravityについては、Inventory Data Sheet12-13に同じ。その他には試験方法に関する項目なし	
12-3		Untreated Aggre. Properties	–	–	–							Inventory Data Sheet12-13に同じ。	
14		Combined Aggre. Properties	–	–	–							Inventory Data Sheet 12-13に同じ	
15		Reclaimed AC Properties	–	–	–							抽出・回収以外は、Inventory Data Sheet 14-15に同じ	
		Extraction of Bitumen from Bituminous Mixture （アスファルトの抽出）	ASTM D 2172	P.619	○				○			＊ASTMには、抽出の方法として５つの方法が掲載されている （b、dの正確な名称は不明） a)遠心分離器による方法 アスファルトの定量のみに用いていると考えられる。 本方法は日本でも定量に使用されている。 b)円錐状の金属ろ過器を用いる方法 c)金属バスケットによる方法 日本では使用していない。	

	Recovery of AC From Solution (アスファルトの回収)	ASTM D 1856		○				○	○		＊日本では、回収方法として２つの方法が掲載されている a)ASTM D 1856に準じる方法 b)ロータリー・エバポレータによる方法 日本では主にb)が用いられているが、アスファルト回収試験においては、所要の性状が得られるようキャリブレーションを必ず行っていることから、どちらの方法を用いても結果に影響はないと考えられる。
16	New AC Properties	–	–	–							Inventory Data Sheet 14-15に同じ
17	Combined AC Properties	–	–	–							Inventory Data Sheet 14-15に同じ
18	Lab. Aged AC Properties	–	–	–							Inventory Data Sheet 14-15に同じ

d)金属円筒による方法
抽出にはこの方法が使用されていると考えられる。下表に日米の試験条件当の比較を示す。

e)加圧ろ過器による方法
アスファルトの定量のみに用いていると考えられる。
本方法は日本でも定量に使用されている。

項　目	USA	JAPAN
溶剤の種類	塩化メチレン トリクロロエチレン 1.1.1- トリクロエタン	トリクロロエチレン
溶剤量	600 ml	350～400 ml
抽出終了の判定	溶剤が透明となるまで	
フィラー分の除去	特に明記なし	遠心分離

＊容器のサイズ等に違いはあるものの、問題ないものと考えられる。

19		Lab. Mixture Design	—	—	—							Inventory Data Sheet 16に同じ
20-21		Mixture Properties as Placed	—	—	—							Moisture Susceptibility Testについては、Inventory Data Sheet 16に同じ その他には試験方法に関する項目なし
22		Construction Data	—	—	—							試験方法に関する項目なし
35	Heater Scarification Pavement		—	—	—							試験方法に関する項目なし

＊上記で欠番となっているシート番号（No.36以降も含めて）は、日本では使用しない修繕工法についてのもの。

第1分冊　新基準調査結果報告
初期調査編（調査要領）

ISSN　0386－5878
土木研究所資料第3157号
平成5年4月（1993）

舗装研究室　室　長　中村　俊行
研究員　伊佐　真秋

要　旨

新基準調査は，アメリカ合衆国が中心となって進めている新道路研究計画（Strategic Highway Research Program：SHRP）の中の舗装の長期供用性（Long－Term Pavement Performance：LTPP）に関する調査への研究協力および我国での基礎データの収集を目的とするものである。
本報告は全国の各試験舗装箇所の道路構造，舗装構造，材料特性データ等の初期調査データが整ったのを受け，全調査箇所のデータを取りまとめたものである。

キーワード：新道路研究計画（SHRP），舗装の長期供用性（LTPP），アスファルト舗装，新基準調査，舗装材料の弾性係数

郵　便　はがき

切手をはって下さい

3 0 5 - □□

茨城県つくば市大字旭一番地

建設省土木研究所
道路部舗装研究室
行

No.

No.

配布先氏名

配布先住所

土木研究所資料第 3157 号　　部

第 1 分冊　新基準調査結果報告
初期調査編（調査要領）

上記のとおり受領しました。

所　属（住所）

氏　名　　印